

徳島の剣道

特集

1. 第1回四国高齢者剣道大会
2. 竹刀師・高橋國保先生
3. ふるさとトーク

第31号



徳島武徳殿（昭和3年11月竣工、昭和20年7月徳島空襲にて焼失）

写真提供：ドイツ館

徳島県剣道連盟

あの栄光をもう一度

種目別総合優勝トロフィーを胸に行進する徳島県チーム



いい汗キャッチ！生き生き愛知 わかしゃち国体秋季大会 平成6年10月29日～11月3日

種目別総合優勝トロフィーを返還する大将・坂下選手



第49回国民体育大会秋季大会 平成6年10月29日～11月3日 愛知県下にて

巻頭言

剣は人なり 剣は心なり

徳島県剣道連盟 会長 坂下彦之



「剣は人なり、剣は心なり」は剣道人であれば、よく耳にする言葉であります。全日本剣道連盟においても『剣道の理念』として「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」と定義しています。

また、剣道の稽古のあり方について、かつて我が師・堀江幸夫先生は次のように指導されておられます。「我々は日々の修練の中で打つという動作を反復しているが、その一本一本の打突の中に、オーバーな申しようであるが、自らの人生を賭けていなければならぬ。それは単なる当てるための打突ではなく、打たなければならぬ必然性の具備された打突、すなわち天地自然の理法にならぬ打突であり、その打突に自らの人間性が深く沈潜し、それが相手の心に昇華していくところに一本の打ちの尊さがある。」堀江先生が指摘される「その打突に自らの人間性が深く沈潜する」ことこそ「剣は人なり、剣は心なり」の要諦であり、人間性を高める剣道を行うことこそが、先人や諸先生方が目指された剣

道であったと確信するところでもあります。

徳島県剣道連盟の皆様方におかれましても、今後益々、人間性を高める剣道を共々に実践して参りましょう。

《追記》

本年三月の剣道連盟総会において会長職を退任することとなりました。会長在職中は会員皆様より格別のご厚情を賜り、深く御礼申し上げます。

これからは三木毅新会長のもと、徳島県剣道連盟が益々発展しますことを心より祈念いたします。

『徳島の剣道 第三十一号』目次

巻頭言…………… 坂下 彦之…………… 1

《特集Ⅰ 第一回四国高齢者剣道大会》

第一回高齢者剣道交流大会を終えて…………… 高島 稔之…………… 4

第一回四国高齢者剣道交流大会に参加して…………… 川田 武志…………… 13

《特集Ⅱ 竹刀師 高橋國保先生》

剣の修練に名工竹刀師の入魂を知る…………… 三木 毅…………… 16

伝統ある竹刀製作所の竹刀…………… 西本 政弘…………… 20

《特集Ⅲ ふるさとトーク》

高橋先生講演録…………… 22

徳島の原点、徳島…………… 榊 悌宏…………… 25

徳島の剣道万歳！…………… 榊 誠志…………… 27

顕彰一覽

剣道有功賞…………… 福井 軍二…………… 30

少年剣道教育奨励賞…………… 佐藤 佳宏…………… 33

少年剣道教育奨励賞を受賞して…………… 加藤 真吾…………… 35

体育功労賞…………… 丸岡 偉人…………… 37

体育功労賞を受賞して…………… 丸岡 偉人…………… 37

平成二十六年徳島県中学校剣道優秀選手…………… 丸岡 偉人…………… 39

平成二十六年徳島県高等学校剣道優秀選手…………… 丸岡 偉人…………… 40

先生を偲ぶ

平尾勝美先生を偲ぶ…………… 原田 勝…………… 41

平尾勝美先生を偲んで…………… 吉岡 修一…………… 43

平尾先生を偲んで…………… 三木 毅…………… 45

父の思いで…………… 坂本 憲一…………… 47

坂本裕二先生の情熱…………… 三木 毅…………… 50

人生の師 坂本裕二先生を偲ぶ…………… 一村 昌和…………… 52

有賀秀敏先生を偲んで…………… 西岡 侃…………… 56

有賀秀敏先生を偲んで！！…………… 中西 実…………… 58

全国講習会報告

有賀先生を偲んで…………… 横手 裕一…………… 61

お世話になった有賀先生へ…………… 山崎 砂織…………… 62

第四十九回剣道中央講習会(西日本)報告…………… 美馬 勝行…………… 64

第四十一回中央講習会に参加して…………… 柴田 宗忠…………… 64

第五十二回剣道中堅剣士講習会に参加して…………… 福井 勝…………… 68

平成二十五年度高段位受診者研修会…………… 園田 慎吾…………… 70

徳島県剣道連盟春季講習会記録…………… 手塚十三子…………… 73

平成二十六年度全日本剣道連盟後援…………… 手塚十三子…………… 73

徳島県剣道連盟秋季講習会(指導法記録)…………… 藤本 雅史…………… 76

第九回女子審判法研修会に参加して…………… 竹内佳代子…………… 79

剣道形講習会に参加して…………… 田上 結衣…………… 82

第三十八回全国高等学校・中学校…………… 田上 結衣…………… 82

(部活動)指導者研修会…………… 林 義真…………… 84

第二十回全剣連社会体育上級指導員…………… 林 義真…………… 84

養成更新講習会に参加して…………… 久保 隆司…………… 86

ニードーザクセン州剣道連盟との交流…………… 近藤 亘…………… 87

徳島の剣道史…………… 近藤 亘…………… 87

阿波の刀剣外装…………… 坂本 憲一…………… 89

大会・行事所感…………… 坂本 憲一…………… 89

創部五十周年記念阿南工業高等学校剣道部史…………… 熊澤 信幸…………… 101

鳴門工業高等学校剣道部OB会の思い出…………… 叶井 克典…………… 104

各種大会に参加して…………… 叶井 克典…………… 104

第三十六回全国スポーツ少年団剣道交流大会…………… 有松 伸也…………… 107

全国高等学校剣道選抜大会に出場して…………… 中川 拓弥…………… 110

全国高等学校剣道選抜大会に出場して…………… 川原 眞実…………… 111

全国高等学校剣道大会に出場して…………… 西條 翔太…………… 112

インターハイに出場して…………… 小川 桐花…………… 114

第四十四回全国中学校剣道大会に出場して…………… 福多 博史…………… 116

第四十四回全国中学校剣道大会に参加して…………… 朝田 智輝…………… 117

全国中学校剣道大会に出場して…………… 西岡 彩芽…………… 118

第五十六回全国教職員剣道大会に参加して	木原 資裕	120
全日本学生剣道選手権大会に出場	藤本 稜	124
第九回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会に出場して	岩原 潤哉	125
第九回都道府県対抗少年剣道優勝大会	白木 洋一	126
剣心を育む	平野 誠司	128
第四十九回全日本居合道大会を振り返って	岸田 光博	129
憧れの舞台に立って	山本 義征	131
第五十七回全日本実業団剣道大会に参加して	櫻井 一志	132
第五十七回全日本実業団剣道大会に出場して	園田 慎吾	134
第六十六回四国四県剣道大会に参加して	大石 真也	136
平成二十六年全国警察剣道大会を終えて	敦賀 晋平	139
平成二十六年徳島県高齡剣友会活動状況	笠井 勝	141
全国健康福祉祭とちぎ大会に参加して	大貝 美治	144
第三十六回全日本高齡者武道大会参加	笠井 勝	146

随 想

徳島県剣道連盟に感謝	大澤 孝彰	147
木頭村民剣道百段達成武道大会の想い出	東内 勉	151
新任の頃を振り返って	富田 正	153
節目に思い出を綴る	坂本 信幸	155
私の剣道人生	安田 勝裕	157
剣術家 佐藤兵馬	大石 雅生	159
月曜会	吉田 昌彦	161
雑感 剣道への思い	佐藤光太郎	163

称号・段位合格者

七段に合格して	平 正明	164
一生稽古	松本日出夫	165
六段に合格して	湯岑 昭彦	167
剣道六段に昇段して	原田 敏也	168
六段に合格して	玉田 真理	170
剣道六段審査に合格	福永 康浩	171
剣道六段に合格して	木下 裕康	172
六段審査を省みて	出口 正春	173

剣道六段審査に合格して	六條 勝仁	175
剣道六段に昇段して	井川 理之	176
剣道六段に合格して	小倉 武雄	177
六段審査に合格して	大貝 美治	179
剣道六段に合格して	武藏 純郎	181
居合道六段審査に合格して	西本 忠司	182
教士に合格して	福永 徳	183
剣道称号・錬士審査会に合格して	岡本 茂	184
称号・段位合格者一覧	185

がんばろう徳島

専門部報告

事業部	熊澤 信行	189
審査部	佐藤 佳宏	191
強化部	平野 誠司	192
少年部	松村 和宏	193
女子部	竹内佳代子	194
居合道部	岸田 光博	196
中体連	松永 貴史	198
高体連専門部より	上田 宏司	200
大学連	木原 資裕	204
部活だより	205
富岡西高等学校	大石 正志	207
平成二十六年 大会記録	231
徳島新聞に見る戦いの跡	231
平成二十七年 昇段審査学科試験問題・解答例	262
平成二十七年 徳島県剣道連盟行事予定表	270
平成二十七年 審査実施計画表	272
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等	273
剣連事務局について	土川 資雄	274
徳島県剣道稽古場所一覧	277
居合道 道場案内	280

編集後記

特集Ⅰ 第一回四国高齢者剣道大会

第一回四国高齢者剣道交流大会を終えて

大会委員長（徳島県高齢剣友会理事長）

高 島 稔 之



表記の大会は、四国各県の高齢者の生涯剣道組織（剣友会・同好会等）に加入している剣道愛好家が共に集い、試合・演武・稽古・懇親会等の場を通して、剣技の錬磨と健康の増進及び豊かな人間性の啓培と剣道の発展を目指す交流大会として企画されたもので、その記念すべき第一回大会が、平成二十六年四月十二日（土）午前十時から、徳島県立中央武道館で開催されました。

全日本高齢剣友会からは、来賓として、高崎慶男会長（現名誉会長）、岩尾征夫（副会長兼理事）、山田義雄顧問の御参列を頂き、盛大に開催することができました。

大会は、開会式の後、日本剣道形は、打太刀・教士七段 藤川和秋氏、仕太刀・教士七段 藤本辰夫氏により、見応えのある演武が行われました。続いての居合道演武は、長谷川英信流古伝組

太刀が、打太刀・教士七段 一村昌和氏、仕太刀・居合道教士七段 坂本憲一氏により迫真の演技が披露され、参会者一同から大きな拍手が送られました。

その後、剣道の試合が、団体試合・個人試合の順で行われ、四国四県から、参加者枠の制限の中、出場が認められた七十五名の選手により熱戦が展開されました。団体戦は十人制で、開催県のみ二チームの出場が認められ、計五チームによるリーグ戦が行われました。その後の個人戦は、団体戦に出場できなかった選手、及び選手交代等のために団体戦にフル出場できなかった選手に出場権が認められ、年齢が高いA組と、年齢が少し低いB組とに分かれて、



二試合場で勝ち抜き戦を行い、勝ち抜いた人数の多い人が優勝者となるというルールで行われました。

団体試合及び個人試合の結果（成績）は次の通りです。

【団体試合】

①徳島A（4勝0敗）②徳島B（3勝1敗）③高知（2勝2敗）
④愛媛（1勝3敗）⑤香川（0勝4敗）で、開催県徳島は、A・B両チーム共に善戦し、1位・2位となり、優勝したAチームに、全日本高齢剣友会の高崎慶男会長（現名誉会長）から、優勝旗が授与されました。また、男性に混じって善戦した女性の梅原澄恵氏（高知）に、特別賞として「敢闘賞」が授与されました。

（団体試合の詳細な結果については、別ページに掲載します。）

【個人試合】

- (A組) ①常光 彰（高知） ②浅野芳弘（香川）
- (B組) ①丸岡偉人（徳島） ②上田一雄（香川）で、

本県の丸岡偉人氏が、B組で優勝を飾りました。

今後、この四国高齢者剣道交流大会は、高知・愛媛・香川の順で持ち回り開催することになっており、平成二十七年の第二回大会は高知県で開催されることになっています。

終わりにりましたが、本大会のために全日本高齢剣友会の高崎慶男会長（現名誉会長）から優勝旗を御寄贈頂きましたことに、また、全国老人福祉助成会・全日本高齢剣友会・関係県の剣道連盟等から御支援・御協力を賜りましたことに、改めて感謝を申し上げます、第一回四国高齢者剣道交流大会の概要報告と致します。



【附記】

最後に、この四国大会が誕生するに至った経緯等について記載しておきます。

この大会が誕生する母体となったのは、毎年四月に本県で開催されてきた徳島県高齢者剣道交流大会、及び毎年五月に高知県で行われてきた土佐生涯剣友会交流大会です。平成二十五年度の大会でもって、徳島県は第二十八回大会、高知県は第二十五回大会を数

えていました。本県での交流大会が高知県より三年ほど早くスタートし、高知県の剣友が本県での交流大会に参加してくれるようになり、本県の高齢剣友会員も答礼の意味も兼ねて高知県で開催される交流大会に参加させていただきました。両県で開催される大会は、それぞれの県大会としてスタートしたものではありませんが、やがて両県の交流大会としての側面を持つ大会として発展し、その後、愛媛県からも、両県の交流大会へ剣友が参加するようになり、平成二十五年には、香川県でも高齢者の組織ができ、四国における高齢者の剣道交流大会開催への気運が高まり、本県高齢剣友会が呼びかけて、平成二十五年十二月二十二日（日）、

四国の中央部近くに位置する東みよし町の吉野川オアシスに、各県の代表者数名ずつが集まって打ち合わせ会を開き、本県が起草した要項案をもとに話し合いを行い、第一回四国高齢者剣道交流大会の開催が決定しました。

それに伴い、これまで毎年四月に行ってきた徳島県高齢者剣道交流大会は、平成二十五年度の第二十八回大会をもって発展的に解消することとなり、県内で実施される高齢者の剣道大会は、毎年秋に実施される徳島県健康福祉祭剣道交流大会（県内年りんピック剣道交流大会）と、四年毎に開催が回ってくる四月の四国高齢者剣道交流大会ということになりました。

また、大会が終了して二十日ほど経った五月七日（水）、四県の代表者が吉野川オアシスに会して、第一回四国高齢者剣道交流大会の反省と次回に向けての協議も行われ、第二回大会へのバトン（大会横断幕・会長印等）が、徳島県高齢剣友会から土佐生涯剣友会へと引き継がれたことを記して本稿の終わりと致します。

団 体 戦 結 果

第一試合会場〈第1試合〉（徳島県高齢剣友会A 対 香川県高齢者剣道有志の会）

団体	先鋒	次鋒	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝人数	勝本数	勝 敗
徳島A	乾	藤本	藤川	忠津	佐野	美馬	中尾	中村	高島	川田	6	9	○
	Ⓣ	⊗メ	Ⓣ	△	△	△	メ	⊗コ	⊗	Ⓣ			
香川				△	△	△	⊗				0	1	×
	小泉	伊賀	宇賀	吉久	上田	鳴瀬	浅野	修理	福浦	小田			

第一試合会場〈第2試合〉（香川県高齢者剣道有志の会 対 徳島県高齢剣友会B）

団体	先鋒	次鋒	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝人数	勝本数	勝 敗
香川	小泉	伊賀	宇賀	上田	伏見	小川	石川	修理	福浦	小田	3	4	×
			△	Ⓣコ	△	Ⓣ			△	⊗			
徳島B	○○	Ⓣコ	△		△		⊗メ	⊗	△		4	7	○
	松村	大貝	東	兵頭	平	後藤	原田	久次米	沢井	東内			

第一試合会場〈第3試合〉(愛媛六十路会 対 徳島県高齢剣友会A)

団体	先鋒	次鋒	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝人数	勝本数	勝 敗
愛媛	山本	大久保	鎌倉盛	二神	徳安	織田	古谷	川村	近藤	竹内	1	1	×
	⊖	△	△		△		△	△	△	△			
徳島A				⊗		▲ ⊗					2	2	○
	乾	藤本	藤川	忠津	佐野	美馬	中尾	中村	高島	川田			

第一試合会場〈第4試合〉(徳島県高齢剣友会B 対 土佐生涯剣友会)

団体	先鋒	次鋒	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝人数	勝本数	勝 敗
徳島B	松村	大貝	東	兵頭	平	後藤	原田	久次米	沢井	東内	2	3	○
	△	⊗	△	△	△	△	⊗ ×	△	△				
土佐										Ⓣ	1	1	×
	梅原	山中	小松	山本	岩井	橋本	門田	栗尾	濱田	友永			

第一試合会場〈第5試合〉(土佐生涯剣友会 対 愛媛六十路会)

団体	先鋒	次鋒	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝人数	勝本数	勝 敗
土佐	梅原	山中	小松	山本	岩井	橋本	門田	栗尾	濱田	友永	3	5	○
	△	Ⓣ コ	Ⓣ	△	△	△	Ⓣ		×				
愛媛								⊗ ×	⊗	⊗	2	4	×
	山本	大久保	鎌倉盛	二神	徳安	織田	古谷	川村	近藤	竹内			

第二試合会場〈第1試合〉(愛媛六十路会 対 徳島県高齢剣友会B)

団体	先鋒	次鋒	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝人数	勝本数	勝 敗
愛媛	山本	大久保	鎌倉盛	二神	徳安	織田	向井	川村	杉本	藤田	1	3	×
						⊗ ×	コ	△	△				
徳島B	Ⓣ						Ⓣ			⊗	2	3	○
	松村	大貝	東	兵頭	平	後藤	原田	久次米	沢井	東内			

第二試合会場〈第2試合〉（徳島県高齢剣友会A 対 土佐生涯剣友会）

団体	先鋒	次鋒	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝人数	勝本数	勝 敗
徳島 A	乾	藤本	藤川	忠津	佐野	美馬	中尾	中村	高島	川田	3	5	○
	△	⊗メ	△	△	△	△	△	⊗メ	⊗	△			
土 佐	△	△	△	△	△	△	▲ ⊗	△	△	△	1	1	×
	梅原	山中	小松	山本	岩井	橋本	門田	栗尾	濱田	友永			

第二試合会場〈第3試合〉（土佐生涯剣友会 対 香川県高齢者剣道有志の会）

団体	先鋒	次鋒	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝人数	勝本数	勝 敗
土 佐	梅原	山中	小松	山本	岩井	橋本	門田	栗尾	濱田	友永	5	5	○
	⓪	△	△	△	△	△	⊗	⓪	⓪	⓪			
香 川	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	0	0	×
	伏見	伊賀	宇賀	上田	吉久	鳴瀬	小川	修理	福浦	小田			

第二試合会場〈第4試合〉（香川県高齢者剣道有志の会 対 愛媛六十路会）

団体	先鋒	次鋒	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝人数	勝本数	勝 敗
香 川	小川	伊賀	宇賀	吉久	伏見	浅野	石川	修理	福浦	小田	2	3	×
	△	△	⓪	△	△	△	メ	△	△	⓪			
愛 媛	⓪	△	△	⊗メ	⊗コ	⊗	コ	△	△	△	4	7	○
	山本	大久保	鎌倉盛	二神	徳安	織田	向井	川村	杉本	藤田			

第二試合会場〈第5試合〉（徳島県高齢剣友会B 対 徳島県高齢剣友会A）

団体	先鋒	次鋒	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	勝人数	勝本数	勝 敗
徳島 B	松村	大貝	東	兵頭	平	後藤	原田	久次米	沢井	東内	2	3	×
	△	△	△	△	△	△	コ	⊗	⓪	△			
徳島 A	△	△	△	⊗ド	⓪コ	⓪コ	⓪	△	△	⊗メ	4	9	○
	乾	藤本	藤川	忠津	佐野	美馬	中尾	中村	高島	川田			

◎ 出 場 選 手

<p>＜土佐生涯剣友会＞</p> <p>監督 常光 彰 7 5 歳 7 段 大将 友永隆雄 7 5 歳 7 段 副将 濱田幸男 7 3 歳 7 段 三将 栗尾博義 7 1 歳 5 段 四将 門田 豊 7 1 歳 5 段 五将 橋本正視 7 1 歳 5 段 六将 岩井数猪 7 0 歳 7 段 七将 山本 進 6 7 歳 7 段 八将 小松武利 6 5 歳 7 段 次鋒 山中康喜 6 2 歳 6 段 先鋒 梅原澄恵 6 2 歳 7 段 補員 常光 彰</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○個人戦出場者</p> <p>鮫島重雄 8 0 歳 7 段 常光 彰 7 5 歳 7 段 戸田七夫 7 4 歳 7 段</p>	<p>＜愛媛六十路会＞</p> <p>監督 藤田守也 7 9 歳 7 段 大将 武内史朗 7 6 歳 7 段 副将 近藤克美 7 3 歳 7 段 三将 杉本和巳 7 3 歳 6 段 四将 川村博昭 7 2 歳 7 段 五将 向井健司 7 2 歳 7 段 六将 古谷龍夫 7 0 歳 7 段 七将 織田 端 6 8 歳 7 段 八将 徳安健治 6 6 歳 7 段 次鋒 二神幹男 6 5 歳 5 段 先鋒 鎌倉盛光 6 3 歳 6 段 補員 鎌倉仁美 6 3 歳 5 段 補員 大久保隆司 6 2 歳 6 段 補員 山本省三 6 0 歳 7 段</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○個人戦出場者</p> <p>鎌倉仁美 鎌倉盛光 古谷龍夫 杉本和巳</p>
<p>＜香川県高齢者剣道有志の会＞</p> <p>監督 小田俊夫 7 6 歳 7 段 大将 小田俊夫 7 6 歳 7 段 副将 福浦征紀 7 3 歳 7 段 三将 修理輝男 7 2 歳 7 段 四将 浅野芳弘 6 8 歳 7 段 五将 鳴瀬一男 6 7 歳 7 段 六将 上田一雄 6 6 歳 7 段 七将 吉久建造 6 6 歳 7 段 八将 宇賀廣和 6 5 歳 7 段 次鋒 伊賀昭芳 6 4 歳 7 段 先鋒 小泉康裕 6 3 歳 6 段 補員 伏見紀男 6 7 歳 6 段 補員 小川健一 6 8 歳 7 段 補員 石川敏信 6 9 歳 6 段</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○個人戦出場者</p> <p>吉久建造 上田一雄 伏見憲男 鳴瀬一男 浅野芳弘 小川健一 石川敏信</p>	<p>＜徳島県高齢剣友会 Aチーム＞</p> <p>監督 川田武志 7 5 歳 7 段 大将 川田武志 7 5 歳 7 段 副将 高島稔之 7 2 歳 7 段 三将 中村稔裕 7 1 歳 7 段 四将 中尾正輝 7 0 歳 7 段 五将 美馬勝行 6 8 歳 7 段 六将 佐野博志 6 6 歳 5 段 七将 忠津和憲 6 5 歳 7 段 八将 藤川和秋 6 2 歳 7 段 次鋒 藤本辰夫 6 2 歳 7 段 先鋒 乾 清孝 6 1 歳 6 段</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○個人戦出場者</p> <p>(次ページに)</p>

＜徳島県高齢剣友会 Bチーム＞				○個人戦出場者			
監督	有賀秀敏	78歳	6段	張西政晴	78歳	5段	
大将	有賀秀敏	78歳	6段	東内 勉	77歳	7段	
副将	沢井勝之	72歳	7段	松田久司	73歳	6段	
三将	久次米繁興	70歳	7段	泊 利治	72歳	6段	
四将	原田 進	68歳	7段	別宮憲治	66歳	3段	
五将	後藤徳朝勝	67歳	6段	日野浦正一	66歳	5段	
六将	平 正明	66歳	6段	谷 博	66歳	6段	
七将	兵頭新平	64歳	7段	伊賀雅人	65歳	7段	
八将	東 徳美	64歳	7段	松浦武信	65歳	4段	
次鋒	大貝美治	62歳	5段	丸岡偉人	65歳	6段	
先鋒	松村和宏	61歳	7段	西堀和文	65歳	5段	
				合田秀實	64歳	7段	
				一村昌和	62歳	7段	
				寒川博文	62歳	7段	
				武田修典	61歳	6段	

◎ 団体戦試合順

＜第一試合場＞				＜第二試合場＞			
1	徳島A	—	香川	1	愛媛	—	徳島B
2	香川	—	徳島B	2	徳島A	—	土佐
3	愛媛	—	徳島A	3	土佐	—	香川
4	徳島B	—	土佐	4	香川	—	愛媛
5	徳島B	—	徳島A	5	土佐	—	愛媛

◎ 個人戦（勝ち抜き戦）出場順

（年齢順を原則としたが、1回戦の同県対戦を可能な範囲で回避すべく調整したため、一部、年齢順となっていない。）

< 第一試合場 >

- | | | |
|----|----------|-------|
| 1 | 武田修典（徳） | 6 1 歳 |
| 2 | 寒川博文（徳） | 6 2 歳 |
| 3 | 鎌倉仁美（愛） | 6 3 歳 |
| 4 | 一村昌和（徳） | 6 2 歳 |
| 5 | 鎌倉盛光（愛） | 6 3 歳 |
| 6 | 合田秀實（徳） | 6 4 歳 |
| 7 | 西堀和文（徳） | 6 5 歳 |
| 8 | 丸岡偉人（徳） | 6 5 歳 |
| 9 | 松浦武信（徳） | 6 5 歳 |
| 10 | 伊賀雅人（徳） | 6 5 歳 |
| 11 | 上田一雄（香） | 6 6 歳 |
| 12 | 谷 博（徳） | 6 6 歳 |
| 13 | 日野浦正一（徳） | 6 6 歳 |
| 14 | 吉久建造（香） | 6 6 歳 |
| 15 | 別宮憲治（徳） | 6 6 歳 |

< 第二試合場 >

- | | | |
|----|---------|-------|
| 1 | 鳴瀬一男（香） | 6 7 歳 |
| 2 | 古谷龍夫（愛） | 7 0 歳 |
| 3 | 伏見憲男（香） | 6 7 歳 |
| 4 | 泊 利治（徳） | 7 2 歳 |
| 5 | 浅野芳弘（香） | 6 8 歳 |
| 6 | 杉本和巳（愛） | 7 3 歳 |
| 7 | 小川健一（香） | 6 8 歳 |
| 8 | 松田久司（徳） | 7 3 歳 |
| 9 | 戸田七夫（土） | 7 4 歳 |
| 10 | 石川敏信（香） | 6 9 歳 |
| 11 | 常光 彰（土） | 7 5 歳 |
| 12 | 東内 勉（徳） | 7 7 歳 |
| 13 | 張西政晴（徳） | 7 8 歳 |
| 14 | 鮫島重雄（土） | 8 0 歳 |

試合上の注意（審判長より）

- 全日本剣道連盟の剣道試合・審判規則及び細則並びに高齢者大会の申し合わせ事項により実施する。
- 団体戦はリーグ戦とし、試合は3分3本勝負とする。
 - ・ 試合の勝負が決しない時は引き分けとし、延長戦は行わない。
 - ・ リーグ戦の全試合終了後、勝敗数・勝ち人数・勝ち本数が同数の場合は、代表者による決定戦を行う。決定戦は、任意のチーム代表による1本勝負とし、勝負が決するまで時間を区切らず行うものとする。
- 個人戦は勝ち抜き戦とし、試合は2分1本勝負とする。
 - ・ 試合の勝負が決しない場合は両者とも退くこととし、次の選手から新たな勝ち抜き戦が再スタートすることになる。

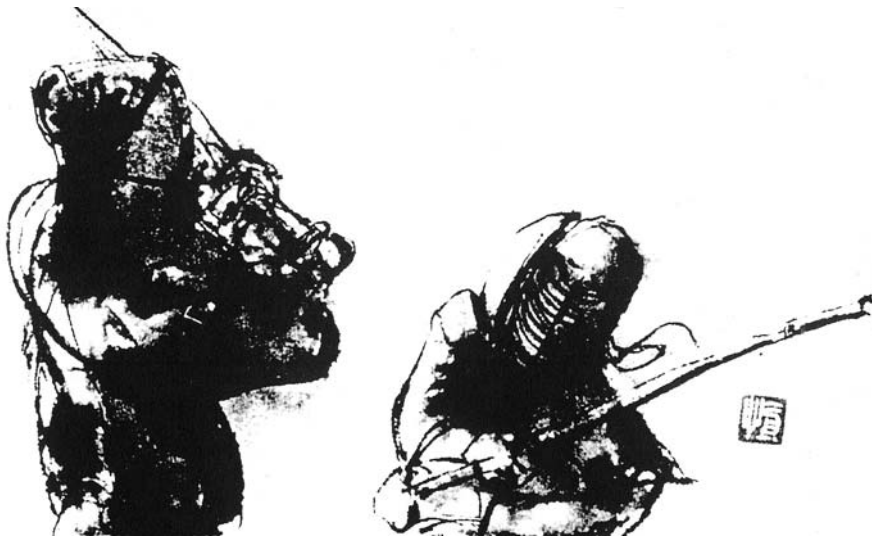
○ 有効打突の見極めについて

- ・ 高齢の度合いに応じて、有効打突を適切に見極めること。

○ 禁止事項（危険防止のための申し合わせ事項）

- ・ 片手による横面打ち・・・鼓膜を破る危険性が高い。
- ・ 迎え突き・・・一般的な突き技は当然認められるが、相手に危害を加えるおそれのある強度な後突きは禁止する。
- ・ 体当たり・・・転倒及び骨折の危険性が高いので慎むこととし、特に御高齢の方に対しては厳禁とする。

以上の禁止行為があった場合には、審判は合議し確認の上、反則とする。



第一回四国高齢者剣道交流大会に参加して

監督・大将 川 田 武 志

平成二十六年四月十二日、徳島県中央武道館において、四国四県の高齢の剣友が一堂に会し、剣道の美しさ、強さ、心技を求め生涯にわたり情熱を燃やし体力の維持と健康で交剣知愛を図ることを目的とする第一回四国高齢者剣道交流大会が、全日本高齢剣友会会長高崎慶男先生、全日本高齢剣友会副会長兼理事長岩尾征夫先生の御臨席を賜り、さらに地区大会で全国で初めてと言う、優勝旗を全日本高齢剣友会会長から贈呈して頂き、交流大会とは思えないその争奪戦らしき熱戦が展開された。

今回の大会は、初回ということで出場選手一チーム十名で、その内大将は七十五歳以上の者とされ、開催県は、出場チーム二チーム、他県は一チームとし、第一回開催県である本県は、「徳島県高齢剣友会A組・B組」と二チーム結成された。

高知県は「土佐生涯剣友会」と名称され、さすが坂本龍馬、板垣退助を生み出した地であり自由気風が見受けられる。

愛媛県は、「愛媛六十路会」と名付けられており、夏目漱石の小説坊っちゃん、また、俳人、歌人の正岡子規を生み出した地であり文学気風が見受けられる。

香川県は、「香川県高齢者剣道有志の会」と名付けられ、四国全県よりの参加となった。

開会式では大会長挨拶、来賓祝辞、審判長説示につづき選手宣誓は、選手代表として、徳島県高齢剣友会剣道六段・乾清孝先生が声高らかに宣誓した。それにより選手一同は、奮起するようすが窺われる。

引き続き演武に移る。はじめに日本剣道形、打太刀を教士七段・藤川和秋先生、仕太刀を教士七段・藤本辰夫先生。つづいて、居合道演武、長谷川英信流古伝組太刀、打太刀を教士七段・一村昌和先生、仕太刀を居合道教士七段・坂本憲一先生が演じられ、充実した氣勢、気迫にみちた迫力のある素晴らしい演武を披露されました。演武をみていた各剣友は、「おう」、「すごい」、「素晴らしい」の感激ひとしおであった。

「さあ、次は試合だ」と気迫のこもった演武の余韻で奮起する。私は、徳島県高齢剣友会Aチームの監督兼大将として出場した。自分個人としての試合結果は、四戦二勝二引き分けであった。対戦相手は、第一試合は、香川県高齢者剣道有志の会の大將・小田七段に「コテ」を取り一本勝ち。

(徳島県A 勝数六 本数九 | 勝数〇 本数一 香川県)

第二試合は、土佐生涯剣友会の大將・友永七段と引き分け

(徳島県A 勝数三 本数五 | 勝数一 本数一 土佐生涯)

第三試合は、愛媛六十路会の大將・竹内七段と引き分け

(徳島県A 勝数二 本数一 | 勝数一 本数一 愛媛六十路)

第四試合は、徳島県Bの大將・東内七段に「メン」の二本勝ち

(徳島県A 勝数四 本数九 | 勝数二 本数三 徳島県B)

でした。

全般に試合は、若者のように、はつらつとした攻守一致の剣道は少なく、待中懸の精神で、制限時間いっぱい使う粘りのある剣道が多く見受けられた。選手は、六十歳以上の熟練者で、交流大会と名打っているが、県別対抗の優勝旗争奪戦のためか、勝負に懸けた気迫のこもった、試合展開であり、団体戦は全て接戦の状態であった。

動きも良く、伸びのあるスピード豊かな面打ちの剣道をしている、高知県をはじめ、愛媛、香川の各県においても、動き、打突も良く、相当稽古を積み重ねられている様子が窺われる。

幸いにして、本県チームA組・B組とも他県三チームに勝ち、本県A・Bは、最終の試合となり、リーグ戦であるが、事実上の決勝戦となった。

その試合結果は次のようになった。

徳島県高齢剣友会B組 ー 徳島県高齢剣友会A組

先鋒 松村和宏(七段) × 乾 清孝(六段)

双方稽古充分な猛者、気迫のこもった思い切った捨て身の打ちを出す両者攻守激しく打突決まらず、引き分け。

次鋒 大貝美治(五段) × 藤本辰夫(七段)

双方とも積極的な攻めを行ったが有効打突なく、引き分け。

八将 東 徳美(七段) × 藤川和秋(七段)

攻守が整っている藤川、積極的に攻めるも、守り懸命の東、双方有効打突なく、引き分け。

七将 兵頭新平(七段) ー メ・ド 忠津和憲(七段)

試合巧者の忠津、積極的に攻めてメン、ドウの二本勝ち

六将 平 正明(六段) ー コ・コ 佐野博志(六段)

佐野、積極的な攻めで、相手が面を打突できる間合いに入り誘うて出小手で二本勝ち。

五将 後藤徳朝勝(六段) ー コ・コ 美馬勝行(七段)

美馬の得意技である、攻めて相手を誘い出し出小手を二本決める。

四将 原田 進(七段) コ×コ 中尾雅輝(七段)

原田、積極的攻めで相手が手元をあげ後退したところ、さらに攻めて小手を決める。中尾、コテを先取され焦り攻めに徹するが、制限時間間際、相手が居付いたところ空かさず小手を決める。双方、小手一本で、引き分け。

三将 久次米繁興(六段) メ ー 中村稔裕(七段)

積極的に攻め久次米長身を生かし面に伸せる、その後双方決め手なく久次米の一本勝ち。

副将 沢井勝之(七段) メ ー 高島俊之(七段)

思い切りの良い打突で、沢井の面決まる。その後双方有効打突なく沢井の一本勝ち。

大将 東内 勉(七段) ー メ・メ 川田武志(七段)

Aチームは、序盤、中盤の者が頑張り三連勝、終盤になり二連敗。副将まで三(七)対二(三)で勝ち本数は開いているが、勝者数は、接戦である。自分が、敗れても本数勝ちに

なるが、ここで負ければ大将として面目立たず、悔いが残る。先取し試合を有利に先導権を握る剣道をしなければならぬと奮起する。積極的な攻めに入り相手が後退し居付いたところ面に出る、これが決まり二本目。なおも相手を攻め崩し居付いたところ、躊躇せず面に打込む、これも決まり面の二本勝ちで、追いついてきているBチームを四（九）対二（三）と引き離し、Aチーム優勝の面目が保たれました。

出場者 徳島県十五名 高知県三名

香川県七名 愛媛県四名 計二十九名。

個人戦試合場は、第一試合場と第二試合場の二カ所で行われました。

第一試合場での入賞者は、

第一位 丸岡偉人（徳島県） 勝ち抜き数 三人

第二位 上田一雄（香川県） 勝ち抜き数 二人

第二試合場での入賞者は、

第一位 常光 彰（高知県） 勝ち抜き数 三人

第二位 浅野芳弘（香川県） 勝ち抜き数 二人

であり、それぞれ表彰を受けました。

個人戦については、時間が足らず試合をしても負ければ、一試合で終わる者もいる。個人戦は、何か付け足しのようなものと思われる、他剣友会の者から苦言があった。時間的な問題点があり無理と思われるので、団体戦に出場していない者でも合同

稽古会に参加できるようにし、「交剣知愛」の精神で、充実した合同稽古会にすれば四国高齢剣友の皆さんは、この交流大会を築しみに益々参加者も多くなり、四国高齢剣友会の発展にも繋がると思われる。

本大会は、第一回とのことで徳島が開催県となり、二チーム出場でき徳島県高齢剣友会は、Aチーム・Bチームを結成し本大会に必勝を期し臨んだ。各チームは、各選手の常日頃の精進と月二回の強化訓練により実力をつけ、さらに地元の利を（？）得て二チームとも上位入賞となった。

徳島県高齢剣友会Aチームは、四戦全勝で優勝できたのは、選手の日頃の精進と実力、さらに夏期、冬期に実施される強化練習、並びに高齢剣友諸氏のご支援とご協力の賜と思ひ深く感謝している次第です。本大会を成功に導いた、徳島県高齢剣友会会員、並びに大会役員、審判員、選手諸士に敬意を表する次第です。

徳島高齢剣友の皆さん、健康で剣の道をひたすら追い求め、老いてもなお強い「年輪の美」を醸し出そうではありませんか。頑張りましょう。

特集Ⅱ 竹刀師 高橋國保先生

剣の修錬に名工竹刀師の入魂を知る

徳島県剣道連盟副会長 三木 毅

一 はじめに

剣道は我が国で発祥し世界に誇れる伝統と歴史がある。剣道の修錬には、身に装着する衣装や防具とともに、日本刀と同一視する竹刀は修錬に最も重要な要素もっている。竹刀の製作と改良は剣道の修錬の歴史とともに歩んできた。

竹刀を日本刀と同一視して扱い、剣士の魂を竹刀に込めて修錬をする以上、竹刀の製作過程を理解し竹刀師さんの魂が入った竹刀を重く受け止めておくことは極めて大切なことなのである。

竹刀歴史の原点に思いを寄せる時、それは「手作り竹刀師」が剣道を支えてきたことは紛れもない事実である。時代の進展によって全ての物づくりが機械化され大量生産される現今では竹刀作りの世界にも同様の波が押し寄せてきている。そのため、手作り竹刀師が希薄となり全国で数名しか存在しないのではないかとと言われる現状である。身近な四国では高橋先生一人ということである。その高橋先生が我が郷土徳島県阿南市に在住することは郷土

の誇りでもある。

手作り竹刀師さんが作出する竹刀は、竹刀師界の伝統と歴史に刻まれた芸術品であって『現在の名工』が作出した作品なのである。剣道の修錬に身をおく剣士はその現状に深い意識をもって認識し、手作り竹刀師さんに感謝と敬服の念をもちながら、手作り竹刀師がいつまでも存在するよう、多くの剣士が努力することが大切であると思うのである。

二 竹刀師さんとの出会い

私は、農家の生まれで、物心がついた頃のことを思い出すと、農業に必要な用具は、近くに存在した大工さん、鉄工所、鍛冶屋さんなどが手作りで完成させていたことである。いつしか、物づくりに興味があり、大工さんや鉄工所の作業に見入って大きくなった面がある。

今では『日曜大工』の腕を持ち合わせる様になった。一方中学時代から剣道を教わったことで父が孟宗竹で竹刀を作ってくれ使用したことが一度あったことを覚えている。

平成の時代になって、剣道誌に手作り竹刀師さんの記事を目にするのがありふと思ったことは、剣道を教わっている実子三人に竹刀を作ってみたいということであった。平成十二年のこと、阿南市在住の竹刀師『高橋國保先生』に出会うこととなり竹刀作りの思いを強くもつようになった。

高橋先生の道具をよく観察し、必要な道具を日曜大工の腕で作

り上げ、先生宅に持参して、はじめて竹削りをさせてもらった。先生から色々手解きを受けながらひたすら竹削りを繰り返して、やっと竹刀らしきものを作るようになり、今は自作の竹刀を稽古に用いている。

三 竹刀師さんに敬意をこめて

高橋先生との出会いがあり、早くも十五年を経たことになり、先生のことを多く知り、県内現役の多くの剣士諸氏が先生の竹刀で育ってきたことも知ることもなかった。また県外の著名剣士が先生の竹刀でなければという希望が今も充滿していることも知ることとなった。

先生は、昭和十二年二月十一日京都府伏見で出生され、お父様の家業を継いで竹刀師となり、竹刀の材料である『真竹』を



求め、昭和五十年に阿南市に移住されたのである。それから四十年を経て、多くの剣士に手作り竹刀を提供され、剣道を支えてこられたのである。

阿南市での創業四十年が先生の喜寿に当たることから、先生の記念になることを企画しようと考え、これまで先生の竹刀で剣道修練を重ねてこられた剣士諸氏に相談を持ちかけたところ『竹刀師 高橋國保先生を囲む会』を開こうということに意見がまとまり、発起人三木毅・米倉滋・近藤巨・木原資裕・須藤恭宏となつて、県内多くの剣士に声を掛け、平成二十六年九月六日に四十一名の賛同を得てランドパレスで『囲む会』を開催することがで

きた。

四 仁義礼智信の真意を込めて

孔子が唱えた儒学では、人としての在り方が基本的な原点と言われている。その中で先ず、人が守るべき徳目として『仁・義・礼・智・信』は『五常の精神』として示され、次いで人間関係の徳目として『君臣の義・父子の親・夫婦の別・長幼の序・盟友の信』があり『五倫の精神』といわれ、それぞれ強調されている。私も剣士が今も身につけ稽古に励んでいる『袴』には五つの髣がある、そして手にする『竹刀』には五つの『節』がある。その意味することは、五常の精神や五倫の精神の気持ち極身近に引きつけて剣の修練に励み人間形成に結び付けようとしたのだと解すべきものと思われる。

五 竹取り物語

高橋先生は、数年前から一つの発案をされた。それはご自分の竹刀を使ってきている剣士諸氏に対して「自分が竹藪に入り、気に入った竹を選び、その竹で竹刀を作ろう」ということである。すなわち、名打って『竹取り物語』の始まりを発案されたのである。私は、竹取り物語の準備役となり、真竹の竹藪を探索しその所有者を探し当て、竹切りの承諾を得る動きをすることとなった。毎回十人余の希望者があり既に五回の竹取り物語を行った。竹藪の現地に赴き一藪を見渡し、五節の竹を求めて歩を進めるが、

うまい竹は一藪に二十本程度しか見当たらない。目当ての竹を切るの十分もあれば切されるが、切った後の作業が大変な重労働となる。先ず切り残しの竹を引き寄せ、細かく切って横倒しにしておく作業に相当の力と時間を要する。この作業は次年度により竹が育つためにとっても重要なことなのである。次は、切った竹を搬出する作業である。

これら一連の切り出し作業は、人の手で永々と続けられたことを思うと竹取りの一步から人の手の力に感謝の気持ちをもたねばならない気分となる。



竹取りの夜は、全員で夕食を囲み、当日の苦労話や竹刀の出来上がり、さらには竹刀師高橋先生の竹刀作りの思いに花を咲かせるのである。竹刀師高橋先生は自宅において、竹を削るその手に五常の精神や五倫の精神を込めながら丁寧な仕上げに向かって黙々と芸術作品を作り上げていることを想像しながら、竹刀への思いを深め、その日を終えるのである。竹取り物語の意味することの重要性を知ることが、我々が目指す人間形成の一翼であることを痛感するのである。

六 これから

手作り竹刀師が我が国から姿がなくならないようにするために、即名人とならなくても『何時か誰か』が継承する以外に方策はないのである。我が徳島県において手作り竹刀師が誕生することを強く願うばかりである。

高橋先生は喜寿を迎えたとはいえ、竹刀作りへの情熱を深めておられることから、ご健康で竹刀作りを続けていただきたいことを心から願っております。



昨年（平成26）の竹取り参加メンバー

伝統ある高橋竹刀製作所の竹刀

香川県善通寺市在住 西 本 政 弘



この原稿依頼が来たときは、高橋師匠や三木先生がいるのに私が書くことは無いんじゃないかと思ひ、受けようか、断ろうか迷いました。高橋師匠に相談すると「書いたらいんじゃないか」と言っ

て下さり、依頼を受けることにしました。以前から思っていたことですが、剣道の本はたくさんありますが、竹刀の事を書いている本はほとんど無いと思ひます。竹刀を大切にしている大先生の講話集に、気に入った竹刀の感想などが載っている程度だと思ひます。私は竹刀の本としては昭和六十二年剣道時代発行の臨時増刊号の『竹刀百科』（牧村二郎著）が最も優れていると思ひます。

私が平成十年に竹刀造りを習ひ始めたころ高橋師匠が竹刀造りについてこんな話をしてくれました。

「竹刀の作り方はいろいろある。わしはこうして造っているけど、職人さんは常に工夫しているから、いろいろだ。あんたも工夫して考えたらいわ。そやけど、やっぱり良い材料がないと話にならない」「ええ材料」を「ええ竹刀」にすることや材料の時点で虎徹（直刀）か辰義（胴張）にならない竹は焼いてしまうんや。材

料仕込んでも竹刀にせんほうがええ竹は三割あると思とったらええんとちゃうか。」と竹刀造りにたいする思ひを話してくれました。

私は、高橋国保竹刀製作所を通じて剣道家と竹刀の事についていろいろと話し合ひ、例えば、好きな竹刀の材料は何ですかと聞く、「竹です」と答える人は多いでしょう。「真竹（まだけ）ですか、桂竹（けいちく）ですか、孟宗竹（もうそうたけ）ですか」と聞くことでしょうか。そこで「どこが違うのですか」とたずねられ、材質について使い手と、作り手がそれぞれの思ひを話し合ひお互い共感出来れば理想の竹刀ができあがり、剣道の幅も一段と広がると思ひています。

私が竹刀造りをして感じたことを以下に書くことにします。

一、竹の材料を、竹師さんが真竹山をさがして山主（やまぬし）さんと交渉し四ヶ月間しかない伐採時期に、竹年齢の四年物以上の竹だけを切ります。

※竹年齢を見分けることは、難しいです。

※竹山も何年かすると切り尽くすので、常に良い竹刀になる真竹山を見つけて置かなければいけません。

二、伐採した竹を竹刀になる節の竹を選別し長めに切断して節を抜きます。

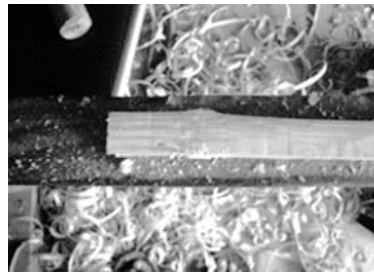
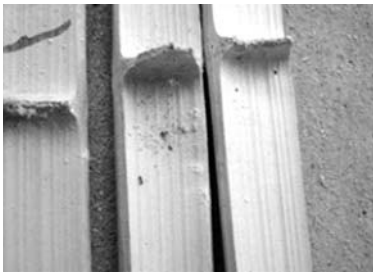
次に、竹の太さに合わせて（八枚割用）（七枚割用）の竹割り器で割ります。それを油抜きして水分が飛ぶまで一年から二年自然乾燥天日干しにします。

三、そこで問題がでてきます。

何年も干しているときに竹が虫に喰われます。これが一番悲しいです。良い竹を約二年間天日干し、竹刀に最適の状態になった竹を削ると「あれ、粉がでてきた。穴があいている。あ、虫がいた残念」と悲しくなります。※予防はします（高価な薬品を使用します。作業時は目や喉が痛くなる難作業です）が完全ではありませんし、効果は約一年ぐらいいです。カビにも手をやきます。



竹割器



虫食いの写真

竹を乾燥し荒削りをするまで、でこんな感じですが、ただだと想像することもなく、また気にすることもありません。

今、山で竹刀に出来るような竹を切っておろしてくれる竹師さんが減り続けています。これから先、竹刀材が入手困難になるでしょう。このままでは日本の真竹で日本人が造る竹刀が消える日がくるかもしれません。竹刀の造り方さえ解らないようになるかも知れません。このような危機感は何年も前から出ていると思いますが、対策は進んでいないと思います。また期待しても無理のような気がします。たとえば、造り方を細かく文章で残したとしても本を見ながら造るとなると大変難しいと思います。やはり、竹刀師の横で、実際竹刀造りを見ながら、「ここは手を抜いたらあかん」とか「ここはこっちから押して」「まだ離れたらあかん」とか師匠の声を聞きながら造ってもなかなか出来ません。高橋流の伝統ある技法で造れるようになるのは長い年月がかかります。造る人がいなくなり、一度途絶えたら復活することは困難でしょう。

私は、高橋國保師匠に竹刀造りを習ったことは忘れてはならない経験をしていると思っています。これからも高橋竹刀製作所の工程＋自分流で造り続けていき、手作り竹刀の良さを次世代に伝えたいと思っています。

最後になりましたが、高橋國保師匠には「竹刀造り」を教えてください、徳島のみなさまには、このような機会をいただき、お礼申し上げます。

心よりありがとうございました。

高橋國保先生講演録

本日は足下の悪い中、ありがとうございます。私からすると尊敬する人ばかりを前に話をすることはたいへんですが、よろしくお願ひします。

私の竹取り物語

竹刀ほど難しものはありません。「竹刀はなぜ高いのか。」と問われた際、その人に、いっぺん山に入って、竹探しからしてはどうかとも申し上げたことがあります。私も実は竹取りをしたことがありませんでした。八年ほど前から、三木先生と相談して、毎年取りに行くようになりました。お陰で、私も本当の竹の善し悪しがわかるようになりました。

竹藪には何百本も竹が生えていますが、五節ある竹刀にできる竹は、十人が一日かかりで五十本もありません。それを持ち帰って、割って、乾燥させます。乾燥には最低半年は必要です。

かつては、私も竹刀を量産していた時期もありますが、今は、いい竹でいい竹刀だけを作ろうと思っています。

手作り竹刀業者の消滅

今は中国からの竹刀が低価格で販売されています。昭和四十年過ぎから、竹刀職人が離職しています。中国では機械を使って、安い原材料で竹刀を作成しています。当時、原材料の竹が一本十円か二十円で購入できました。中国から十トン車のコンテナ一杯の竹を購入しても三万五千円で運賃が一万六千円でした。

中国からの竹が入ってくる前の昭和四十年当時は、京都だけでも竹刀職人は四十名はおられました。業者は十二〜十三軒ほどありました。

主に売れるのは三八の竹刀です。三九の竹刀はあまり売れません。普通のお店では三九は三十〜四十本程度しか売れていないようです。三七・三八の竹刀はその当時、全国で百万本は売れていました。

京都では、一人前の職人さんが一日、だいたい十五〜十七本の竹刀を作ります。年間三百日働いたとして、少なく見積もっても職人一人にあたり年間四千五百本程度の竹刀が作られていました。京都全体では約十八万本の竹刀が作られていたことになりました。

しかし、昭和四十八年くらいから、日本の業者も機械を導入して竹刀作りはじめました。その関係で、手作り竹刀業者はほとんど姿を消してしまいました。





四国の竹

昭和四十五年頃ですが、静岡で竹バットを作っている会社があり、当時、南米のプエルトリコ・コロンビア・キューバ等の国々へ竹バットを輸出していました。日本では、ソフトボールだけが竹バットを使用していました。それを手伝えることになりました。しかし、金属バットの採用により、事業が縮小され、私は再度、竹刀作りへと戻ることになります。そこで作った竹刀を使ってくれた人たちが大変よろこんで下さり、私自身もその感激を今でも覚えています。竹バット事業がダメになりかけていたので、社長はこちらで家も建てるし、出資をするので、どんどん竹刀を作ってほしいと頼まれましたが、それは断りました。

それをどこかで聞いたのでしょうか、その後、徳島の方が私のところへ訪ねて来られました。その当時、私の父親より、「四国には真竹のいいものが多くある。竹刀の材料としては日本一だ。」と聞いておりました。しかし、その当時は橋もなく、また、竹は船との相性がなぜか悪く、四国の竹を京都へ運ぶ手立てがありませんでした。

話は前後します。年を取った方

はご存じかと思いますが、有名な「鉄心」の竹刀を作られていた本間さんから、現在はありませんが、その当時香川県の三木町で蛍光灯の笠を竹で作っている業者があると聞きました。そこで使っているのは竹の上部だけで、竹刀の材料となる竹の下部は使っていませんでしたので、格安の値段でその部分を購入することがあります。

竹刀の重量と真竹の丈夫さ

今の剣道連盟の竹刀規定では五一〇グラム以上であります。ですから、竹だけでも四六〇グラムから四七〇グラム程度以上の重さが必要です。しかし、竹それぞれの密度や日当たり加減で、同じ形に作っても重さが足りないことが多くあります。

台湾の桂竹は薄いけれども重さがあります。福岡で「筑峰」という竹刀を作っている塚本さんがそれを購入して、私と分け、竹刀を作りましたが、桂竹は節の曲がり方にしゃくりがあり、節をまっすぐにすることが難しく、節の向きを無視した機械で製材する方法を使っています。当然、竹の曲がっている繊維を必ず切ることになりました。竹刀を量産するためには機械で製材する方法はありませんが、竹が早く割れやすいのです。

私たちの使っている真竹は節をまっすぐにしてから竹刀にしていますので、竹刀の割れ方や丈夫さに違いが出できます。曲がった節をまっすぐにする作業を「矯め」と言います。この「矯め」の作業に一日八時間か九時間、働くとするとその半分はこの「矯

め」の作業にかかってしまいました。

今年（平成二十六年）は二月一日に山に竹取に参りました。今年（平成二十六年）の夏は台風があり、暑かったでしょう。そうすると竹にカビが生え、虫が入りました。最近、地球温暖化で養分を竹が取りすぎて、虫にとって好ましい状態になり、虫がどんどん竹に入っています。ですから、年を越した竹はあまりよくありません。

竹刀を作る職人は少なく、寂しい限りです。私のいとも三人竹刀を作っていますが、生活するのが精一杯の状態と言っています。

何か質問がありましたら、どうぞ。

「先生が竹刀を作られていて、いい竹刀の条件はどのようなものがありますか。」

やはり、竹ですね。どんなに腕をふるって作っても、竹がダメだといいい竹刀にはなりません。最近、山のどの当たりの竹を切ればいいのか、ようやくわかってきました。山の斜面の竹と斜面から平になったところの竹をくらべると、斜面の竹がいいようです。水はけの関係で、平なところの竹は多く水分を含み、竹が柔らかいようです。吉野川にも多く竹がありますが、これらは水分が多く、竹刀の材料にはなりません。

徳島の竹が一番だと思いますが、タイの竹もいいように思います。

最初、熱帯のタイでは、良い竹はないでしょうと言っていたのですが、とりあえず、少し持ってきてほしいと依頼しました。私のところにも三本届きました。早速、竹を割ろうとしたのですが、なかなか割れません。竹が粘いのです。タイでは、この竹を編んで床の敷ものにしたたり、あるいはタイの湿地帯に三メートルくらいに切った竹をズーと埋め込み、その上に家を立てるそうです。そうすると、地震があっても液化化しないとのこと。

タイでは、その当時、軍事政権で竹山も国有林とのこと、竹だけを切り出して、日本へ運ぶことができず、中国のように現地竹刀を作って、日本に送るとのこと、タイに来てほしいと要請がありました。政情不安定で行くことができませんでした。

徳島のいい竹を使いながら、皆さんに喜んでいただける良い竹刀を作るよう、これから、自分の体の続く限り、頑張りますので、今後とも、どうぞ、よろしくお願いします。ありがとうございます。

特集Ⅲ ふるさとトリーク

剣道の原点、徳島

東海大学付属浦安高等学校教諭（鳴門第一中出身）

剣道教士八段 神 悌 宏



昨年末の徳島県剣道連盟国体少年強化練習会に参加させて頂いた折に、郷土出身の剣士という題名で原稿依頼がありました。修行の身の未熟者でございますが、これまでの経緯を書かせて頂こうと思えます。

私は昭和三十八年五月、鳴門市で生まれ、剣道との出会いは黒崎小学校四年生の時になります。近所に住む早川徹君が街の中心地にある鳴門警察署で剣道を習っており、誘われて行った時に楽しそうな姿を見て私もやってみようと思えました。自転車かバスで約三キロ離れた所へ通うのが大変と両親から反対されましたが、絶対に辞めないことと親を頼らず自分でやることを条件に許可してもらいました。

鳴門剣道クラブ少年部（現光武館）に入門し、故寺西慶裕先生を中心に週末には故堀江幸夫範士も参加されるなど、多くの先生

方や中高校生に交じっての活動でした。同級生には平野誠司君や松尾剛志君がいて、下級生にも中村、福山、橋本、小川、高島、中井、藤本君など強い選手がたくさん所属しており、遅れて始めたのでまずは後輩に追いつくことが目標でした。稽古は先生方を相手に切り返し、懸り稽古の基礎訓練が中心で、一般に交じっての居残り稽古や自宅で素振りを毎日行いました。徐々に力がつき六年生になって団体戦の選手に選ばれ、個人戦でも県大会で入賞できるようになりました。本州四国連絡橋が開通していない当時では珍しく和歌山、岡山、茨城の大会に参加するなど、全国レベルを小学生時代から経験することができたことは今でも財産になっています。

卒業して鳴門第一中学校に平野、松尾、早川君と進学し、佐賀博史君が初心者で入部してきて同級生が五人になりました。剣道部顧問は若くて熱血感のある吉田輝昭先生でした。道場と中学校の部活動で、放課後の稽古の他に朝稽古やトレーニングも行うようになり稽古量が数段に増えました。平野君と一年生から選手で出場させて頂きましたが、木頭中をはじめとする県南の強豪チームには勝てませんでした。吉田先生から小手面などの連続技や相手の技や動きを想定した組み立て技を指導して頂き、色々な技ができるようになり、二年の後半からは県内大会の全てに団体優勝していました。

中三の六月、全国大会県予選に主力のひとりが前日に体調を崩し、決勝で木頭中に敗れて全国大会出場が叶いませんでした。七

月県総体では団体優勝、個人三位で四国総体に出場して団体優勝を飾りましたが、全国に出場できなかった悔しさを忘れず、高校進学では体育教師になるための大学進学と全国大会に出場できそうな県外強豪校を考え、親元を離れて神奈川県東海大学付属相模高校を受験して入学しました。のちに全日本選手権者になった宮崎正裕先輩、史裕君と出会うなど、恵まれた環境の中で過ごして全国高校総体にも出場できました。

東海大学体育学部武学科に進学し、故橋本明雄範士、網代忠宏範士などの薫陶をうけて関東学生選手権優勝、全日本学生ベスト八に入賞しました。関西学生選手権では平野君が優勝、全日本学生三位に入賞し、スポーツ新聞にも徳島県出身者が東西学生選手権優勝と話題になりました。卒業を控え郷里に戻ることとも考えましたが、大学の先生からの強い勧めで東海大学付属浦安高校に奉職しました。少年時代を過ごした徳島での経験と、高校、大学で学んだ専門知識を基に指導しています。山田浩史氏（東海大学先輩）をはじめ高体連剣道専門部の先生方には、大会や強化練習などの遠征先で大変お世話になっております。本校は平成七年全国選抜に優勝するなど、全国高校総体を含め通算十一回全国大会に出場しており、今年も全国選抜に千葉県代表として出場します。

これまで恵まれた環境と素晴らしい先生方や剣友に出会うことができ、平成二十五年五月剣道八段を拝受致しました。育てて頂いた郷里徳島県剣道連盟をはじめ、千葉県剣道連盟、学校法人東海大学への恩返しのためにも、これからも師弟同行で精進致します。

す。結びに徳島県剣道連盟の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。



恩師（故）寺西慶裕先生とともに

徳島の剣道万歳！

四国電力剣道部助監督 笹谷 誠志

(香川県高松市在住・富岡西高出身)



私の実家は阿南市上大野町であり、大野小、阿南一中、富岡西高校で剣道に打ち込んだ。それぞれ、西岡侃先生、(故)湯浅良治先生、沢井勝之先生を中心にお世話になり、「剣道は良き師につけ」と言われるなか、最高の先生方から剣道や人生の基本を教わる事ができた。今なお私の人生に剣道があるのは、先生方のおかげであり、感謝してもきれない。

今年で四回目の年男となる私は、慶応義塾大学へ進学後、一般企業で実力を試したい、また地元で働きたいという思いから四国電力に入社した。県内には事業所も多かったため、たまには徳島で働けるだろうと思っていたが、入社後四半世紀を経てもなお徳島勤務はなく、本社のある高松がほとんどであり、自分の見通しの甘さぶりが表れている。

さて、徳島での剣道の思い出は詰まり過ぎていて、簡単に書き切れないが、特に活動の幅が広がった高校時代は充実感いっぱい三年間だった。

中学時代の稽古量は相当のものだったが、県大会では勝ちきれ

なかったところ、高校に入ると幸運なことに一年生から先鋒で起用される機会を得た。当時の三年生には、前年の四国大会で個人準優勝した布川先輩や、今や文理中高で辣腕を振るわれる玉田先輩等があり、稽古は大変厳しかったが試合のときは優しかった。憧れの先輩方とともに戦える喜びは大きく、また都度の励ましにより試合では自分の能力以上のものが出せた。少しはチームの勝利に貢献できたと思うが、県総体では初戦と最終戦で私が星を落とした以外は、誰も負けなしという圧倒的な強さであった。おかげで、それまで四国のレベルさえ知らなかった者が、四国大会やインターハイに出場することができ、その素晴らしい実感したこともあり、先輩に続けとばかりに、その後も高い目標を持って稽古に励むことができた。

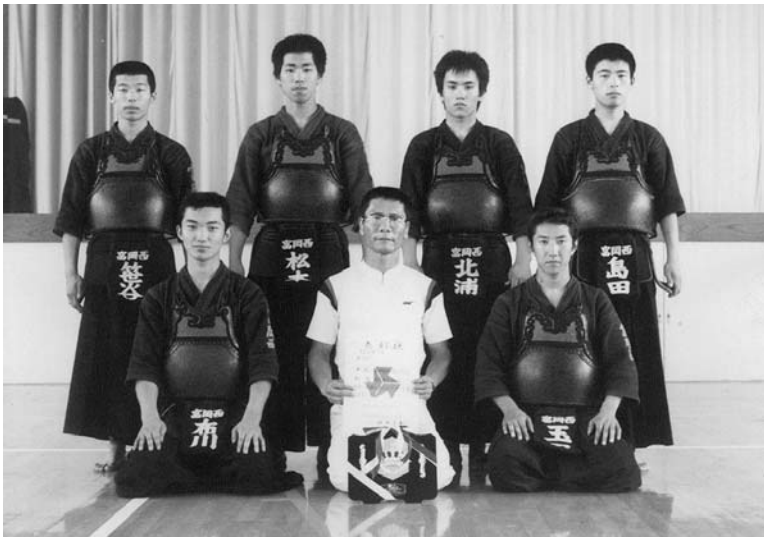
ちなみに沢井先生は「三年の時のインターハイは北海道やけん、しっかり練習して北海道行こ」とよく口にされた。その気になれば稽古を積み、何とか個人で準優勝できたのだが、蓋を開けてみれば開催地は石川県で、何と北海道はその二年後。先生に詰問してもあとの祭りで「すまんすまん、間違うとったなあ」。今ならちょっと調べればわかりそうなものだが、当時はそんなものだった。いやはやスケールの大きな先生である。

こうして高校時代は、インターハイ・国体に各二度出場できたが(国体は少年も各県から出場できる時代)、これらは数々の先輩・先輩方はじめ様々な皆様方にお世話になったおかげである。部員数の少なさに悩まされたときは、松高、富東、阿南工業等へ

何度も出稽古にお伺いし、快く受けていただいた。県外遠征など始どない時代、県内の有力校が集まる合宿も刺激的で、夜には先生も出席する芸能大会があり、仲間意識が強まった。全員の手拍子を受け下手な演歌を歌ったことも思い出深い。また夏の国体強化合宿では、旧徳島武道館二階の古い畳の宿泊室があまりにも蒸し暑くて眠れず、翌日の県警の先生方による地獄の稽古に怯えながら、皆で青少年期ならではの男臭い話に花を咲かせたことも忘れられない。

そんなこんなで、多感な高校時代に夢中になって剣道に取り組んだこととで実に多くの徳島剣道界の方々を知り合い、多くのことを学んだことは、私の大きな財産である。今でもお会いすると気軽に話しかけていただき、勇気元気を与えられる。既に香川での生活の方が長くなり、県剣道連盟の事務局を務めるとともに四電剣道部の活動も忙しいが、故郷徳島の剣道への思いはいささかも冷めることはない。

長らく遠ざかっていたものの、最近少しずつ徳島での剣道に再び触れ始めることができる。「(稽古)



昭和58年6月 県総体団体優勝

しょう、「稽古後の「しんだい」「せこい」が言い合えるのは徳島ならではの。郷愁に浸りながら、懐かしい出会い、新たな出会いがまた自分の人生を豊かにしてくれると思う。徳島の剣道は私にとって過去のものではなく、これからのものでもあり、稽古にお伺いする回数を増やしていきたいと思っている。当面垂れネームは香川ですが、徳島人としてのお付き合いをどうぞよろしくお願いします。



筆者は前列左より2人目

平成二十六年年度 顕彰一覽

剣道有功賞 (全日本剣道連盟)

○ 福井 軍 二 (昭和十四年四月生れ)

昭和四十七年に徳島県立水産高校に赴任し、無名の水産高校剣道部を一躍強豪高校に育て上げた。その後、退職するまで、県下の実業高校で情熱を傾け、優秀な剣士を数多く排出し、高校剣道の発展に大きな足跡を残した。

平成十三年よりは本県剣道連盟新議員として組織の充実と発展に寄与し、後進の指導に心血を注ぎ、本県剣道連盟の発展と剣道普及に多大な貢献をなしている。

少年剣道教育奨励賞 (全日本剣道連盟)

○ 入田 錬成会

昭和五十八年に設立し、三十二年間にわたり、地域に根ざして地道に創意工夫をしながら活動を続け、少年剣士の育成に尽力し、地域の剣道発展に寄与している。

○ 羽ノ浦少年剣道教室

昭和四十七年に設立され、現在まで四十二年間の永きわたり、

活動を継続している。卒業生が中学・高校・大学・社会人として、幅広く活躍しており、剣道の普及発展に寄与している。

体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

○ 丸 岡 偉 人 (昭和二十四年三月生れ)

徳島県剣道連盟の理事として、平成七年より現在に至るまで、剣道の普及発展に尽力し、特に審査担当として、連盟運営に多大な貢献をなしている。また、少年剣道の指導者として、地域の青少年の健全育成に努めている。

徳島県剣道連盟表彰 (徳島県剣道連盟)

○ 長谷川 陽 子

平成十一年より十六年間、徳島県剣道連盟の事務局専従職員と剣道連盟の事務処理を担当し、剣道連盟の円滑な運営に多大な貢献をなしている。

剣道有功賞

剣道有功賞を受賞して

福井 軍二



私はこの度、全日本剣道連盟より身に余る剣道有功賞を戴き、恐悦至極に存じます。これひとえに剣道連盟坂下会長様、近藤理事長様をはじめ、役員の方、学剣連、剣道連盟会員の皆様のご指導と、ご鞭撻の賜物であると深く感謝し心から御礼申し上げます。

戦後すぐ禁止されていた剣道でしたが、木頭村では、昭和二十三年頃から復員された元気な若者が神社の境内などで稽古をされていたようです。その後、木頭会館で稽古をするようになり、私は小学校六年生の頃、父の強い勧めで若者の中に混じって故大澤善二郎先生に剣道の手ほどきを受けました。善二郎先生は古武士の風格を持ち、厳格で優しく、居合、詩吟、剣舞等も修業されており、稽古は、基本と懸かり稽古が中心であったと記憶していません。

昭和二十七年八月、故大澤善二郎先生の招聘により、故尾形郷一先生、故山家雪藏先生ほか数名の高名な先生方が来村せられ、

昇段試験が県下のトップをきって木頭会館で実施されました。その折り私は四級を授与されました。以来六十数年過ぎました。この間多くの先生方先輩のみなさま、同僚や後輩のみなさまと出会い、数々の思い出を残すことができました。

高校では、故山田新六郎先生に師事、二段を取得しました。大（東海大工学部）では、神奈川県警戸塚署剣道師範遠藤忠先生に師事、三段を取得、東京都八王子市の先生の自宅にも伺い、ご指導頂きました。昭和三十九年四月～四十七年三月の八年間、教員として松山市の私立新田高校へ赴任、作道圭二先生、松公明先生にご指導を賜り、昭和四十四年五段に昇段しましたが、稽古に励まず遊興の日々でした。

昭和四十七年四月、徳島県立水産高校へ赴任、日和佐中学校の中山啓男先生と出会い、自分の生き方を修正することができました。日和佐中学校の練習後は先生の自宅へたびたびお邪魔してご指導を賜り、奥様にも大変お世話になりました。中山先生の情熱溢れる熱心なご指導の姿に感動し、また叱咤激励され、剣道を再発見することができました。水産高校在職十一年間で県下の各種大会を一度は制覇することができましたのは、中山先生との出会いがあればこそと今も感謝しています。また水産高校では何かと配慮して下さり、年間三百日以上師弟同行、同汗の修業ができ、有り難い時期でした。昭和五十五年四月、故下村富夫校長が水産高校に赴任され、懇切に剣道のご指導を頂き、五十六年十一月の東京審査で中山啓男先生、高島稔之先生と共に六段に昇段するこ

とができました。

五十八年四月には下村校長先生と共に阿南工業高校に転任し、五年間下村校長先生には剣道と人生観等を教わりました。

昭和六十二年四月に徳島東工業高校に転任、五月の京都審査で高島稔之先生と共に七段に昇段しました。東工業高校では講師を含め十八年間お世話になり、四十一年間の高校教員を終えました。徳島県に赴任して三十三年間は学習指導（電気工学）と剣道部の指導に明け暮れた日々であったと思います。脳裏に浮かぶ思い出は、四十八歳で七段を取得してから、インターハイの審判員として全国各地に行き、決勝審判で強豪高の監督に負けまいと、背に汗を流して有効打突の判定に終始したことや、また徳島県社会人大会で故勝沼信彦先生と大将戦で四度戦ったこと、勝沼先生は試合ごとに中段、上段の二刀を使われ、私は苦戦して四敗しています。勝沼先生のお宅へもお伺いし、時間を忘れて剣道談義、人間力等についてご指導頂きました。

最近特に感じていますことは、科学技術の進歩で物質文明は限りなく発展し、生活は向上し文化的になりました。世界の情勢や日本の社会、人心も随分多様化してきました。世界の情勢が遅れていると危惧しています。日本の伝統文化である武道の発展は「礼儀」であり、「礼」で始まり「礼」で終わる心を、特に将来ある年少者には正しく一人ひとりに丁寧な指導して剣道を探求していくことが肝要であると存じます。ありがとうございました。



戦いの軌跡

今春統合3高校運動部

〈5〉

1936年に県内唯一の水産学校として創設された水産高。大型実習船「阿州丸」に乗り込み、多い時期では年間約200日も遠洋実習に出るなど、全員が集まって練習できる機会に限りがある中、運動部の活動も活発に行われてきた。

県総体6度制す

県総体6度の優勝を誇るのが相撲部。創部時期は定かではないが、友久貞義元教諭(96年死去)が監督に就いた67年ごろから頭角を現し始めたという。当時、同校では各クラスから10人ずつが出て争う校内相撲大会が、学校行事の中でも特に盛り上がりを見せていたそう。純粋に相撲を楽しむ熱中する土壌があったようだ。

初優勝は70年。翌71年

水産

力を含ませてやった。神聖な土俵を土足で入るやつは許せなかった」と懐かしむ。77年に新設された土俵は昨年6月に村上さんらの手で日和佐中に移された。

日和佐中と連携

77年に県総体を制したのが剣道部。当時5段の腕前を持つ福井軍・三元監督が72年に赴任し、部員勧誘から始まり、熱血指導を注いだ成果だった。70年12月に同校に武道場が新設されるなど環境も良かった。福井元監督によると、当時の練習時間には約2時間半。竹刀を振るだけでなく、大浜海岸の砂地での走り込みや薬王寺の階段を上り下りして足腰を鍛えた。

友久元監督とともに相撲部顧問だった粟飯原洋(二元教諭(65年卒))は黄金期を振り返り「しこ、鉄砲など基本を徹底的にやった。みんな自発的に取り組んでいた」。当時を知る同部OBの村上茂樹さん(70年卒)も「土俵の修理もみんな

剣道 熱血指導で強化

県総体を初制覇し、優勝旗を掲げて記念写真に収まる水産高剣道部の選手と福井監督(前列左端) 1977年、同校

に部員とともに赴き、合同練習を実施。親しくなることで、他の剣道強豪校に進学することも可能だった有力選手を水産高にとどまらせた。その時の選手が3年生になったのが77年。杉原、森本、原、井村、白木の5人で臨んだ県総体で初優勝を果たした。

その後、個人戦では何人かの県大会優勝者を出し、団体戦では83年の県新人大会を制した。

福井元監督の指導方針は「剣は語らず」。口で言うだけでなく面を着けて剣を交え、自分の姿で見せることを掛けてきたという。家族と住む



時代築いた相撲部

教員住宅に部員10人を呼んで合宿した。当時を振り返り「生徒とともに泣き、笑った日々が懐かし。水産高の名前が消えるのは寂しい限りです」。

このほか、軟式野球部が63、64年に県春季大会、64年と85年に県秋季大会を制した。また、ただ一人の陸上部員ながら川井賢一監督らの指導で力を伸ばし、2008年インターハイの砲丸投げ、円盤投げに出場した立石岳人は1日に卒業した。 11おわり (運動部・伊藤典文)

参考資料

徳島新聞2009年(平成21年)3月2日(月)記事
当時、徳島工業高校、徳島東工業高校、水産高校3校が統合される時、3高校の運動部の特集として、徳島新聞に掲載されたものです。

少年剣道教育奨励賞

少年剣道教育奨励賞を受賞して

入田錬成会 佐藤 佳宏

この度、このような大変栄誉ある賞を頂き、光栄に思うと同時に徳島県剣道連盟の諸先生方、多数の関係者の皆様方ご指導の賜物と心より感謝を申し上げます。

入田町は、徳島市の西部に位置する人口約一六〇〇人の小さな町です。中学校の部活動では以前から剣道が盛んであり、過去には全国大会にも出場するなど輝かしい実績を誇り、OBも多数在住しているという恵まれた環境の中、昭和五十八年に松村和宏先生、松村明文先生らを中心に入田錬成会が誕生しました。

当初は小学生数名という少人数でのスタートでしたが、次第に人数も増え、一時は五〇名を超す勢いでありました。しかし、最近はその波に押された形で毎年のように部員数が減少し、現在は小学生一〇名、中学生一名の計十一名という少人数で、火曜日と土曜日の週二回、入田中学校体育館にて、約二時間の稽古を行っています。

部員数の減少に伴い、最近はなかなか試合に勝つことも難しくなってきましたが、剣道というものは試合に勝つことだけが目的

ではありません。剣道を通じて心と体を鍛え、入田錬成会の部訓である「交剣知愛」のもと、人を理解し、思いやりの心を持った、礼儀正しい人間に育ってもらえることを願い、日々指導を行っています。

そのような中で、近年指導者として卒業生の若手が数名加わってくれるようになり、時の流れを感じると共にこのような後継者が育ってくれたことを大変うれしく思っています。更にもれからも、どんどんと卒業生が指導者として後輩の指導に携わっていくという、このようなすばらしい流れがいつまでも続いていくことを願っております。

今後は、この賞の重さをしっかりと受け止め、指導者、保護者一丸となり剣道を通じた地域の少年育成の場として、入田錬成会の火を消さないよう頑張っていきたいと考えておりますので、皆様方のご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い致します。





少年剣道教育奨励賞を受賞して

羽ノ浦少年剣道教室 加藤 真悟

この度、羽ノ浦少年剣道教室が全日本剣道連盟より「少年剣道教育奨励賞」をいただきましたが、このような名誉ある賞をいただき、指導者並びに関係者一同、大変感謝しています。

現在の羽ノ浦少年剣道教室は、故山本忠三先生・故竹治歳夫先生・故尾崎行男先生の他、多くの先生方が羽ノ浦小学校体育館を使用し、剣道を通じて青少年の健全育成のため指導されてきたと聞いております。

故尾崎先生が代表指導者の時の昭和四十七年には日本スポーツ少年団にも登録して剣道のみならず他の地域や団体との交流活動も行ってきました。昭和五十六年には第一回羽ノ浦剣道錬成大会を開催、以後、平成十三年の第二十回大会まで毎年行われていました。

代表指導者も、濱田逸郎先生、平正明先生、森眞一先生が歴任されました。平成二十六年から私が代表指導者となりましたが、その年にこのような賞をいただきましたことは、これから教室を運営指導するにあたり大変励みになります。本当にありがたく思っております。

私は小学三年生の時から羽ノ浦少年剣道教室で先生方の指導を受け、中学校・高校・大学と剣道を続けてきました。私が代表指

導者となっているのもこれまで指導をいただきました先生方のおかげだと思っております。

この受賞を機会に、歴代指導された諸先生方に恥じないよう、また、現在剣道の修練に励んでいる教室生が生涯剣道として続けられるように、関係する諸先生方のご指導や保護者の協力もいただきながら頑張らなければいけないと痛感しております。

最後に、この度の受賞に当たりご推薦をいただきました徳島県剣道連盟会長様はじめ諸先生方に心より熱く御礼申し上げます。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。





体育功労賞

体育功労賞を受賞して

丸岡 偉人



この度、徳島県体育協会より、私にとって身に余る体育功労者賞をいただくことになりました。今、思い返してみますと、県剣道連盟の級位から初段までの南部地区審査会の世話を、昭和六十年代から続けてきた事を評価していただいたのかも知れません。清原栄先生や中山啓男先生が担当していたのを引き継いだものですが、私が今まで続けてこられたのは、長きにわたり県剣道連盟の事務を支えてこられ、昨年で退任された長谷川陽子さんに助けていただいたおかげだと思います。ありがとうございました。

この間、剣道連盟の会長も三木只雄先生、堀江幸夫先生、遠藤一美先生、坂下彦之先生と変わりましたが、卓越した人格の先生方と接する機会に恵まれた事は、私が剣道を続けていく上で大きな財産となっております。又、五年前からは徳島県高齢剣友会に入会させていただき、生涯剣道を楽しむ大先輩の見事な竹刀さばきを間近で見て、少しでも近づけるよう努力していきたいと思っ

ております。

所属する海部支部では、昭和五十三年に西山勝喜先生、森本好美先生達を中心に発足した海部川剣道教室の指導者に加えさせていただき、山崎直光先生、佐藤和久先生他、若い先生方と共に子供達の指導に携わっています。県南の僻地で交流の機会に恵まれておりませんが、試合等で見かけましたら声をかけていただき、私共々いろいろとご指導下さいますようお願いいたします。

今回、不肖私を推薦して下さいました徳島県剣道連盟の坂下彦之会長様をはじめ、関係の諸先生の皆様には厚くお礼申し上げます。受賞のお礼と致します。本当にありがとうございました。





海部川剣道教室の子供達と



平成26年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	朝 田 智 輝	阿 南 一
2	西 名 晴 輝	阿 南 一
3	田 上 雄 大	阿 南 一
4	平 田 智 也	阿 南 一
5	木 内 捷 人	阿 南 一
6	服 部 比加留	阿 南 一
7	山 本 晃 大	阿 南 一
8	西 條 賢 太	石 井
9	高 橋 周 平	石 井
10	上 田 瑛 斗	石 井
11	池 田 圭 吾	石 井
12	熊 橋 凌 司	徳 島
13	岡 田 健	徳 島
14	喜 多 佑 輔	徳 島
15	矢 代 宗一郎	徳島文理
16	藤 本 隆	徳島文理
17	金 森 祥 太	徳島文理
18	坂 野 弘 気	北 島
19	小 谷 怜 史	北 島
20	中 村 隼 人	木 頭
21	田 上 将 大	那 賀 川

No.	女 子	学 校 名
1	坪 井 香 歩	那 賀 川
2	西 岡 彩 芽	那 賀 川
3	堀 内 愛 弓	那 賀 川
4	富 田 瑠 莉	鳴 門 一
5	西 角 春 那	鳴 門 一
6	堤 優 香	鳴 門 一
7	山 崎 舞	阿 南 一
8	武 藏 晴 香	阿 南 一
9	中 野 真 緒	阿 南 一
10	猪 口 育 秀	阿 波
11	森 本 夢	阿 波
12	榎 本 優 花	小 松 島
13	片 岡 瑞 季	徳 島
14	生 田 朱 音	城 東
15	行 譜 心 那	北 井 上

平成26年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	中 川 拓 弥	城 北
2	西 條 翔 太	城 北
3	井 形 優	城 北
4	平 尾 秀 典	城 北
5	谷 本 晃 佑	徳島文理
6	上 田 雄 大	徳島文理
7	喜 多 大 樹	徳島文理
8	楠 和 馬	徳島文理
9	後 藤 田 廉	徳島文理
10	藤 坂 直 道	富 西
11	田 中 直 人	富 西
12	野 村 翔 輝	富 西
13	朝 田 大 樹	阿 工
14	大 城 和 哉	阿 工
15	田 邊 翔 磨	阿 工
16	板 東 亮 佑	川 島
17	山 下 裕 生	川 島
18	古 屋 海 歩	徳 北

No.	女 子	学 校 名
1	馬 見 範 子	富 東
2	小 川 桐 花	富 東
3	鳴 川 ちひろ	富 東
4	中 井 優里花	富 東
5	奥 田 紋 子	富 東
6	川 原 眞 実	徳島文理
7	大 嶺 茉利子	徳島文理
8	尾 関 友 衣	川 島
9	江 川 美 郷	富 西
10	美 馬 あかり	城 北
11	藤 井 光 莉	城 北
12	岩 木 里 穂	鳴 門
13	藤 田 侑 伽	鳴 門
14	笠 井 里 奈	鳴 門
15	山 本 あかり	徳 北
16	石 村 静 香	徳 北

先生を偲ぶ

平尾勝美先生を偲ぶ

徳島県剣道連盟副会長 原 田 勝

突然に平尾勝美先生ご他界の連絡を受けた時は衝撃が大きく愕然と致しました。生者必滅、会者定離は世の定めとはいえ二度と会えない別れは誠に限りなく寂しきものです。今は唯々九十二年の長き人生道お疲れ様でした、これからはゆっくりとお休み下さいと思うばかりです。

平尾先生は大正十二年四月五日、鴨島町知恵島にお生まれになり、早くから剣道と居合道に取り組まれました。居合道に於いては昭和十五年ごろより（故）須見善富先生に師事し、無双直傳英信流を学ばれ、長きに渡り剣道、居合道を通じて青少年の健全育成にご尽力なされた業績は多大であり、後世に残るものであります。特に、居合道の発展には真剣に取り組まれ、徳島県の居合が県外行事等に積極的に参加する道筋を創られた先駆者でもありません。その為に先生は全国各地の高名なる先生方を訪ね、ご指導を仰ぎ、それを徳島に持ち帰り、徹心道場の門下生はもとより、県内各地の講習会等を通じて遍く公平に親身になってご指導なされました。また、少年少女の居合については全国に先駆けて取り組

んでおられたと思います。

平尾先生と私のご縁も居合を通じての始まりでその思い出は特に深いものがあります。その頃、私は辺境の地・旧木頭村で剣道と居合を始めておりましたが、師事した先生が剣道は強くなれ、居合は上手くなれ、段位などには必要ないと言うのが持論の先生であり、時の流れなどまったく気にしない先生でありました。その当時、私は剣道に興味を持ち、居合の事はあまり気にはしていませんでした。その為に、全く井の中の蛙状態であり、居合に試合とか講習会がある事など、平尾先生よりお聞きするまで全く知りませんでした。

ある日、平尾先生より「近県で一チーム五段から七段までの三選手による各都道府県対抗の居合の試合があるのだが、五段の選手がいらないので出てくれないか。」と要請された時はまさに寝耳に水でした。私はその頃五段を頂いたばかりの時であったと思いますが、居合の試合など見た事も聞いたことも無かったので、平尾先生に居合の試合はどのようにするものなのかとお尋ねすると、「まず開始線まで出て、最初に神前と刀の礼をして技は何でも良いから五本を抜き、最後に神前と刀の礼をして帰ってこい。」とだけ教わりました。それで五段の選手として出場する事になり、生まれて初めての居合の試合でしたが、四回戦まで残り、平尾先生に褒めて頂いた事は良き思い出として残っております。その時、六段の選手は平尾勝美先生、七段の選手は（故）滝下勝先生でした。



平尾先生と講習会参加



京都大会にて



後進を指導する平尾先生

丁度、連盟からの要請もあり、それを機会に平尾先生と共に居合道の全国講習会、全国大会、近県大会等にはほとんど参加する事になりました。その頃より私の居合道人生が始まりました。今思うと、あの時平尾先生に巡り会わなければ今の私は無かったと思います。私が居合道八段を頂けたのも、範士を授けて頂けたの

も偏に平尾先生のおかげであると深く感謝致しております。これから先生の教えを良く守りながら一人でも多くの居合道人を育成して行くのが私に課せられた使命であると肝に命じ、平尾先生の在りし日を偲びながら謹んでご冥福をお祈り致します。

合掌

平尾勝美先生を偲んで

徹心道場 吉岡修一

平成二十六年十二月二十三日かけがえのない師匠、居合道範士八段・剣道教士七段平尾勝美先生が永眠いたしました。門人弟子一同悲しみにくれております。「栄枯盛衰」「生者必滅」と言われますが、なんと「諸行無常」なのか、来るべき時が来たという思いであります。平尾先生は平成二十年末に脳梗塞で入院、六年間治療リハビリを受けておられました。先生の息子さんから先生の状態が「あまり良くない」と聞いておりましたので、亡くなる十日ぐらい前に入院されている病院へお見舞いに行きました。先生はベッドで横になられ、顔を少し上げ、私を見ておられました。看護師さんの話では「気管に何か入っていたものが取れ、今日は楽になりました。」とのことで先生とは会話はできませんでしたが、私が来ていることは判っていたようです。私からの話ばかりでありました。

集中治療室のようなところであったので、長居はできないと思います。「カゼを引かないようにして下さい。又来ます。」と言いますと不自由な左手を布団から出されたので先生の手を握りしめ、失礼しました。これが最後の別れとなるとは思いませんでした。

先生に剣道の手解きを受け、六十五年又居合道は四十年という長きにわたり、ご指導を賜っており、弟子の中で一番長く教えて

いただいたと思います。

平尾先生は「武士」であり、袴のように折目筋目をきっちりつけ、考え方と行動に風格が備わった師匠であります。教わったことは多々ありますが、その中でも「あたりまえのことがあたりまえにできる人間であれ。」という言葉が心に残っています。剣道も同じですが、特に居合道は大事なことを教わる時は「口伝」であります。文章であらわせないところ、例えば「時間的・距離的な間」「心の動」などは「口伝」でなければ伝えられないということですが、先生から教わっているときは十分理解できませんでしたが、数年数十年するとあの時師匠が言われていたことはこれであったのかということが多くあります。数十年先でわかるようなことをたくさん教わっておけばと悔やまれてなりません。

平尾先生との思い出はたくさんあります。全日本居合道大会（各県持ち回り）、中央地区居合道講習会、各県居合道大会へ毎年十回ぐらい連れて行っていただき、大いに勉強になりました。そのことが今日に生かされております。次に全国審査で居合道六段に合格した時に平尾先生より「明鏡止水」という座右の銘をいただきました。今も心の修業を少しでも平尾先生に近づければと思います。思い出の中で一番は「武道額」の奉納（平成二十二年度『徳島の剣道第二十七号』参照）です。徹心道場創立四十周年を記念して平尾先生の氏神さんであります若宮神社（吉野川市鴨島町知恵島四〇〇）に奉納することが平成二十二年五月に決まりました。額は総ケヤキ作りで、縦九四センチ・横一メートル六七センチ

チで、中央に平尾先生より賜りました桜の木刀大小を掛け、その上に「奉納」の文字を入れ、右より徹心道場創立四十周年記念、無双直伝英信流居合、全日本剣道連盟徳島県徹心道場、師範居合道範士八段・剣道教士七段平尾勝美、木刀の下に門人三十四名の称号段位氏名、門人二七四名、平成二十二年十一月吉日と記し、四十年間の間の門人二七四名の名簿を額の裏面につけました。

平成二十二年十一月十三日(土) 大安吉日午前九時より若宮神社において宮司二人のもと奉納式を行いました。式には平尾先生病氣入院のため、平尾先生のご子息と鴨島少年剣道教室道場長・三木毅先生(若宮神社氏子)、神社総代などの出席を賜りました。神社に玉鋼鍛えし師範の大刀を置き、新酒など供物をし、宮司のもと武道額の除幕、祝詞奏上、道場代表の誓詞拝読、玉串奉典、神酒で乾杯となりました。拝殿前で記念写真を撮り、前座において、四方被い、道場生一同による居合道揃い抜きを行い、武道額奉納式典は終りました。

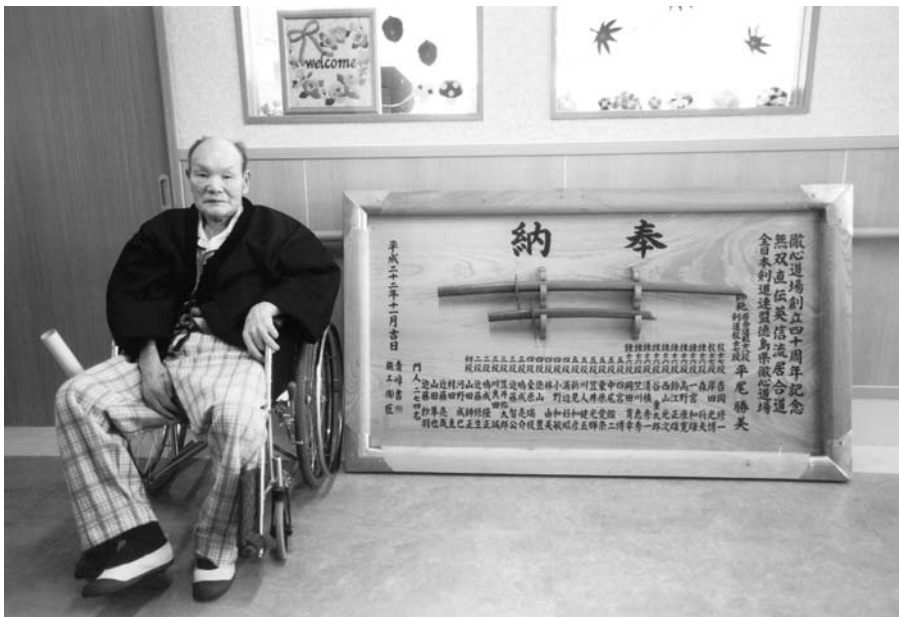
これからも平尾先生よりご指導



居合道六段昇段時に平尾先生よりいただいた座右の銘を額にしました

を賜わったことを守り精進努力いたしますことをお誓い申し上げます。平尾先生のお通夜、告別式に徳島県剣道連盟会長坂下先生はじめ、多数の先生方のご出席を賜りましたことこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

合掌



武道額奉納前日に平尾先生が入院されている病院へ額を持って行き見てもらった時の写真

平尾先生を偲んで

徳島県剣道連盟副会長 三木 毅



平尾勝美先生は居合道範士八段、剣道
教士七段という徳島県有史初の偉大な名
剣士でありました。平成二十六年十二月
二十三日に九十二歳という天寿を全うさ
れました。晩年は入院され病魔と闘いま

した。闘病生活のご様子をご子息加寿夫氏は、「痛い」とか「帰
りたい」など一言の愚痴も口にせず病魔とたたかってきたとい
うのです。若き時から、剣道によって文字通り心身を練磨、鍛練し
強健な精神を身につけられた剣士であったからこそ成し得た生涯
であったと思います。

崇高な精神力を身につけられた平尾先生に敬服し、心からご冥
福をお祈りいたします。

先生のご経歴を顧みますと、平尾先生が生まれ育った地は、鴨
島町知恵島という肥沃な地質が広がる農村地の農家でありました。
少年時代から戦前剣道を身につけられ、昭和十九年に、千葉県の
高射砲学校に入隊され、やがて教官の任についておられ、終戦を
迎えました。復員直後には、小学校の代用教員をされ、その後地
元の消防団役員、保護司、体育協会役員、自治会役員などの要職
に就かれ、一方、剣道の普及発展の任に燃え、県剣道連盟麻植支

部長、剣道連盟理事、副会長を歴任されました。

先生が残された記録では、剣道解禁直後の昭和二十八年には早
くも五段位を取得されており凄腕の剣士であったことを物語って
おります。温厚にして何事にも誠心誠意取り組まれた姿は自然の
内に人徳となり、地元をはじめ剣道界でも慕う者は多く魅力的な
剣道家であったのです。

私が剣道の場面で平尾先生を偲ぶとき、先ず鮮明に蘇ってくる
のは、夜の稽古で家の庭に裸電球を竹竿の先に結び付け、高く差
上げてその光で剣道をした風景であります。そんな時代の剣道
光景を懐かしんでおります。

平尾先生と同じ土地柄の私は、今を去る五十九年前の昭和三十
一年春のこと私の父が言うには「平尾先生が最近剣道をはじめた。
お前も剣道を教えてもらえ」ということで平尾先生の許に連れら
れて行ったのが出会いの最初でありました。

今思えば平尾先生が三十五歳頃の時代であったのです。父は、
間もなく何処からか中古の剣道具と竹刀を手に入れてきて、知恵
島小学校の木造本館二階の講堂で剣道の手ほどきを受けはじめま
した。いつしか子供の仲間が増え、しばらくすると十名ほどの子
供が稽古に参加するようになりました。今思えばこれが少年剣道
教室のはじまりであったと思われれます。大会があるということにな
り、ひたすら先生のいう通りの剣道をしていたということになり
ます。約一年も経たないうちに「剣道が始まると本館が揺れてい
た。講堂床板は割れて使えなくなつた。」と言つのです。

次に稽古場となつたのは、地元若宮神社境内の板間でありまし

た。この神社での稽古も床板が割れ使えなくなったのです。先生が次に考えたのは、稽古している者の各家を廻って家の庭での稽古をする。その意味は各家族が剣道を知ることになり、剣道する者は家族に剣道を見せることが出来るというものであったのです。稽古はすべて夜間であるので、長い竹竿の先に裸電球をくくり付け、高く差しあげて電球の明かりでの稽古が始まったのです。

私は、自分の家での稽古には一段と気合を入れて稽古をして、何時もより苦しい稽古であったことを覚えております。その後のこと、先生方の話を耳にすると「新開地の公民館では、板間に畳を敷き柔道が始まった。その板間の半分で剣道ができるのではないか」ということでした。間もなくのこと、公民館の板間で剣道稽古がはじまりました。

私は、この頃中学校の撓競技部に入学していたので、昼間の部活では教室の机と椅子を片方に積み上げてからの稽古をし、終了後は机椅子を元通りにして稽古の全てを終えるというものでした。そして夜は公民館での稽古に出かけるといって稽古の連続でありました。

平尾先生は稽古の終礼の前によく剣道の話をしてくれました。今もよく覚えていっているのは『気剣体一致』『守破離』『先々の先』『恐懼疑惑』『足の速さ』『連続技』などでありました。今思えばその頃の理解はおぼろげであった記憶であるが、先生が口やかましく言っていたのは「とにかく」をよく使い「とにかく、一生懸命剣道せえ」という言葉でありました。私は、先生の言う一生懸命剣道をしたものでした。また、先生と父に連れられ、市場町

八幡の八幡神社境内での稽古にも出かけていたのです。

私は、阿波高校に進学し、剣道に明け暮れました。その後の進路については何も考えていなかった頃、県警師範の魚澤先生から「警察官になって剣道せえ」と声をかけてくれたことで、平尾先生に報告兼相談をいたしましたところ、「それは剣道が生かされることで、その道へ進むように」と激励をうけました。

昭和三十六年四月に警察官となり、定年まで勤めその間、妻と実子三人が剣道をはじめたことがわが家の宝物となりました。そしてまた、私が少年達に剣道を教える立場となって指導ができて、その子たちの中で、警察官になった者が多くいること、さらには、剣道連盟のお世話役ができたことなど私の人生を顧みるとき、平尾先生から剣道の指導を受けたことがただ一つの原点であることに帰結するのです。

敬服する平尾先生は居合道と剣道という両道に精進され居合道範士八段、剣道教士七段という最高の地位を身に付けられた生涯でありました。居合道にしても剣道にしても両道には頂上が見えない深さと厳しさが存在することは、剣士全てが認識しながら、見えない頂上を目指して修練練磨することは、居合道、剣道もつ深い深い意義があると思うとき、平尾先生は頂上を極めるという目的に向かって、それこそ懸命に精進されたのです。

県下で二人といた偉業を達成された平尾先生が他界されたことは痛惜に堪えません。私はそんな先生に出会えたことに心から感謝の念を強くもってお礼を申し上げる次第であります。

先生ごゆっくりお眠りください。ありがとうございます。

父の思いで

長男 坂本憲一

父は平成二十六年七月三十日の早朝、九十六歳で身罷みまかった。

父との思い出の記憶はいったい何歳位まで遡れるだろうか。

私の額には今も小さな傷跡が残っている。母から聞いた話だが、四歳の時、おやつ片手に喜び勇んで縁側から落ち、庭先の岩に額をぶつけて出来た傷だそうだ。しかし、転落した記憶や痛み、記憶はまったくなく、父が私を抱えて近くの病院へ走る間の感覚だけが記憶として残っている。その感覚はまるで揺り籠の中にいるような不思議なもので、六十三年前の出来事なのに、今も鮮明な記憶として脳裏に焼き付いている。

大学生活で初めて帰郷した夏、少々都会かぶれして背伸びしていた私は、父と口論になり取っ組み合いの喧嘩をした。背は父より高く体力的にも勝っていたはずだが、結局父に組伏せられてしまった。夏が終わり上京、しばらくして母から、父は肋骨を痛めて伏せているという一通の手紙が届いた。

父は欠かさず月に一度、東京での生活を気遣う手紙をくれた。

末尾には必ず軍資金はあるかと書かれていた。私からの用件はいつも電話で済ませていたが、この夏の出来事の後ばかりは封書で父に詫び状を書いた。父が身罷った後、遺品整理のさなか手文庫の中にその手紙を見つけた。封筒の表には「息子がくれた唯一の

手紙」と添え書きが残されていた。

父は家業の傍ら剣道を趣味として生きた。長年、阿波支部長や剣道教室の室長を努め、剣道を通じて子供たちを育てることに生き甲斐を感じ、郷土史や武道史の研究にも余念がなかった。脳梗塞で倒れた時は九十歳、母校の川島高校（旧麻植中学校）で早朝稽古の指導中だった。以後、闘病生活に入ったが、回復の兆しはなかで、どうしても書き残した原稿があってそれを仕上げたいという一念から、私が随行し向麻山へ登った。自力で階段を登ることが出来ず、私が支えてようやく目的地の穴戸神社へたどり着いた。それ以後の父は、よりリハビリに力が入り、さらなる回復をみせて担当医を驚かせた。病床で仕上げた原稿は『徳島の剣道』第二十九号に「鴻山の穴戸神社」として掲載されている。

徳島城博物館開催の特別展「蜂須賀三代 正勝・家政・至鎮二十五万石の礎」へも出かけた。担当の学芸員が、長時間にわたり列品解説してくれたことを子供のように喜んだ。

私は小・中学校と父から剣道を仕込まれた。遊びたい、テレビを見たいと思いつながら稽古で、父に反発してついに高校入学の時点で剣道をやめてしまった。その時の父の心情は知る由もなかった。

社会人になってから居合道を始めた。県下の大会で初段の部で優勝した時の事だった。当時、居合道部長をされていた下村富雄先生が「おやじが事のほか喜んでいるぞ」と賞状授与の際、そと耳打ちされた。後で知らされたことだが、身近な剣道仲間には、

息子が中学校で剣道をやめてしまったことを随分と嘆いていたが、私には一言も苦言を呈することはなかった。

今、居合道をはじめた動機はと聞かれれば、動機は種々あるものの、私は父に対する恩返しという言葉のためらうことなく選ぶだろう。



4歳の筆者



市場剣道教室長時代の父坂本裕二 生徒たちと 平成元年 70歳



向麻山「穴戸神社」探訪 平成22年 春 91歳



徳島城博物館の特別展見学 平成22年 秋 92歳

坂本裕二先生の情熱

徳島県剣道連盟副会長 三木 毅



平成二十六年七月三十日、坂本裕二先生は九十六歳で天に召されました。心から御冥福をお祈りいたします。

坂本先生のお人柄を偲ぶとき、先ずは剣道をこよなく愛され、そして剣道を後世に伝承しておかなければならないこと、更にはその伝承には剣道の歴史を含めておかなければならないことに心底からの情熱を傾けられ、さまざまな活動を推進されてきたことが脳裏をします。

坂本先生と私の出会いを指折り数えて振り返りますと、それは今を去る五十八年前の昭和三十一年であり、坂本先生が三十七歳という時代のことになります。私は中学二年生から撓競技部に入部しましたが、夜は平尾勝美先生のもとで剣道を始めた頃のことでありました。私は父虎雄が運転する自転車の荷台に乗せられ、市場町八幡神社の境内での剣道稽古に通いました。その際、先生方に掛かっていた時に坂本先生との出会いがあったのです。阿波高校に進んだ後も再々八幡神社境内での稽古に参加しており、若き頃の坂本先生に稽古をお願いいたしました。

私はその後、警察官になり、二十二歳まで特錬生をやっており、

坂本先生との剣道接点をもっておりましたが、特錬生を降りてからは刑事警察官となったため、多忙を理由に疎遠となってしまいました。

私が六十歳に退職した年のこと、剣道連盟の理事長役をお受けした時から坂本先生との接点が深まることとなりました。

理事長になって間もなくのこと、坂本先生から「家に立ち寄って欲しい」との連絡があり早々にお邪魔をいたしました。先生は私に大きく二つのことを言うのです。一つには「理事長になってよかった。実は、堀江先生ほかの先生と『徳島の剣道史』の編纂を進めている。子供の頃から気心がわかっていられるお前が理事長になったのは好都合じゃ。これから編纂を手伝ってくれ」というものでした。また、二つ目は、川島高校剣道部のOB会々長としての立場から「川島高校での稽古に参加するように」ということでありました。先生自身は朝稽古に出られ、剣道実技面でも非常に熱心でありました。

一方、剣道の歴史書を編纂しようということは初耳なことありました。前職時代に書籍作成の経験がありましたので、大変な作業であると直感したもののその内容は全くの無知でありました。編集委員長は高下先生、委員には堀江先生、坂本先生が名を連ねておられ、坂本先生とお会いするのを重ねるうちにその全貌がおぼろげに理解しその重要さや深さを知ることになりました。

坂本先生が担当するのは、藩政時代の剣道史で、明治以降は堀江先生が担当するというものでありました。剣道史編纂会議を数

回開催しながら先生との事務連絡を重ねるうちに、先生が解き明かした剣道史への信念の強さと解き明かしたい真実性の証明に對する姿勢を感じずようになりました。すなわち先生が後世に伝えたい剣道史を文字化するには明快な証拠資料に基づくべきであるというものであります。

例えば、明治以前の時代に、高名な剣士が存在していた場合、その人物像や業績の内容、その周辺事情など、解き明かさなければならぬことは想像を絶する膨大な調査をしなければならぬのです。一人の剣士を採訪するのにどれほどの時間と労力が必要かはやってみなければわからない世界に入らなければなりません。坂本先生はその作業を精魂込めて実践しており、その姿に接する度に敬服の念をもっておりました。

私は、堀江先生がご健在な時分に堀江先生の担当分の一部である、県下の各支部の沿革を担当することにしており、堀江先生と坂本先生からそれぞれ関係資料を預かり文字化する作業を進めておりました。

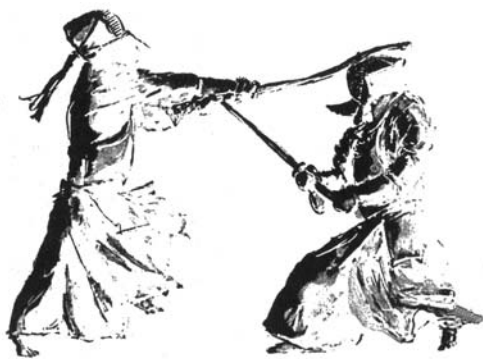
歴史探訪は先に述べたように一步一步の歩みの速度はやってみないと測れない速度なのである。その速度を阻害する大きな要因は、昭和二十年の敗戦にあるのです。それは進駐軍総司令部の命令による、武徳会の解散と関係書類の焼却処分であり、関係資料が消失しているからなのです。しかし剣道史を完成させるには、あらゆる困難を克服するしか道はありません。坂本先生はこれまでに図りしれない時間をかけて、丹念に資料収集をされ蓄積され

た資料の整理をされその一部を『徳島の剣道』に連載されておられます。先生が綴った一文字一文字は先生の信念の表れと受け止めなければなりません。

堀江先生、高下先生が他界され、情熱の塊であった坂本先生が天に召された今、私どもは先生のご意向を全身で受け止め、何としても編纂の実を結実させ、坂本先生、堀江先生、高下先生の墓前にご報告しなければなりません。

後に続く者として、剣道連盟の諸氏から絶大なご協力が得られますよう熱望し、坂本先生に敬服、感謝の念をもってご冥福を祈念いたします。

先生ごゆっくりお眠りください。ありがとうございました。



人生の師 坂本裕二先生を偲ぶ

阿波支部 一村昌和

昭和五十一年に地元の高校に新任教員として赴任した。これを契機に坂本先生からお誘いをいただき、市場剣道教室と剣道連盟阿波支部の運営等に関わることになる。剣道教室や支部行事を通じて指導をうけ、多くのことを学ぶことができ、教員生活の中で大いに役立つ経験ができた。

昭和五十年代の初め、県下各地で少年剣士を育成する剣道教室が設立されてきており、市場町においても坂本先生を中心として剣道教室の立ち上げの気運が高まっていた。その年の四月より十月の発足までに検討が重ねられ、初代室長に坂本先生が就任することになった。

坂本先生の剣道に寄せる思いが剣道教室の名称にもよく現れている。「少年」を冠したものが多く見受けられる中、あえて「市場剣道教室」という名称に決めた。規約第四条の入室に関する事項には、「この教室の趣旨に賛同し、入室を希望する者は老若男女を問わず参加できる」と記し、門戸を幅広く開けたものとした。小学校を卒業しても中学生、高校生、大学生、一般社会人と剣道教室に所属し続けてもらいたいという願いをが込められていたし、子供だけでなく保護者の参加を容易にする深慮が窺える。意を介してか発足当時は、剣技の向上を目指す人、健康の増進をかねて

動く打ち込み台として初心者の指導に協力してくれる人等、保護者の積極的参加が得られた。ただ無理をしてアキレス腱を切断したり、足腰に異常を訴える人もいた。子供以上に準備運動や稽古の仕方にもっと配慮すべきであった。

昭和六十年に念願の市場町武道館が竣工した。「誓いのことば」を制定し、側面に大書した板額を取り付けた。稽古の前に高学年生の中から代表を選び先達を務めさせ、その後を全員で大きな声で復唱させた。

「誓いのことば わたし達は、真剣に正しい剣道を学び、強い心やからだをつくると共に常に礼儀を正しくし、友愛・協同の精神を忘れず、たくましく前進することを誓います」腹から出す発声により剣道を学ぶ意味を明確にし、稽古に取り組む決意を表明させた。代表者は復唱する人数に負けない声を出させ、人前で自己表現の機会を与えた。

坂本先生は定例の稽古のほかにも多くの行事を発案し、実施してきた。稽古による剣技の向上を図るのみに偏ることなく、剣道を通じた楽しみや生徒・保護者・指導者との相互理解の場を設けるとともに地域社会に剣道教室の活動をアピールすることができた。

○市場町民体育祭での野試合

市場町民がこぞって地区対抗での競技が展開される町民体育祭に特別参加した。会場の市場中学校グラウンドは太平洋戦争末期に徳島海軍航空隊第二基地として設置された市場飛行場跡で広大で

ある。昭和五十年代後半には小学生六十名、中学生二十名、保護者・指導者二十名、約百名の大所帯であった。紅軍・白軍に編成し、東門より旗指物を先頭に学年順で総大将をしんがりに法螺貝ほらがいと太鼓の鳴り響く中を堂々の姿で入場した。中央部で対面し、相互の礼を済ませ後方に下がり陣立てを行う。剣道具を着装し、小手・胴・面にゴム風船をつけ、白兵戦よろしく相手の風船を割り合う。総大将には、紅白のたすきを掛け、皆より多くの風船をつける。着けていた風船をすべて割られると負けでその場に蹲踞し、その後後方に下がる。

第一陣は小学生同士、二陣は中学生、最後は風船の残った者と保護者・指導者の総掛かりを行う。総大将の風船が前部割られれば負けとなる。決着がつかなければ残った風船の数で勝敗を決する。広いグラウンドを駆け巡り、一対一の戦いだけでなく、時には集団で攻撃される。逃げ惑う者もいれば、敵陣深く斬り込む者や勇猛に多くの敵を打ち破る者もいる。多くの町民に剣道のおもしろさを発信することができた。

○高越少年自然の家での一泊研修と高越山登山

先生が室長在任中は、春休みの土日を利用して「おこうつつあん」での一泊研修を行うのが恒例であった。朝、武道館に集合し、昼前に少年自然の家に到着。昼食をすませ、入所行事を行いその後、昼と夜の稽古を行う。翌朝、少年自然の家から西に下り、獣道に近い山道を高越寺のある山頂を目指す。先頭は先生である。高越山の麓の山川町で生まれ育った先生にとっては庭みたいなも

のであるという。六十歳をすでに超えているにも関わらず軽やかに胸突きの坂を上っていく。這々の体で保護者や若い指導者が殿しんがりを勤める。高越寺を参拝し、そこで休憩をする。帰路は、ほどよく整備されている山道で途中、船窪のツツジ公園、放牧場を見ながらゆっくり下ってこれる。我々にとっては子供以上に苦行の研修であり、先生の体力・気力には感心する行事であった。

○香川県白鳥町での合宿と地元少年剣道教室との交流

阿波と讃岐の剣道交流の一環として夏休みを利用して合宿を行った。地元少年剣士との合同稽古のほか、室内プールでの水泳、松林・砂浜の散策等、生徒・保護者・指導者が一緒に楽しめた。

○寒稽古

正月三日が終わると早朝の寒稽古が始まる。寒稽古は、朝六時から七時までの一時間であるが、先生はいつも五時三十分には来ており、準備運動をかねて元気に子供達と道場を駆け足で周回していた。夜明け前の気温は、肌を刺し、足の指の感覚がなくなるほどの寒さである。体が少し温もり、外がようやく明るくなる頃に稽古は終わる。この寒稽古で一番きつい稽古をしているのは、送迎と見学をしている保護者であったと思う。先生はよく「子供より親の教育をせなならん」といつていたが、正にこのことだったのであろうか。これらの諸行事は、先生が室長を後進に譲ってから諸般の事情により行われていない。

しかし、先生の不断の努力により七十年近く継続している県下に誇れる行事がある。それは、昭和二十二年から途切れることな

く実施されている春と秋の彼岸の中日稽古である。「春分の日」に行われる春季錬成会と「秋分の日」に行われる秋季錬成会である。

敗戦直後の昭和二十一年、GHQ指令による大日本武徳会の解散、同阿波支部の消滅、学校剣道の全面禁止、一般人の剣道制限がなされた。昭和二十二年、敗戦による虚無感が色濃く残り、剣道荒廃の危機のなか、後に阿波支部長になる笠井求二先生を中心に八幡神社の拝殿を道場として「八幡社道場」を開設した。県下で一番早く剣道の復興がなされたので、近在の剣道愛好家が集まり盛んに稽古をしたという。子息の憲一氏の後日談によると「住居が神社の隣の隣であり、熱心に剣道をしていたため、父はよく警察の事情聴取を受けた」という。当時は、禁止令のなかで占領軍政策に沿ったやむ得ない仕儀であったのであろう。しかし、原士の里・阿北の地で培われた尚武の精神と日本民族の誇りをかけた反骨精神の戦いとして剣道の復興に勇気を持って立ち上がったのではなからうか。

彼岸の中日稽古は、日頃の稽古のほか、彼岸の中日は紋日といわれる休日であり、県下の有名な剣士も参加して盛大に行われたことに発している。昭和三十五年からは、道場の責任者となる。その後、昭和四十六年によく稽古していた八幡中学校が市場中学校に統合し、また拝殿の床板の損傷が激しくなり危険になったため、やむなく昭和五十年に閉鎖した。この錬成会は、市場中学校体育館、市場町武道館、市場町ふれあいセンターにおいて発展的

に継続されている。

また、平成十五年五月に先生を発起の中心として八幡神社奉納剣道大会が開催された。近在の小・中学生を集め、かつて行われていた拝殿でなく、境内の地面での剣道大会である。戦後の剣道復興の原点として八幡神社に再び竹刀の打ち合う音と子供達の元気なかけ声が響き渡ることになる。今年は、先生の追悼大会として盛大に実施されることになるであろう。

先生が目指す剣道教室は、生徒・保護者・指導者が共に剣道を通じて人生を豊かにし、教える者と学ぶ者が共に成長してゆく「教学相長」の精神を第一義においていたように思う。故きを守り、新しきを育てることを大事にし、季節の移ろいを生かした行事を取り入れ、三者が協力し合い、楽しみながら心と体を鍛える教室運営であった。

剣道の上手な子供に目を向けて、強くなる剣道や試合に勝つ剣道でなく、多様な子供に対して、またその保護者の切実な思いや願いを受けて育てる剣道や続ける剣道に重点を置いていた。

剣道教室の運営は、保護者や指導者相互の思い・意見の集約が必要である。先生は、武道家によくみられる強制力を前面に出す武断的な対応でなく、説得力のある柔かな文治的対応とともに忍耐強く意見を聞く努力をしながら牽引していたことも思い出される。

私の剣道七段昇段記念に「射石飲羽」、居合道六段昇段記念に「勇猛精進」を揮毫した手拭いを手渡した。先生は、大いに喜び、

入所している部屋の壁に飾ってくれた。特に先生は「精進」という詞が好きであり、当に人生においてそれを実践し続けてこられたのである。

同年に亡くなった俳優の高倉健の座右の銘、「往く道は精進にして、忍びて終わり悔いなし」が重複して記憶に残っている。

先生は武事と共に文事に明るくいつもお伺いすると文机に郷土史や武道史の資料を広げ研究の成果をさらさらと筆を進めておられた。それに引き替え私は、この原稿をまとめるに当たって「精進」とは正反対の筆「無精」で多くの時間を要した。「何をしているのか、一村」と一喝、鬼籍の先生からのお叱りを甘んじてうけたいと思う。これからも、先生の行動力を見習って剣道と居合道に精進していきたい。



有賀秀敏先生を偲んで

阿南支部 西 岡 侃

徳島県剣道連盟監事、徳島県高齢剣友会副会長であります有賀秀敏先生が、平成二十七年一月二日早朝病院にてご逝去されましたとの訃報が電話であり、驚きました。

昨年暮れに倒れ、入院されたとのことで、お見舞に参りましたが面会謝絶でありました。心配はしておりましたが、数日でお亡くなりになるとは、生者必滅はこの世の定めとの諺があります。信じられない気持ちで茫然としているばかりでした。一月五日に自宅にて告別式が行われました。徳島県剣道連盟会長の坂下彦之先生はじめ多くの諸先生方が、焼香においてなられ、有賀先生とのお別れをして下さいました。

有賀先生は、昭和二十六年頃高等学校二年の時、第二次世界大戦にて有賀家が息子さんを失い、跡継ぎがいなくなったため、ご親族の新野町の篠原家より中大野町の有賀家へ養子にいられました。ご両親のご面倒を立派にみられ、親孝行をされております。

昭和二十六年頃、今は亡き範士七段清原栄先生と現在もお元氣な元徳島県剣道連盟会長で元徳島県議会議員議長も就任された教士七段遠藤一美先生のお二人が中心になって大野武道同志会が結成されました。昭和二十八年頃、青少年健全育成で同志会に入会の誘いがあり、その時入会したのが私と有賀先生との剣の道の出

合いの始まりです。有賀先生は熱心で当初から剣の道で心を磨く構えが出来ていたように感じました。当時は大野公民館が練習の主会場でありましたが、先生は何時も誰よりも早く来て、床の掃除等準備をされていました。その後、昭和四十年頃から剣道による人間育成の気運が広がり、少年剣道教室の開設、中学、高校の部活動に剣道が取り入れられ、清原先生、遠藤先生は指導に忙しくなりました。その時、我が子の関係で私は大野小学校剣道部、有賀先生は阿南少年剣道教室の指導責任者として携わることになりました。少年剣道大会が各地区で行われて、参加、終了後二人で反省会と言って盃を交わしながら、剣道の指導方針について話し合い、友情を深めました。

また、礼儀正しさ、特に師への礼の精神が先生の身体に染み込んでいることがよく解りました。特に清原先生は道場へおいでるのに、車の運転が出来ないので何時も有賀先生が送迎され、先生がお仕事の都合で運転出来ないときは、奥様の文子さんが代わって送迎され、清原先生のご家族のお世話もされていました。それも一〜二年ではありません、およそ二十年は余るでしょう。余程強い精神力がないと出来ないことです。

さらに、剣道連盟阿南支部の運営についても若いときから支部役員をなさり、事務局長、支部長を共に十年余りなさり、老後は、徳島県高齢剣友会理事長から副会長を就任され、小さな大会の式次第やオーダー表を事務局より持ち帰り、「習字の練習じゃ」と言って毛筆で書いて掲示物の準備をされていました。剣の道を学

ぶ者の心構えのお手本でありました。

剣技については、高齢剣友会の練習日は必ずと言っていい程、松茂の武道館迄参加していました。どっしりとした構えで余り小細工はせず、相手の動きをよく見て、出ばな小手を打突するのが特技で、面打ちは遠い間合いから、大きく振り被っての打突が、有効打突になっています。試合は粘り強く相手をいらだてます。高齢剣友会の交流大会でも、個人戦、団体戦等でよく優勝し、好成績を残されています。土佐生涯剣友会との交流で高知県へ遠征されるし、毎年五月に東京の日本武道館で行われる全国高齢者武道大会にも参加されています。平成十八年の大会では、A組（六十四名）予選リーグを勝ち抜け、決勝トーナメント四回戦まで勝ち上がり、準決勝でA組で優勝した相手に惜しくも一本負けで、第三位となる好成績を納めています。その上に全国福祉祭のねんりんピックにも、徳島県代表で福岡県、石川県等へ五、六回は出場し活躍されています。

剣道を学びながら社会人としての活躍は、神社総代長、中大野町協議会長等大きな役職を経験し、特に中大野町協議会長時代では、阿南市市議会議員の改選期の選挙があり、中大野町から出馬している現職の候補者を高得票で当選させる等、大仕事をなしてあげています。有賀先生は地区の住民から尊敬され、剣を学んでいる者の良きお手本であります。私達も剣道を学びながら、剣の理法の修練によって自己を磨き、社会のために貢献しなければなりません。有賀先生にまだまだ教えて戴きたいことがあるのに、急

にお亡くなりになるとは心残りが多過ぎます。しかし、いくら残念に思ってもお帰りにはなりません。ここで先生のご冥福と、ご遺族のご清栄を心からお祈り致しまして、粗文ですが、偲ぶの言葉に返させて戴きます。

合掌



団体戦 優勝 阿南支部 先鋒 西岡 侃 (筆者・写真左)
 中堅 有賀秀敏 (個人戦でも優勝・写真右)
 大将 浜田逸郎 (当時の剣友会会長・写真中央)

有賀秀敏先生を偲んで!!

阿南支部 中西 実

私が、剣道を始めたのは、小学校四年生の時です。落ち着きもなく、やんちゃだった私に何かさせた方がいいのではと母は思い、それが剣道だったそうです。入部したのは、(故)清原栄先生が教室長の阿南少年剣道教室でした。当時セイドー百貨店の裏にあった道場(現在は阿南武道館)で週三回稽古をしていました。それが、私の剣道人生の始まりです。その教室の中で指導者の一人が有賀秀敏先生です。それが、私と有賀先生との初めての出会いです。

有賀先生は、剣道がある日は、清原先生の自宅まで迎えに行き、いつも一緒に早くから道場に来ていました。いつもすごいなと思っていたのを思い出します。この道場で私もよき先生方や同級生にも恵まれ、中学校、高校と剣道をつづけてこれたのだと思います。高校を卒業して二十歳まで剣道を続けていましたが、仕事に追われ、結婚もして、子供中心の日々を過して参りました。

剣道の再開のきっかけは、平成十四年の冬に阿南に帰って来たことです。平成十五年正月に、徳島県剣道連盟名誉会長である遠藤一美先生の自宅にあいさつにいった時の先生のひとことで、小学校でお世話になった阿南少年剣道教室での子供達の指導をするようになりました。十七年ぶりに、今後は、有賀先生の教室で子

供達の指導のお手伝いをするようになり、第二の人生が始まりました。

このころは、阿南少年剣道教室の子供達の人数は四十人位いたのに、有賀先生は、よく昔は、五十人、六十人ぐらい一人でよく指導をしていたと聞き、この人は「すごいなあ」と思い、もつとすごい事は、いつも元気に休むことなく、週三回だれよりも早く道場に来ていて、有賀先生は「怪物やなあ」とすごく思った記憶があります。最初は仕事のストレス解消にちょうどいいと、軽い気持ちで取り組んでいたのですが、ある時、須藤支部長(現在)に、「いろいろあると思うけど、三年間必死にがんばって指導をしていたら有賀先生もまず一步、一步と指導者として認めていってくれるよ。」と言われ、この言葉で指導者としてこの半年間何も目標をもたず、ただ時間だけが過ぎていったことを反省し、まず道場はだれよりもできるだけ早く来て、あいさつもだれよりも大きな声をだし、指導者も必死になって取り組んでいたら、自然と剣道に対する取組みが少しずつ変わってきました。

四年目ぐらいになったころ、ある日道場で有賀先生に「中西もやっとな指導者らしくなってきたなあ」と言ってくれた時は、すごく、すごく嬉しかったのを今でも昨日のように覚えています。平成二十四年には、全国スポーツ少年団剣道交流会大会の徳島県の監督をさせていただいた時も有賀先生ががんばって剣道を子供達に指導をしていたら「ごほうびがついてくるから」と言ってくれました。そして「全国大会がんばってこいよ」と言ってくれ十年

間頑張ってきてよかつと素直にうれしさがこみ上げてきました。

このころから、よく有賀先生の自宅におじゃまして、色々と剣道の指導の事や、仕事の事など、よく、よきアドバイスをさせていただきました。有賀先生は私の剣道の父でありました。ある日の朝、有賀先生から電話をいただき、お前にみせたいものがあるといい、自宅に行くと、家の前の山へと二人で十五分ぐらい歩いていくと、タヌキの赤ちゃんがおり、有賀先生はニコニコして、「この前生まれただけで、お前に見せたらうと思っとったんよ。」と子供のように、おっしゃっていたのを今はすごく懐かしく思い出します。

平成二十五年冬に有賀先生は風邪をこじらせ、先生も楽しみにしていた、阿南少年剣道教室創立四十周年記念大会も体調を崩され、出席されませんでした。非常に残念でした。去年十一月の清原大会には、顔を出していただき、春からまた道場に行くからと言っていたので安心していましたが、十二月に有賀先生のお宅に行った時、奥様から正月越せるかどうかと聞き、びっくりして「なんで」とすごく悲しく思いました。

十二月二十三日新野大会終了後、阿南少年剣道教室の指導者（同級生）の榊山先生、阿南少剣OBの田上先生、阿南少剣OGの山崎先生と病院にお見舞いにいきました。もう面会謝絶だったのですが、奥様のはからいで有賀先生にお会いでき、少しですがお話をさせていただき、お顔を見てみると涙があふれてきました。これが有賀先生との最後の会話となり、この阿南少年剣道教室の

指導者として十二年間が走馬灯のように色々な事が思い浮かびました。

ただこれから私の役目は、有賀先生からの教訓を思い出し、剣道修養や社会生活に生かしていきたいと思えます。そして阿南少年剣道教室をますますもりあげて須藤先生を中心に指導者一同がんばっていききたいと思えます。また自分自身も四年後七段昇段をめざし、有賀先生の真っ直ぐで、正直で、真面目で常に一筋だった有賀先生の教えを心の中に思い、第三の剣道人生をスタートさせていきたいと思えます。最後に本当に今までありがとうございます。今後も天国から私達を見守っていてください。よろしくお願ひします。

合掌



有賀先生を偲んで

阿南支部 横手裕一



「ヤー、メン！」この声に導かれて、私の剣道人生が始まりました。小学校一年生から、剣道を始め、約二十五年間続けてきました。何度も「やめたい！逃げたい！」と思うこともありましたが、その

時にいつも励ましの言葉を私にかけてくれたのは、有賀先生でした。有賀先生、「ありがとうございます。先生がいてくださったから、今の自分がいます。阿南少年剣道教室で、先生と出会い、剣道を通してたくさんの方を教えることができました。感謝の気持ちを込めて次のことを後輩に伝えます。

一つ目にあいさつをする事の大切さを学んだこと。道場に入る時に、小学生の頃の私は、いつも礼をするのを忘れていました。有賀先生、毎回怒られていたのを思い出します。「剣道は、試合の勝敗よりも、もっと大切なものがある。『礼に始まり礼で終わる。』と言うように、道場を使わせてもらってありがとうございます！という感謝の気持ちをもたなければいけない。」そうおっしゃいましたよね。それからの私は、道場の出入りの際、礼をするのを忘れたことはありません。自然と感謝の気持ちを持ち、剣道ができる喜びを感じることができました。

二つ目に、練習をやり続ける事の大切さを学んだこと。素振り、足さばき、剣道に対しての心構えを教えてくださいました。素振りは、一本一本、大切にすること。右手はそえて、左手を使う。基本打ちをするにあたって、素振りが一番大切であることを教わりました。子どもの頃、無我夢中で素振りをしていたのを思い出します。次に足さばきの重要さです。有賀先生は、よく袴を持ち上げて、足さばきの運び方を見せられました。その姿は、一生忘れることがないでしょう。長い年月をかけて練習し、足さばきが上達した時、先生から「上手になったね。」と声をかけていただきました。嬉しくて嬉しくて、父や母によく自慢したものです。そして、剣道に対しての心構え。試合に負けた時、どう思うのか、次にどうしたらいいのか。勝つためには、自分は何をしなければいけないのか。このことを常に考えることが大事だと教わりました。

現在私は、毎週金曜日、阿南少年剣道教室で子どもたちに、剣道の指導をしています。有賀先生が、私の背中を押してくれた。そして、チャンスをあたえてくれたんだと思います。子どもたちに、上手くなってほしい。強くなってほしい。この願いは強く持っています。それ以上に、剣道の楽しさを味わい、仲間と共に頂点を目指し、成功した時には、みんなで喜び合い、失敗した時には、みんなで泣きまくる。剣道を通して、生きていく力を身につけ、何事にも負けない強い心を持つそんな子どもたちを育てていきたいと思えます。それが、私の使命であり、阿南少年剣道教室を支えてきた有賀先生への恩返しだと思います本当にありがとうございます。いつまでも見守っていてください。

お世話になった有賀先生へ

阿南支部 山崎砂織

有賀先生に初めてお会いしたのは、私が小学四年生の頃でした。剣道を見たのも初めてで、体育館（その当時は富岡小学校の体育館で稽古をしていた）の中に入って私が何も分からずキョロキョロしていた時に最初に声をかけてくださったのが有賀先生でした。背筋がピンと伸びていて笑顔で「剣道見に来られたんで？」と、すごく緊張していた私ですが、有賀先生の笑顔で緊張がほぐれた事を思い出します。

小学四・五・六年と三年間お世話になり、私が小学校六年生の時に出場した新野大会の女子団体が初優勝し、試合後の記念撮影でも、出会ったときと同じいもの優しい笑顔でした。また、出場が百チーム余りあった、高知での大会で準決勝まで進むことができたのも、ここぞという時の適切なアドバイスのおかげだったと思います。

その後も私は剣道を続け、一般の稽古に参加するようになり、小学校以来、久しくお会いしていなかった有賀先生の姿を拝見し、以前のままの若々しく稽古に取り組む様子が懐かしくまた、頼もしく映りました。

私の長女も剣道を始め、色々と悩んで、小学校三年生の途中から阿南少年剣道教室でお世話になるようになりまして、有賀先生

から言われた言葉が「剣道はどこでも一緒また、一緒ががんばろう！」と言っていたいた時はうれしさのあまり涙が出ました。

親子ともども稽古に打ち込み、長女も基本から教えていただき、小学校六年の時には、坂野大会の初優勝を皮切りに、ライオンズ大会優勝、念願だった私も優勝できた新野大会女子団体でも長女も優勝をすることができ、長女も結果を出せる剣道が出来るようになりました。

それから有賀先生には、子どもの剣道はもちろん、私の指導者としての考え方や、教え方を指導していただき、親子ともども先生の教えを引き継ぎ、後進の指導に勤めていくことが、先生への恩返しと考えて剣道に取り組んでまいります。





平成23年度 阿南少年剣道教室 2012. 3. 2



全国講習会報告

第四九回剣道中央講習会（西日本）報告

教士七段 美馬 勝行
教士七段 柴田 宗忠

日時 平成二六年四月五日～六日

場所 神戸市立中央体育館

役員 全日本剣道連盟

会長 張富士夫 副会長 松永政美

専務理事 福永修二

講師 剣道範士

鈴木 康 島野泰山 作道正夫

受講生 五七名

受講資格 剣道教士七段以上

年齢四八歳以上六五歳以下

日程 一日目

指導法（作道講師）、救急法、稽古会

二日目

日本剣道形（鈴木講師）、審判法（島野講師）

指導法（作道講師）

《指導目的》

わが国の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承してその発展を図り、「剣道の理念」に基づいた高い水準の剣道を目指す。

《技能の指導目標》

指導対象者の個性に着目した指導展開を図る。

・初心者 — 礼法・基本動作の習得を図る。

・初級者 — しかけ技を中心に気剣体一致した技能の向上を図る。

・中級者 — しかけ技の鍛錬度を高めるとともに応じ技を中心に懸待一致した技能の向上を図る。

・上級者 — 理合に基づいた総合的な心気力一致した技能の向上を図る

Ⅰ 指導重点

高い水準の剣道を目指すために次の内容を踏まえた指導法の普及を推進する。

一 受講生の特性に応じて効果的に指導する。

二 所作、礼法、着装について徹底指導する。

三 刃筋・手の内・沓え・鎧を意識した竹刀の操作について指導する。

四 一足一刀の間合いから、一拍子で打ち切る技能を中心課題

とするとともに、それぞれの技量に応じて理に適った応用技の習得を図る。

五 正しい攻防の指導を徹底する。

(一) 中心を外さない攻めの重視。

(二) 左拳を中心から外す防御を厳しく是正する。

六 正しい鍔ぜり合いからの技を徹底指導する。

(一) 鍔ぜり合いの技能を高める。

(二) 分かれる場合は、技を出すか、相互に間を切る。

七 「木刀による剣道基本技稽古法」の普及を図る。

八 講話による、心の問題について認識を深め、修練を通じて道徳的価値観の育成を図る。

II 指導展開の方針

全日本剣道連盟刊行の文献（剣道指導要領、木刀による剣道基本技稽古法、剣道講習会資料、剣道授業の展開、剣道社会体育教本等）を活用して技能の向上を図るとともに人間力を醸成する。

III 指導内容

一 講話（剣道指導要領参照）

(一) 「剣道の理念（目的）」「剣道修練の心構え（目標）」「剣道指導の心構え（指針）」に至る経緯を説明して内容の理解を深める。

(二) 剣道の流れなどの講話によって、剣道への興味や意欲を高める。

(三) 剣道指導の在り方（剣道指導要領六〜一〇頁）

指導者の心得・指導のねらい・指導の展開・技術の習得と稽古に対する指導・指導上の留意点。

二 実技（剣道講習会資料、剣道指導要領等参照）

(一) 指導内容(1)

1 剣道着・袴および用具

2 礼法（立礼、座礼、正座、座り方、立ち方）

3 基本動作（姿勢、構えと目付、構え方と納め方、足さばきへ特に送り足、踏み込み足、素振り、空間打突、跳躍素振り、掛け声、間合）

4 木刀による剣道基本技稽古法

(二) 指導内容(2)

応用動作（対人的技能）

剣道の技術構造の理解を図るとともに、「攻め合い」から「木刀による剣道基本技稽古法」を活用した「仕掛け技」「応じ技」の指導。

三 稽古法

(一) 基本稽古、切り返し、約束稽古、打ち込み稽古、掛り稽古

古

(二) 互角稽古ほか（見とり稽古等）

IV 平成二十六年年度の指導重点項目

一 礼法

正しい礼法の指導とともに、激しい攻防の中での礼について指導する。礼で始まり（静敬）、礼をもって行い（活敬）、礼で終わる（静敬）精神の啓蒙を図る。

二 「木刀による剣道基本技稽古法」の指導内容

(一) 制定の趣旨、技の構成、基本方針、指導上の留意事項、「手引き」の作成の趣旨、解説の要旨などについては剣道講習会資料に基づいて指導する。

(二) 竹刀剣道に発展させる指導。

(三) 初心者から上級者までの技能レベルの如何にかかわらず、同法の実践を奨励する指導。

三 基本動作

(一) 竹刀操作（剣先、刃筋、鎧の使い方）

(二) 足捌き

(三) 体当たり

(四) 鍔ぜり合い

四 応用動作（対人技能）

「攻防一如」（双手剣の理 — 攻防と防禦を一体化した剣へ竹刀V操作）。相對峙したのつびきならぬヤルかヤラレルかの緊迫場面の連続のなかにおいて、攻防と防禦が二つにならぬ双手剣遣いの身体（意識—感覚—技法）をいう。

五 稽古法

各種稽古法を組み合わせ、時間配分等を考慮してきめ細かい指導を図る。

日本剣道形（鈴木講師）

一 剣道形の効果をよく理解させて指導に当たる。

・ 礼儀、姿勢が正しくなる
・ 悪い癖を取り除く
・ 動作が機敏になり気迫が充実する
・ 気迫の充実
・ 理合の会得
・ 気品、風格が備わり、気位も高まる。

二 機、入り身、気争い、気位、位詰、気当たり、間合い等の形の要点を理解させて、その習熟度に応じて平素から剣道形の修練に努める。

審判法（島野講師）

審判に当たっては、ただ単に試合の判定だけに止まらず、大きく剣道全体の方向付けをする影響力を持つことから、適正、公正、厳正な審判をすることにより、日本剣道の大きい普及と発展とが期待されるものである。

「審判に当たっての留意点」

○ 誤審 — 不満・剣道観が変になったり、剣道が嫌になったりする。

○ 審判の結果は、試合者・観客の納得のいくものでなくてはならない。

○ 稽古しないものは審判するな — 判断できない。

○鏢せり合いについては、試合前に協議し、統一見解を示しておく。

○問題になるのがグレーゾーン打突。これが難しい。

合い面 返し胴 等 (百分の一秒の攻防)

○玄妙な技

打突が軽くても、玄妙な技は、技の質により一本にとれる場合があるので、打突の機会、体捌き、手の内等を勘案して、有効打突を見極める。

○切り込みの移動

二等辺三角形になるための遠回りをしない。

○主審の動きに素早い反応 — 試合者の動きを先読み必要。

作道講師メモから

「剣道に勝ちなし負けなし勝負あり」

剣道の闘いにあっては千変万化の活敬の中に「礼」が息吹いていなければならない。始めと終わりの静敬よりも真中の活敬がとても大切である。

一 「勝って誇るは負けに近く」

二 「負けて恨むは二重の負け」

三 「勝ってなお反省し、相手の気持ちに身を置き換えてみる

余裕のあるものは二重の勝ち」

四 「負けて反省奮発、相手を称える余裕のあるものは勝ちに

近い」

(一・二は礼にそむき、三・四は礼にかなったもの)



第四十一回中央講習会に参加して

居合道部 福井 勝

平成二十六年九月六日（土）～九月七日（日）にかけて徳島県より原田範士と福井が京都市武道センターで開催された中央講習会に参加しました。初日は午前中居合道委員の小倉範士の解説・草間範士の実技による全日本剣道連盟居合の解説、午後は班別指導が実施され、私は迫野範士による指導を受けました。午前中の解説の復習と居合道による練習指導法の講義を翌日午前中まで受講。昼からは、全国大会を前にしての審判講習を受講しました。

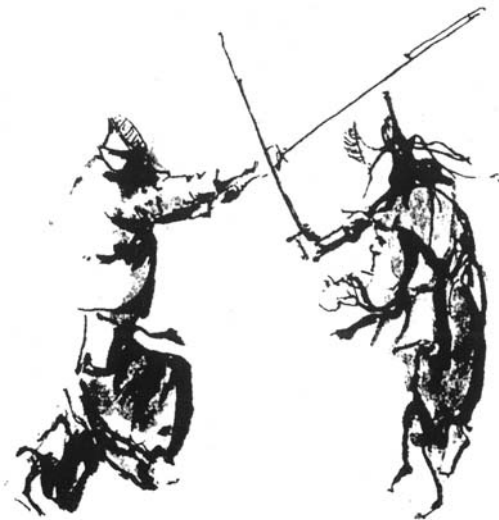
徳島県では九月二十一日（日）松茂第二体育館で伝達講習会を開催し、解説を原田範士、実技を福井が実施。昼から審判講習を五段以上の者で講習を実施しました。その後十月二十六日（日）の秋季講習会においても同様の講習を実施しました。六、七、八段の審査員である原田範士の「陥りやすい技間違い」を中心に講習を実施し、十一月の審査では五段三名、東京審査で六段一名が見事合格できました。中央講習会の伝達事項も教本どおりであり、昨年と違ったところは見当たりませんでした。来年度は居合道部の七段の中から順番で受講することが総会で決定しており、幅広く居合道の発展に貢献できると確信しています。



原田勝先生（左）と筆者



平成26年度（第41回）居合道中央講習会 主催（財）全日本剣道連盟
平成26年9月6日 於 京都市武道センター



第五十二回剣道中堅剣士

講習会に参加して

小松島支部 園 田 慎 吾



平成二十六年五月二十一日から二十五日までの五日間にわたって、全国各地から総勢六十三名が奈良市中央武道館に集まり、剣道中堅剣士講習会が行われました。

以前に参加経験のある先生方からは「柳生の講習会はきついで」と聞いておりましたので、一月上旬にお声を掛けて頂いた際には、五日間の講習会を乗り切ることができるだろうか、怪我をしてリタイアしてしまうのではないだろうかと躊躇したところもありました。しかし、私も四十歳を過ぎこれまでの自己の剣道観を今後どのように展開していくのか、再構築するためには絶好の機会であると考え講習会への参加を決意しました。

このような機会を与えて頂きました徳島県剣道連盟の先生方に、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

参加を決意してからは、稽古ができない日には素振りとランニングを日課として基礎体力から作り直し、体重も五キロほど減量して講習会初日を迎えました。

講習会日程と内容は次のとおりです。

講習会役員

張富士夫会長 松永政美副会長 福本修二専務理事

長尾英宏常任理事 高橋俊昭常任理事

講師

島野泰山範士 中田琇士範士 作道正夫範士

浅野修範士 石塚美文範士 亀井徹範士

大嶽將文範士 松田勇人教士

地元講師

上垣功教士 千葉十一教士

スポーツ医学講師

佐本憲宏医師

【指導法】 作道講師・浅野講師・石塚講師・亀井講師

担当講師の先生方からは、『正しい剣道の伝承を』という言葉が繰り返しあり、素振りが単なる準備体操にならないように注意があった後、初日の午後から竹刀の正しい操作と刃筋、打突に必要な手の内について指導があり、徹底した素振りと股割り講習生のほとんどは「膝が笑う」状態になりました。

切り返し・基本打ち・打ち込み稽古では、手の内の冴えに加え、足さばきについて指導があり、間合い（一足一刀）を重視して一拍子で打ち込む稽古をおこないました。

また、作道講師からは『女性剣道の普及とその振興を展望する』と題して、大阪府内でおこなわれた講習など、実践に即した内容で講義を頂きました。

これまで、私自身あまり女性剣道に特化した講義などを受けた経験がありませんでしたので非常に勉強になり、会社の剣道部の女子部員へも展開して行ければと思います。

【審判法】 島野講師・大嶽講師

私は班編成で島野講師が担当する組に入り、審判員の所作、有効打突の見極めと審判員の位置取りを中心に、実際に講習生同士が試合・審判を交代しながらおこなう中で、一試合ごと実例にあわせて細かく指導を頂きました。

【木刀による剣道基本技稽古法】 上垣講師・千葉講師

講習会前に送られて来ていた講習会要項のなかに「受講生は事前に稽古をしてくること」と注意書きがあったため、講習では一本一本の細かい説明等はありませんでしたが、この稽古法の意義と刃筋正しく打突すること、目付け、体さばきの注意点などについて指導がありました。

また確認事項として、「元立ち」と「掛り手」の関係は同等であり、日本剣道形における「打太刀」と「仕太刀」の関係性ではないことを挙げられ、稽古時の留意点について説明がありました。

【日本剣道形】 中田講師・松田講師

まず講習会資料に基づき、日本剣道形における重点事項や留意点について解説がありました。続いて所作や構えなどの説明とあわせて、中田講師・松田講師による模範演武を交えながら太刀一本目から細部まで指導を頂きました。

【スポーツ医学】 佐本講師

「剣道と足・腰の障害」に関する講義があり、特に「アキレス腱の障害の予防」について詳しく説明をして頂きました。講義資料から一部を紹介させて頂きますと「三十歳からアキレス腱断裂のリスクが高まる」

「アキレス腱断裂の三週間前から四割程度の患者には、患部の痛みなどの前兆が見られた。しかし、四十歳以上の患者には前兆の症状が現れない」

「予防には、稽古前の準備体操と稽古後の整理体操（クールダウン）・アイシングが重要である」

スポーツ医学講義のあと閉講式があり、四泊五日の剣道中堅剣士講習会を大きな故障もなく無事に終えることができました。

今回の講習会では、講師の先生方による講習や朝夕の指導稽古だけでなく、他県の講習生の方（特に同部屋であった広島県、香川県、鳥取県の先生方）との稽古や剣道談義の場を持つことができ、自分自身の剣道観を広げるとともに、見直す良い機会となりました。

また講習会三日目には、中田範士のお世話係を担当させていただき、非常に貴重な経験をすることができました。

講習会で学んだことを実践できるように精進して参りますので、今後とも尚一層のご指導をよろしくお願い申し上げます。

平成26年度（第52回）剣道中堅剣士講習会日程表

平成26年5月21日（水）～25日（日）於：奈良市中央武道場

全日本剣道連盟

	5月21日(水)	5月22日(木)	5月23日(金)	5月24日(土)	5月25日(日)
起床 6:00					
6:30		稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師
7:30					
9:00		朝食	朝食	朝食	朝食
9:30					
10:30		審判法 島野講師 大嶽講師 他全講師	指導法 浅野講師 他全講師	指導法 石塚講師 他全講師	スポーツ医学 佐本講師
10:45					質疑応答
11:00					閉講式
12:00	集合(事務連絡)				
13:00	打合せ会議				
		昼食	昼食	昼食	
14:00	開講式				
14:30		指導法 作道講師 他全講師	木刀による 剣道基本技稽古法 上垣講師 千葉講師 他全講師	日本剣道形 中田講師 松田講師 他全講師	
	講話 松永副会長		指導法 亀井講師 他全講師 (区分稽古)		
15:30	指導法 亀井講師				
16:30					
	稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師	稽古 全講師	
17:30					
18:30	入浴 夕食	入浴 夕食	入浴 夕食	入浴 懇親会	
19:30					
消灯 22:00					

◎講師の都合により変更の場合もあります。

平成二十五年度高段位受審者研修会 徳島県剣道連盟春季講習会記録

事務局次長 手塚 十三子

期 日 平成二十六年三月二十三日(日)

場 所 徳島中央武道館

講 師 藤原崇郎 範士八段(広島)

【講話内容】

(審査時において)

近年テクニクやハウツーものが溢れている。審査に臨む時「審査員に見られている」「審査員が見ている」という考え方でなく、自分が主役になる。「一年間の修行の姿を見てください(自分が主体になる)」。その裏返し「審査員にどう見られるのだから」ということになり、自分が従でやっても良いものが出にくい。自分の剣道観、自信というか、信念というか、バックボーンが内にある「匂い」として発散している。つまり、自分の剣道観を披露する。「だめならまた一年間修行します」という感覚。それが普段の稽古の場で培われていること。まじめな人ほど稽古の時にできるのに審査や試合でできない人もある。立ち向かって行く姿勢、その次が強さ。

六、七、八段の先生は強い。昔の先生は、そろそろ受けに行っ

ても良いか、という許可の時代だった。師匠が言わないのなら、自分で目安を持つ。相手と七対三か六対四の稽古ができて初めて受ける。テクニクもあるが、「力をつけること」がどれだけ大事か。何で今の技が出たのか、となるために、そこが魅力。普段の稽古の一回一回にイメージトレーニングをする。特に同じ段位の人とやる時には、歩合を意識する。しかし、人間にはなかなか欲があって難しい。

結論 ①力をつけること ②信念を持って立ち向かうこと

(幼少期から大人の年齢に至るまでの指導に関わってみて)

スピードがあり、勘も強い人がいる。しかし、それが徐々に薄れて往々にして逆転現象が起こる。表面的なことでは何か一本取るうとする。自分だけで剣道をやろうとする。そうではなく、高段者になると相手とのやりとりの中で行うように努力する。

(「対立」と「調和」について)

それは、石原忠美 範士九段(岡山)のご指導によるものである。自分の自我をしっかり持っていること。良い意味で我を通す。「対立」が強すぎるとだめ。いや、「調和」したからこそ一本が決まるのだよ、ということにもなる。「調和」とは相手を認めるということ。これができるようになると高段者の稽古が変わる。

「対立」と「調和」の両方ともなくてはならない。それで「調和」

の方が増えてくるように。

「行くぞ」という気持ちで間合いを詰めるというふうを考えやすい。これは「対立」の気持ちが強いから。それだけではいことを分かって欲しい。しかし、現在の高段者はそうではない。「調和」、これは相手の立場に立って考えること。本当に強い人は「行くぞ」も「起こり」もない。自分が攻めたと思って相手は何とも思っていない。「さあ、どうだ。来い、来てみ。さあ、来い！」の気持ちはどうか。相手は威圧を感じやすい。自分にとっでできるだけシンプルな方が迷いが少ない。

自分が理想とする剣道の姿（人）を年代に応じてできるだけ取り入れる。良い稽古、良い先輩を見られる機会、それを選択する能力も必要になる。

（実際に審査を行って）

私は一人目が終わって○はつけない。○△／○○／△△（ここが困る）。最後の判定は一生懸命さ。八段審査は温情はかけない。△△の人にも、一生懸命さが伝わる人には○をつける。審査は二人目が終わるまで絶対に気を抜かないように。二回した後のトータルで判断する。そして会場の真ん中で欲しい。隅では一生懸命さの姿勢が見られない、伝わらないということになる。蹲踞からの掛け声、すぐに打ちを出したらだめ。気剣体一致、やはり基本。基本稽古は地稽古の前の最低条件、それができていないのに審査員をしたりさせたりするのは恥。攻めるには強い意志、そ

して時間。第三者に見てもらってチェックをする。気剣体の一致した剣道、高段者になればなるほど応用ができるはず。面も小手も同じ方向の打ち。左手が収まって縦振り、それを基に個性や持ち味があって良いと思う。

打てる距離（一足一刀の間）に入ったら相手よりも早く打つ。しかし、審査で合格してもこれをしている人は先に伸びない。ずっとこれをやっている人は苦勞する。それだけに頼っているとだめ。

← ということ、打てる距離に入ってもすぐに行かない。これが

「調和」

←

このやりとりを覚えてくると剣道の面白が増えてくる

←

これに気づくか否かが問題（すぐに食いつきに行きたがること
が問題）

⇔

間合いに入ってもいかに辛抱するか⇨「溜め」。打てる距離になっても打たない。臍下丹田に風船を膨らます。それは相手と「調和」する中で膨らみます。「乗る」は相手の気分の上に、竹刀は下から、気は上から。

（この後、受審者同士の立ち会い）

【講評】

○自分の剣道は自分で確立していく。自分の剣道を作り上げていく。

○打たれることを怖がらない。

○稽古中に相手や高段者に対して首を傾げる所作は本当は失礼なことである。上位者に掛かる時、打たれることを気にしない。そのことよりも一本をいかに打ち出すか。



平成二十六年度全日本剣道連盟後援 徳島県剣道連盟秋季講習会(指導法)記録

鳴門支部 藤 本 雅 史

期 日 平成二十六年十月二十六日

場 所 ソイジョイ武道館

講 師 範士八段 大嶽将文(愛知県)

受講生 八十六名

開講式(九時三十分〜九時四十分)

坂下会長より大嶽講師に本日の講習会に来県して頂いた謝意と講習に対してのお願い、そして受講生に対しては多数の参加のお礼と受講に対するお願いの挨拶があった。

近藤理事長から講師先生のご紹介、講師先生からのご挨拶があった。

講 話(九時四十分〜十時三十分)

剣道人口男子一二〇万人、女子五〇万人その内七段二五四人、六段八〇〇人と女性の進出には素晴らしいものがある。そして世界人口は二五〇万人に昇る。我が国の剣道文化を正しく伝承していくためとして資料に基づいて講話から始まった。

一、剣道の理念

- ・ 理法とは剣道指導要領に記載されている。
- ・ 殺人剣ではだめであり、剣道を通じて人を生かす活人剣で



なければならぬ。

二、剣道指導の心構え

・ 竹刀の本意(心気力の一致)
生徒が竹刀をまたいだりしているのが現実である。刀の概念が末端まで指導されていない。指導者が本質を理解してしっかり、きめ細かく指導をして頂きたい。

三、礼法・作法(所作)・着装

- ・ 礼法は尊敬の念を持って行う。心をもって伝える。
- ・ 子供達の「おはようございます」に対して「おはよう」の



・ 剣道は敗者を思いやる心

・ 現実はハイタッチ、グータッチが行われている。
試合要領にも記載されている。

・ 思いやり・気配り

・ 履き物は出船に揃える……これは日本の文化である。

・ 外国人が憧れる、ホテルでなく旅館に泊まる。

・ ある宿泊所で学校のスリッパがきちんと揃えられていた。

・ それを見てちゃんと身についている、備わっている。これ

は教える先生、教えられる生徒、双方ともに素晴らしいと思った。

・ 剣道具は防具でない、剣道具は鎧、兜である。香川県の植田一先生が最初におっしゃった。

四、生涯剣道

・ 同じ八十歳、七十歳の人でも剣道をするときは背筋がスツと伸びる。剣道の素晴らしいところである。

五、安全指導

・ 指導者は安全面、体調面に気を配る。

・ 子供達に目配りをして体調不良を見つける。

・ 自らの体験を交えてのお話

・ 竹刀の点検は稽古前、途中、稽古後に行う……事故防止

・ 剣窓五月号に事故例が掲載されていた。

・ 相手を思いやる心、感情を示しては駄目である。

・ 山本五十六の言葉「やって見せ、言って聞かせて、させ

てみて、褒めてやらねば、人は動かじ」

六、試合・審判関係についても少し触れられた。

実技一（十時四十五分～十一時四十五分）

一、作法

・ 正座、立礼、着装、礼、剣道具の着装

二、素振り（正面、左右面、跳躍）足捌き

実技二（十三時～十四時）

一、剣道具を着けて二人一組になって仕掛け技・応じ技

大学時代の教え子である愛弟子の日和田慈海（麻植支部）六段を助手に事細かく説明と示範をされながらご指導を頂いた。

実技三（十四時四十五分～十五時十分）

一、木刀による基本技稽古法

指導稽古（十五時十五分～十五時四十分）

講師先生の気合い・気力の集中力と溜、そして機を見ての一拍子での打ち切りと捨てきった技、あるいは引き出しての応じ技と長年の修煉された剣道を見事に披露され、掛かる者、見ている者をうならせる指導稽古を頂きました。

閉講式（十五時五十分～十六時）

米倉副会長から講師先生に本日の講習会の謝辞と、受講生に對して「指導者が良くなれば剣道が良くなる」地域に帰って指導のお願いの挨拶があり、受講生を代表して大石雅生（美馬支部）先生がお礼の言葉を述べて閉講式が終了した。

「示範ができなければ指導者でない、口、説明だけでは子供達は近づいて来ないし、納得しない。感動を覚えさせる。」

講師先生のお言葉を肝に銘じて報告とします。



第九回女子審判法研修会に参加して

竹 内 佳代子

期 日 平成二十六年六月七日～八日

会 場 ぶんぶ東京スポーツ文化館

主 催 (財)全日本剣道連盟

九回目の女子審判法研修会に、徳島県から私と手塚先生が委嘱を受け、参加することができました。私にとっては、三年ぶりの参加になります。全日本剣道連盟が、「研修会・講習会を通して女子審判員の育成、審判技術の向上を図る」ことを、重点事項として掲げ、毎年行っている研修です。ただし、今年から近時の女子剣道の発展を鑑み、「全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会」と「全日本女子選手権大会」の二つの大会については、審判長・審判主任を除いて、すべて女性だけで審判を行うことになりました。そのため研修です。今後も審判を女性だけにまかせ、女子大会は女性だけで運営するようになるかどうか、今年の審判員の審判技術にかかっているのです。それだけに、責任重大です。

研修には、全国から委嘱された七段三十三名が参加しました。開講式では副会長の松永雅美先生から激励の言葉をいただき、続いて、試合・審判委員長の梯正治先生から、審判の意義、審判員の心得などのご指導をいただきました。その後、国士館大学と日本体育大学剣道部の女子選手の協力を得て、審判実技を中心に二

日間、研修が行われました。(選手の中に徳島県の玉田理紗子さんもいて、頑張っている姿をみることできました。)

本研修の講師であられる、島野泰山・大嶽將文先生から、細部にわたり懇切丁寧なご指導をいただき、緊張感漂う中ですが、とても有意義な研修ができ、私自身も大変勉強になりました。この研修会に参加でき、また、全日本都道府県対抗女子剣道大会で審判をさせていただけたことに心から感謝しています。

【重点事項】

一、試合内容を正しく判定する。

※大会の持つ目的やその内容を正しく判断し、試合の活性化を図る。

二、有効打突を正しく見極める能力を養う

※独自性や独善性に因らない、経験に基づく客観性や妥当性が要求される。

(1) 有効打突の条件と諸要素の理解

(2) 技の違いと錬度に応じた打突の見極め

三、禁止行為の厳正な判断と処置をする。

※規則に基づき、厳正、的確な判断と勇氣ある決断による処置をすることが大切である。

(1) 行為の原因と結果の正しい見極め

(2) 禁止行為に対する的確な処置

さらに、実技研修の中で次のようなご指導をいただきました。

○審判員同士、協調することは大事だが、同調してはいけません。

○表示は、果断に。躊躇しないこと。

○副審が「やめ」をかけるときは、大きな声で宣告を行う。

○つばぜり合いの、反則か「わかれ」の正しい見極め。

○位置どりや移動の仕方の確認。

・主審を頂点とした二等辺三角形になっているか。

・試合者、自分以外の審判が見える位置か。

・先取りができているか。

・駆け足でなく、早足で動いているか。

・のぞき見の形でなく、正対できているか。

○合議は、話し合いでなく、決定・決断をする場であるという

意識をもつこと。

研修に参加させていただいて、大変勉強になっただけでなく、同年代の女性の方たちと剣を交えたり、一緒に歓談することもでき、とても楽しい時間を過ごせました。研修の機会をいただいたことに感謝すると共に、今回学んだことを今後の審判技術の向上にしっかりと活かしていきたいと思えます。

研修員（順不同）

饗場 千晶（大阪）	荒武千賀代（東京）	五十嵐裕子（宮城）
石田 葉子（大阪）	猪口きよみ（北海道）	今瀨由美子（埼玉）
今村智香子（和歌山）	牛木さつ子（東京）	内野 葉子（新潟）
小野寺枝美（東京）	川原 清美（兵庫）	桜木はるみ（佐賀）
佐藤さとみ（福島）	佐藤 理恵（埼玉）	鈴木久美子（神奈川）
下坂 美和（高知）	関根ツヤ子（埼玉）	瀧澤 明美（東京）
竹内佳代子（徳島）	田麿 準子（兵庫）	手塚十三子（徳島）
永沼 真紀（福岡）	濱崎 泉（東京）	東 朱美（愛知）
東 由美子（愛知）	藤崎 金子（茨城）	湊田 貴美（熊本）
保科久美子（東京）	堀部あけみ（栃木）	松下 幸子（鹿児島）
松田美智代（奈良）	三宅 智子（大阪）	矢部 智江（岡山）

第9回 女子審判法研修会 日程表

【平成26年6月7日（土）～8日（日）於・ぶんぶ 東京スポーツ文化館】

全日本剣道連盟

6月7日（土）		6月8日（日）	
		7:30	朝食
9:00	受付	9:00	審判法実技Ⅱ
9:30	開講式		
9:45			
9:50	試合・審判に関わる 全剣連の動向		
10:20	審判法概説 (目的・任務・心得等)と確認		
11:10	審判要領(所作・旗の表示・移 動要領等)と確認	12:00	質疑応答
12:00	昼食	12:30	開講式
13:00		13:00	昼食
14:00	審判法実技Ⅰ	14:00	
16:00			
16:10	稽古		
17:00	入浴		
18:00	夕食		
20:00			
22:00	消灯		

○計画の都合により変更の場合もあります。

剣道形講習会に参加して

徳島市立高等学校剣道部主将 田 上 結 衣

私たち、徳島市立高等学校剣道部は、平成二十六年八月二日と三日の二日間、日本剣道形講習会に参加させていただきました。中学生から一般の方まで、昇級・昇段を目指す方々が集まっていました。

まず、太刀の形で必要となる構えを全員で確認しました。下段に構えたときの剣先の高さ、上段に構えたときの剣先の角度など細かいところまで、先生方が指導してくださいました。次に中学生と高校生・一般に分かれて、太刀の形を練習しました。そのときも、本当に細かいところまで指導してくださいました。私は、一本目から七本目までとりあえずは覚えていたし、できると思っていました。でも、いざやってみると、剣先や顔の位置、相手との息の合わせ方など、出来ていないところが多く見つかりました。また、二人一組で練習をしたので、お互いに指摘し合いながらすることができました。私の相手は同じ学校の部員でしたが、より仲が深まったと思います。

午前中、先生方の指導を受けながら練習し、午後からは一組ずつ全員の前で、形を行って行きました。午前中の練習もあり、初めより上手くできていると感じたし、先生方にも褒めていただきました。他の人の形を見ることで、勉強になることもありました。

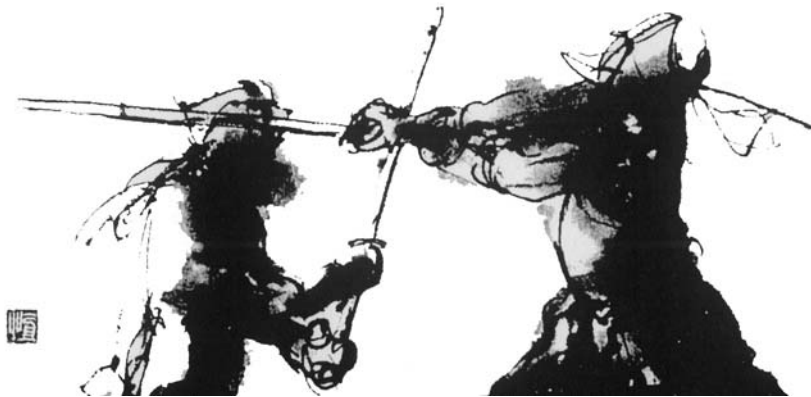
中学生で、なかなか七本全てを覚えられず、上手くできなくて手こずっている子もいました。でも、二日目練習に行くと、その子は他の人よりも早く来て、先生に形を教えてもらっていました。それを見てとても感心しました。自主的に練習に取り組む中学生の姿は、私たちに何か良い刺激を与えてくれたように思います。二日間の練習では、形だけでなく、立ち会い前の作法も教えていただきました。打太刀と仕太刀が互いに向かい合って座礼をするというものです。あまり重要視されないちょっとした作法にも、正しく美しいやり方がしっかりとありました。

今回のこの剣道形講習会に参加させていただいて、形の習得以外にも、多くのことを学んだと思います。普段の部活では、なかなか形を練習することもなければ、正しい作法のやり方や剣道に対する心の持ち方などを考えることもありません。そういったことを改めて考える良い機会になりました。日本剣道形の修練は、剣道の原点である剣の理法を学ぶことを目的としている、と先生もおっしゃっていました。試合などには必要ないものかも知れませんが、大切なことだと思います。そのことを忘れず、これからも練習に取り組んでいきたいです。

この講習会后、初段・二段・三段をそれぞれ部員が受け、全員合格することができました。剣道形講習会に参加したおかげだと思います。本当にありがとうございました。



講習会に参加した市高剣道部員



第三十八回全国高等学校・中学校 (部活動) 指導者研修会

林 義 真



平成二十七年一月四日から六日まで千葉県勝浦市で行われた全国高等学校・中学校剣道(部活動)指導者研修会に参加しました。

開講式後、教養講座として百鬼史訓先生(東京農工大学名誉教授、日本武道学会会長)による「武道教育に期待されるものー中学校武道必修化への剣道界の対応と課題ー」と題した講義がありました。

主な内容は、中学校武道必修化の経緯、文部科学省武道等指導推進事業、武道必修化への全日本剣道連盟の対応と課題、日本武道学会の対応についてでした。

中学校武道必修化になった経緯として、「武道は国民精神の基本であり、武道を通してグローバル(言語力・コミュニケーション力・主体性・積極性・責任感・文化理解・日本人としてのあり方等々を学ぶ)人材を育成することが求められている」といったことや「現在の全国中体連加盟者のうち、剣道人口は全体の一分以下であり、残りの九割以上を対象に中学校武道必修化を通じて、武道(剣道)の良さを伝えていくことが重要になる」ことなどを

伺うことができました。

その後、実技指導法、実技研修、夕食後には意見交換会が行われ一日目は終了しました。

二日目は、朝稽古、日本剣道形、木刀による基本技稽古法、審判法、実技研修、夕食後に高体連・中体連に分かれての研修会が行われ終了しました。

三日目は、朝稽古のあと、教養講座として藤原崇郎先生(広島県剣道連盟副会長、広島大学剣道部師範)による「教育剣道の指導者として」と題した講義がありました。剣道をどうとらえて活かしているか、教員・指導者・剣道家としてどうあるべきなのかなど、「剣道を取り除いても素晴らしい人間、剣道をしているから素晴らしいんだ」という先生の言葉が印象に残っています。

その後、実技研修、閉講式となり三日間の日程を終了しました。最後になりましたが、研修会の参加にあたりお世話をしていただいた徳島県中体連剣道専門部の先生方、また同行し、ご指導していただいた西谷肇一先生、加藤哲裕先生にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

実施内容・日程

期日	1月4日(日)	1月5日(月)	1月6日(火)		
前	6	起 床	起 床		
	午	7	朝 稽 古 (6:10~7:00)	朝 稽 古 (6:10~7:00)	
		8	休 憩	休 憩	
	前	9	朝 食	朝 食	
		10	休 憩 国際武道大学へ移動	教養講座 藤原 崇郎	
	11	日本剣道形 木刀による剣道基本技稽古法 (国際武道大学・ 研修センターで実施)	実技研修 閉講式 解散		
	12	研修センターへ移動			
	後	1	受 付	昼 食	
		午	2 ⁴⁵ 15	記念撮影 開講式	休 憩
			3 ¹⁵	教養講座 百鬼 史訓	審 判 法
		4	実技指導法		
		5 ⁴⁵	実技研修	実技研修	
6		入 浴	入 浴		
7		夕 食	夕 食		
8		意見交換会	高体連・中体連別 研修会 ※自己研修などを含む		

【特別講師】 百鬼 史訓

【講 師】 目黒 大作 (範士八段)	藤原 崇郎 (範士八段)	本屋敷 博 (教士八段)
吉崎 勝 (教士八段)	水田 重則 (教士八段)	佐藤 義則 (教士八段)
花澤 博夫 (教士八段)	仮屋 達彦 (教士八段)	西谷 肇一 (教士八段)
中島 博昭 (教士八段)	軽米 良臣 (教士八段)	下諸 純孝 (教士八段)
原 直史 (教士八段)	高村 克人 (教士八段)	土屋 勝 (教士八段)
山中 洋介 (教士八段)	井上 孝 (教士八段)	奈良 隆 (教士七段)
矢部 勇介 (教士七段)		

第二十回全剣連社会体育上級指導員 養成更新講習会に参加して

名西支部 久保隆司

平成二十六年六月七日（土）愛媛県松山市にある愛媛県立武道館にて、第二十回全剣連社会体育上級指導員養成更新講習会ならびに第六十八回初級更新・第四十五回中級更新と同時に開催されました。受講者は少なく約二十人でしたが、内容（別途資料通り）の濃い講習会でありました。

審判法実習では、鈴木範士より要点説明の後、実技指導を全講師先生からいただき、有効打突の見極め、試合者の動きに対しての素早い判断、姿勢移動の仕方と審判員の位置取り等を確認しました。さらに、鈴木講師から百点満点との評価を頂きました。

日本剣道形は、矢野範士・小澤教士に、教本に基づいた理合いと氣の充実した緩急の動き所作を、「やって見せて、やらせて指導し、再度やらせて褒めて伸ばす」育成する指導者の心理状態を高める指導を、志すように心がけることが肝要であるご指導頂きました。

木刀による剣道基本技稽古法については、目的・指導上の留意事項をしっかり理解し、指導者に的確に指導出来るよう、理論に基づき実技をとまなう指導者を育成するように伝達されました。

指導法実習は、水田講師による基本技、応用技指導で送り足

（摺り足）で行う「無理無く、無駄無く、むら無く」姿勢、体勢を崩さず滑らかな動きに感動を覚えました。

最後に、末平委員長「剣道界の動向と指導者」「授業支援のあり方」の教養講座（別紙）があり、閉講式となりました。

《付記》公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者義務研修
平成二十七年一月二十五日（日）に大塚スポーツパーク鳴門総合体育館にて、公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者義務研修が行われ、参加しました。

研修会に先立って、平成二十六年年度公認スポーツ指導者表彰伝達式が行われ、その後、大塚製菓（株）中塚雄大氏によるスポーツドリンク、スポーツ指導における水分補給の必要性について講演がありました。さらに、メンタルコーチ 川野操先生による講演「スポーツの指導方法について」「メンタルコーチングの実際」と三時間三十分に及ぶご指導頂きました。メンタルコーチングの大切さ必要性を考えさせられる時間でありました。

講演後、講師の川野先生とは四十年ぶりに話をすることができました。というのも、川野先生は私と同郷、名西郡神山町下分生まれで私の四歳下の後輩になります。懐かしさと、立派に活躍されている姿に大変嬉しく、郷土の誇りだと感じました。

ニーダーザクセン州剣道連盟との交流

近 藤 亘

徳島県とドイツ・ニーダーザクセン州は、平成十九年九月「交流に関する共同宣言」に調印し、経済、文化、スポーツ等さまざまな分野の交流を行っています。

スポーツでは、これまで柔道、サッカー、マラソンでの交流を行っています。

【平成二十五年】

平成二十五年、県の国際戦略課からの要請により、八月十六日から二十日までの六日間、ニーダーザクセン州剣道連盟会長以下四名が交流に伴う視察に訪れました。

期間中、国体四国ブロック予選、四国教職員大会の視察。小松島少剣クラブ、県警朝稽古の視察および稽古。高橋竹刀製造所、富岡東高校剣道部の視察。その他、知事表敬訪問、徳島県剣道連盟役員との意見交換等を行いました。

連盟役員との意見交換の結果、次のようなことが話し合われました。

◎交流の形態

○ドイツ訪問の場合

- ・セミナー開催（指導者、警察、大学生等二～三人）
- ・各地区への巡回指導、文化交流（一般、少年教室指導者、

少年等）

○来徳の場合

- ・指導者は各階級と交剣交流
- ・派遣の対象により見学、体験等

◎費用

○ドイツ訪問の場合

- ・旅費は自己負担
- ・ドイツ国内は州剣道連盟が負担

○来徳の場合

- ・旅費は自己負担

・日本国内は徳島県が負担（県職員、県剣道連盟役員が随行）
州剣道連盟、県剣道連盟は持ち帰り、発展的、前向きに検討することとなりました。

【平成二十六年】

平成二十六年四月、ニーダーザクセン州剣道連盟から五〇人規模のセミナーを計画しており、指導者二人（八段以上）の派遣要請がありました。

検討の結果、米倉滋教士八段と私の二人が派遣されることになりました。期間は、十二月四日から十二月十一日までの七日間と決定しました。

◎ニーダーザクセン州剣道連盟の概要

ニーダーザクセン州は、ドイツ連邦共和国（十六連邦州）のひとつで、ドイツの北西部に位置し、人口約八〇〇万人、時

差はマイナス八時間です。

州剣道連盟の剣道人口は、約二六〇人（内女性約二〇人、少年約三〇人）、州連盟内に八クラブが活動しています。

◎派遣内容

今回派遣の主目的は、セミナーの開催にありました。土・日に行ったセミナーには、州内外から八二人（初心者から七段）の参加者があり、受講生の熱意に我々も気持ち良くセミナーを終えることができました。

その他にも、二つのクラブにおいて稽古、市長表敬訪問、州スポーツ連盟訪問、警察署見学等の行事をこなすと共に、合間を縫ってクリスマスマーケット、冬の動物園を見学、州都ハノーバー市内観光等盛り沢山の内容をこなし無事派遣を終了できました。この間、州剣道連盟の会長・副会長・会計の皆さんには大変お世話になりました。

以上、これまでの交流について概略を申し上げましたが、今後、徳島県剣道連盟とニードーザクセン州剣道連盟が前向きに末永く交流していくことを願って報告いたします。



徳島の剣道史

阿波の刀剣外装

坂本憲一

はじめに

刀の外装（拵こしらえ）の目的は、鋭利な刀身を自分には安全に、また、何時でも敵に対応できる最良の状態に保つことにある。そのためには、刀身を鞘で覆い、戦闘の場合には柄が壊れないように絞革を張って糸で巻き、拳を守るため鐔が付けられた。そして、実用を基本としながらも、刀身には研師、柄には柄巻師、鐔や縁頭に

は金工師、鞘には塗師の漆芸という技術を駆使し、彼らは求めに応じてそれを美の極致にまで昇華させた。

これら多くの諸職衆の技術が結集されたものが「拵」で、長い武士の世には様々なものが造られるようになる。平安・鎌倉・南北朝期には各種の太刀拵、室町期には打刀拵が出現する。江戸期には、甲冑の着用以外は打刀拵の大小が常用されるようになり、さらにこれらの拵には剣術の刀法に由来するものや地方色豊かなものが出現する。ここでは、剣術の流派に起因する拵、地方色豊かな阿波の拵について述べる。

一 剣術の流派に起因する拵

流派に起因する著名なものには、薩摩拵・肥後拵・尾張拵・陣刀拵等がある。

薩摩拵（写真1）は、九州の薩摩藩のお家流「示現流」の拵。



（写真1）薩摩拵

示現流は、トンボ・置きトンボの構えから一激必殺の打ち込みを行うため、柄（つか）は刃方を立鼓にとり、太く極めて丈夫で一尺以上。主流となる柄の下地は苛烈な衝撃に耐えるために絞革の代わりに牛の生皮で包みさらに漆掛けしたものが多く、柄巻きは糸または革で片手巻きか平巻きにする。実用本位のため目貫を入れるなどの可飾的な配慮は少ない。また、打ち込みの衝撃を倍加させるため、極めて軽量な小振りの鰐を付けて、刀身に先重りを持たせる。

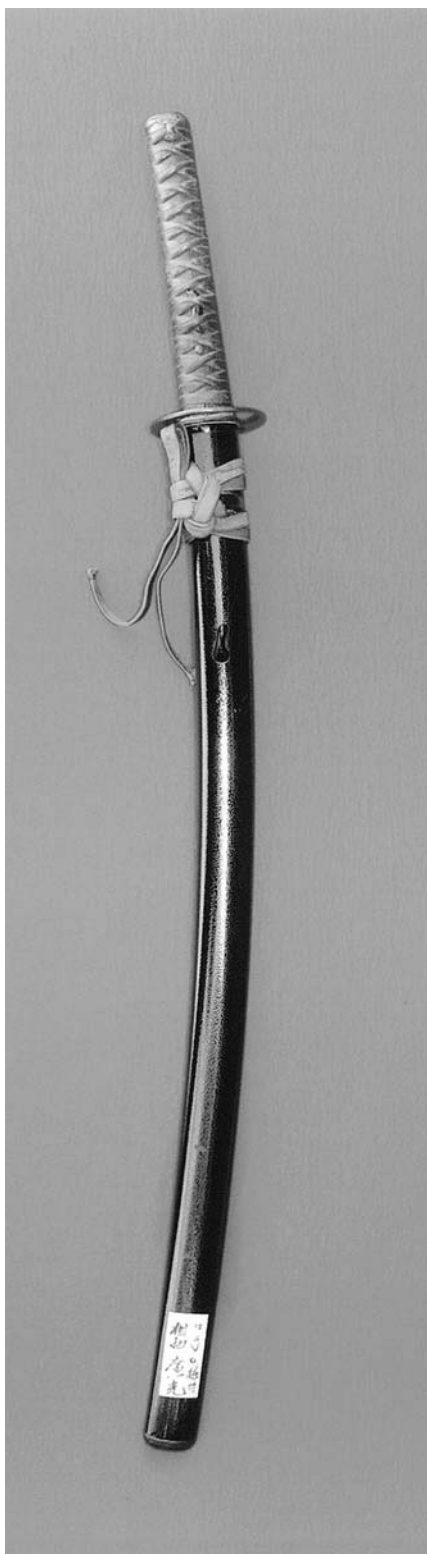
鰐には小孔が二つ穿たれる。示現流の教えに「刀は絶対抜くな、やむなくして抜刀した場合は必ず相手の命を絶て」とあり、若者の外出時には小孔に紙縊こよりを通し刀が抜けないように結んだ。故に鰐に穿たれた小孔を「諫めいさの孔」という。

鞘には、独特の形をした返り角が付く。返り角とはいいながら返りがなく凸型をしている。これは鞘のまま素早く抜ける工夫と

いい、紙縊止めのまま斬り合う場合を想定しての形ともいう。「生麦事件」を題材にした古い映画に薩摩武士がこの紙縊止めを外し、行列を横切る異人に向け抜刀する場面が演出されていた。時代考証の正確さに感心させられる。

肥後拵（写真2）は熊本藩主細川三斎の好みに端を発し、かつ、お家流の伯耆流抜刀術に使われた拵。薩摩の拵とは対象的に柄が極めて短いのが特徴である。刀身も二尺二寸前後と短く、居合の真骨頂でもある片手打ちを主眼とする。片手打ちだと短い刀でもより長く使える利点があり、肥後拵の拵では、柄の長さは七寸前後を常寸とし、金具は鉄地で、山道文様をあしらった丸形の頭、口を絞った縁金具を用いる。それには雨龍や花模様などが布目象眼されている。

柄の下地は、黒漆を塗った絞皮が貼られ、鹿皮の柄紐でつまみ巻きにされている。これまた漆を塗り雨天時の緩みを防ぐ。柄は



(写真2) 肥後拵

黒蛟と鹿革の色彩が独特のコントラストとなり雅味を生む。こうした色彩感覚は、肥後拵のみならず室町末期の打刀拵（天正拵Ⅱ写真3）にしばしば見られる意匠である。

鞘はやや太めで尻には必ず鍔金具（泥摺鍔とも）を着け、塗りは乾漆塗りが多く、鯉口から五寸くらいを印籠刻みにするもの、全体を蛟革で包むものもある。そして、鯉口を切らずに抜刀可能な位置（鯉口から栗型の間隔は指三本を原則とする）に栗形が付く。雅味豊かにして堅牢。こうしたことから肥後拵は「照り降り知らず墓場刀」と讃えられ、藩内だけに留まらず、江戸でも流行した。これらは「江戸肥後拵」と呼ばれる。

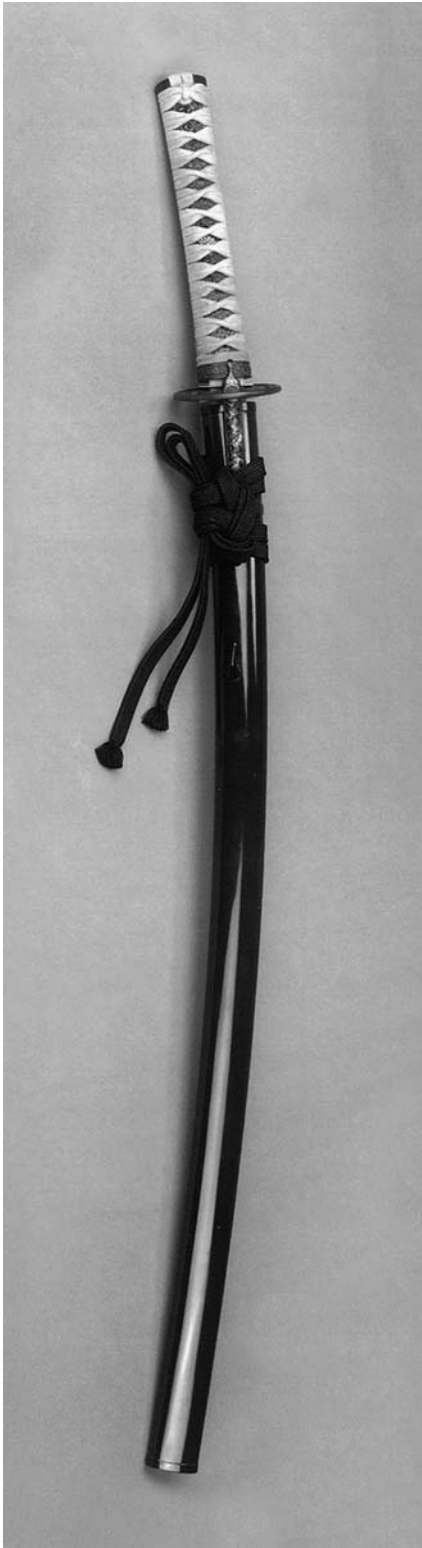
尾張拵は、尾張徳川家中の武士が佩用した拵で、柄頭は縁金具の内側に入るくらい小さいもので、柄の形は棟方（むなかた）を平たくとり、極めて下地を薄く削る。為に蛟革は前垂れ着せ（二重巻き）にする。目貫は、太刀風に左右逆に巻き込まれ、握ると手

の平の内側に入る。なお、この尾張拵から派生したものに「柳生拵」なるものがあるが、この拵は尾張柳生の柳生連也齋の指料として今日に伝わる。

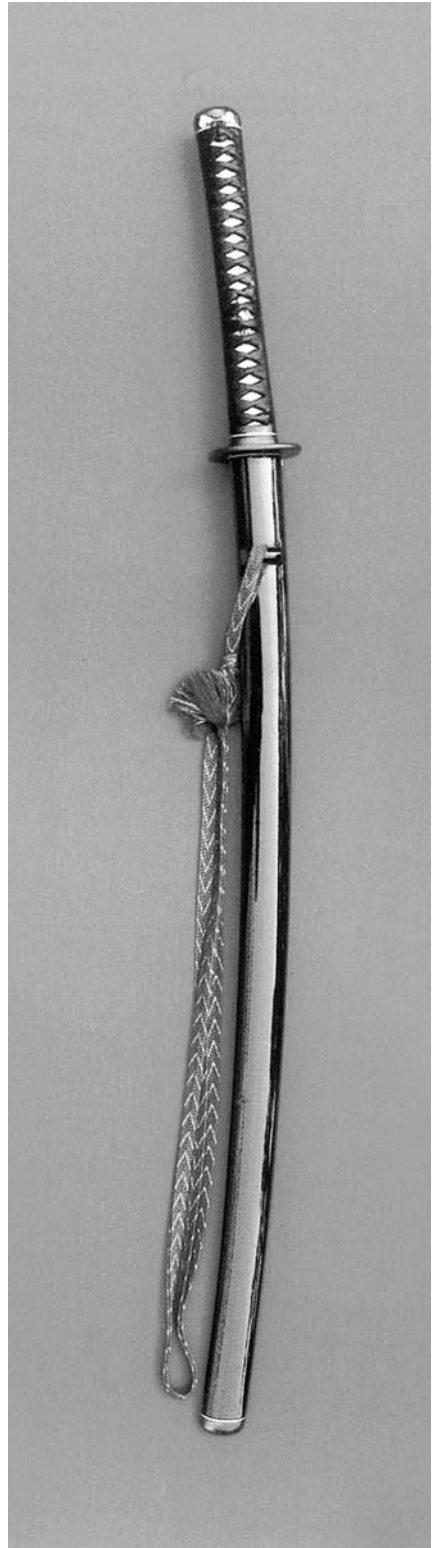
講武所拵（写真4）は、剣術の流派に起因するものでないが幕末に幕府が設立した「講武所」に学ぶ若者間に流行した拵で、幕末期の典型的な拵として一世を風靡するようになる。講武所拵は実用的な拵で、各部位が誇張されて造られ、刀が長いことから柄も長く棒状である。柄を包む蛟皮も裏を剥かず厚いままで漆で張る。柄巻きは小菱に巻く。鞘は太く、幅広で丸みを持たせ、鍔は鯉口より幅が広く武張ってみせる。

講武所に学ぶ若者の気風は、帯びる刀はもとより、月代を細く剃る鬘、着物や袴、履き物にまで及び「講武所風」なる風俗を生んだ。

陣刀拵と枕刀拵は、二つとも心形刀流の剣士たちが用いた刀類



（写真3）天正拵



(写真4) 講武所拵



(写真5) 陣刀拵

に付けられた拵で、実用刀と伝位を象徴した拵であるところに特徴がある。徳島における心形刀流には藩政時代、二つの流れがあった。一つは、本藩藩士の多田三次右衛門家(百二十石)を頂点とする流れと、時代は降るが原士の佐藤三兄弟(佐藤・井後・大島)が江戸の心形刀流宗家伊庭家で皆伝を得て阿波に伝えた流

れである。

多田家は主に禄高取りの藩士が習い、後者は、阿波藩独特の士分制度「原土」が習い納める剣術の主流となった。幕末に活躍した幕府軍遊撃隊を指揮した伊庭八郎はこの心形刀流宗家の嫡男である。

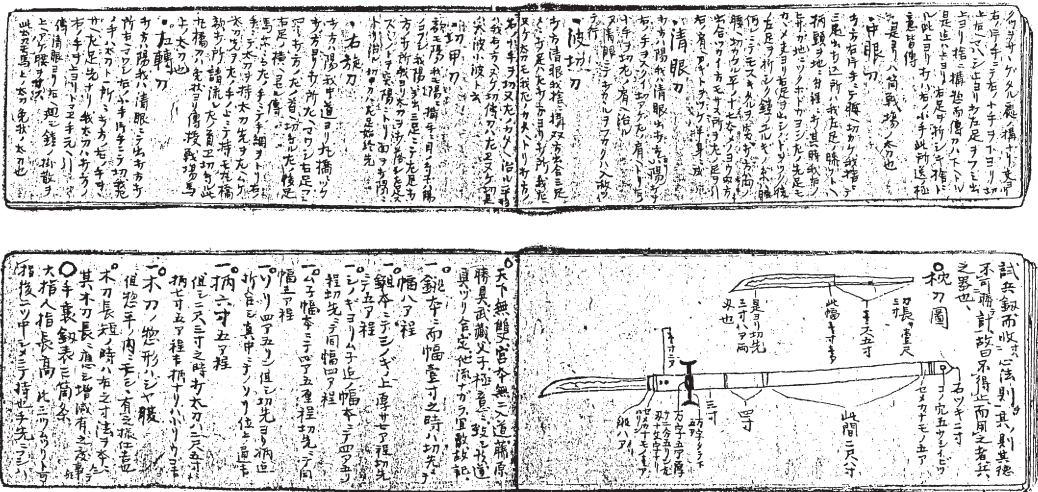
さて、伊庭八郎も携えたであろう「陣刀拵」を、原士の家に伝わる『心形刀流口伝之覚』から見てみよう。

陣刀拵（写真5）は一口でいえば太刀風金具を用いた半太刀拵の一種である。まず柄は深金具を用い、柄巻きは諸ひねり巻と平巻の併用で前後に三ないし四つの菱巻を付け、中程は平巻き。すべてを菱巻きにするものもままある。目貫は出し目貫か掛巻きとする。

鍔は三寸の鉄鍔を用い、鞘には胴刀子（小刀と同じだが刃長が六寸と長い）を納めるための櫃（小柄櫃に同じ）があり、胴金と深鍔金が付く。鯉口から五寸位まで鮮やかな色合いで彩色を施す。口伝之覚には、彩色の下には薄い金の延べ板を巻くとある。戦陣に臨み軍資金が欠乏したとき、これを剥がし持ち寄り補充する。薩摩拵の金具は金質が良いとされるのも同じ意味合いを持っている。

鞘の鐳にも一工夫ある。鐳には小孔が穿たれている。陣刀拵では、この孔に胴刀子を差し込み十字架を造り陣羽織を掛けて楯とし、弓の矢を防ぐのである。また、下緒の長さも六尺と決められている。刀を拵に立てかけ三寸大の鉄鍔に足をかけ拵をよじ登る。後、下緒をたぐって刀を引き寄せるのである。忍者もどきの技ではなく、心形刀流のれっきとした技前の一つである。

枕刀拵は、陣刀拵と共に免許の皆伝を許された者のみが所持できる刀と拵である。心形刀流はすべての階位を許されると「常心子」とか「常啓子」等の剣号が授けられ、これらの刀剣類の所持



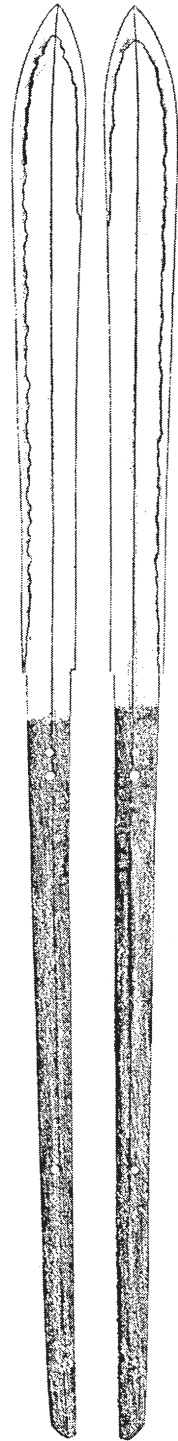
(写真6) 心形刀流口伝之覚

が許される。

『心形刀流口伝之覚』（写真6）には陣刀拵の概要と枕刀の略図寸法などが記されているが、形状は特異である。これは刀剣の分類からすれば「鯨の尾形槍」に属する。刀身は鑄造りで物打ち辺が武張り、切っ先は三寸諸刃造となる。反りはわずかで刃長は一尺三寸、茎は一尺五寸であることが分かる。枕刀には郷土刀の笠井・石川・安芸一門の作品を多くみるが、他国鍛冶の作品は見ない。心形刀流地方版の流行と見るか。（写真7）の枕刀は、笠井一門の信忠の作で、「阿州臣信忠 安政七年二月吉日」の銘がある。

枕刀は、作者が異なっても現存するものは刃文をのぞき、形状・寸法・造り込みはすべてが同じである。注文にあたっては図示した仕様書を提示して造らせたのであろう。

枕刀の拵（写真8）は、鞘は、皮貼地に漆掛け、柄（え）は長さ三尺六寸（約一二〇センチ）、先端に敵の切り込みを防ぐ錨代わりの鈎状の金具が付く、いわゆる「鍵槍」仕立てである。千段巻き部分には朱塗りを施し、以下一尺ばかり数条、線状に塗り下げる。柄尻（えじり）には丸形で小孔が穿たれた石突き（泥摺鑑）が付く。こうした仕様は阿波物の槍や薙刀の柄にもしばしば見ることができる。



（写真7）枕刀押型



（写真8）枕刀の拵

二 阿波を代表する拵

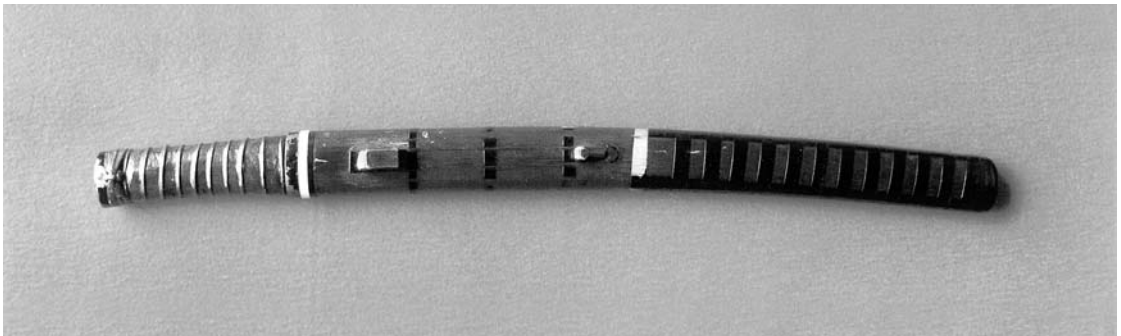
一 海部拵

徳島藩の歴代藩主は、しばしば大名間の贈答に海部刀を用いた。それらは片切刃造りの脇差で、外装には素朴で野趣味豊かな海部拵が着けられた。西国の雄藩、二十五万七千石の蜂須賀家が豪華で知れる大名間の贈答に、敢えて素朴な海部拵の脇差を用いた理由は、江戸初期の大坂夏の陣・冬の陣に遡る。

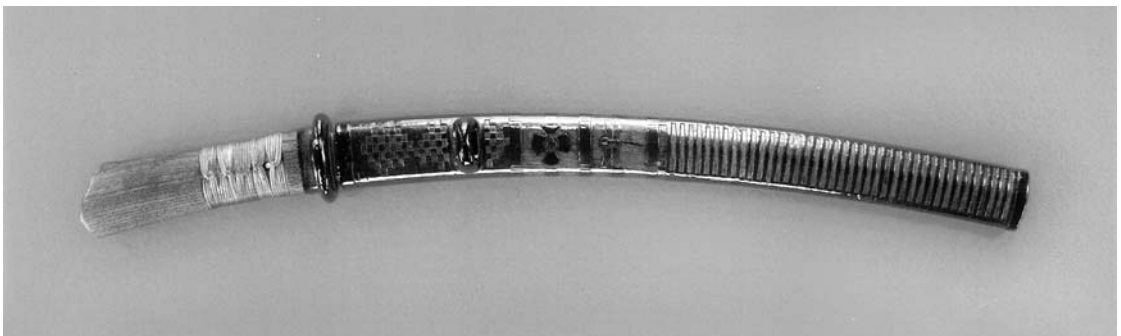
藩祖家政は豊臣恩顧の大名故に蜂須賀家の安泰を計るため、敢えて我が子至鎮をして東軍につかせた。至鎮はその思惑に応え大坂の陣でたぐい希なる活躍をし、家康から七つの感状を下賜され、蜂須賀家三百年の安泰を築いた。その希なる活躍を支えた前線兵士が携えたのが利刃なる幅広刀、すなわち陣鉞とも別称される片切刃造りの海部刀であった。

古文書は、船場夜襲・博労淵の敢行等について「携えるは利刃なる幅広刀、阿波の将兵阿修羅のごとし」と伝え、以後歴代の藩主があえて素朴な海部刀を贈答品の筆頭に加えたのは、「阿州殿の自慢は阿波の七感状」とある如く、蜂須賀家最大の「武門の誉れ」を大名間で語るには、海部刀の存在無くしては成ら無かったからに他ならず、蜂須賀家における海部包刀贈答の習わしは、当家のいわば武門の証であったわけである。

海部拵は正式には、「海部樺巻鞘拵」といい、海部鍛冶は刀造りに加えてこうした拵造りを家業とした。その特徴は野趣味豊か



(写真9) 海部拵 1



(写真10) 海部拵 2

な造り込みであり、刀は希で、脇差・短刀の拵が大半を占める。それらは凡そ二種類に分かれ、実用一辺倒なものは極めて素朴で、一見すると野良や山仕事で使う鉞を想起させ「海部の山刀」「陣鉞」と云われる所以がそこにある。

他方、入念作になると樺卷の細工は巧妙で、良質の金具等がつき角や銘木を巧みに加工して加飾されており、なかなか雅味があり、これらは上級武士や数寄者の好みに応じて造られた。

樺卷きの手法は、朴材をうづくり仕上げした下地に、薄く剥ぎ細く带状に裁断した桜皮を必要な寸法に切り取り、その両端を穿たれた細い溝に差し込み、縦縞文様や蜻蛉文様を表現しその上に摺漆をかける。細工の工程は以外に単純であるが、あたかも高度な通し巻きの手法で図柄を表現しているかのように見せるところが、海部の樺巻き細工の真骨頂といえる。

柄には、桜・樫・櫟など木目の美しい材が使われ、柄頭部分は

金具を用いず柄木そのもので作り出し、木目を生かした摺漆仕上げである。柄巻きは一段掘り下げ、籐で平巻きや返し巻きにする。鮫皮は用いない。中でも籐の返し巻きは巧妙で巻きはじめと巻き仕舞が分からないように一節一節を独立させて巻き上げる。ここでは海部拵の数例を紹介する。

(写真9)は、本県に遺存する海部拵の中で最も古いもので、柄の部分には室町末期の打刀拵の遺構が見られ、樺巻きもおおらかで時代を物語る。実際に大坂の陣で使用されたものと伝える。刀身は、研ぎ減りもなく銘も鑿枕が立ち、今だ健全である。

(写真10)は、海部拵の典型といえるもので、巧みな樺卷、先端を大きくはらせ立鼓をとる柄成り、鞘の中央にあしらわれた蜻蛉の意匠は心憎い。総じて数多い海部拵の中でも最も均整のとれた美しい造りとなっている。

(写真11)は、阿波の高禄武士の指料で、鞘の部分の樺巻は見



(写真11) 海部拵 3

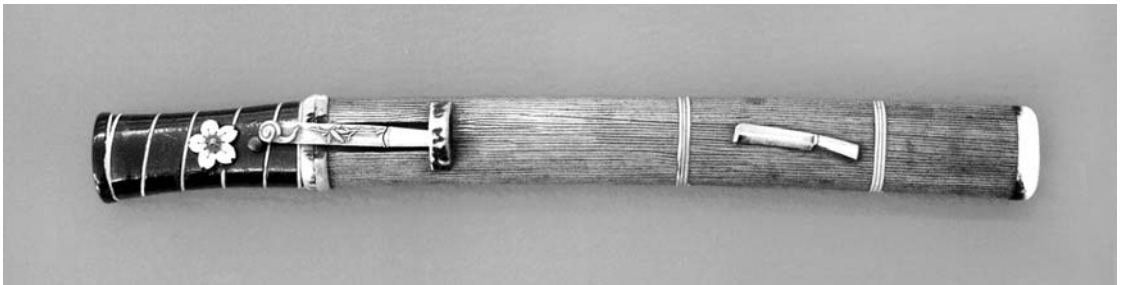
事である。元は大小拵として造られたものという。柄は良質の金具を用いて通常の形態をとりながら、鞘には典型的な樺巻が施されている。中身は刃長二尺五分三厘の片切刃造りの刀で、刀身に「海部住氏吉」、茎に「万治二年八月吉日」の銘がある。

(写真12) は茶人好みの上級品と云ったところで、合口式で頭・鯉口・目貫等はすべて角製である。中身は細身の海部刀、数寄者の好みに応じたものか。雅味豊かな拵になっている。

二 阿波拵

阿波拵は、先に述べた薩摩拵や肥後拵、加えて講武所拵のように全国的に知られたものでなく、本県に現存しながらも先の「海部拵」とも明らかに区別できる拵で、数寄者の間で阿波拵と呼称されている拵のことである。

阿波拵は拵の種類から大別すると、半太刀拵の部類に属し、素見すると



(写真12) 海部拵 4

形は江戸肥後風に見まがうもので、主に下級武士の持ち物であった。金具は主に真鍮地の深金具を用い、文様は粟の穂、水の「泡沫」・千鳥石目地の三つ、加えて二つの文様(粟の穂・泡沫)を昼夜仕立てにしたものもあり、昼夜の場合は銀地金をハンダ付けして境界線を現す。中でも泡沫は、そのはかなさから武士の「死正観」を表したものとする説もある。

金具には在銘のものはまったくない。ただ、本県ではこれらは金工師、阿波正阿弥の余技作、あるいは下級武士の内職仕事によって造られたともいい、よく似た金具は他県にもある。それらは伊予金具とか大垣金具、因州金具、山屋敷金具などと呼ぶが、いずれも正阿弥の末葉が分布する地域である。

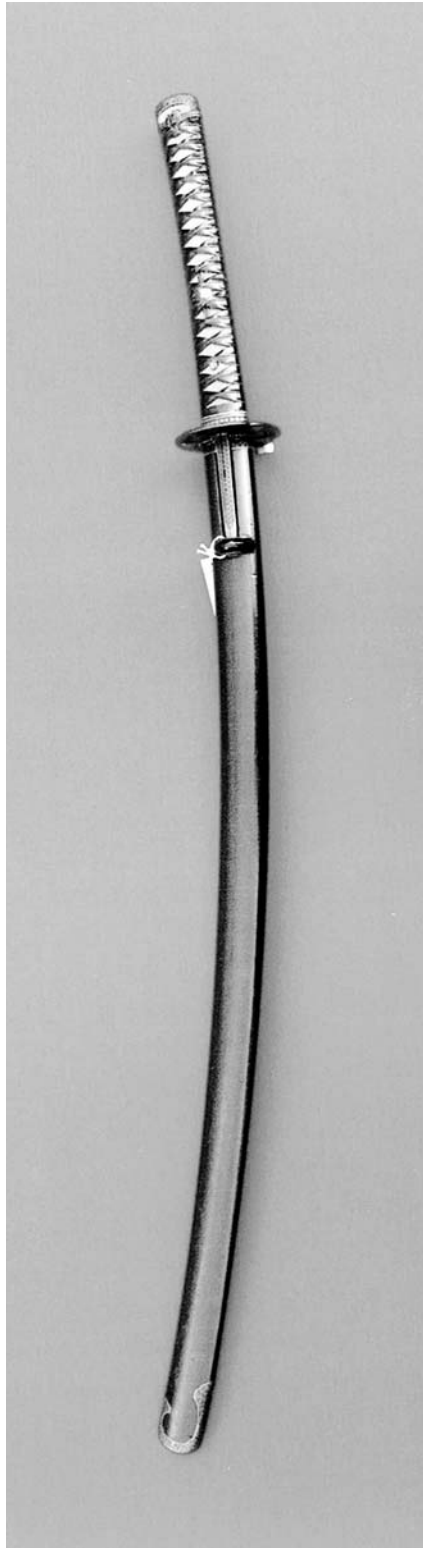
阿波拵の柄の形状は、両立鼓をとり、鮫は黒・白鮫の両者がある。柄巻きは、下紙を多く入れ、諸捻り巻き(片つまみ巻きもある)で、すこぶる頑丈に巻く。特に巻き止め部分の指裏の幅が広いのも特徴の一つである。

鞘の形状は、鯉口と鞘尻の差を付けず武張らせて深鍔が付く。短刀には小柄櫃と笄櫃が穿かれたものが多い。鞘の塗りは主として朱塗地に黒漆を細かく全体に散らし、磨地にしたものが多く、入念なものになると処々に龍や海老等の凶柄を描いたものがある。以下阿波拵関係の事例を紹介する。

(写真13) は、大刀に付けられた阿波拵である。中身は古刀期の鎬造りの海部ものと極わめられる無銘の豪壮な刀。柄は深金具が着けられ珍しく皮巻きで漆を施す。鞘の塗りは黒の石目地で深



(写真14) 阿波拵 2



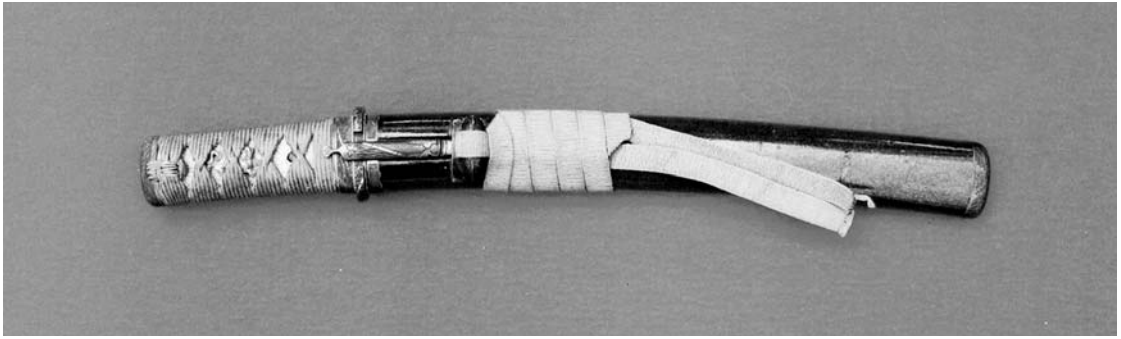
(写真13) 阿波拵 1

鐙が付く。指表には笄櫃が穿たれ、真鍮の阿波物の割笄が納められている。

(写真14) は、同じく阿波拵の大刀の拵である。中身は珍しい片切刃造りの刀が納められ、栗の穂をあしらった深金具が着く。

鞘の塗りは朱塗り地に黒漆を散らした磨地仕立てである。

(写真15) は、短刀に付けられた阿波拵の典型作である。中身は無銘の阿波物。金具は完備されており、真鍮地に栗の穂と泡沫の文様を昼夜彫りにしたもので、鞘には小柄・笄の両櫃が穿たれ



(写真15) 阿波拵 3



(写真16) 阿波拵 3

ている。塗りは朱に黒漆を散らし、それを磨地にしたものである。阿波拵の作風は大小共この一振りに代表される。

(写真16)は、金具を用いない短刀の阿波拵である。中身には、明治二年銘銘を持つ吉川祐芳の平造短刀が納まっている。幕末に活躍した職人によって造られたものと思われるが、合口の部分・頭・鐙は角製で黒漆塗り、鞘は印籠刻みで朱漆がかけられ鞘尻は武張る。筭は付かず、笠井尊護作の共柄小刀が付く。

(写真17)は、阿波拵に付けられた各種の金具である。高度な技術は要さず、数種の鑿(趨い・魚子・千鳥)を打ち込むといった手法で造られたもの。したがって、これら金具の作者は阿波正阿弥説、他に下級武士の内職説もある。

阿波金具の鐙は大きくおおむね武張って見える。江戸詰めの下級武士は、装着されている金具をピカピカに磨きあげ外出した。真鍮は磨き上げると金に似た色を呈するため、すこぶる派手で豪華に見える。

ある酒席で、江戸の貧乏旗本が江戸詰の徳島藩の下級藩士に対し、田舎侍、転じて蛭侍(尻が光る)と比喻したため、口論の末に両者は刀に手を掛け、あわや斬り合いになりかけた。が、同席していた他藩士の仲裁で事なきを得たという話が今に伝わる。

おわりに

二通の古文書がある。一通は、徳島城下の古物町に住んだ柄巻師が書き残したもの、もう一通(写真18)は、徳島藩御用の「御

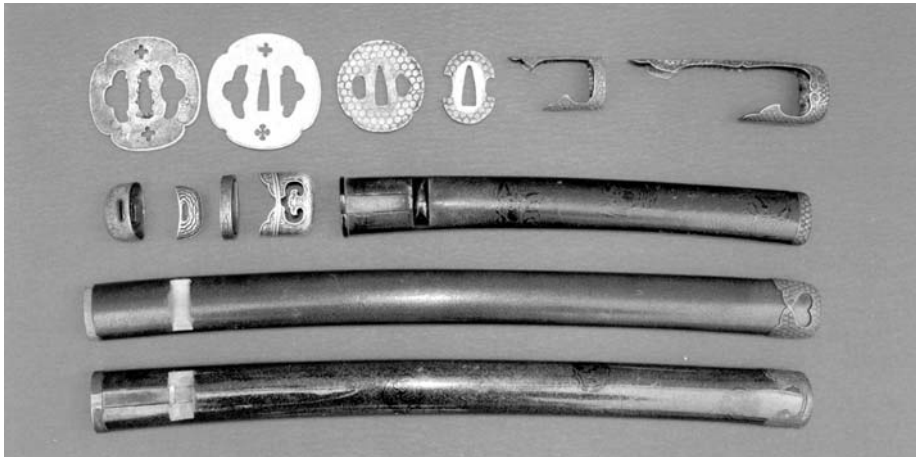
腰物細工所藤村屋」の藤村九郎左衛門（四人御扶持方）が出した外装制作時の見積書である。

前者の冒頭には「柄巻きは、堅からず柔らかかからず、雨降りても緩まず、乾きても縮まず、武家の如何なる好みにも応ずるは、術（剣術）の手の内を知るべし、手の内の妙、術を習いて体得することこれ肝要なり、古物町の弥助如きはその道こうじて目録の腕なり」とあり、柄巻きのノウハウが記されている。

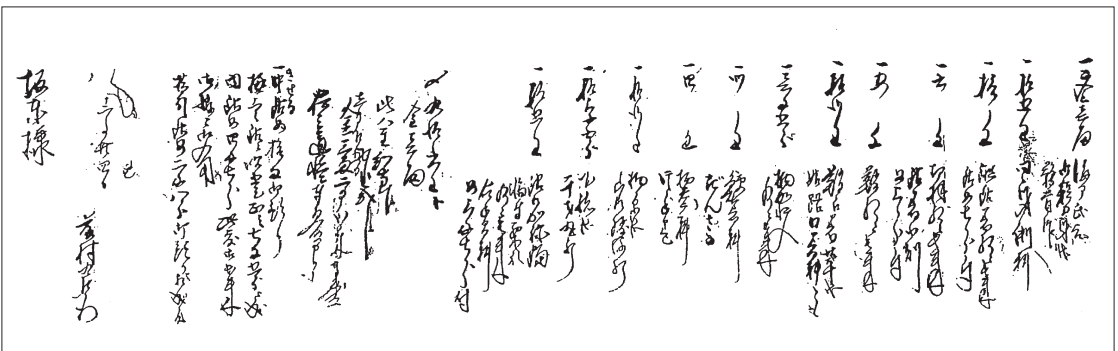
後者の一通には、「俊長御脇差し身摺り上げ目釘穴間料拾匁」「海部氏吉御薙刀身代鶴首造金一両」「三月二十四日 藤村九郎左衛門」等とあり、刀の代金をはじめ、目釘の孔開け、鮫皮の着せ、柄巻など一連の作業内容と加工賃がこと細かく記され、往事の拵造りの状況がよく分かる。

ともあれ、現在では、鍔や縁・鐙等は刀装小道具としてよく研究されるが、それらを総合的にとらえた拵そのものの考察はあまりされていない。特に生ぶの拵を分解して金具だけを桐箱に収め愛好・鑑賞する方々が増えている。誠に惜しい限りで、後補の手が入っていない生ぶの時代拵は大切に保存して、後世に伝えてもらいたいものである。

本稿が刀剣外装の保存・研究の一助となれば幸いである。



(写真17) 阿波拵各種金具



(写真18) 拵工作見積書

大会・行事所感

創部五十周年記念

阿南工業高等学校剣道部史

― 一層のあこう剣志会の発展を ―

前あこう剣志会会長

熊澤 信 行



このたび伝統ある、徳島県立阿南工業高等学校剣道部創部五十年を迎えて、創部以来の

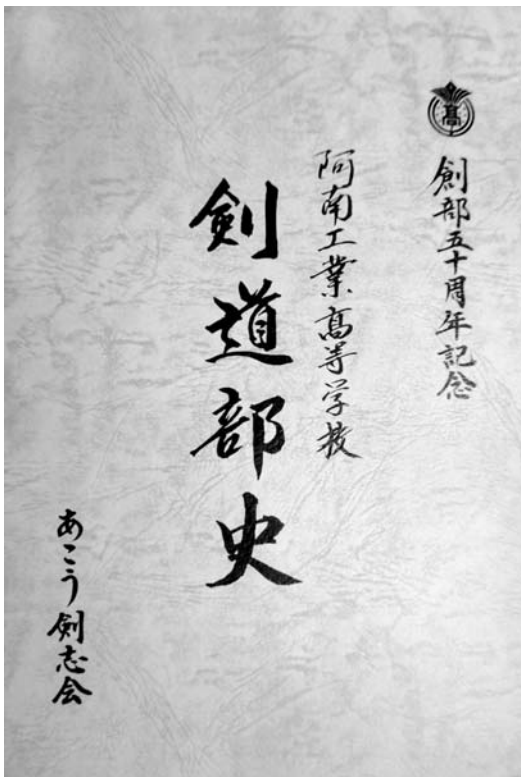
足跡を記念した「阿南工業高等学校剣道部史」を発刊する運びとなりましたことは誠に喜ばしく、かつ大変意義深いことであると思います。

創部五十年間を振り返り、創部三十周年記念史を拝読すると、昭和三十九年、顧問田中幸次先生の御協力により剣道同好会として発足し、創成期の先輩方の練習内容は、

防具が少なく、練習場所もなく校舎内の機械棟で、運動靴を履いての練習が続き大変ご苦労なされたそうです。昭和四十三年五月、剣道同好会顧問に鎌田恵先生を御迎えして、待望の体育館が完成し、昭和四十四年、正式に剣道部として認められました。故範士七段清原栄先生、教士七段遠藤一美先生を師範として御迎えして指導体制を充実するとともに、練習内容も、なお一層強化されたようです。その後の剣道部の軌跡は全国高等学校総合体育大会に十一回出場、全国高等学校選抜剣道大会に四回出場、全国国民体育大会に単独チームとして二回出場し、一回は総合三位入賞の実績を残し、四国高等学校剣道大会には常連校として出場し、四国各県はもとより全国に徳島県立阿南工業高等学校剣道部の名

を知らしめております。これらも、ひとえに歴代の師範の先生と、歴代の顧問の先生方の情熱溢れる御指導や多くの先輩方が後輩への激励と支援の御蔭と感謝しております。また、あこう剣志会員の先輩の中では、徳島県内では数人しか合格者がいない剣道最高段位八段に昇段している米倉先輩と近藤先輩がおられ、あこう剣志会の多くの先輩方は、徳島県剣道連盟の役員、各剣道教室の指導者や教員として剣道修練の場で御活躍されています。

全国国民体育大会に単独チームとして二回出場し、一回は総合三位入賞の実績を残し、四国高等学校剣道大会には常連校として出場し、四国各県はもとより全国に徳島県立阿南工業高等学校剣道部の名



そこで、剣道部創部五十年を記念して、平成二十六年二月十六日に創部五十周年記念式典を開催し、剣道部卒業生二三四名のうち八五名が参加し、阿南工業剣道部道場で、米倉先生と近藤先生が日本剣道形を御披露頂き、現役高校生とあこう剣志会の皆様との稽古会后、式典参加者全員が別会場で祝宴を盛大に挙行政致しました。

そして、剣道部創部五十周年記念として、あこう剣志会の趣旨を御理解頂き、すべての、あこう剣志会員に阿南工業高校カラー青色の「清原栄先生筆 求道」の記念手拭いと、「剣道部史」を送付致しました。今後も徳島県立阿南工業剣道部が尚、一層の躍進と徳島県の高校剣道の伝統高として継続の為に、御指導と御支援の程をよろしくお願い申し上げます。

この「剣道道部史」の発刊を、あこう剣志会の皆様と共に喜び、多くの先輩方の御苦心の跡を偲ぶとともに、今後もお一層のあこう剣志会の発展とあこう剣士会の皆様の御活躍をお祈り申し上げます。



日本剣道形

打太刀 教士八段 米倉 滋 先輩

仕太刀 教士八段 近藤 亘 先輩



鳴門工業高等学校剣道部

OB会の思い出

鳴門工業高等学校剣道部

OB会剣誠会会長

叶井 克典



我が母校、鳴門工業高等学校が閉校して三年になります。私たちの学舎や道場が無くなり

非常に寂しく思っています。私が剣道部を卒業して四十年が過ぎました。昭和五十年にOB会を発足させ、剣誠会と命名し、毎年一月に総会を実施していました。このOB会は、会則もあり、会費も徴収し、会報も発行している、わりときちんとした会なのです。それと、総会の前には稽古会を実施し、昔は現役とOBとの対抗戦があり盛り上がったものです。この稽古会は、閉校後も続いています。母校道場に飾ってあった「一生稽古」の書と同じで、卒業後剣道を続けているOBも少なくありません。

OB会の主な活動は、後輩の支援と会員の懇親であり、総会では活動報告や後輩の戦績と会計報告がなされ、その後、新会員の紹介と懇親会が催されます。この懇親会は当然酒席ですので、毎年同じような内容の思い出話で盛り上がります。当然のように剣道の試合のことが持ち出され、「あの大会で勝った・負けた、だから団体戦で勝った・負けた」等、みんな勝負師になったように昔を思い出し、楽しく杯が増えます。

また、私が大学生になっても長期の休みに母校へ稽古に行っていた時のことも暴露されることがあり、その話は毎回のように出てきます。それは、剣道部に在籍していた私の弟に他の部員が「今日の稽古に兄貴は来るのか」と毎日確認し、「二日酔いのようなので今日は来ないだろう」と噂しているところに、私の乗った車が道場から見えたときのショックは大変大きかったというものです。杯を交わしながら弟の同級生からその話が出てきた時は、こちらのほうがショックが大きく、杯が増えてしまったのは言うまでもありません。そして、その

時代の夏合宿は、先輩たちの参加が多く（元立ちが多く）、食事も喉を通らないほど非常に厳しい稽古だったと。そんなに厳しかったかい？後輩たちよ。

また、OB会発足二十年の時の記念大会では、鳴門工業高等学校の体育館に鳴門市近隣の中学生を招待し、剣道大会を実施しました。この計画運営はOBが受け持ち、無事に終了でき、剣誠会の団結力の強さを実感しました。母校の閉校が決まったときも鳴門工業高等学校閉校記念剣道大会を行うことになり、実行委員会を設置・計画し、平成二十四年二月十一日（土）に実施しました。このときも多くの方に参加いただき、剣誠会会員の力で無事にやりきることができ、最後にいい思い出となりました。

この閉校記念大会を実施した後も、剣誠会（OB会）を行っています。今までと違うことは、剣誠会総会、新会員紹介や会報の発行がなく、懇親会中心になっていることです。毎回顔を見せてくれる人やその時々に参加してくれる人で、いつも話が盛り上がり楽しいひとときを過ごすことができ

います。今後も、みなさんとの楽しいひとときを継続していきたいと思えます。

最後に、OB会でよく試合のことが話題に上るのでこの機会に鳴門工業高校剣道部の戦績等を紹介し、終わりといたします。

〈鳴門工業高校剣道部の戦績〉

昭和三十七年

鳴門工業高等学校設立認可

昭和三十八年

開校式・入学式挙行

剣道部創部 鳴門警察署道場にて稽古を

始める

昭和四十一年

体育館竣工

体育館一角にて稽古を始める

昭和四十二年

第十三回四国剣道選手権大会に出場

川野秀雄

昭和四十四年

武道館竣工

昭和四十七年

第六回徳島県高等学校剣道選手権大会

昭和四十八年

徳島県高等学校武道大会

第三位入賞

第十九回四国剣道選手権大会に出場

中山 登

昭和四十九年

徳島県高等学校総合体育大会剣道競技

個人優勝 叶井克典

優秀選手受賞 叶井克典

第二十回四国剣道選手権大会に出場

叶井 克典

第二十回全国高等学校総合体育大会剣道

競技出場 叶井克典

昭和五十一年

武道館開館記念大会 準優勝

第十回徳島県高等学校剣道選手権大会

準優勝 叶井克彦

昭和五十四年

第十三回徳島県高等学校剣道選手権大会

準優勝 早川 徹

昭和五十五年

OB会「剣誠会」設立

昭和五十六年

第二十六回四国剣道選手権大会に出場

岡野いっ子

昭和五十七年

徳島県高等学校総合体育大会剣道競技

個人準優勝 岡野いっ子

第十七回四国剣道選手権大会に出場

岡野いっ子

第二十八回全国高等学校総合体育大会剣

道競技出場 岡野いっ子

昭和六十一年

第二十回徳島県高等学校剣道選手権大会

準優勝 松田憲治

昭和六十二年

徳島県段別選手権大会(初段の部)

準優勝 高田勝弘

平成四年

徳島県高等学校武道大会

第三位入賞

平成六年

第四十五回四国剣道選手権大会に出場

畠田 元

国体四国ブロック大会に出場

夢田 元

徳島県剣道連盟優秀選手受賞

夢田 元

平成十一年

「剣誠会」創立二十周年記念剣道大会開催

平成十五年

第三十七回四国剣道選手権大会に出場

仁科由希

国体四国ブロック大会に出場

仁科由希

徳島県剣道連盟優秀選手受賞

仁科由希

平成二十二年

徳島県剣道連盟優秀選手受賞

田中湧大・入江健太

平成二十四年

鳴門市立鳴門工業高等学校閉校記念剣道大会開催

鳴門市立鳴門工業高等学校閉校

なお、叶井克典さんは平成二十五年十一月の鳴門市議会議員選挙に立候補され、みごと当選されました。現在は生活福祉委員会で副委員長をされておられます。



各種大会に参加して

第三十六回全国スポーツ

少年団剣道交流大会

監督 有松 伸也

平成二十六年三月二十八日～三月三十日、石川県金沢市「いしかわ総合スポーツセンター」にて全国スポーツ少年団剣道交流大会が開催されました。

まず、最初に簡単に選手団の紹介をしたいと思います。

徳島県選手団

監督 有松 伸也 (小松島少剣)

団体戦 (小松島市)

先鋒 松田 宙大 (小松島少剣)

チームの切り込み隊長、乗せる

と頼もしい存在。得意技は面？

次鋒 田村 眞尋 (和田島少剣)

思い切りのいい、飛び込み面と

引き技が持ち味。

中堅 岩原 潤哉 (小松島少剣)

五年生ながら落ち着いた試合運びと打ってよし返してよし。

副将 檜田 胡桃 (小松島少剣)

切れ味鋭い飛び込み面は全国級

大将 松山 知樹 (小松島少剣)

思い切りの良さで運動量はチーム一、返し面、返し胴は絶品

中学男子 西條 賢太 (佐古剣道ク)

小柄ながらスケールの大きい

剣道で落ち着きがあり、勝負強い。

中学女子 長谷川 珠実 (小松島少剣)

昨年ベスト八で周りから注目

される存在、技のバリエーションが豊富

予選会が終わり、小松島少剣の青木先生

より監督のバトンを受け、私の貴重な興奮

する体験が始まりました。大会への手続き、

合同稽古会や練習試合の日程調整、交通手

段の手配、表敬訪問など青木先生、谷本先

生、岩原先生、保護者の方々などたくさん

のご支援があり準備が整いました。ありがとうございます。

とうございます。

いよいよ大会二日目、団体戦予選リーグが始まりました。初戦の相手は長野県。緊張のせいか最初は硬かったが徐々に個々にペースを掴み相手に一本も取られず、快勝しました。二戦目は二連覇中の京都府です。強豪相手にも一人一人が自分の剣道をして特に次鋒田村選手と副将檜田選手の活躍で京都府に競り勝ち、予選リーグを突破しました。大将戦で試合終了の笛が鳴った瞬間会場がどよめいたような気がしたのは私だけでしょうか。

中学校の個人戦では西條選手が危なげなく予選リーグを突破し、決勝リーグに進出しました。長谷川選手は代表決定戦の末、惜しくも決勝トーナメントには進めませんでした。お互いに譲らない膠着した試合となりました。お互いに譲らない膠着した試合となりましたが、相手の打ったコテが旗三本あがり勝負あり。私の角度からは当たっているようには見えず、本人に確認しても竹刀の柄に当たったと聞きました。正々堂々と真っ向勝負の素晴らしい試合でした。いよいよ大会最終日、中学生個人戦は西

條選手が新潟代表選手に敗れましたが、ベスト一六（敢闘賞）入賞。団体戦は決勝トーナメント一回戦富山県。先鋒、中堅を先取され追い込まれましたが、副将、大将でタイに戻し、代表戦で大将松山選手が十五分にも及ぶ延長の末、返し胴で準々決勝進出を決めました。準々決勝は昨年二位の岡山県。五人が自分の剣道をしてすべて出し切りましたがロースコアの〇―一で敗退し、ベスト八（敢闘賞）で団体戦を終了しました。試合後、サブコートにて団体チームの解散式を六人で行いましたが、選手全員がみせた涙のむこうには、これからの新たなステージでの活躍を約束してくれるものだと感じました。

徳島代表選手と過ごした四日間、選手たちの正々堂々と戦う姿に感動し、貴重な思い出に残る大会となりました。大会参加にあたり、たくさんの方々からご支援ご協力をいただき心より感謝しております。来年の埼玉大会で徳島県チームの今年以上の成績を期待し、筆をおきたいと思います。ありがとうございました。

予選リーグ2 試合目

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
小松島	松田	田村	岩原	檜田	松山		2 — 2
		⊗一本勝		⊙一本勝			
京都府	⊗高宮城						1 — 1
		井波	福井	松木	片山		

予選リーグ1 試合目

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
小松島	松田	田村	岩原	檜田	松山		7 — 4
	⊗メ	⊙	⊙メ	⊗メ			
長野県					▲		0 — 0
	上條	飯塚	小口	宮下	森腰		

決勝トーナメント 2回戦（準々決勝）

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
小松島	松田	田村	岩原	檜田	松山		1 — 0
				メ			
岡山県	メ⊗						3 — 1
	宮の内	藤田	岩本	⊗久戸瀬	重松		

決勝トーナメント 1回戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	
小松島	松田	田村	岩原	檜田	松山	松山	3 — 2代
				⊗	メメ	ド	
富山県	⊗						3 — 2
	篠原	鍋嶋	⊗金崎	中川	⊗加賀谷	▲加賀谷	

個人戦

男子個人予選リーグ（二勝二分）

西條 ③メーメ 杉原（静岡）

西條 × 許田（沖繩）

男子決勝トーナメント

西條 | コメ 相場（新潟）

女子個人予選リーグ（二勝一分）

長谷川 ドコ | 鈴木（山形）

長谷川 × 塚本（奈良）

予選リーグ代表決定戦

長谷川 | コ 塚本（奈良）

東日本大震災復興支援「とけよう スポーツの力を東北へ！」

平成26年3月28日(金)~30日(日)
いしかわ総合スポーツセンター

第36回 全国スポーツ少年団 剣道交流大会

- 主催 公益財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団 全日本剣道連盟 公益財団法人石川県体育協会石川県スポーツ少年団 石川県剣道連盟
- 主管 第36回全国スポーツ少年団剣道交流大会石川県実行委員会
- 支援 独立行政法人日本スポーツ振興センター
- 後援 文部科学省/石川県教育委員会
- 協力 公益財団法人スポーツ安全協会

スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター
この事業はスポーツ振興基金助成金を受けて実施しております。



全国高等学校

剣道選抜大会に出場して

城北高等学校 中 川 拓 弥

私たちは平成二十六年三月二十七日、二十八日に、愛知県春日井市で開催された第二十三回全国高等学校剣道選抜大会に出場しました。全国大会に出場し、予選リーグを突破することを目標としていたのでこの大会に出場することができ本当に嬉しく思いました。

私たちは今回の全国大会に出場するため強い思いがありました。それは昨年選抜大会とインターハイの出場を逃したことです。この悔しい思いから、「先輩方のためにも自分たちの代は絶対に全国に行く。」と決意し、日々の稽古に励んできました。それだけではなく、厳しい合宿や練習試合に参加したり、自主的に早朝練習に取り組んできました。また、福多先生の「文武両道」の教えをモットーとし、限られた練習時間の中で必死に取り組んできました。日

常生活にも心掛け精神的にも成長することができました。その成果として選抜大会県予選では粘り強い剣道をし、チームで優勝を勝ち取ることができました。

そして全国大会当日、会場には独特の雰囲気があり、開会式が始まると共に緊張感が高まりました。予選リーグでは新潟県代表新潟第一高校と熊本県代表九州学院高校と対戦しました。第一試合は新潟第一高校との対戦でした。いつもの力を出せば互角に戦うことができた相手でしたが、〇―二で敗れてしまいました。二試合目は九州学院高校との対戦でした。九州学院高校は昨年度優勝校でありましたが、もう後がない私たちは「挑戦する。」という気持ちで試合に臨みました。しかし、〇―四で敗れ予選リーグを突破することができませんでした。全国の舞台で一本もとれなかったという悔しさと自分たちの剣道をする事の難しさを痛感しました。もう一度全国の舞台に戻ってきて勝ちたいという思いが一層強くなりました。選抜大会に出場したことで新たな課題を見つけ出すことができ、夏の

インターハイにむけてのよい経験をすることができました。

私たちがこのように剣道を続けられているのも福多先生をはじめ川原先生、西谷先生の熱心なご指導や保護者からの応援があったからだと思います。特に先生方からは剣道の技術面だけでなく、生活面についてもご指導していただきました。また、厳しい稽古の中でも互いに声をかけ合い、助け合った仲間のお陰でもあります。このめぐまれた環境で私たちが剣道をできているということを当たり前だと思わず、感謝をしなくてはならないと実感しました。これらの経験を忘れず、これからも剣道を続け人生に活かしていきたいです。本当にありがとうございました。

予選リーグ

第一試合

城北 〇―二 新潟第一（新潟）

第二試合

城北 〇―四 九州学院（熊本）

第三試合

新潟第一 〇―四 九州学院

（なお、優勝は九州学院高校でした。）

全国高等学校

剣道選抜大会に出場して

徳島文理高等学校

川原 眞実



平成二十六年三月二十七日から二日間、愛知県春日井市で行われた、第二十三回全国高等学校剣道選抜大会に出場しました。一月

に行われた県予選は二連覇を目標にしましたが、そうやすやすと勝たせてくれる相手ばかりでなく、とても厳しい戦いの連続でした。決勝戦では、大将戦までもつれこみましたが僅差で勝利することができました。それは「もう一度選抜大会の舞台に立ちたい。」というチームの気持ちが一つになったから実現できたことだと思います。私たちは中学、高校と一貫教育校です。チームのメンバーは中学校からほとんど変わっていません。そのため他の学校より多くの

時間を共に過ごし、深い絆が芽生え、互いを信頼し合う気持ちがあったからこそ、この容易ではない壁を突破できたのではないかと思います。

そして迎えた選抜大会。全国大会独特の雰囲気の中で、決して全国のトップクラスとはいえない実力ですが、徳島県代表として全力を尽くし悔いの残らない試合をしようとして、声を掛け合い試合に臨みました。

予選リーグ一試合目は、山梨県甲府商業高校でした。文理らしく粘りのある試合で、先鋒から副将まで全員が引き分けて、大将の私に回ってきました。すでに甲府商業は予選リーグの一試合目に勝利していたため負けるわけにはいきませんでした。甲府商業の対戦相手は中学校時代から何度も全国大会に出場している選手で、実際に戦ったこともありました。一本を取ることに集中して攻めていったものの、簡単には打てず引き分けとなりチームの対戦も引き分けとなりました。

続く二試合目は、大分県大分高校との対戦でした。勝利すれば予選リーグ突破の可

能性もあり、互いに指摘し合い、気合を入れ直しました。先鋒は、果敢に攻め込み相手を圧倒していましたが一本を取りきれず引き分け。次鋒もよく攻め込んでいましたが、一瞬の隙をつかれ一本負け。続く中堅は、自分のペースで試合をして引き分け、副将、大勝に繋がりました。副将は挽回しようとして攻撃しましたが、相手の選手も上手く隙をつかれ二本取られてしまい勝敗がついてしまいました。大将戦は、たとえチームが負けてしまっても、この全国の舞台で勝利して帰りたいという思いで全力で挑み、何とか勝利することができました。結果的には予選リーグ敗退という悔しい思いをしました。

選抜予選の直前、このメンバーで試合をするのはこれが最後かもしれないという話をしました。進学校であり受験の為にこれから勉強を中心にしなければならぬメンバーもいたからです。最後になるかもしれない試合、その試合を一試合でも多く一緒に戦いたいという一心でした。嬉しさも悔しさも共に味わった仲間は、私にとって唯

一無二の存在です。剣道を通して多くのことを学び成長できたと思います。これからもこの経験を糧に日々精進して参ります。熱心にご指導して下さった先生方、応援して下さい。保護者の皆様、そして支えてくれた両親に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



全国高等学校

剣道大会に出場して

城北高等学校 西 條 翔 太

私たち城北高等学校剣道部は、八月一日～四日に神奈川県小田原市で開催された第六十一回全国高等学校剣道大会に出場することができました。時は三月に開催された全国高等学校選抜大会に廻ります。私たちは徳島県代表としてこの大会に出場しましたが、全国の強豪校を相手に自分たちの本来の力を出すことができず悔しい思いをしました。

新年度を迎え、私たちは「もう一度全国の舞台に出て、今度こそ勝つ」という思いを部員一人一人が持って日々の厳しい稽古に取り組みました。

県総体では、これまでの練習の成果とチームの仲間を信じて試合に臨みました。一回戦から苦戦が続きましたが、それぞれの役割をこなしていき、私たちの目標であり、夢であった全国大会出場のために全員が無

我夢中で試合をした結果、全国大会への切符を勝ち取ることができました。県総体後は全国大会で予選リーグを突破するという目標を掲げ、これまで以上に練習に真剣に取り組みました。

そして迎えた全国大会の開会式、独特の雰囲気味わいながら、全国の舞台に出場して試合ができることの喜びを噛みしめながら入場行進をしました。

私たちが出場する団体戦は三日目に行われました。団体戦は三校リーグで私たちの相手は岩手県代表の盛岡第一高校と石川県代表の羽咋高校です。第一試合目は盛岡第一高校と対戦しました。全国で勝つという思いとは裏腹に緊張していたということもあり、〇―一で負けてしまいました。二試合目の前にもう一度チームで声をかけ気持ちを切り替えて羽咋高校との試合に臨みました。結果は一―一でしたが、本数で上回っていたので勝つことはできましたが、目標であった予選リーグを突破することはできませんでした。残念な結果でしたが、この最高の舞台で最高のチームの一員として試

合ができたことを私自身、大変嬉しく思っています。

私たちが全国大会に出場して試合をすることができたのも、日々の稽古で時には優しく時には厳しく熱い指導をしてくださる福多先生、川原先生、前監督の西谷先生をはじめ、私たちを応援し、支えてくださった保護者の方々、熱く応援してくださる先輩方、そして、日々の稽古で汗を流し、共に歩んできた城北高校剣道部の部員のおかげです。このような素晴らしい方々と共に剣道をすることができ、私は幸せ者だと思っています。この貴重な経験を活かし、私自身さらなる飛躍を目指し日々精進していきたいです。目標に向かって仲間と努力してきた日々を私は一生忘れません。本当にありがとうございました。

予選リーグ

第一試合

城北 〇―一 盛岡第一(岩手)

第二試合

盛岡第一 三―一 県立羽咋(石川)

第三試合

城北 一―一 県立羽咋

(本数勝ち)

盛岡第一高校が決勝トーナメントに進出



インターハイに出場して

富岡東高校剣道部主将

小川 桐花

二年前に新潟で行われたインターハイ。その時は二階の観客席で先輩の応援をしていました。結果はベスト八でした。間近で先輩のたくましい姿を見て、私も全国の舞台で戦いたいと強く思いました。しかし、県予選を突破できず全国大会に出場することができませんでした。その悔しさをバネに日々の稽古に一生懸命取り組んできました。その他には自主練をする、食生活を見直すなどということを始め精神面、肉体系をさらに鍛えていきました。県総体当日は、緊張もありましたが、チーム一丸となって試合を楽しむことができ、全国への切符を手にすることができました。

平成二十六年八月二日から四日にかけて神奈川県の小田原アリーナで第六十一回全国高等学校総合体育大会が行われました。三年生は全員、中学・高校を通じて全国の

舞台に立つのは初めてでした。また、このチームで全国で戦うのも最初で最後でした。私たちの目標は「予選リーグ突破・試合を楽しむ」でした。予選リーグの相手は栃木県代表の矢板中央高校と三重県代表の鈴鹿高校でした。初戦の矢板中央高校は先鋒が勝利を収めチーム全体が勢いづき、五〇〇で勝つことができました。二回戦は鈴鹿高校、初戦快勝することができた私たちは緊張より、楽しみという気持ちが入っていました。先鋒一本負け、次鋒引き分け、中堅二本勝ち、副将引き分け、大将二本勝ちと勝つことができました。先鋒が取られても次鋒から相手のペースに持ち込まれることなく落ち着いて自分たちの剣道をすることができました。そしてチームの目標であった「予選リーグ突破」を達成することができました。

決勝トーナメントの相手は和歌山県代表の和歌山東高校でした。和歌山東高校とは練習試合を何度もしていたため、ある程度相手の手の内を知っていましたが同時に、相手も私たちの手の内が分かっていたと思

います。練習試合ではいつも競った試合で、あと一步の所で負けてしまうことが多かった相手です。今度こそはという気持ちで試合に臨みました。先鋒、最初に取られ、取り返すことができたが、もう一本取られ負け。続く次鋒、中堅、副将と引き分け。大将一本負けでした。惜しい場面はたくさんありましたが一本にする力、気迫や声はまだだだったのだと思います。結果はベスト一六でしたが、目標である試合を楽しむことが出来ました。

昨年六月からキャプテンを任された私は、みんなをまとめる力も引っ張っていく力もなく不安でした。同級生同士ぶつかることは何度もありました。でもその度に悪い所は減っていく、良い方向に向いていったと思います。みんなが逃げることなく同じ目標を持つことでチームワークはさらに深まったと思います。そして最後は全国の舞台で試合することができ最高の思い出ができました。長井先生をはじめ、熱心にご指導してくださった先生方、OB・OGの方々。一番支えてくれ、見守り応援してくれた保

護者。そして辛い時も嬉しい時も一緒に過
 ごした仲間。剣友。本当にありがとうございました。
 いました。



第四十四回全国中学校 剣道大会に参加して

阿南第一中学校剣道部

顧問 福多博史

第四十四回全国中学校剣道大会が高知県民体育館で盛大に開催されました。この大会に男子団体と女子個人に参加させていただきました。今までご支援・ご指導していただいたすべての方々に心からお礼と感謝を申し上げます。

今回、八年ぶりの四国開催となり、徳島県選手団も上位入賞を目指し、強化に取り組んできました。男女団体戦では惜しくも予選リーグで敗退し、決勝トーナメントに進むことができませんでしたが、個人戦では阿南一中の山崎選手がベスト八、敢闘賞を受賞することができました。また、男子個人戦では石井中学校の西條選手がベスト一六に進出することができました。今回の大会を通して、徳島県の中学生の課題や全国レベルを肌で感じることができました。

大会期間中、競技役員として参加されていた徳島県の先生方から温かいご声援をいただき、とても心強く思いました。今後とも徳島県の中学剣道発展のため微力ではありますが、頑張っていきたいと思えます。

女子個人

二回戦

山崎 舞 メメ

青木萌子（愛知中 滋賀県）

三回戦

山崎 舞 メ

山本千裕（みよし北中 愛知県）

四回戦

山崎 舞 コ

菊川ともみ（東京学館浦安中 千葉県）

準々決勝

山崎 舞

小堀桃佳（神栖第二中 茨城県）

男子団体予選リーグ

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
阿南第一中（徳島）	木内	平田	田上	西名	朝田	0	2
		コ	メ				
旭東中（岡山）	メド	メ	メ		ドコ	2	6
	川上	中原	妹尾	山本	幡中		

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
阿南第一中（徳島）	服部	平田	田上	西名	朝田	2	4
				メコ	メメ		
石田中（沖縄）						0	0
	當銘	与那嶺	屋比久	金城	白玉		

第四十四回全国中学校 剣道大会に参加して

阿南第一中学校

朝 田 智 輝

「全中出場」それは僕が中学校へ進学する前からの目標でした。その目標に向かって阿南第一中学校へと進学し、僕の目標は剣道部全員の目標となりました。部員全員が一丸となり、福多先生の指導の下、ほとんど休みのない厳しい稽古に励みました。技術面だけでなく精神面の強化にも取り組み、最後の夏に念願の全中出場を決めることができました。徳島県予選での徳島中学校との決勝戦はとてぬ厳しい試合で、副将が奪った一本のリードを何とか守りきっての勝利でした。終わった瞬間、勝った喜びよりもほっとした気持ちの方が大きく、表彰式で徐々に嬉しさがこみ上げてきました。そして、全中では徳島のみんなのためにも代表として恥ずかしくない試合をしようと思ひ、全中までの短い期間の稽古を今まで

以上に集中して取り組みました。

今年の全中は平成二十六年八月十七日から十九日、「若人と 蒼き四国で 熱くなれ」のスローガンのもと、隣の高知県立県民体育館において開催されました。大会二日目の十八日、団体戦予選リーグが始まりました。

一試合目は岡山県の旭東中学校との対戦でした。先鋒が二本取られ、次鋒から副将までが引き分けて大将戦になりました。僕は二本取り返して代表戦に……と思ひ攻めましたが胴を先取され、その後面を打たれて二本負けでした。この試合、僕は夢の大舞台に立った緊張からか全員がいつもの自分の剣道ができず、悔しい思いが残りました。その後次の試合で、旭東中学校が沖縄県の石田中学校に勝ったので僕達の予選リーグ突破はなくなりました。

二試合目の石田中学校との試合では、全員が気持ちを切り替え、全国大会一勝を目指して自分達の剣道をしようと思ひ、果敢に攻めました。その結果、先鋒か



第44回 全国中学校剣道大会 H26. 8/17~19

全国中学校

剣道大会に出場して

那賀川中学校 西岡 彩芽



「全中へ行く!」

希望を胸に私は入学しました。そして私たちの最後の

全国大会は平成二

ら中堅までは惜しくも引き分けてしたが、副将が面とコテの二本勝ち、僕も得意の面で二本勝ちを決める事ができました。結果は予選リーグ敗退でしたが、全中に参加でき、全国レベルの試合を肌で感じ観戦することができたことは、僕達のこれからの剣道にとって大きな財産になったと思います。最後にになりましたが、僕達と一緒に毎日防具を着けて稽古をし、ここまで導いてくださった福多先生、色々な面で支えてくださった保護者の方々、本当にありがとうございます。そして、阿南第一中学校で出会った仲間達は僕の宝物です。高校進学で別々の道に進みますが、これからも互いに阿南第一中学校で学んだことを忘れずに頑張っていこうと思います。

十六年八月十六日から十九日、高知県で開催されました。数多くの遠征や全国規模の大会で強豪校と戦い、チームとしてある程度手応えも感じていました。組み合わせは大変厳しいもので、九州チャンピオンの玄洋中(福岡)や優勝候補の燕中(新潟)などと同じ、各ブロックの優勝チームがひしめくゾーンに入ることになりました。

仲間と共に戦う最後の試合。長いようで短かった中学校で剣道に取り組んだ時間。苦しいことや楽しいこと、剣道を通して学んだ「友情」「感謝の気持ち」、全てをこの

試合で出し尽くしました。結局、予選リー

グ一分け一敗で私たちは結果を残すことができませんでした。私はキャプテンとして「自分の責任」を感じていました。チームワークを大切にして一生懸命支えてくれた同級生や後輩に感謝すると同時に、やはり「あともう少し」の悔しさも味わいました。

私の「全中に行く!」という目標は、すばらしい環境のもと、三年連続でかなえることができました。しかし、三度とも自分の結果を出せなかったことはぜいたくな心残りです。全国規模の大会に参加したり、たくさんの強豪校と交流したり、本当に恵まれた経験をやる中で、それが「当たり前」になっていたのではないかと反省しました。そこに「自分たちの甘さ」がなかったかと思いました。

那賀川中学校に入学して三年間、剣道を通して多くのことを経験し、仲間の大切さ、自分を支えてくれる多くの方への感謝の気持ちなど、たくさんのことを学ぶことができました。ここまで私たちが頑張ることができたのも、齋先生や松葉先生、副顧問の郡先生、講師の山田先生をはじめ、ご

女子団体予選リーグ

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	成績
生保内 (秋田)	小野	草薙	田口	黒沢	黒沢	2勝 (3)
		メ		ココ		
那賀川 (徳島)				メ		(1) 0勝
	西岡	朝田	檜田	大城	坪井	

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	成績
嬉野 (三重)	玉野	笹井	中西	酒井	小田	1勝 (1)
				メ		
那賀川 (徳島)			ド			(1) 1勝
	西岡	朝田	檜田	大城	坪井	

指導をいただいた全ての先生方のおかげです。また、支えてくださった先輩方や保護者の皆さんにも心から感謝しています。そして、一緒に頑張ったチームメイトは私の一生の宝物です。

これからも私は剣道を続けます。全中の悔しさと自分を支えてくださっている多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、日々成長していきたいと考えています。



第五十六回全国教職員

大会に参加して

大将 木原資裕



台風直撃の中で

本大会は平成二十六年八月十日、高松市総合体育館で行われました。四国地区での大会であるため、徳島県も地元香川県とともに開催準備とチーム強化を進めていた目標の大会でもありました。

しかし、折しも台風十一号が香川県を直撃し、大会前日の九日には、至る所で道路の通行止め、JRや瀬戸大橋も運休となる大荒れの天候となってしまいました。私自身、高松への出発前夜、自宅で天気予報を見ながら、これでは大会開催はできないので本部から中止連絡が入るものと予想しておりました。ところが、本部よりの連絡は強行開催とのこと、大会関係者が苦渋の選

択をしたものと思えました。

徳島からは三台の車に選手・監督・審判が分乗し、それぞれ最寄りの地域から高松の宿舎ホテルを目指すことになっておりました。私の住んでいる鳴門からは通常一時間で高松へ行けるのですが、高速道路は通行止め、下道の国道も海岸線で通行止め、川沿いの県道も冠水しているところが至る所で道路の通行止めとなっており、このままでは、高松に到着できないのではないかと不安になりました。しかし、何とか、通行止めを迂回しながら、四時間がかりで宿

舎ホテルに到着することができました。四国の徳島から行くのにもこんなに大変なのですから、四国以外の都道府県からの香川入りは当然できないチームもあるのではないかと、不戦勝の試合が多発するのではないかと思われました。

しかし、大会当日の開会式では、すべての都道府県チームが勢揃いしていました。大阪チームの友人に「台風の中、よく香川に来れたね。」と声をかけると前日ではなく、前々日に香川入りし、大会が終わってももう一泊してから、帰路に就くとのことでした。他の遠路からのチームも同様の対応をしていたものと思われず。ただ、台風による警報が出ている関係で、会場補助員に予定していた高校生は使えず、すべて、香川県の教職員が総出で会場運営に当たるという体制となっていました。

徳島県チームメンバー決定

徳島県チームのメンバー決定にあたっては平成二十六年六月八日に城北高校にて予選会を実施し、以下のメンバーが決定しま



した。

監督 福多雅英(城北高等学校)

《団体》

先鋒 林 義直(木頭中学校)

次鋒 大石真也(鳴門高等学校)

中堅 佐々木和人(阿南工業高等学校)

副将 玉田晋作(徳島文理高等学校)

大将 木原資裕(鳴門教育大学)

《個人》

幼・義務教育の部

松本真治(鷺敷中学校)

高・大・教委の部

大石哲生(城ノ内高等学校)

女子の部

前田奈々枝(穴吹小学校)

善戦の徳島県チーム

団体戦の組み合わせの発表があった時、一回戦が福岡、それに勝つと二回戦が神奈川県、ともに強豪県であり、勝ち上がるのは難しいと思われました。

○一回戦 徳島 4-2 対 3-2 福岡

先鋒・林選手が軽快な動きから、メン

とコテの二本連取。次鋒・大石選手は思い切った技をしかけながらも有効打にならず、引き分け。中堅・佐々木選手は十分と思われる相手からのメンを一本と判定され、一本負け。副将・玉田選手は佐々木選手のうっぶんを晴らす気迫のコテの一本勝ち。大将・木原は二本負けをしなければ、チームが勝てる状況で、一本先取された後の面抜き胴で一本を取り、チームの勝ちが確定。

○二回戦 徳島 5-2 対 4-2 神奈川

初戦では軽快な動きを見せた先鋒・林選手が、まさかの二本負け。続く次鋒・大石選手もメンを先取され、コテを返したものの、勝負でコテを取られ、後がない状況。中堅・佐々木選手の相手は神奈川県警のレギュラーから教員に転身し、二年前の全日本選手権大会にはベスト八まで勝ち残り、優秀選手となった朝比奈選手。長身ががちりした体格からパワー溢れる剣道で押しつけてくる中、有効打突に取られてもしかたないような打突を受けながらも、必死に凌いで引き分け。副

将・玉田選手の相手は、岡見八段ではあったものの、どちらが八段かわからないような姿勢態度のなから、気迫溢れるメンで、一分少々で二本勝ち。この玉田選手の本勝ちで、流れが徳島に来ていることを実感。大将・木原の本勝ちで徳島の本数勝ちとなる中、運良く、面抜き胴と攻めての小手が決まり、二本先取で、三回戦進出。

○三回戦 岡山 3-1 対 3-1 徳島

さい先よく、先鋒・林選手の本勝ち。しかし、次鋒・中堅・副将戦が接戦の末、すべて引き分け。大将戦での勝負となるものの、相手は原八段。大将・木原が開始早々に放った攻めての小手が手応え十分の打突となり、一本先取。

これで勝てると思っていたところへ、原八段に諸手突きを決められ、さらにつばぜり合いからの引き面(軽いと思ったが……)をとられ、代表決定戦となる。代表決定戦は引き分け者の中での抽選により選手が決定する。抽選の結果、中堅戦の再戦一本勝負となる。岡山・佐々木



健太郎選手対徳島・佐々木和人選手、奇しくも佐々木姓同士の対決となる。岡山・佐々木健太郎選手はこの大会後の九月に島根県で行われる全国東西対抗剣道大会に岡山代表で出場予定の強豪選手。しかし、我が徳島の佐々木和人選手は果敢に攻めて優勢に試合を進めていたが、私が

原八段にとられたと同様のつばぜり合いからの軽い引き面が有効打となり、徳島の快進撃はベスト十六で終了となる。

個人戦の成績

個人戦では各選手、健闘はしたものの初戦敗退となっていました。中でも、松本選手の新築した自宅は那賀川流域にあり、奥さんからの携帯電話メールにより、台風による豪雨のため、自宅一階が床上浸水し、二階に避難しているものの、どんどん水かさが増えている様子が写真と共に送られてきていました。そのような状況での松本選手の手試合となっていました。

《幼・義務教育の部》

松本真治(徳島)

―メ 後藤将史(長野)

《高・大・教委の部》

大石哲生(徳島)

―メメ 城戸議浩(福岡)

《女子の部》

前田奈々枝(徳島)

―コ 本部世梨華(沖縄)

終わりに

今回の教職員大会では、徳島学剣連の力が十分、全国で通用することが証明されたものと思います。来年には、関東の大学で活躍している選手が、教員として徳島に戻ってくる予定であり、また、大将の部への出場年齢(五十五歳以上)に勝負強い福多雅英先生がなります。当然、徳島県予選会のレベルが上がります。今年以上の戦力が結集できることは明らかです。全国教職員大会で徳島が団体戦で初優勝できる日も近いと確信できる大会でした。

1回戦

都道府県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	本数/勝数	勝敗	
徳島	氏名	林 義直	大石 真也	佐々木 和人	玉田 晋作	木原 資裕	$\frac{4}{2}$	○
	勝敗	○	□	△	○	△		
	得点部位	メ コ	×	▲	コ 一本勝	ド		
福岡	得点部位		×	メ 一本勝		メ コ	$\frac{3}{2}$	△
	勝敗	△	□	○	△	○		
	氏名	江田 一生	吉廣 精人	徳安 拓三	中並 尚康	中野 直		
試合時間	2:26	4:00	4:00	4:00	3:10			

2回戦

都道府県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	本数/勝数	勝敗	
徳島	氏名	林 義直	大石 真也	佐々木 和人	玉田 晋作	木原 資裕	$\frac{5}{2}$	○
	勝敗	△	△	□	○	○		
	得点部位		コ	×	メ メ	ド コ		
神奈川	得点部位	コ メ	メ コ	×			$\frac{4}{2}$	△
	勝敗	○	○	□	△	△		
	氏名	川村 剛士	高瀬 武志	朝比奈 一生	岡見 浩明	戸塚 義孝		
試合時間	2:35	3:26	4:00	1:16	3:25			

3回戦

都道府県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	本数/勝数	代表戦	勝敗	
岡山	氏名	植月 亮介	内海 翔太	佐々木 健太郎	松本 幸也	原 直文	$\frac{3}{1}$	佐々木 健太郎	○
	勝敗	△	□	□	□	○			
	得点部位		メ	×	×	ツ メ			
徳島	得点部位	メ 一本勝	メ	×	×	コ	$\frac{3}{1}$		△
	勝敗	○	□	□	□	△			
	氏名	林 義直	大石 真也	佐々木 和人	玉田 晋作	木原 資裕			
試合時間	4:00	4:00	4:00	4:00	3:17		2:35		

全日本学生剣道

選手権大会に出場

— 憧れの舞台、日本武道館へ —

徳島大学蔵本剣道部

藤 本 稜



気がつくくと、こは日本武道館でした。小さい頃から、一度でいいから行ってみたい！

と想像していた武道館は、思いのほか狭く、六試合場しかありませんでした。しかしその小さい武道館からは何かただならぬオーラが発せられており、気の引き締まる思いでした。

文頭のような表現をしたのには訳があります。私は小学校一年生の頃から剣道をしています。ですが、普段の稽古以上のものが試合で出せたとき、予想以上の結果を残すことができたときはいつもそうです。試合の内容を思い出すことができないのです。数あ

る試合の中で、特に覚えているのは負けて悔しかった試合だけです。今回の全日本学生剣道大会への出場も例外ではなく、中四国予選で予想以上の出来、試合結果によって、突然日本武道館に来たかのように感じていました。

これだけ長い間同じような体験をしていると、やはりそれを不思議に思い、自分なりに考えてみました。毎日毎日同じ稽古の繰り返しで、頭が働く前に体が反応するようになる、それが無意識のうちに打突になり、結果として記憶にないのではないか、という結論に至りました。こ

れは私がこれまで剣道をしてきて、得ることができた最も素晴らしい感覚ではないかと思えます。頭で考えるより先に体が反応するという感覚は、これからずっと自分の中に留めておきたいと思えます。

全日本学生大会は一回戦で負けてしまい特に書くこともありませんのでここまで少し

訳のわからない話をしてきましたが、この文章が掲載される頃には私も剣道から少し遠のいているだろうと思います。これから剣道で培ってきたものを生かし、自分の道を精進していきたいと思う次第です。最後に、日頃からたくさん稽古をつけてくださっている先生方に深く感謝いたします。富西の藤本ですと言えはわかってもらえることは多いのですが、蔵本の藤本ではまだあまり通用しない気がしています。絶賛部員募集中で日々稽古に励んでいるので、今後ともよろしく願います。



第九回全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会に出場して

小松島少剣クラブ

岩原潤哉

ぼくは平成二十六年九月十四日、大阪で行われた都道府県対抗少年剣道優勝大会に副将として出場しました。この選手が決まるまでには、毎月強化錬成会を行い、その中で選ばれた十名が兵庫遠征に参加し、選手が決まるというものでした。ぼくは、十名に選ばれ、兵庫の印南剣道場での遠征に参加しましたが、内容は全然ダメで、選ばれる自信がありませんでした。でも、選手発表のときに名前を呼んでいただき、ホッとしたりと、選ばれなかった人たちの分も頑張っていると思いました。

試合前日は、選手全員が松村先生運転のバスで移動しました。今年の選手五人は、男子ばかりで、錬成や遠征を通してすごく仲が良かったので、バスの中や宿舍でも自然で楽しく過ごすことができ、このチーム

ワークで明日もがんばろうとみんなで話をしました。

大会当日、一試合目は富山県と対戦しました。ぼくは、少し緊張していましたが、試合が始まると普段通りの気持ちで試合をすることができました。結果は引き分けでした。しかし、ぼくが勝たなかったためにチームの負けが決まってしまうとても悔しかったです。

二試合目は鹿児島県と対戦しました。一試合目で勝てなかった分、絶対に勝つてやろうと気合十分でのぞみましたが、結果一本負けでした。結局リーグも負けてしまい、この時点で予選リーグ敗退が決定してしまいました。

最後の試合は山形県と対戦しました。個人としてもチームとしてもまだ勝ってなかったのですが、一回でも勝つてやろうと気持ちを切りかえました。自分の試合が始まると自分の得意技である面が調子よかったので、相手の出ばなをねらうときれいに面が決まり一本勝ちで勝利しました。この全国大会で初めての一本であったし、初めての勝利

だったのですごくうれしかったです。

ぼくは強化錬成会や遠征、全国大会に参加させていただき、印南剣道場や他県の子と友達になれたし、全国大会という舞台で試合ができたことはとてもいい経験になりました。これも松村先生や監督の生田先生、コーチの白木先生のおかげです。また一緒に強化錬成会に参加したみなさんや家族の応援もあったからだと思います。ありがとうございます。ぼくは、中学生になって代表に選ばれ、この大会で予選リーグを突破して全国大会で活躍することを目標にこれからも剣道の練習にがんばっていきます。

第九回都道府県対抗 少年剣道優勝大会

監督 白 木 洋 一



○期日 平成二十六年九月十四日
○会場 大阪府舞洲アリーナ

○徳島県 中学選抜チーム

監督 白木 洋一(石井中)

コーチ 福多 博史(阿南第一中)

選手 先鋒 山崎 舞(阿南第二中)

次鋒 大城明裕奈(那賀川中)

中堅 山室 和士(石井中)

副将 熊橋 凌司(徳島中)

大将 西條 賢太(石井中)

○試合結果

予選リーグ 一試合目

徳島 ○(一) — (一) ○ 長野

先 山崎 × 池上

次 大城 × 竹入

中 山室 × 近藤
副 熊橋 × 鈴木
大 西條 反 × 梅 塩崎

予選リーグ 二試合目

徳島 一(二) — (四) 三 福島

先 山崎 × 梅 渡辺

次 大城 × 梅 鈴木

中 山室 × 梅 山田

副 熊橋 × 梅 安藤

大 西條 × 梅 原

○所感

大会前日に大阪入りし、大会会場である舞洲アリーナにおいて調整練習を行った。県内の中学生を代表して出場している選手らしく、チームワークもよく元気いっぱい稽古ができた。

その後、大会に出場するチームと練習試合を行った。島根県・山口県・鳥取県の三県との対戦であった。気迫あふれる試合内容で、翌日の大会本番を期待させるものであった。

いよいよ大会当日、同じリーグの長野県対福島県の試合が先に行われ、福島県が勝利した。徳島県の初戦は長野県であり、絶対に負けられない展開となった。先鋒戦から白熱した試合であったが、有効打を奪う事ができずに大将戦となった。大将戦、先に一本を先取される苦しい展開となったが、相手が場外にでる反則で時間間際に取り返す形となり引き分けとなった。

二戦目は一勝している福島県。先鋒戦は小手と面の応酬で紙一重のところでも相手の面が有効打となった。次鋒戦、粘りのある試合展開で中堅につなごうとしたが、惜しくも一本負け。流れを変えたい中堅戦は、気迫十分に攻め見事な二本勝ち。副将戦は、全く目が離せない攻防で引き分け。勝負は大將戦になったが、相手の間合いのとり方が絶妙で、打ち間に上手く入れない。無理したところを打たれ二本負けで勝負あり。大会では愛媛県が三位、香川県がベストエイトに進出している。同じ四国勢として上位に進出したことはうれしいが、徳島県も負けない力を持っているだけに正直悔し

い気持ちもある。

優勝した大阪府Aチーム、準優勝の神奈川県チームともに攻撃力があり、ここぞというところで一本にしていたところが印象に残っている。攻めの剣道が本県中学生剣士の今後の課題であると感じた。また、今回コーチという立場で引率を一名増員して頂いたおかげで、大会前日の練習試合や当日の大会で大変助かったので、今後も継続してお願いしたい。

今回一緒に戦った選手五名の今後の活躍と更なる精進を期待すると共に、応援してください。くださった保護者の皆様や先生方に感謝申し上げます。



剣心を育む

—第六十回全日本

東西対抗剣道大会—

警察支部 平野 誠 司



今年の東西決戦は、平成二十六年九月二十一日出雲市大社町において開催されました。

昭和十五年に宮崎市において第一回大会が開催されて以来、六十回目の節目となる大会となり、私は通算九回目の出場となります。

この最高峰の大会に出場する度に、我が国の伝承の神髄に迫るこの想いを表現できる機会を頂くことに、いつもながら幸せな気持ちで一杯になります。推薦、そして選考して頂いた先生方に深く感謝しながら、精一杯頑張ろうと心に決めていました。

試合に臨んでは、ただ自己の心身を研ぎ澄ませ、内なる自分に負けぬように来たる

べきその瞬間に最善を尽くすだけです。この大舞台で勝ちたいという気持ちは誰でも自然に湧き出てきますが、勝負においてこの勝ちたい気持ちという思いは、打たれたくないという気持ちと表裏一体であり、自由自在の心身を硬直させてしまいます。何より一番の敵は、我が心の偏向なのです。

また、最近の試合では虚で攻めて（狙って）試合を運ぶことがよく見受けられますが、やっぱり実で攻めて虚で打つことが理にかなった剣道であると考えますので、この自由自在の心身を直に充実させ、攻勢を継続させることをもっぱらの工夫とし、今回もその一点に集中させてきました。

「お互いに位詰め、打ち間を探り合う中、ここぞという瞬間に懸待は技の攻防に転じる。前後左右の攻防を繰り返しながら、相手の先も次第に強くなる。中盤、柔らかい攻めをもって迎えたところ、初めて動じた面を胴に返した。」

剣道の醍醐味は真剣勝負の空間にお互いが身を置くことから始まります。やるかやられるかという切羽詰まったところで自分

はどうなるのか、という内なる自己を見つめながら剣道を創造していくことが、剣道の本質的な中身ではないかと思っています。

剣道は技術の向上なくして語ることはできませんが、まずは相手を前にして技術を修練するところから、次のステップ、すなわち自分の中に新しい自分を発見していくというところに喜びを見出すこと。その剣心が剣の技術を通して自他共に認め合い、高め合う剣道に昇華していく。これが人作りの共習・共導の空間として、世の中に剣道が活かされていくことだと思っています。この人作りの理念を抱いて、文化的な剣道競技を真剣に戦い抜いていく。まさに、私たちが日々繰り返し返す稽古の一本一本が、次世代への方向性となる剣心として表現されているのです。

「剣心が伝わらなかつたら、技術は伝わらない」

本当に伝えたい剣道とは……、自問自答しながら私の剣修行はまだまだ続きます。

第四十九回全日本

居合道大会を振り返って

監督 岸 田 光 博

選手 七段 坂本 憲一

六段 一村 昌和

五段 内海 直弥

日時 平成二十六年十月二十五日（土）

午前九時 開会式

場所 福島県あづま総合体育館

今大会も徳島選手は前日、現地ホテルで集合する事として、各人大大会会場の下見をしました。私と、個人演武参加する徹心道場の吉岡七段と森七段は車で、二十三日徳島を出発しました。フェリーで二十四日の早朝に東京着、首都高速湾岸線より東北自動車道を経由し、福島県に入り、ホテル到着後、監督会議（午後四時から午後五時）に出席しました。

監督会議の内容は大会プログラムの、出場選手の確認、誤字、脱字及び選手変更等の確認と、当日の刀の登録証の確認の場所

や時間等でした。又、選手の試合が重なる時は監督代行（服装自由）でも許可しますとの事でした。（前年同様）監督会議が終了し、ホテルチェックインの後、徳島の選手たちと合流しました。打合せを行い、合同で夕食後、早く休養する事としました。

〈全日本居合道大会当日までの経過〉

徳島県は県下居合道大会（平成二十六年二月二十二日）での優秀賞（五・六段）と、

七段・監督は当日の役員会議で選考し、全

国大会に出場可能か確認をとり、次の通り

五段・内海、六段・一村、七段・坂本の三

選手と監督・岸田に決定しました。（前々

年より好成績なので、三度目に挑戦との意

見が有り決定しました。）

〈大会に向けての強化練習等〉

選手の合同強化練習を、翌日より毎週水

曜日午後六時より九時まで、国府の徳島市

農業環境改善センターで、私と教士七段の

吉岡先生と森先生方が交代で出席指導して、

強化練習を実施しました。（部員、自由参

加可能として）全国大会に向けて、各道場

での練習はもとより、毎週水曜日の強化練

習をし又、伝達講習会、四国四県稽古会、高知大会に参加出場し、大会に向けて練習を行い、実戦に向けて古流二本と指定三本を想定した実戦練習を繰り返し行い、前回成績全国総合十一位に恥じることの無い居合を、又、全員一回戦を最低でも突破目標とし練習を行いました。

〈平成二十六年十月二十五日〉

大会当日早めに会場へ午前八時開門前に到着し、受付を済ませ、選手は練習場で練習してのち、開会式が始まりました。

指定技の発表（全日本剣道連盟居合一、

六、九本目）があり、試合が開始されまし

た。

〈一回戦〉

七段戦では坂本選手が十二組目に馬場選

手（福岡県）との対戦となりました。○対

手で負けましたが、対戦相手の馬場選手は

準優勝になっています。

六段一回戦、三組目の一村選手の試合は、

廣瀬選手（長崎県）との対戦でした。監督

席で後より見ている、正座が出来るか緊張

して見ていました。五分五分かなと思いな

がらも、結果は○対三で負けました。

〈二回戦〉

五段二回戦の二十四組目、内海選手の相手は一回戦勝ち上がって来た宋像選手（北海道）で、結果は二対二で負けました。シードされていた内海選手は初戦で緊張及びプレッシャー等があったと思われず。非常に残念でした。

〈都道府県団体順位成績〉

徳島県は全国四十一位、前年の十一位より、大きく後退という結果と成りました。

〈監督の所見報告〉

今年は強化練習中、坂本選手のご尊父が七月三十一日にご逝去され七・八月の稽古が十分出来ず。又、一村選手も剣道で膝を痛め、稽古は立技だけと言う状態で、治療しながらでした。又、内海選手も合同稽古が出来ず自主稽古と言う状態でした。今回の大会は対戦相手にも恵まれず、試合結果は四十一位です。四国四県でも最下位と言う結果でした。

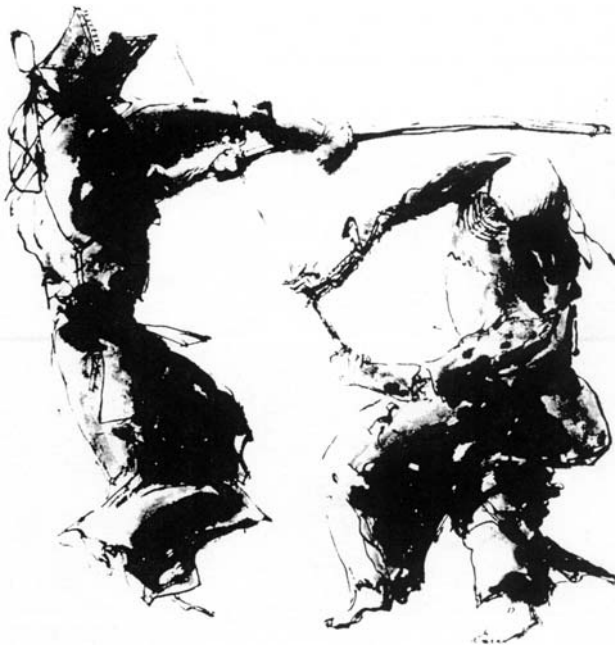
今回も開催地の福島県が優勝しました。

次回開催地の福岡県は、全国大会に向けて

猛烈な準備をしていると思われず。

剣道の教えにある「気・剣・体の一致」

の体の不十分が、今回の結果の表れであると思われず。徳島県の居合道部もこれから頑張らねばという思いで一杯です。



憧れの舞台に立って

―第六十二回全日本剣道選手権大会に出場して―

警察支部 山 本 義 征



幼稚園の年長から始めた剣道、幼稚園であつた全日本剣道選手権大会の時に、テレビで放送されるのを毎年録画し、何回も鑑賞し、いつかはこの大会に出場したいと思う気持ちが年を追うごとに強くなってきました。そして今回、徳島県予選を勝ち抜くことが出来ました。

予選当日は特に緊張することもなく、自分のペースで試合をすることが出来たと思います。県予選決勝戦まで勝ち残り、決勝戦前には機動隊の先輩から、「選手権に出れるチャンスは少ないから一発で決めて来い！」との言葉をいただき、さらに気合い

が入りました。決勝戦では、相手の白木選手に初太刀で面を奪われましたが、試合前にかけていただいた言葉を思い出し、冷静になりその後、時間内に一本を取り返し、延長戦で面を決め、勝利することが出来ました。試合に勝った後は素直に嬉しく思つたと同時に、徳島県を代表して出場するので本番は恥じない試合をしなければと思えました。

全日本剣道選手権大会当日、試合会場は二試合しかなく、会場は観客に囲まれている状態でした。しかし、雰囲気は飲み込まれることなく一回戦に臨めました。一回戦の相手は、神奈川県警の松本選手で今年の警察大会では神奈川県警の大将でした。体も大きくパワフルな剣道をするイメージでした。試合は延長に入り、お互いに旗が

一本上がる技があり、延長十七分過ぎに相手が小手に来たところを返して面を打ったのが一本になりました。試合を振り返るとすぐく落ち着いて試合が出来ていたと思います。二回戦の相手は、兵庫県警の網代選手でした。網代選手も兵庫県警の大将で近

年すぐく活躍されている選手です。試合は、長い攻め合いから相手が一瞬動いた瞬間、面を打ち込んだのですが、ものの見事に胴に返されました。完璧に誘われて打たされた形でした。一本を取り返しに必死で反撃し、これまでかと思いましたが、相手が間を詰めてきたところを大上段に振りかぶり面を打つと竹刀越しに面を捉え一本になりました。その後、時間のブザーが鳴り、延長戦になりました。延長戦に入ってから網代選手からジワジワと間を詰め攻められる状態が続き、私が居着いたところに面を打ち込まれました。結果は二回戦負け。打たれたところは、自分の悪いところであり、よく打たれるところでした。

大会を終え感じたことは、自分から攻めて相手を崩していかなければ有効打突が奪えず、上には勝ち上がれないということです。私自身の剣道はまだ、相手に対して攻め切れていないと思います。今後は相手を崩していく剣道を身に付けていきたいと思っています。

最後になりましたが、今大会に出場する



にあたり多くの方々にご支援、ご声援いただきましたことに感謝しています。まだまだ修行途中の身ではありますが、今後自分の剣道技術向上とともに徳島県の剣道発展に携わっていきけるようこれからもご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

第五十七回全日本

実業団剣道大会に参加して

大塚製薬徳島剣道部部长

櫻井一志

一昨年に続き、大塚製薬徳島として昨年九月十五日に日本武道館で開催された第五十七回全日本実業団剣道大会に参加してきました。今回が二回目になります。参加チーム数は昨年の三三六チームから八チーム増えて三四四チームでした。今回のチーム編成は、先鋒・久保、次鋒・櫻木、中堅・谷口、副将・綾部、大将・櫻井、監督・元木でした。昨年に続いての参加は、久保、谷口の二名でした。若手主体でチームを編成しなかったのですが、業務等のためなかなかベストメンバーを組めないところが実業団チームの悩みどころです。昨年と同様、大会前日に東京入りし、大会当日の朝に武道館に移動して軽くアップし、試合に備えました。昨年は緒戦で三井住友銀行大阪本店との対戦でしたが、今年は同じグループ

企業の三井住友銀行本店との一回戦になりました。過去の大会でも実績を残している強豪で、今回は二十三歳から三十一歳の四、五段の選手でメンバーを構成していました。前回大会は本数勝ちで緒戦を突破したのですが、今年は久保、櫻木がともに続いて二本負けし、後がないところを谷口が二本勝ちして盛り返したのですが、続く綾部、櫻井と敗戦し、一勝四敗で緒戦敗退となりました。対戦した三井住友銀行本店は、大和証券、デンソー、JR東日本本社、日通商事東京を次々に下し、六回戦で伊田テクノス本社に零勝二敗で敗れてベスト一六となりました。決勝戦は、九電工本社対東洋水産本社となり、東洋水産本社が二勝一敗で第五十四回大会に続いての優勝となりました。最優秀選手は、東洋水産本社で副将を務めた庄司裕也四段でした。

今回は二回目の参加でしたので、初参加の前回よりも状況が把握できていたため、大会には比較的スムーズに参加することができました。その一方で、多少気の緩みがあったため前日に飲み過ぎてしまったの

は大きな反省点でした（特に私自身が最も問題でして、チームの皆さんにご迷惑をお掛けしたことに對してこの場を借りて深くお詫び申し上げます）。私の失態を敢えて横に置かせて頂いて、昨年もう一つ残念だったことは、これまで続けてきた日亜化学、四国電力、大塚製薬での三社合同稽古会が開催できなかったことです。徳島における実業団剣道を活性化するためには、試合で顔を合わせるだけでなく、少なくとも年一回はともに稽古や練習試合で汗を流す機会が必要なのではないかと感じております。年一回の試合にさえベストメンバーを組むのが難しい状況ではありますが、何とか徳島における実業団剣道の活動を活性化し、その結果として全国レベルの大会で好成績を収めることにより会社側の理解を高め、いつの日か悩まずにベストメンバーを組める日が訪れることを願って止みません。

最後になりましたが、徳島県剣道連盟、関係者の皆様方には日頃からのご指導、ご鞭撻に対しましてこの場を借りて深く感謝申し上げます。これからも実業団剣道を温

第57回全日本実業団剣道大会における大塚製薬徳島の戦績

1回戦	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗	引分	負数	本数
三井住友銀行 本店	山田	坂入	浜田	平田	嘉山	4	0	1	8
	メメ	コメ		メメ	コメ				
大塚製薬徳島			コメ		ド	1	0	4	3
	久保	櫻木	谷口	綾部	櫻井				

かく見守って頂き、ご指導、ご協力頂ければ幸いに存じます。



第57回全日本実業団剣道大会 大塚製薬徳島参加メンバー

第五十七回全日本 実業団剣道大会に出場して

日亜化学工業 園 田 慎 吾

平成二十六年九月十五日 日本武道館において、全国から過去最多となる三四四チームが参加して第五十七回全日本実業団剣道大会が開催されました。

最近、各種メディアで報道されているように日本経済が上向き、景気好調と言われているようですが、この大会は実業団大会ということもあり、この景気好調を背景に出場企業数にも変化が見られるなど、経済活動は剣道界にも反映されるものであると感じました。

このように盛大に開催された第五十七回大会に日亜化学からは次のメンバーで出場しましたので報告をさせていただきます。

〈選手〉

先鋒 山本 敬太

次鋒 舛田 浩一

中堅 倉橋 孝輔

副将 鈴木健太郎

大将 玉田 康朗

〈試合結果〉

一回戦

日亜化学 三 — 一 千歳商会

二回戦

日亜化学 ○ — 一 栄光武道具

試合内容としては、一回戦では開会式直後の一試合目ということもあり動きに硬さも見られましたが、全体の試合の流れは良く初戦を勝ち上がることができました。

二回戦は両チームとも有効打はなく大将戦となり、大将玉田が序盤に何度か旗が一本上がる場面もあり優位に試合を進めていきましたが有効打には繋がらず、終盤に勝負に出たところで一本を取られて、二回戦敗退となりました。

今回の大会でも一本に繋がる強く正しい打ちがまだまだ足りないと感じました。日頃の稽古から強く正しい打ちを意識して稽古内容を立てておりますが、確実に身に付けられるように、今後も継続して稽古に励んで行きたいと思えます。

弊社は剣道実績での採用枠はありませんので、関東実業団などの強豪チームと比較すれば部員数や与えられた環境などで違いはありますが、日々の業務優先の生活の中から各自で時間を作り、週一回の定期稽古会や各支部稽古会などに参加して、「全日本実業団ベスト八」を目標に稽古に励んでおります。

現在の部員数は二十七名(男子二十二名・女子五名)で、平均年齢三十一歳と若いチームで活動しております。

ここ数年は部員が増加傾向にありますが、単に部員を増やすのではなく、部としての目標に加え、各個人で目標を設定することにより、その目標を達成するための取り組みの中で個々の技を磨き、全体のレベルアップに繋がるように心掛けています。

今後ともより一層のご指導をお願い申し上げます、全日本実業団大会の結果報告とさせていただきます。



第六十六回四国四県 剣道大会に参加して

鳴門高等学校教諭

大石 真也

平成二十六年五月十八日(日)、愛媛県新居浜武徳殿において、第六十六回四国四県剣道大会が開催されました。出場選手を代表して大会結果を報告いたします。

第一試合は地元愛媛県との対戦でした。先陣の女性三名を終えて一勝一敗、その後七連続で引き分けと重苦しい展開になりました。五将戦で玉田選手が豪快に二本勝ち、続く四将、三将が敗れ、副将白木選手が二本勝ちし、徳島県が本数リードで大将戦となりました。大将松村選手は一本先取されたものの小手を奪い返し引き分け。徳島県が勝利をおさめました。

第二試合は徳島県と同じく初戦で勝利している高知県と対戦しました。次鋒伊藤選手が勝ち、十一将で私が敗れ、九将を終えた時点で一对一と、第一試合に続き膠着状

態で後衛陣の出番となりました。そこからは互いに一本を奪い合う激しい展開となりましたが副将戦を落としたところで高知県の勝利が決まりました。

第三試合、勝てば優勝の可能性がある状況で香川県との対戦になりました。前衛陣が香川県の勢いに押され、八将を終えたところで二勝四敗と劣勢になりましたが、玉田選手、白木選手が勝利し勝者数で追いつき、大将戦をむかえました。一本とれば逆転という緊張感の中、試合は一打ごとに会場が沸く目の離せない好勝負となりましたが、面を奪われ徳島県は一勝二敗の三位となりました。

今大会においては、次鋒伊藤選手、五将玉田選手、副将白木選手、大将松村選手が大変活躍されました。特に第三試合、香川県との対戦で白木選手が井上選手から奪った面は相手チームも唸るほどの一撃で、強く印象に残っています。また、引き分けに終わった試合においても、素晴らしい技が繰り出されており大変勉強になりました。

自分自身の試合を振り返ると、結果、内

容共に不甲斐ないものでした。相手の攻めに對して受けにまわることが多く、打ちきることができないまま試合を終えてしまいました。有効打突を奪う選手は攻めの厳しき、打ちきる力を持っており、これが自分に足りないところだと実感しました。今回の試合で感じた自分の弱さを克服できるよう稽古に励みたいと思います。

最後になりましたが、昨年に続き選手として選出していただいた徳島県剣道連盟の先生方に感謝しております。県外の強豪選手と試合できる機会の少ない私にとって大きな経験となりました。また、職種の違い同年代の選手と交流できたことも楽しい思い出となりました。今後も出場する機会を与えていただけるよう努力していきたいと思えます。

大会結果

第一試合	県名	順位	先	次	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大	得点
	徳島県	氏名	平野	伊藤	北村	玉井	大石	六條	仁科	敦賀	山室	北村	玉田	佐藤	富浦	白木	松村	6 — 3
愛媛県	取得部位		メ									メド			メメ	コ		
	取得部位			メ									メ	メ		メ	4 — 3	
	氏名	黒河	中島	小原	神野	渡邊	白石	佐伯	佐々木	片山	井上	二神	渡辺	鈴木	橋田	田邊		

第二試合	県名	順位	先	次	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大	得点
	徳島県	氏名	平野	伊藤	北村	玉井	大石	六條	仁科	敦賀	山室	北村	玉田	佐藤	富浦	白木	松村	8 — 4
高知県	取得部位		メメ		メ					コ		コメ				メコ		
	取得部位				メ	コ			メ		ド			コメ	メ		8 — 5	
	氏名	津野	濱田	松田	中澤	西村	西山	小川	尾崎	谷本	山下	小笠原	西村	中越	森岡	葛目		

第三試合	県名	順位	先	次	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大	得点
	徳島県	氏名	平野	伊藤	北村	玉井	大石	六條	仁科	敦賀	山室	北村	玉田	佐藤	富浦	白木	松村	10 — 4
香川県	取得部位		コ		メド			メコ				メ	メ	メ	ドメ			
	取得部位	メメ	コ		メ	コド	メ		ツド					コ	ド	コ	メ	13 — 5
	氏名	須田	楽島	諏訪	宮田	竹村	四軒家	小林	小野	小川	福原	西本	香川	村上	井上	國重		

出 場 選 手

徳 島 県	年齢別		女子			20代		30代			40代			50代			60代	
	順位	監督	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	
	氏名	西谷肇一	平野千尋	伊藤奈津子	北村環	玉井翔	大石真也	六條勝仁	仁科文宏	敦賀晋平	山室雅幹	北村仁志	玉田晋作	佐藤佳宏	富浦廣志	白木洋一	松村和宏	
	年齢	62	24	32	42	24	28	30	30	34	40	43	48	51	53	53	61	
	段位	教八段	四段	五段	五段	四段	五段	五段	五段	五段	錬六段	教七段	錬七段	教七段	教七段	教七段	教七段	
	職業	無職	警察官	教員	教員	刑務官	教員	警察官	警察官	警察官	警察官	警察官	刑務官	教員	公務員	教員	教員	自営業
	職業	無職	警察官	教員	教員	刑務官	教員	警察官	警察官	警察官	警察官	警察官	刑務官	教員	公務員	教員	教員	自営業

第66回 四国四県剣道大会成績表

	高知	徳島	香川	愛媛	勝数	勝者数	取得本数	順位
高知	/	$\frac{8}{5}$	$\frac{7}{5}$	$\frac{8}{5}$	3	15	23	1
徳島	$\frac{8}{4}$	/	$\frac{10}{4}$	$\frac{6}{3}$	1	11	24	3
香川	$\frac{6}{4}$	$\frac{13}{5}$	/	$\frac{12}{6}$	2	15	31	2
愛媛	$\frac{7}{5}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{9}{5}$	/	0	13	20	4

優 勝 高 知 県

第 2 位 香 川 県

第 3 位 徳 島 県

第 4 位 愛 媛 県

平成二十六年年度

全国警察剣道大会を終えて

警察支部 敦 賀 晋 平

平成二十六年十月二十八日、私たち特練生にとって、一年間の集大成となる大会が行われました。

昨年、三部で三位という好成绩で二部に昇格し、今年是全国警察のトップクラスとの厳しい戦いが予想されていただけに、特練生全員が一致団結し、上位進出のため日々の稽古に励んできました。

今回の組み合わせは、一部の常連で実績を残している愛知県警と強豪静岡県警との厳しいリーグに入りました。しかし試合となれば同じ人間、臆することなく全力で戦えば、勝敗は後からついてくるものでありますし、力を出し切れれば良い結果に繋がると信じて試合に挑みました。

今回は一試合目に愛知と静岡県が先に試合をしましたが、圧倒的な強さで愛知が静岡を制しました。

いよいよ愛知戦です。

先鋒期待の新人山本デビュー戦、強豪相手に健闘しましたが、初出場で緊張もあつたか先を取られる展開で二本負け。

次鋒玉田が一本取られるもすぐに取り返し強豪相手に引き分けとまだまだ五分の展開。

ここで三将仁科が勝負どころ、持ち前の粘りで延長までいくも一本負け。

いよいよ一本も相手に与えられない状況で四将六條勝仁が強気で攻めるも相手は引き分け狙いで勝負はつきません。

いよいよ追い詰められた場面、副将六條洋二が、相手の徹底した防御をかくぐり最高の面を一本先取し、大将まで試合を繋いでくれました。

私は試合前、近藤師範から、「この試合に全力を出せ、次の試合は後輩に任せて一試合に掛けてこい。」

と言われていました。これが最後と思うといつもの緊張感など全くなく、全力で相手にぶつかることができました。しかし、相手は二本取られなければ勝ちが確定するた

め終始徹底した防御をします。しかし、

このような展開も想定内で研究してきた逆胴を中心に攻めていきますが、さすがに愛知の大将は守りも堅く一本につながりません。五分間がこんなにも短く感じたことは今までで初めてでした。ブザーと共にチームの負けが決まり、延長の三分間も自分の今までやってきたことを出し切って試合をしましたが、引き分けに終わりました。しかし、まだ試合は終わっていません。もう一試合、静岡に勝てば二部残留です。始めの試合を見る限り徳島がチーム力は上だと思っていました。

静岡との戦いは、先鋒山本が目覚めるような面をくり出し二本連取し、正直なところ「これはいける、流れがこっちに来た。」と思いました。しかし、ここから静岡が怒涛の反撃をします。

次鋒玉田、流れはこちらにあったものなかなか惜しいところが決まらず逆に攻め返され惜しくも二本負け。

三将村井、全国で有名な上段に対し粘りに粘り、惜しいところはあっても最後に小手

を取られ一本負け。

四将六條勝、副将仁科と全力で一本を取りに行きますが、チームの流れはそう簡単には引き戻すことができません。一本を取らなければという焦りをうまく捉えて、共に一本負け。大将六條洋は勝負が決まった大将戦を全力を出し思い切って戦い一本取るも胴を二本取られ敗れてしまいました。

一試合一試合がぎりぎりの勝敗で、どちらが勝ってもおかしくない内容でした。私は最後応援しか出来なかった自分のふがいなさ、主将としてチームを勝利に導けなかった事、最後までみんなに負担を掛けたことなど、悔しさで一杯でした。この結果の全ては主将である自分にあると思います。しかし結果はどうあれ、全力で強豪にぶつかる後輩たちは本当に頼もしく、必ずこの悔しさを来年生かしてくれろと信じています。

最後になりましたが、日頃から私たち特練生の為にご尽力頂いている先生、先輩方を始め、全ての剣友の皆様方に対して、深くお礼を申し上げますと共に、今後も県警の選手に対し、温かいご支援と指導ご鞭撻を

よろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。



平成二十六年 度

徳島県高齢剣友会活動状況

事務局 笠井 勝



徳島県高齢剣友会は、遠藤一美会長のもと、一〇六名の会員（平成二十六年四月末現在

で活動を進めてきた。

平成二十六年度は、主な行事として次の活動をした。

（四月）
・ 第一回四国高齢者剣道交流大会開催

（六月）
・ 第三十六回全日本高齢者武道大会参加

（七月）
・ 西部地区稽古会開催（吉野川市）

（九月）
・ 第二十回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（二〇一四とくしまねりんピック）

開催

（十月）

・ 第二十七回全国健康福祉祭とちぎ剣道交流大会（ねりんピック栃木二〇一

（十二月）
四）参加

・ 南部地区稽古会開催（阿南市）
（毎月）

・ 原則二回の稽古会開催（松茂町）
以上の行事の内、「第一回四国高齢者剣道交流会」（前述・特集Ⅰ）、「第二十七回

全国健康福祉祭とちぎ剣道交流大会」については、直接関係する会員の先生方から、ご報告いただくこととして、その他の活動について事務局の方から報告することとした。

◎西部地区稽古会（吉野川市）

平成二十六年七月十二日（土）午後二時から吉野川市美郷ふるさとセンターにおいて、県剣道連盟麻植支部の先生方のお世話で、西部地区稽古会を実施した。

稽古会は、兵庫県から伊澤先生ご夫妻をお迎えして、高齢剣友会員の先生方三十七名が集い、酷暑の折柄、冷房設備の恩恵を



西部地区稽古会（平成26年7月12日）於 美郷ふるさとセンター

受けて、心地良い汗を流した。

稽古会の後、二十一名の先生方は、第二道場として用意した美郷温泉において、剣道談議に花を咲かせた。

◎第二十回徳島県健康福祉祭剣道交流大会 (二〇二四とくしまねりんピック)

平成二十六年九月二十日(日) 午前九時から松茂町第二体育館において実施した。

開会式の後、日本剣道形が打太刀・教士七段原田進先生、仕太刀・錬士六段武田修典先生により行われた。

その後、準備運動をして、会員選手五十四名による交流試合が、団体戦・個人戦の順に展開された。

団体戦は、十五チームによりトーナメント戦が行われた。

・優勝…小松島(富田正・立川信彦・沢井勝之)

・二位…徳島A(松村和宏・寒川博文・中村稔裕)

・三位…徳島D(大貝美治・美馬勝行・高島稔之)

・三位…徳島B(東徳美・忠津和憲・東内)



健康福祉祭剣道交流会 (平成26年9月20日) 於 松茂武道館

勉)

個人戦は、四十四名の選手が年齢別の四グループに別れてトーナメント戦を行った。

〔特組〕優勝(川田武志)、二位(東内勉)、

三位(遠藤一美・張西政晴)、

〔A組〕優勝(美馬勝行)、二位(中村稔

裕)、三位(三木毅・久次米繁興)

〔B組〕優勝(忠津和憲)、二位(佐野博

志)、三位(東徳美・丸岡偉人)

〔C組〕優勝(藤本辰夫)、二位(乾清孝)、

三位(立川信彦・武田修典)

◎南部地区稽古会(阿南市)

平成二十六年十二月十三日(土) 午後二時から阿南市スポーツ総合センターサブアリーナにおいて、県剣道連盟阿南支部の先生方のお世話で、南部地区稽古会を実施した。

参加者は、西谷肇一(八段)、河田清実(八段) 両先生をお迎えして、高齢剣友会員及び、阿南支部会員並びに少年剣士合わせて四十九名が参加し、会場一杯になって相互の稽古を実施した。

なお、午後六時からの第二道場は、ロイ

ヤルガーデンホテルにおいて、二十五名の有志が参加して懇親会が行われ、稽古における技の研究など、剣道談議に花が咲き、有意義に盛り上がった。

◎定例の稽古会

定例の稽古会は、毎月第二、第四土曜日の午後二時から、松茂町第二体育館において実施しており、新しい会員先生の参加もあり、毎回十数名から二十数名の会員が参集し、熱心に心技体の向上を目指して稽古が行われた。また、少年剣道の錬成にも一助した。



南部稽古会 (平成26年12月13日) 於 阿南スポーツセンター



第1回四国高齢者剣道交流会 (平成26年4月)

全国健康福祉祭

とちぎ大会に参加して

大 貝 美 治



平成二十六年
第二十七回全国健
康福祉祭とちぎ大
会は栃木県全
市町
村で開催されま

た。期間は十月三日から七日までの間です。剣道試合日は、十月五日栃木県小山市栃木県南体育館で開催されました。小山と言えば天下分け目の「小山評定」の地であり、徳川家康が諸将を召集して軍議を開き、家康率いる東軍は石田三成討伐のため西上することに決した地であります。栄光の道筋は小山から始まったといっても過言ではないでしょう。そのような歴史上のことから、この地において剣道の大会が開催されることになったのは最適地だといわれました。開会式会場に各県選手の勇姿が一同に集まったその姿を見て一段と闘志が湧いてき

ました。持てる力の全てを出しきろうと硬く決心しました。対戦相手は、三重県と岩手県です。また会場において本県から参加した遠藤一美先生が八十九歳で高齢者賞を受賞しました。会場から賞賛の拍手を贈られました。

徳島選手は

先鋒 大貝美治 六十三歳 五段

次鋒 笠井 勝 七十一歳 六段

中堅 澤井勝之 七十三歳 七段

副将 川田武志 七十六歳 七段

大将 遠藤一美 八十九歳 七段

試合は第二試合会場六ブロック、六試合目三重県、十四試合目岩手県です。

試合を待つ間、他県の気迫あふれる試合を観戦していて、試合後お互いの健闘をたたえあっている姿を見て感動しました。自分たちの試合も勝敗の結果に関係なく試合後はお互いの健闘をたたえあわなければならぬと思います。

〈一試合目〉対戦相手三重県選手

先鋒 長谷川恵一 六十歳 七段

次鋒 樋口一洋 六十歳 七段

中堅 岡 篤 六十歳 七段
副将 家城正雄 七十歳 七段
大将 中山尚夫 七十五歳 七段

三重県の選手は年齢的に若かったのですが、われわれは健闘を誓いあいました。

先鋒大貝は、相手側から面二本を先取しました。中堅澤井選手は面一本を取り返し健闘しました。結果一勝四敗となりました。

〈二試合目〉対戦相手岩手県選手

先鋒 一戸信一 六十二歳 七段

次鋒 欠端 学 六十二歳 七段

中堅 藤田恒夫 六十四歳 七段

副将 金澤龍一 七十二歳 七段

大将 渡邊知昭 七十四歳 七段

先鋒大貝は引き分け、副将川田選手は小手の一本勝ちで一勝三敗一分の結果となりました。

六ブロックから決勝リーグに上がったのは岩手県でした。決勝リーグベスト四に残ったのは、栃木県A、B、Cと茨城県の四県で、優勝したのは栃木県A、準優勝栃木県C、三位栃木県B、茨城県の順となりました。

この試合で印象に残ったのは遠藤先生の試合後、遠藤先生に対して相手側の三重県、岩手県の選手から、また会場からも健闘の拍手をいただいたこと、試合後お互いの健闘をたたえあう礼儀正しい挨拶です。

剣道の礼儀の正しさと精神に感動いたしました。これから剣道を学んでいくなかで自分の行く方向を見た気がしました。いい経験をさせていただきました。



第三十六回全日本 高齢者武道大会参加

事務局 笠井 勝



平成二十六年六月九日(月)午前九時から日本武道館において開催された、標記大会に

参加した内容を簡略に報告します。

今回の大会は、全国から五十五歳以上最高齢九十二歳の剣士二名まで、剣道五六九名、銃剣道四七名の合計六一六名が集い、団体戦、個人戦を行いました。

徳島県からの参加者は、

寿A組(八十五歳以上) 遠藤一美選手
特組(七十五歳〜七十九歳まで)

東内 勉選手
川田武志選手
A組(七十歳〜七十四歳まで)

高島稔之選手
笠井 勝選手

B組(六十五歳〜六十九歳まで)

美馬勝行選手
兵頭新平選手

C組(五十五歳〜六十四歳まで)

東 徳美選手
藤本辰夫選手

でありました。

団体戦は、先鋒藤本選手、次鋒美馬選手、中堅高島選手、副将東内選手、大将遠藤選手で出場し、第一回戦は、福島県と対戦しました。結果は、先鋒引き分け、次鋒二本勝ち、中堅、副将、大将はそれぞれ一本負けとなりました。

個人戦は、遠藤選手、川田選手、高島選手、藤本選手が、予選リーグを勝ち抜き決勝トーナメントに進出しましたが、一〜二回戦で敗退することになりました。

大会結果は残念でしたが、今回の東京行きは、阪急交通社の(二泊三日)二万六千円(フライト代、ホテル代込み)の格安旅費を利用することにしましたので、高島先生、東先生、兵頭先生、藤本先生は、夫人同伴で奥様孝行をされました。

単身参加者と、カップルで参加の一部の先生は、高島先生がスケジュールを考えてくれました。第一日目、羽田着から両国国技館の近くにある「江戸東京博物館」の見学を行い、第二日目は、剣道大会終了後、スカイツリーの夕景見学と、中華店「銀座天竜」での懇親会を楽しみ、第三日目は、明治神宮参拝、NHKスタジオパークの見学をした後、羽田空港へ着いて、買い物など散策し、早めの便で帰県しました。おかげで、安い旅費で剣道大会と東京見物の時間がとれて、良い骨休みとなりました。

随 想

徳島県剣道連盟に感謝

大 澤 孝 彰

前は私の剣道修業と題してこれまでの若干の修業を書かせて頂きました。まだまだたくさん「エピソード」(高校正科授業、錬心館道場の稽古、種々の稽古会、講習会その他)があるのですが、今回は私を団体・個人の各種試合等に出場させて下さり、私を育てて頂いた徳島県剣道連盟に感謝の気持ちを込めて試合等の大部分を書かせて頂きます。

54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	昭和40年	国民体育大会
34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20回	
48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34歳	
14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	欠	2	1回	
(高千穂)宮崎	(中野湯田中)長野	(南部)青森	(嬉野)佐賀	(尾鷲)三重	(茨城)茨城	(千葉)館山	鹿児島	(和歌山)高野山	(福岡)岩手	(小浜)長崎	福井	埼玉	(大分)杵築	(岐阜)関市	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	副将	〃	(七段)中堅	(六段)中堅		〃	(六段)中堅	
			×		×				×		×			×	
監督	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1回		都道府県
								3回 2回戦負け				2回 2回戦負け	1回 1回戦負け		全日本 選手権
3回 茨城(2本勝)	2回 熊本(勝抜戦)不戦							1回 新潟(引分)							全日本 東西対抗
															明治村
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1回 (七段)						京 都
14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1回 (選手)		四国四県
										3	2	1回			全日本 教職員

〈備考〉

- ①国体は徳島国体が最後で選手として二十
三回出場です。
国体は団体戦ですが、私自身が一回戦で
負けた時は×印です。
- ②全日本都道府県対抗の選手として十三回
出場です。
- ③全日本東西対抗の選手として八回出場し
て七勝一分です。
- ④京都大会は昭和四十五年三十九歳から出
場して平成二十年七十六歳迄連続三十八
回です。
- ⑤四国四県大会は昭和四十一年三十五歳か
ら選手として出場して連続二十二回です。
- ⑥地区・全国講習会の講師等は多数回あり
ますが、書いていません。
- ⑦六段・七段の審査員も多数回ありますが、
書いていません。
- ⑧全日本選手権大会、全日本東西対抗大会、
京都大会等の審判員も多数回やりました
が、書いていません。

6	5	4	3	2	平成 元年	63	62	61	60	59	58	57	56	昭和 55年	国 民 体 育 大 会
	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35回	
63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49歳	都 道 府 県
	23	欠	欠	審判	22	審判	21	20	欠	19	18	17	16	15回	
	徳島	山形	石川	福岡	北海道 (砂川)	京都	沖繩 (名護)	山梨 (富士吉田)	鳥取	奈良	群馬 (沼田)	島根 (出雲)	滋賀 (今津)	栃木 (日光)	全 日 本
	大将				大将		(八段) 大将	大将		〃	〃	〃	〃	副将	
														×	全 日 本
〃	〃	〃	〃	〃	〃	審判	〃	〃	〃	〃	監督			監督	
															全 日 本
					7回 栃木 (2本勝)		6回 京都 (八段) (勝負勝)			5回 埼玉 (2本勝)			4回 徳島 (2本勝)		
5回 3位	4回 準優勝	3回 戦負け	2回 戦負け	1回 準優勝											明 治 村
25	24	23	22	21	20	19	18 (八段)	17	16	15	14	13	12	11	
〃	〃	審判 長	〃	〃	審判 員	審判 長	22	21	20	19	18	17	16	15	四 国 四 県
															全 日 本
															教 職 員

『剣道日本』に書かれた東西対抗の批評

大将〔西〕大澤(徳島) ①ー〔東〕原(東京)

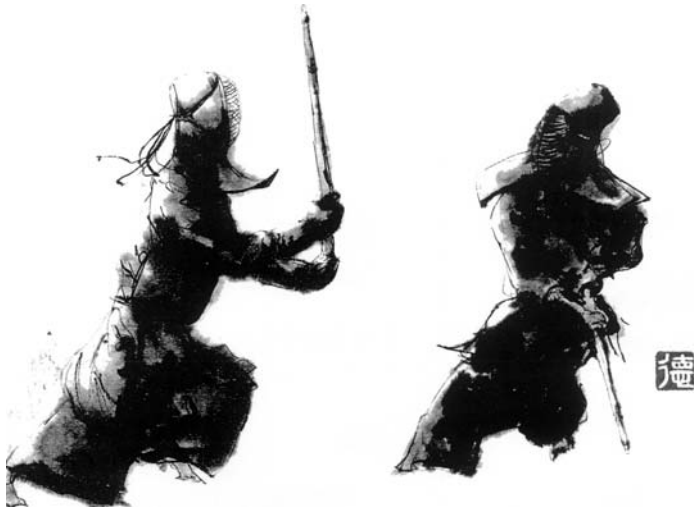
明治村大会で二位二回、三位一回の実績のある大澤と二位一回、三位二回の実績を持つ原。大将らしい静かな立ち上がりから最初に攻めたのは大澤で中心を攻めてから打突を繰り返す。二太刀目大澤がメンを打つと見せてからコテに変化すると、これのみごとに決まる。二本目開始後今度は原が飛び込みメンに伸びるが、大澤はこれを切り落とし、振り向きざまにひきメン。決まりはしなかったが、大澤が技の多彩さを充分示す展開を見せる。さらに大澤が一足一刀の間合から大きく飛び込みメンに伸び、原もメンを合わせた。大澤のメンがとらえたように見えたが、旗は一本のみだった。このシーンに会場はしばらくの間どよめきが収まらなかった。ほどなく時間切れとなったが品格も充分に感じられた大澤の試合ぶりが大会を締めた。

(試合は西軍一九勝、東軍一六勝で、西軍の勝ちでした。)

20	19	18	17	15	14	13	12	11	10	9	8	7	国民 体育 大会
76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	
													範士 拝受
													審判
													全日本 選手権
													8回 岩手(盛岡)将 西軍大勝 1本
													明治村
38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	京 都
													四国 四県 審判 長
													全日本 教職員



西軍監督・岩永正人先生（武専出身）が送って下さった写真



木頭村民剣道百段達成 武道大会の想い出

東内 勉



千鍊万鍛……剣道を志す者の心構えであり、それを実行してこそ剣士といえる。私が剣

道を始めたのは、第二次世界大戦後GHQに差し止められて、剣道が禁止になった故、青年になった二十四歳の時であった。

当時旧那賀郡木頭村（現那賀町木頭）の、阿波の柳生の里といわれた所で大和錬心館道場を構え、剣道をされていた大和錬心館館長大澤善二郎先生を私は師と仰いだ。

昭和三十八年（一九六三）、徳島市城南町に道場を構えられた時、入門を乞い、先生と二人だけで稽古をつけて頂いたが、その間周囲の子供の保護者に意見を求めたところ、希望者が相当あるようなので、三間に四間の新道場を作り、剣道を始めている

うちに、年毎に入門者が増加し、狭くなったので昭和四十二年（一九六七）、同じ敷地内の徳島市城南町に第二錬心館を建築され、新道場を発足させた。私は決められた稽古日には休まず出席し、稽古を休まず鍛錬した。その理由は、先生は剣道だけでなく大変な人格者であられたので、師とその教えを慕いつつ、乾いた土に水が吸い込むようにその教えを吸収していった。

その間、門弟は増加し、立派な先生方もたくさん来られて指導して下さった。

年月を経て私は自宅で書類の整理をしている時、若い頃の大会の資料が出て来たので、懐かしい想い出に耽って見た。それは木頭村民体育館落成記念の日で、木頭村剣道百段達成祝賀武道大会のことであった。

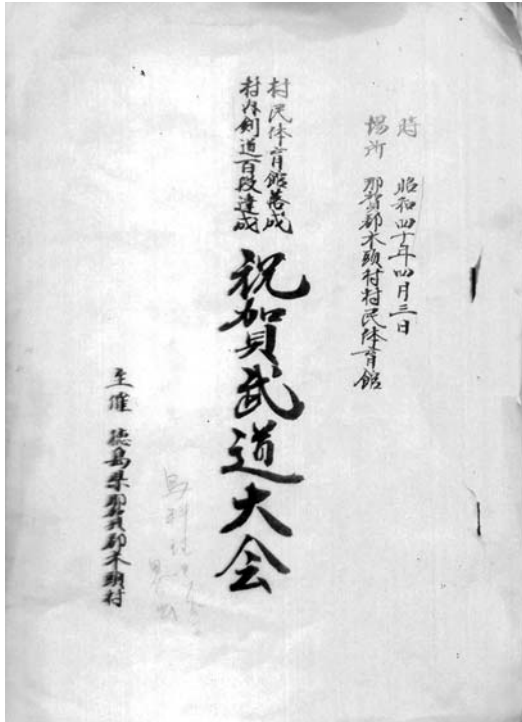
昭和四十年（一九六五）四月三日、当時大澤先生は中肉中背で、古武士の風格を持ち、豪快な剣道をなされた。私は剣道を始めて四年目。段位は三段。最も熱中した青年時代であった。

試合の内容は、阿波の柳生の里といわれた木頭村で行われ、木頭柳生の里は武道の

里で、練習する門弟たちの青少年は多く、皆熱心で強かった。土地の中・老年の方々も武道に対する理解が深く、映画館なども上映のない時は練習場として提供した。

村民体育館が建設された昭和二十七年（一九五二）当時、映画館を経営していた西岡信太さんが、酒を飲んで喧嘩ばかりしていた連中に呼びかけて始めた剣道が、大澤先生の御指導によって、次第に芽を吹いて成長したのであった。

当時の試合は先ず各種武道の演武が行なわれ、日本剣道形は松葉嘉吉先生の打太刀、岡田耕三先生の仕太刀。薙刀は泉豊子先生の打太刀、高木雪江先生の仕太刀による天道流薙刀道の演武。居合道では三谷先生、下村先生、大澤先生、東内以下十六名が技を披露した後、それぞれの武道の試合が行なわれた。大会長に村長・東泰六氏、大会顧問に松本一城先生、堀幸夫先生、下村富夫先生。大会役員に大澤善二郎先生、審判長に驚敷振武館の山家雪蔵先生、以下審判員三十六名の審判のもとに盛大に行われた。



木頭大和錬心館剣道場（館長大澤善二郎先生）の稽古風景
昭和41年10月4日 徳島新聞掲載

試合内容で目を引いたのは、薙刀の演武、一般の部では、高知県の物部川剣士と那賀川戦士の交歓試合、薙刀戦士対木頭戦士の試合であった。大先生であられる土佐の坂本土佐海先生、徳島の中川虎雄先生、同・遠藤一美先生、鷲敷の西村武夫先生、吉田祖先生、海川の山脇隆先生、木頭の松本英雄先生、雄西義雄先生たち錚々たる師範に、若い剣士たちは御指導を受け、終了後は堀

江幸夫先生の講評で盛り上がった。試合の要項は右の通りであるが、木頭村の剣士五十名と村外の剣士を含めて約百名参加のもと、村全体の協力で剣道を教育に取り入れ、充実して非常に活気に満ちた試合だった。結びとして、剣道を始めて幸せと感じたことは、剣道人生五十年の中で、幾百人の同士とめぐり合い、『交剣知愛』の精神で

剣道が出来る喜びを、折にふれて思い出し、懐かしんでいる。いい先生にも、いい先輩や同志、また、よき環境にも恵まれたことに、感動と感謝の念を抱いている。竹刀を持てば無心になり、老若男女の皆様と年齢を問わず対戦出来るのが剣道であり、一期一会のよい機会を一瞬一瞬に送りつつ、いつも心に対戦相手が残っている今日この頃である。

新任の頃を振り返って

富田 正



平成二十六年三月、教職生活を終え退職の身となりました。退職前は、どのように時間を

過ごすか、あれもこれもと考えていましたが、結局、臨時で某所へ努め、仕事内容は違えども、それまでの生活とほとんど変わらずです。これまでと違うといえば、気持ちの上で少しゆとりができたことかもしれません。

さて、私が最初に剣道部の顧問となったのは、卒業後二年目に赴任した那賀郡上那賀町平谷中学校（現上那賀中学校）でした。当時、剣道部員は二十名ほど在籍しており、熱心に活動はしていましたが、指導者がいかなかったこともあり、基本の見直しが必要でした。そこで、いままでの経験だけを頼りに、基本を中心に、掛かり稽古等ひと

りの稽古をしながら、若さに任せ日々稽古に取り組みました。総体までには、他校に一本でも多く取ればと考え、当時、県下でも常勝の木頭中学校に向き、稽古をお願いしました。しかし、いきなりのハード

な稽古には部員たちは対応できず、故障者も目立ち始め、目標にはほど遠く、現実的に厳しいものがありました。一方、自身の稽古は、先輩や同期を頼りに、自校の部活動が休みの時に高校等の稽古に参加させて頂きました。そんな日々の中で、夏休みに毎年開催されている、全国教職員剣道大会（宮崎県高千穂開催）に参加する機会を得ることができました。当時は、同世代の教員が少なく、更にその大会前には、公認審判員講習会も二日間ほど実施されるということで、諸先輩のご助言もあり、予選なしの参加となりました。この講習会への参加は三名で、元中学校教諭の南充美先生と千葉利一先生でした。それまであまり面識はなかったのですが、両先生の温厚な人柄に助けられ、講習会後の旅館での反省会は大いに盛り上がりました。肝心の大会といえ

ば、個人戦と団体戦に出場しましたが、善戦空しく一回戦敗退だったと思います。しかし、この講習会と大会への参加は、その後の私の剣道に対する気持ちに大きな変化をもたらさしてくれました。

そして、平成五十五年四月、徳島市城東中学校への転任となりました。この徳島市への転任希望には二つの理由がありました。その一つは、大規模校に勤務することで多くの人との出会いと経験を積むことができる。もう一つは、剣道と接する機会が多くなると考えたからです。幸い、ここでも剣道部を担当することが出来ました。当然、剣道部員も多く在籍しており、熱心に活動していました。しかし、中学校から初めた者がほとんどで、県下的なレベルからは大きな開きがありました。更に、赴任当時の新入部員も初心者ばかりのスタートとなりました。そして、いざスタートしたものの、武道館はなく、稽古場は体育館のみであり、週三回程度の利用しか出来ませんでした。その為、体育館が使用出来ない時は、野外での筋トレや素振りなどを中心に活動して

いました。しかし、時が経ち、それだけでは十分な力を付けることができないと考え、また、自身の稽古確保の為に、ある時期から旧徳島県立武道館への早朝練習に参加することにしました。当時、ここは、県下

の高段者の先生や警察特練生等、多くの剣士たちが集い稽古に励んでいました。そこへ、部員たちを交代で、週二・三回参加させました。赴任二年目には、小学校からの剣道経験者の入部もあり、また、他校へ試合稽古等、それまでの取り組みが功を奏し、徐々に力をつけてきました。三年目の夏には、力も安定し、強豪校に互角に近い戦いが出来るようになっていました。そして、三年が過ぎ、出身地である那賀郡への異動となりました。

現在、当時の剣道部員の中から教員になった者もいますが、剣道には関わっていないようです。しかし、私にとってその時に関わった子どもたちや先生方との出会いは、若き日の貴重な経験として心に深く刻まれています。そして、その時の経験が、その後の教師として、又、剣道指導者としての

指針となっていると言っても過言ではありません。（*なお、この時期にも、お世話になった先生方や教え子がたくさんいます。が、紙面上、名前は割愛させていただきます。）

最後に、若い日の剣道指導を思い返して、今、感じることを列記したいと思います。

- 指導が画一的で、一人一人の個性や体力を掌握出来ていなかった。
- 技術面で良い技よりも、悪い癖を重点に指導していた。
- 的確な目標設定が出来ていなかった。
- 感情に任せ指導していた時があった。
- 子どもの能力を先に線引きしていた。
- 人との出会いを大切に作る。
- 自身の稽古は出来る時にしておく。
- 常に工夫し、時間を大切に使う。
- 大舞台ほど、自信に繋がる。
- 指導者が稽古に励めば、子どもも伸びる。

等々



節目に思い出を綴る

坂本 信幸



私ごとではあります。平成二十六年三月末を持ちまして三十八年間の教員生活に終止

符を打つことができました。その間、皆様方には様々なことに、ご指導、ご鞭撻いただきましたことにつきましてお礼申し上げます。

この度、本誌に随想を書く機会を与えていただきましたので、私の今までの思い出を綴らせていただきます。

昭和四十一年、阿南第一中学校一年生の二学期から剣道を始めました。学校に剣道を教える先生がおいでにならなかつたため、地域の遠藤一美先生、故勢井良平先生にご指導いただきました。体力がなく不器用なことと途中で入部したため、基本も満足に身につけることもできず試合もあまりよい

成績が残せなかつたと記憶しています。

昭和四十四年、阿南工業高校に入学しました。剣道部は正式に部として認められたばかりで、金國明彦君、岩佐芳昭君、野々宮眞佐夫君他と入部しました。外部講師の故清原栄先生、遠藤一美先生、故勢井良平先生、顧問の鎌田恵先生に、それぞれの個性に応じたご指導をいただき、何とか竹刀を振ることが出来るようになりました。昭和四十五年には米倉滋君、近藤巨君他が入

学し、チーム力も上がってきました。昭和四十六年に徳島県（城北高校）で全国高校総体が開催されることとなり、県外遠征や強化練習会が行われました。その際には富岡西高校の故松本一城先生、徳島農業高校（現城西高校）の故下村富夫先生からもご指導いただきました。全国高校総体男子の部には、阿南工業高校と富岡西高校が出場

しましたが、ともに予選リーグで敗退し、自分たちの剣道レベルの低さと全国の剣道レベルの高さを実感することとなりました。

昭和四十七年四月には、更なる剣道を目指し、阿工・金國明彦君、富西・紙本正君

（現富田）徳農・樫本英夫君（立川信彦君は鶴川剣道部）と国土館大学体育学部体育

学科に入学し、剣道部に入部しました。全国の剣道の猛者が各学年五〇人前後在籍しており、同級生には昭和五十一年の全日本剣道選手権大会で優勝した右田幸次郎君他がいました。また、二つ上級生に西谷肇先輩がおいでになり一・二年時の苦しい時期に大変にお世話になったことを思い出します。練習では、手元が上がらない中心を外さない剣道を目指しました。苦節四年間、艱難辛苦、未曾有の学生時代をどうにか終え、昭和五十一年四月に帰郷、金國君は警察官、その他は教員となるべく各学校に奉職しました。私たちの後に、大石正志君、村井正志君、白木洋一君他が同窓生となりました。

昭和五十八年、阿南工業高校に在職中に、故下村富夫先生が校長として、福井軍二先生が教諭として転任され、部長の鎌田恵先生と四人体制となりました。二年から四年の間、剣道の稽古法や指導法並びに精神修養について昼夜問わずご指導をいただきま

した。私の人生の礎となった期間だと思っています。

平成五年に東四国国体剣道の部が徳島県（高校男子女子・小松島市、成年男子一部二部・徳島市）で開催されました。当初は高校剣道専門委員長として高校生の強化にあたっていましたが、前年十二月に県競技力向上対策本部係員として急遽配置転換され、剣道他の強化係員として勤めました。

故堀江幸夫会長兼理事長の「絶対に優勝するぞ」を合言葉に、各先生方のご協力、ご支援をいただき、遠征試合、強化練習が行われました。遠藤一美総監督、近藤巨強化部長のもと、少年男子は、西谷肇一監督、福多雅英コーチの指導により徐々に地力をつけ、チームワーク良く粘り強い試合を展開し、第二位となりました。少年女子は、河田清実監督、本田敦彦コーチの指導のもと遠征試合内容もよく上位進出が期待されましたが、試合中の有力選手の不慮の怪けにより第五位となりました。成年男子一部は、松村克隆監督、坂下彦之コーチ、成年男子二部は、故高下正義監督、白木洋一コー

チを中心に強化にあたり、毎週土曜日の強化練習、警視庁等での厳しい合宿をこなした結果、成年男子一部第三位、二部優勝、そして全種別入賞による初の総合優勝を勝ち取ることができました。まさに、本県剣道連盟会員相互に結ばれた固い絆により、成し遂げられた歴史的な快挙でした。

私は、城東高校、那賀高校、阿南工業高校、新野高校、県教委で勤務させていただきました。高校では、本村賢二君、白木崇君、谷喜史君他、将来性豊かな素晴らしい生徒諸君と出会い、共に切磋琢磨して互いに成長することができたと自負しています。剣道では暑さ寒さにくじけず、生徒とともに修練したことが思い出されます。試合に勝てる力があつたのに勝たしてやれなかったり、あと一本で全国大会を逃したりと、自分の能力、技術力、指導力不足が悔やまれます。今となっては遅いのですが、あの時、こうしていたら、ああしていたらと反省しきりです。

退職して学校を離れると勤務した各高校の良い所に気がつきます。元気で礼儀止し

く入学後に成長著しい生徒、その生徒を親身になって根気よく育てていこうとする教員、そして永年にわたり育んできた校風、他に誇ることができる素晴らしい高校でした。今後とも引き続き受け継いでいってもらいたいと思います。

私の思い出を綴ってまいりました。これから、体力の続く限り稽古、鍛錬し、剣道を志す若者が夢と希望を持って取り組みよう努力していこうと思っています。皆様方には、ますますのご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。最後に、徳島県の剣道を愛する皆さんが、剣道することに誇りをもち、健康に留意し、それぞれの目標に向かって精進、努力され、やがて花を咲かせ、実を結ぶことを心より念願いたします。

私の剣道人生

歯科医 安 田 勝 裕



阿波市で剣道して
ます安田です。
四十年以上前に川
島中学校で剣道を
始めました。その

時の剣道の始めた理由が、メガネをしてもできるスポーツだったと思います。その頃から極度の近視だった私は、コンタクトレンズはまだ世になかったので剣道を選択しました。指導は住友先生、戸田先生でした。高校では、剣道をせず、徳島大学に入学し、故下村先生の御指導の医学部剣道部（現在の医歯薬剣道部）に入部しました。その時のキャプテンが昨年七段に昇段された畠山先生、故根岸先生が副キャプテンでした。どちらの先生も全日本学生選手権に出場された猛者の方々でした。卒業から十年、仕事にかまけて剣道から離れていました。自宅が阿波町になったた

め、お世話になってた笠井選先生の主催する阿波少年剣道教室に出入りをはじめ、阿波支部に在籍。三十歳半ばで剣道を再開しました。

現在は、月曜は阿波支部稽古会（市場武道館）、火曜は阿波居合道伝承会（八幡小学校）、水曜は阿波中学校早朝稽古会（阿波中学校体育館）で稽古しております。

元気が残っておれば、週末に吉野川支部、美馬支部にお邪魔してます。また出来れば月一回蔵本の大学道場へ足を運びます。

下村先生から伝授された言葉に、「みなさんは医師を目指すのだから大将の剣道をしなさい。」と言われました。これは、組織のリーダーとしての胆を固め、負けない剣道することかな？と解釈してます。また日常生活に剣道を取り入れなさいということ、常に左足のかかとを上げる、左手の小指と薬指で荷物や吊り革を持つ、というのは今も心がけています。

私は剣道を通じて学んだ、感じたことで、スタッフへの教育に常に、剣道用語や剣道の考えを元にして、接遇や生き様、あり方、

仕事へのスタンスなどを説明しています。剣道はスポーツ、武道としても素晴らしいが、その考え方、思想、哲学はスポーツという範疇を超えて、みなさんに広めたい、すばらしい教育理念、道徳理念だと日ごろから思っております。剣道、いや剣道的な考え方は、日本、ひいては世界を救う（大げさですが）と考えております。私なりにまとめた剣道観を、皆様のお仕事、ビジネスシーンや人生観、世界観の参考にしていただければ幸いです。

○合気——ペーシングやミラーリング、オウム返し、NLP（神経言語プログラミング）手法、相手から共感を得る手法として使えます。

○慢心——人生においても最大の油断をしてしまいます。常に仕事の上で勝負している、慢心油断は大敵です。得てして失敗の原因を探ると、慢心があって、準備不足だったことが多いです。

○残心——仕事を終えた後も、注意を怠らなく、しばらく仕事を見守っていることが肝要です。

顧客の去った後、来客の後などに残心を残すようにスタッフ指導しています。

○間合い——最近落語の本で、間合いは教えられない。ということを読みました。

間合いには空間的な間合い、時間的な間合い、人間関係の間合いなどがありますが、きわめて教えづらいです。何とか、剣道未経験者の方々にも、わかるように説明しています。

○先をとる——学生時代に先輩が故下村先生のお宅にお電話した時、奥様に先に「お世話になってます。」って先に言われてしまう。こちらが先に「お世話になってます。」って言いたいのには、挨拶で先をとられた！って言ってました。それから挨拶やいろんななかかわりごとの先をとるようにしています。相手より先に挨拶、相手より頭の低い挨拶は、先をとってると思っています。

○先の先——相手の欲求を先に見越して、顧客満足を達成していくのが平成のサービスマンには求められます。先の先を見越す。日本人はなかなか本音を言わない？

いえ自分自身の本音が分かっていない顧客が多いように感じられます。

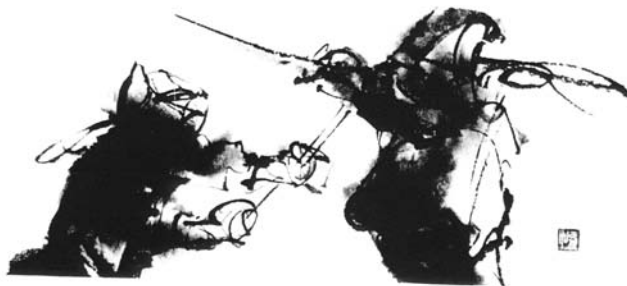
○構え——人生シーンにおいて、スタンス、構えは重要です。相手に飲み込まれないように剣先利かせて、時には剣先ゆるめて、相手と対峙してゆくことが重要です。

○観の目——仕事は集中してひとつのことを成し遂げることも大事ですが、経営者になると広く全体を見通す能力が求められてきます。常に観の目で仕事してないと思いがけない部署でトラブルが発生します。事前に防止したいものです。

○着装——メラビアンの法則というのがあって、人間見た目で八〇%以上評価し、さらに声のトーン、抑揚で五%、話の内容は五%だそうです。ビジネスシーンにおいて着装は常に相手の評価の対象になります。

このような、ビジネスシーンにおける剣道用語を駆使して、後輩を育てております。また、中学生、大学生においても剣道関係者が大いに社会で羽ばたいていただければ、剣道をやってよかったと思っていただけ

たら幸せです。私の口癖で、中学生の父兄に言ってる言葉があります。「お子さんたちは剣道やってるだけで、将来勝ち組ですよ。人生の勝利者になれますよ。」と言っています。



剣術家 佐藤兵馬

美馬支部 大石雅生



昨年末に、県連より「徳島の剣道」への投稿依頼があり、その内容は随想であった。さて、

如何なものかと熟慮してみたがなかなか思いつかない。なので、わが町の剣道家について紹介させてもらうことにした。

昭和六十二年発行の穴吹町史によると、第八編・第九節に剣術家という項がある。その中の一人、佐藤兵馬について記述してみる。

一 佐藤兵馬

神道関口無念流元祖。三谷の人。佐藤家は代々武門の家柄で、稲田修理（一五七七～一六五〇）のころから御鉄砲格に仕官していた。

兵馬（平馬）は、文政二年（一八一九）

に父、弥尾太から相続し、武術がうまく高松領へいって剣道指南番をしていたと伝えられる。猪井達雄編「稲田家御家中筋目書」八六八、平馬の子佐藤惣助の項に、

此の者、親、兵馬（平馬）儀、先達つて讚州塩屋村、嫁ぎ先にて不仕成しの儀これあり、高松より御召捕にて侍分牛窓へ追払いおせつけられ候おもむき、その後、居村へ立戻り彼是、わがままの振舞いこれあり、そのころ当村御役人へ御願ひ御行着中、足抜けせしめなおまた、その後、立戻りの儀これあり、平素武事をも相嗜むこの身分、右様、不心得の仕成し等、第一、上をあい恐れざる段、重々、不埒不届の至りに候なり。これにより右者、亦弟兵次家族とも御家来姿御削り一枚先規奉公人に御身居へ成られる旨、おせ出され候。

天保十亥（一八三九）四月十日

会 処

裁判所

と沙汰されている。

琴平宮の絵馬堂に佐藤兵馬の名がある。

本殿に向かって左に三穂津姫社があり、その社の左に絵馬堂がある。その前の馬の銅像付近から絵馬堂を見上げると、左側に木製金網ばりで額があげられつぎのように記されている。

剣術 神道無念流

柔術 天神真楊流

先師佐藤兵馬 阿波国美馬郡岩倉村

森 種之助 磯村 進門人

磯村源左衛門

（以下門人多数が記されている）

明治十六歳次癸末三月吉日

二 佐藤兵馬の墓

三谷字高岩仁木利雄家の北側墓地にある。その碑文には、「行年六九歳。明治二巳年十二月十五日、門弟中」とある。また、その道場が在った所が、現在の「イクシ」の地である。道場跡には、緑泥片岩の「奉供養大日如来」一明治廿三年十月廿八日一の碑が建っている。そのすぐ上方には、木造行者像を祭った小庵がある。

以上、原文をそのまま列記したが道場が

あったといわれる「イクシ」には現在佐藤家は無い。私が聞いている古老（故人）の話では、子孫は県外に移っていったとのことである。また、地元はもちろん讃岐（香川県）、備前・備中（岡山県）からも多くの門人が教えを請いにやって来て道場は賑やかだったそう。なお個人墓等のため、子孫の承諾無く写真等の挿入は差し控えた。



月曜会

平成二十七年稽古始め

(なぎなたとの交剣)

徳島支部 吉 田 昌 彦



はじめに

私は、中学、高校、大学、そして警察特練から引き

続き、剣道を始めて五十年近くなります。

この間、平成二十六年三月には県警を退職し、現在は県立中央病院で勤めております。

私の剣道人生で特に警察特練での十年間は、県外遠征や合宿、様々な大会への出場、等得難い経験をする事ができましたが、「怪我」という大きな山がありました。

二度のアキレス腱断裂を経験し、もう二度と竹刀が握れないとの不安に苛まれ悩みました。しかし、このことが現在の私の剣道を形作ったほか、この思いが月曜会の稽古方針にも大きく反映されております。

以前にも「徳島の剣道」に「こころ」と題して投稿した機会があったのですが、その内容は、

・「怪我の功名」で怪我をしたことにより

剣道が変化をしたこと。

がむしゃら一辺倒の剣道から、気攻めによる勝って打つ「心に響く剣道」を心掛けたい。

・また、この思いは書道に通じ、「書」は人それぞれの日々の移ろいの中で心の在り様を写し出し、「剣」も同様にその日の体調や心の中の潜在意識が大きく左右するものとの気持ちから、稽古では「心」の持ち方を重要視するようになった。

というものでした。

さて、この月曜会は、平成十一年十月にこれまで稽古をする場所がなかった渭東地区で何とか稽古会を設けたいとの思いから「渭東剣友会」が立ち上がり、そして、平成十七年一月に剣道審査合格を目指す稽古場として集まった有志によって「月曜会」が誕生しました。

現在の会員数は約二十五名にまでなり、

多い時で二十数名の剣友が参加し、道場狭しとばかりに稽古に励み、社会人剣道大会にも三チームを編成できるまでになりました。

また、稽古は、六十歳以上の方も多く出られていることから、あまりハードな内容とせず、基本稽古と地稽古の割合を半々にして、一人ひとりの剣道にあった然も剣道理論に裏打ちされた稽古をすることに重点を置いています。

そして、怪我を防止し、健康な身体を維持してこそ十分な稽古が可能となって「心」も十分に錬れる。との思いから、稽古に先立って二十分をかけてストレッチ等の準備体操を行っております。特に冬場は入念に実施し、夏場はストレッチだけで大汗が出て息が切れるほどです。

こうした、稽古を続ける中で正月五日の稽古始めには、同じ職場となった郡利江先生（県なぎなた連盟理事長、県立中央病院副院長兼看護局長）にお願いして「なぎなた」との交流稽古を行いました。

当日は、郡先生のほか五名の剣士の参加

を頂き、なぎなたの歴史、名称、構え及び基本技等の教示を受けた後に、実際にスネ当てを着装したなぎなた対剣道の異種試合までしていただきました。

試合では、普段の稽古では強者振りを発揮している会員も長いなぎなたや打突部位の脛に戸惑いながらもスネを警戒しながら下段に間を詰め、いざ打とうとした瞬間に狙いを定めた「スネ一本」を見事に頂くなど、誠に興味湧く面白い試合で、二度団体戦を行いました二度とも完敗でした。

しかし、剣道を通じて新しい交流が始まり、深まり、こうした機会を通じ稽古以外の得難い楽しみを享受することができ、今更ながら剣道の奥深さを感じました。これもこれまでの私を導いて頂きました諸先生、先輩、同僚の皆様のご指導の賜物と感謝申し上げます。

剣道では、五十歳、六十歳代は「鼻垂れ小僧」と言われています。今後とも剣道を通じて自己を高め、その楽しさを伝えていくことができるよう精進してまいりますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

す。



雑感 剣道への思い

小松島支部 佐藤 光太郎



剣道を再開して
から早や十五年余
が経ちました。就
職を境に剣道を止
めていましたが、

ある日娘と遊んでいるところに、爆音ととも
にやって来た後輩のH君の「先輩、試合
に出たいのですが、人数が足りないので一
緒に出てもらえませんか。」との誘いに渋々
承諾し、再び竹刀を握ることになりました。
詳細を聞かないまま稽古を始めると、H君
に、「実は、その試合は東京であるのです。」
と言われて、はじめて彼の作戦に気づきま
した。

稽古の再開の際には、温かく受け入れて
くださった小松島支部の皆様や、合宿の際
にお世話になりました丹生谷支部の皆様は
本当に感謝しております。この場をお借
りいたしましたしてお礼申し上げます。

試合の結果はというと、前日の
赤坂で盛り上がりすぎて惨敗でし
たが、今も懐かしく思い出します。
さて、現在は、所属している小
松島支部をはじめ、阿南支部や日
亜化学、セント歯科で稽古を重ね
る日々を送っています。試合は、
社会人大会をはじめ、西日本勤労
者大会など、仲間と楽しみながら
参加しています。

義務的に道場に向かっていた学
生時代と違い、高段者の先生に稽
古をつけていただける機会が増え、
自分の技量の稚拙さを痛感しなが
らも、四十半ばにして、少しずつ
でも上達できればと思いい、道場に
足を運んでいます。これからも健
康に留意しつつ、剣道と向き合っ
ていきたいと思う今日この頃です。
このご縁を大事にし、いろんな方々
と稽古できればと思っていますの
で、これからもご指導よろしくお
願ひいたします。



第41回徳島県社会人大会で第三位小松島支部（筆者は前列左）

称号・段位合格者

七段に合格して

阿南支部 平 正 明



おかげを持ちまして、平成二十六年四月三十日、京都における剣道七段審査会において、

七段に合格することが出来ました。

平成二十三年七段受審資格を得て四年、五回目の挑戦でした。これも一重に県剣道連盟の諸先生、長年に渡り稽古につきあっていたにいたっている剣友、それに羽ノ浦少年剣道教室の子供達、又県高齢者剣友会の先生方のご指導と励ましによるものと深く感謝しております。ありがとうございます。

今回の審査において、心がけた事は二つ。一つ目は気声（勢）で相手に負けないこと。二つ目は絶対に攻め負けず、下がらないこ

と。この二つを胸に自分に言い聞かせ立ち合いました。気合いは相手の頭からかぶせるように、下腹からしっかり出すことが出来、気持も楽に落ち着いて立ち合うことが出来たように思います。

一人目の相手には面返し胴、二人目は面返し面と二本とも応じ技であり、自分としては十分な技ではなかったとの思いがあり、どのように評価していただいたのか、ただ先をかけ、攻めて相手を引き出してからの技であった、このことを評価していただいたのかも知れません。合格発表を見るまで半信半疑だったことをおぼえております。

十九歳で初めて竹刀を握り、途中十年程勤務の都合で中断して三十歳のとき再開をしました。それから三十六年、これまで何言わず剣道を続けさせてくれた妻に感謝すると共に私のような者でも長く一生懸命に頑張っておれば何か良い事がある、「継続は力なり」続ける事の大切さを学び、又実感しております。

これから何年剣道を続けられるかわかりませんが、健康に留意し体の続く限り、子

供達と共に汗を流し、楽しくやって行ければと考えております。又、七段として恥ずかしくない剣道をめざし稽古していく所存です、今後共にご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。



一生稽古

鳴門支部 松 本 日出夫

平成二十六年十一月十五日名古屋会場にて七段審査に合格させて頂きました。これも普段稽古をお願いしている鳴門支部ソイジョイ武道館（鳴月会）、大麻練成館、渦潮稽古会、県庁剣道部、葦芽稽古会、など沢山の先生方にご指導して頂いたお蔭です。有り難うございました。本当に感謝の念でいっぱいです。

私は、平成十四年十一月に六段に昇段後も稽古を継続していましたが、ただ漠然と身体を動かし汗をかき、美味しいビールが飲めたら良い程度にしか考えがなく本当の稽古ができていなかったと思います。七段審査資格の年数が来て中々審査への踏み切りがつかなかったのもそのせいだったかもしれません。ある日、某先生に「稽古している以上は上の段位を目指すのが当たり前なのではないか。」とお叱りを受け、自分なりに考えを改め、受審する事にしまし

た。初めて七段審査を受けたのが、平成二十五年八月二十四日の高松会場でした。高松という事で審査当日に近藤敏晴先生の車に便乗させてもらい余裕をもって会場に到着しました。会場は冷房が良く効いていて快適でしたが、十一年ぶりの審査で身体は緊張のあまり思うように動かず、一人目の立ち合い（女性でした）は間合いが詰まってしまい何も出来ずに終わってしまい、二人目は腹から気合が出ず、喉からだけの気合になり不覚にも一瞬ですが、酸欠状態になってしまい案の定、気の空回りで相手に一方的に打たれ、まったく良い所がなく終わりました。あと平成二十五年十一月の名古屋審査、平成二十六年四月の京都審査と続けて不合格でした。

今、振り返って見ると不合格三回の審査はすべて立会い前から雑念が入り、立礼、蹲踞と相手に対し腰の据わった態度、構えが取れなかった事、こんな状態では良い立ち合いなど到底できるはずがないと思いましたが。そして今回、平成二十六年十一月十五日名古屋会場の審査にあたり大麻練成館

での稽古後、藤本雅史先生から、立ち合いで打ちが打突部位から外れても打ち切る事、残心をとる相手の前で止まらない事、立ち合いの先生から「止め」の声が掛かるまで相手との縁を切らない事、等々アドバイスをいただき臨んだ審査でした。過去の審査での失敗を繰り返さないよう立礼から蹲踞、立会い「止め」まで相手から目を外さず縁を切らない事を心がけました。

一人目はお互い気を張った状態からの攻防でしたが相手の起こり捉えた小手を打つことが出来ました。この時の感触は今でも覚えています。後はよく覚えていません。二人目の立会いも起こり捉えた面が打てた様な気がしますが、これもよく覚えていません。立ち合い終了後、近藤敏晴先生から「よい機会に打突出来て良かったですよ。」と言っていたいただきましたが、実感がなく半信半疑の気持ちでした。しばらくしての結果発表で自分の受審番号を見たときは素直に嬉しく思いました。

さて表題の「一生稽古」は私がお世話になった鳴門市立工業高校の剣道場に掲げて

あった道場訓です。この「一生稽古」を目標に何事にも努力を惜しまず継続し、私なりに頑張り、体力に応じ無理をせず、一生稽古を続けて行きたいと思えます。

最後になりましたが諸先生方はじめ、剣友の皆様から受けたご恩を少しでも返せる様に頑張りますので今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございます。



六段に合格して

三好支部 湯 岑 昭 彦

平成二十六年四月二十九日、京都で行われた審査会で六段に合格することができました。日頃からご指導いただいております三好支部の先生方、ならびに徳島県剣道連盟の先生方のおかげです。心よりお礼申し上げます。

今回の審査は過去三度の失敗を経て、四度目の挑戦でした。

これまで私は昇段審査ということを意識し過ぎて、見せる剣道をすることに重点を置きすぎているように思います。しっかり攻めてから打突していることや、相手が攻めてきても我慢して攻め返していることなどを、審査されている先生方いかにアピールしようかということばかりにとらわれ過ぎていました。そのため、相手がどう出てくるのか、どんな剣道をするのかなどを考えすぎ、結果それが迷いとなって体が動かなくなり、相手の初太刀に対応できず、出

遅れていました。あとは皆さんが想像できるように、初太刀の失敗を挽回しようと焦り打ち急いで返し技を打たれる、出ばなを打たれるといった悪い流れを自分で作り出し、頭の中が真っ白の状態となって立合いが終わるといったような感じでした。

三度目の不合格の発表を見た時、「審査を受けるたびに合格へと近づいている実感がまったく無い」と感じるとともに、「一度も自分の剣道を出せていないから、毎回不完全燃焼で終わってしまっている」と感じました。その時、「ここで一回考え方をリセットしなければ、次も同じことをしてしまおう」と思いました。

そこで次回の審査では、最初から最後まで自分の剣道を貫くことを目標にしました。そのためにまず取り組んだことは「審査のための稽古をしない」ことでした。審査用の稽古はその日が近づいてくるにつれ緊張してしまうことと、審査を意識すると技が単調になってきてしまうような感じがするので、いつもどおりの稽古を心掛けるようにしました。審査当日になると、これまで

審査を意識しないように取り組んできたことがよかったのか、緊張することもなく落ち着いて立合いに臨めました。

立合い直前には「相手に合わせない、打ち急がない、いつもやっている剣道を最後までやり切ろう」と自分に言い聞かせたことを覚えていきます。

過去三度の審査では終わった瞬間「これは不合格だな」と確信していたのが、今回は「これで合格できなければ今の自分にはまだ六段を受ける実力が伴っていないということなのだ」と、自分の中でいつもの感覚とは違った満足感がある内容でした。

今回六段に合格することができましたが、自分はまだまだ稽古も充分ではなく、これから本当の六段として認めてもらうための稽古を始めることができるのだと感じています。これからより一層の精進に努めていきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

剣道六段に昇段して

麻植支部 原 田 敏 也



「あれで六段か、
と言われないよう
な剣道をせなあか
んな。」この言葉

は今から二十八年

前に山川講武会の三木薫先生が、当時六段に合格された、元支部長の植田一夫先生にかけられていた言葉です。中学生で剣道を始めた私にとっては、「植田先生でも心がけなければならぬ六段とは、どんなものなんだろう。」と感じたことを今でも鮮明に覚えています。剣道を細々と続け昇段をしていく中で、六段という段位はいつしか私の目標となっていました。

六段挑戦は今回で三度目となりました。

一度目は訳の分からないまま挑戦し、何もできず終了。その後教員採用試験の勉強、スキー連盟指導員としての活動……六段はいつかきつと、と思いながらも、剣道から

は遠ざかっていくばかりでした。しかし、

担任した子どもたちから「先生、何段持つとるん？」と聞かれるうちに、そろそろ本気で考えなあかんと思ひ直し始めました。

昨年度から赴任先が変わり母校での勤務となったので、少しは稽古ができたかなと思ひ二回目の挑戦。しかしまだまだ稽古量が十分ではなく、自分勝手な剣道を展開してしまいました。それでも全剣連から送られてきた審査の成績開示ハガキに、自分の剣道を評価して下さった先生がいらっしゃることに喜びを感じたことで、再度挑戦しようという気持ちになりました。そこで今回は稽古不足を補うことを考え、仕事と子育てが終わる夜十時半頃からの一時間半、家の庭で一人稽古を心がけました。素振りはもちろん、打ち込みや切り返し、審査をイメージしての打突稽古を毎日行い、支部の稽古会や少年剣道で、実際のイメージとの

摺り合わせを行いました。そして迎えた三度目の審査会。今回は自分勝手な剣道をせず、相手を崩してから攻めることを念頭に置きました。

一人目の相手は上背の大きな方でした。

初太刀で反応を伺い、機会を見て迷うことなく面に跳んでいました。相打ちになりましたが、再度触刃の間合いから攻めを続けました。すると面に跳んでくる動きが見えたところで体が自然に動き、胴を返していました。再びじっくりと対峙しましたが、動きがありませんでしたので間合いをさらに詰め、面を打ち込みました。その後、合い面となったところで立ち合いが終了しました。

二人目の相手はじっくりと動かれる方でした。色を見せずに打突される方でしたが、一人目と同じように、触刃の間合い↓一足一刀↓相手を動かしてから打突↓残心、を心がけました。途中で返し面がしっかり決まった感触を覚えています。終始相手を動かそうと、冷静な立ち合いができた気がしました。

立ち合い終了後は、今出せることは全てやったという気持ちになりました。先に合格を決めていた、日和田君の日本剣道形が終わったところに合格発表。自分の番号を見

つけたときには、喜びで胸がいっぱいでした。

こんな自分が合格できたのも、麻植支部の先生方はじめ、今まで稽古をつけて下さった徳島県剣道連盟の先生方、応援してくれただたくさんの子どもたちのおかげです。そして何より、自分を支えてくれた家族に感謝しています。これからは六段の重みを感じながら、「あれで六段か」と言われないような剣道を目指し、精進していきたいと思えます。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。



六段に合格して

徳島支部 玉田 真理

平成二十六年五月愛知県での審査におきまして、六段に合格させて頂きました。

この日までに本当に多くの先生方にご指導頂き感謝の言葉しかありません。この機会をお借りして心よりお礼申し上げます。「何度も、根気よく、気長に、ご指導頂き、本当にありがとうございます。」

私は、中学校時代は吹奏楽部で活動していましたが、高校では何かの運動部に入部したいと考えていました。球技が苦手な私の選択肢はあまりなく、当時弟がしていた剣道しか思いつかず、剣道経験者の友人と二人で川島高校剣道部に入部しました。中学校時代に吹奏楽部で挫折を味わったので、高校では挫折と後悔はしたくないと思っていましたが、入学前の春合宿初日に、練習の厳しさを目の当たりにして後悔の文字が頭に浮かびました。剣道を余りにも知らなすぎ、ため息しかありませんでした。私が

一年生の時、県大会を全て優勝する強い先輩方がいました。県総体も優勝し、インターハイに出場が決まりましたが、初心者である私を七人目の選手として選んで頂きました。何も分からないまま付いていったインターハイでしたが、先輩方は本当に強く、第三位入賞という結果を体験することができました。そんな先輩方を目標に自分たちの代もインターハイに出場できるよう、厳しい練習に耐え高校時代を剣道一筋に打ち込むことができました。この川島高校での三年間が私の剣道の土台となっています。

出産、育児としばらく休んでいましたが、全国家庭婦人剣道大会出場をきっかけに再開し、次は六段に挑戦することになりました。不合格が続くなか、ある先生とのお稽古の際、「四段か五段を受験するの？」と言われました。その言葉を聞いてこのままではいつまで経っても合格はない、心を入れ替え、高校時代のように初心にかえり六段審査と向き合いました。

そして迎えた今回の審査では、審査委員長のご挨拶に「六段にふさわしい、所作、

立ち振る舞い、打った打たれたではなく、打つべき機会を大切に悔い残さず頑張ってください。」という言葉頂きました。一人目の相手は体が大きく威圧感がありました。落ち着いて立ち会うことができませんでした。出頭面を打った際、体当たりで吹っ飛ばされ、一瞬気持ちが萎えそうになりましたが、ここでひるむと六段にふさわしくないと思

い、冷静に自分の持てる力を出し切ることができました。二人目も集中して立ち会い出頭面を打つことができ、終わった後は充実感がありました。

ここまで頑張ってこられたのも、家族の支えがあったからだと思います。主人は勿論ですが、子供達の日々の頑張りは私の大きな励みと力となりました。

また、この六段審査を目標とする中で出会えたすべての方々にお言葉を頂き、合格につながったと思います。改めて言葉の力の大きさを知りました。これからも感謝の気持ちを忘れることなく、精進してまいります。今後とも、ご指導よろしくお願います。

剣道六段審査に合格

徳島支部 福 永 康 浩



平成二十六年八月三十一日、福岡審査にて六段に合格することができました。ご指導していただいた先生方々、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

六段受験資格は平成二十三年の京都審査からできた為、春の京都審査へ。当然、不合格で評価は「C」六段は気合入れて稽古しないと合格できないと実感しました。五月から仕事の関係で徳島から高知へ異動となり、高知で一年ぐらいは、会社と、アパートの往復で、たまに近所で外食をするぐらいのほんと単純な私生活でした。六段に合格することができたのは、ある日、高知で稽古できる所はないかと思いインターネットで検索してみると、高知武道館で月曜日から金曜日まで一八時〜一九時稽古ができるとの事で、武道館に行ってみました。高

知武道館には、八段の橋本健蔵先生、安岡孝先生、その他七段の先生方々が沢山来られてました。私の高知での剣道はここからスタートです。

しかし、ある日突然、左手にしびれがでて、病院に行くと、首のヘルニアと診断され、病院の先生からは「剣道はいかんいかん、やめちよきや」と土佐弁で言われ、治療に専念しました。しばらく剣道から離れることになりました。この頃、剣道できる体は、ほんと幸せなんやなと実感しました。稽古したくても稽古はできない。体が元気な時は、稽古行けるけど稽古をさぼってしまっ、こんな事が多かった気がします。徳島に帰ると超軽量防具が流行しており、この面だと首にも負担が少なく稽古できると思い軽量防具を購入し、高知市内の潮江南小学校で高知県道場連盟会長、高知致道館館長の岡本守雄先生と知合い、剣道だけでなく、お酒の飲み方を教わりました。お酒の方が六段昇段は早かった。七段かも（笑）。噂は聞いてたけど、高知の人は、お酒を飲む飲む。稽古もお酒も毎日です。

岡本守雄先生は、全国高齢者大会個人で二回優勝、また二〇一三年ねんりんピック

高知Aチームの大将で活躍され、高知Aチームの優勝に貢献され、いろんな面で尊敬できる先生です。お酒も剣道も豪快やき。そんな岡本守雄先生になぜか可愛がられた私は、高知のいろんな道場に連れて行ってもらえ、高知で剣道仲間が沢山できたことは、幸せです。高知武道館、高知署、高須剣友会、はま友会の先生方々感謝しております。どことは言えませんが稽古後、毎回お酒を飲むところもあります。稽古後剣道の話しながら、飲む酒は最高にうまいが……徳島に帰った時も、吉田昌彦先生をはじめ、月曜会、涇東剣友会の皆様にご指導いただき、ありがたかったです。感謝しております。ありがとうございます。

今までの稽古で、どうしても審査に合格できるか、わかってきましたが、攻めが悪いため有効打突がでない。これでは審査は合格できません。合格できた審査では先的气氛で相手が嫌がる攻めや、溜めて打つ。審査時間を気にせず一本勝負の気持ちで、審査に挑み合格することができました。

これからも、基本を大切に稽古し上を目指し頑張ります。ありがとうございました。

剣道六段に合格して

警察支部 木下 裕 康



「六段合格、まだ合格には早いんじゃないかな。」

平成二十六年八月三十一日福岡県

で開催された六段審査での私の正直な感想でした。

私は、二十七歳で七年間勤務した機動隊、警察剣道特練から退き、約三十年間仕事を言い訳に剣道から遠ざかっておりました。

この十年は竹刀すら握らない生活をしていました。六段合格の二年前体力的に衰えを感じ、何か運動しなければと考えた時、以前退職したら子供達と一緒に剣道が出来たらいいなと考えていたことからさっそく、警察OBである川田武志先生の居られる松茂剣道教室に通わせて頂き、稽古を始めました。何分にも三十年のブランクは大きく眼も身体も付いていかず、また、自分の不

注意から左足裏の腱を切り、連続技や体を開いての打ちが出来ない状態となりました。そのため、以前の様な動いて打つ剣道が出来なくなりました。

私はこの怪我を機に稽古内容を変え、その場からの面打ちと定め、松茂剣道教室では子供達と一緒に基本打ちの稽古をし、また我が署での週に一度の朝稽古で、吉田茂生先生、武岡勝美先生、青木博志先生からご指導頂き、一本一本を打ち切る、気を練る稽古を心掛けました。

更に、今年の春からは稽古量を増やすため、以前お誘い頂いた元木武先輩のされている鳴門市少年剣道教室にお邪魔をし、色々なタイプの先生方と三分間の回り稽古をさせて頂き、正確な打突と時間の配分を身に付けることが出来ました。稽古をしていくなかで、自分の「姿勢はどうか」「竹刀の握りはどうか」「左足の位置はどうだったか」「自分の間合であったか」等常に意識し、稽古していききました。

昇段審査を受審するにあたり、三十五年ぶりの昇段審査、それも初めての全国審査

のため、合格には最低二回以上の受審が必要なのではないかと思っておりました。

それでも福岡の会場に入ったとき、以前剣道特練生として稽古をしていたところに、恩師である堀江幸夫先生から、

「稽古も試合も、相手と対峙したら、竹刀の先は、セキレイが水面で尻尾をチョチョと動かす様にして相手の動きを覗、足は、水鳥が沈まない様にしっかり水の下で動かしている様に動かし、それでいて、上体は川面で優雅に浮かんでいる様に、バタバタしてはいけない。」

と教えて頂いたことを思い出しながら、今日の審査では、

必ず先を取る

自分の間合いで剣道をする

面を三本、応じ技を一本打ち切る

を目標に立ち会いに臨みました。

一次審査の二回の立会いとも目標通り先を取っての面を打ち、相手が出てきたところをすり上げて面、出小手を押さえると自分では改心の出来であったと思います。続いている剣道形審査では、審査の一週間前に



高校の同級生である松本日出夫君（現七段）から特訓を受け、これも気位を持って打ち切ることができ、合格することが出来ました。今回、運良く六段に昇段させて頂きましたが、まだまだ六段の実力が自分にあるとは思えません。これからも諸先生方にご指導頂き、少しでも早く六段に相応しい剣道が出来る様、精進しなければと思っております。今後ともご指導の程宜しくお願ひ申し上げます。

六段審査を省みて

阿波支部 出口 正 春



向かう。

平成二十六年五月十一日、早朝から高速バス、新幹線の車中に私は有り、一路名古屋に

十時過ぎ名古屋駅に着き、さらに審査会場を目指した。枇杷島スポーツセンターに着き、玄関前の階段を上ると、気合の入った掛け声がひっきりなしに響いてくる。「何でも先々せなあかん」という師の教えに従い、中に入り空いた場所を探して、稽古着に着替え、玄関の階段辺りで素振りをはじめ、体を温める。

暫くして、昼前に受け付けを済ませて、十二時過ぎ午後の審査の説明があり、その後各コートに分かれ、自分の審査番号を付けてもらった。この日は「五五七B」で前から七組目で割りど早目であった。

少し後、審査が始まると、両横をはじめ周りも、皆気合十分で強そうだ。いよいよ前列の人が面を付け出したので、遅れないよう私も準備をする。

前組が終了し、指示により立会いの位置に着く。立ち上がり、前に進みながら掛け声を出す。相手も発声したが、数秒間双方とも動かず、こちらからさらに発声し前に少し進む。相手がまだ動かないため、思い切って小手を打っていくと筒の部分に先草が僅かに当たる。剣先をつけ直し相手に備える。この後何度か打ち合い、そのつど残心を心がけ、次の打ちに備えた。「止め」の声に気づかず、二回目の声で初めて我に返った。二人目も何回か打ち合ったように思うが、定かではなく、ただ相手に集中していたのか、止めに気づかず何回目かの声がかして、ようやく立ち位置に返り立礼する。

審査のコートを離れながら、これは今日もダメかなと思いつつ、二階に上がり道具をはずして一応発表を待った。観覧席の端から発表を見たとき、思いがけず自分の番号を見つけ、慌てて垂を持ち

下に降りていく。番号を確かめると垂をつける間もなく、形審査の会場に引率されそこであらためて垂を付けた。

形審査では仕太刀をする。ところが、小太刀の三本目、胴切りを受け止めて摺り流すところで、タイミングが合わず相手の刃が受けられず慌ててしまう。座礼の後相手の人と話をすると、「あれは形の中でも一番の見せ場だよ」と言われガクツとしてしまう。相手は北海道の人で「お互いに形で落ちたくない」と話しながら発表を待つ。最後の組が終わり発表があり、幸いにも合格し、相手にも迷惑をかけずほっとする。因みに五名が不合格だった。

この度の審査合格までには、自分でも呆れる位の時間がかかってしまった。お世話になった先生方はじめ恩師の方々に申し訳ない気で一杯だったため、審査会場を後にした時ほんの少し気が楽になった。

私は地元の少剣や阿波支部、上八万また錬心館さらに高齢剣友会の先生方に教わり、注意されやっこのことで合格できた次第で、この場を借り心よりお礼と感謝を申し上げます。

ます。

自分の未熟さは自分が一番よく知っており、今後とも稽古に励まねばならないと感じております。一層のご指導をよろしくお願い申し上げます。



剣道六段審査に合格して

警察支部 六 條 勝 仁



平成二十六年十一月、愛知県での

審査会において六段に合格させていただきました。

頃からご指導いただいております県警の先生方、剣道連盟の先生方、また共に稽古に励む剣道特練の先輩、仲間誌面をおかりしましてお礼申し上げます。

私にとって今回の審査が、初めての挑戦でありました。諸先生方、諸先輩方から審査要領や審査に対する心構え等、多くの御指導を頂きました。

全国の警察大会が十月終わりにあったことから、勝負剣道から正しい剣道へ転換せねばと思いましたが、現在の自分の剣道で勝負しようと思心しました。その上で、先生方から「発声」「初太刀」「攻め」等の御指導を頂き、日々の稽古に取り組みました。

特に心懸けたことは、腹に力を溜めることです。この腹に溜めるということは、未だに修得できませんが、こうかなと意識することで、相手との攻防や先の取り合い等において、攻めが今までより引き締まった感じがしました。

審査当日、程よい緊張感を持ち会場入りすることができました。会場である枇杷島スポーツセンターは、大学生時に何度か試合をした場所であり、懐かしさと共に自然と「よしっ」と気合いが入りました。

立ち会い一人目、かけ声の後、腹に力を溜めました。しかしその後は覚えておらず、二人目も全く覚えていません。終了後に息が上がっていたので「打ち過ぎた」と反省しましたが、今の自分の剣道を十分に出し切れたと満足でした。

結果、六段に合格することができました。今回の昇段審査を経て、自分の剣道を見つめ直せたことが、一番よかったと思います。自身の課題を見つけて乗り越える、剣道はその繰り返しだと感じました。

今後は、残り僅かな特練生活において勝

負に徹し、同時に六段らしい剣道ができるよう日々精進して参りたいと思います。今後とも御指導宜しくお願い致します。



剣道六段に昇段して

板野東支部 井川 理之



平成二十六年十一月十六日に行われた名古屋での六段審査会、初めての中央審査におい

て昇段させて頂きました。これも、日頃から御指導を頂いている板野東支部ならびに誠武館道場の先生方のお陰と感謝し、心から御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

私は生まれは徳島ですが、父の仕事の関係で幼稚園から大学卒業まで大阪で過ごしました。

剣道を始めたのは、幼稚園児の時で親が中学校の体育館で剣道をしているのを知り、私を見学に連れて行きました。その時、「格好いい、やってみたい!」と思ったのが私と剣道との最初の出会いでした。その道場は先生が亡くなり、小学校二年生で辞

めてしまいました。それから近くの警察署の道場に通い始めましたが、今一つやる気が出ず、それを感じた母が偶然知っていた道場に私を連れて行きました。それが、今

はありますが大阪誠武館で、有馬光男先生との出会いでした。厳しい稽古でしたが、先生のような面が打ちたいと思ひ頑張っていました。その後も中学、高校、大学と剣道を続けましたが、厳しい稽古の日々は続き、特に高校時代の合宿では朝から晩まで一日に四回もの稽古でした。振り返ってみると、よく続けてこられたなと思います。

大学卒業後は祖父の仕事を手伝う為に徳島に帰って来ましたが、直ぐは剣道をする余裕ありませんでした。剣道から離れて数年経ったある時、北島町立武道館で稽古を行っているのを知り、またやりたいという気持ちが湧いてきたので、当時の代表指導者の故・大野義則先生にお願いをしたところ、快く承諾して下さい、再開することになりました。そこで道場名を聞いて驚いたのは、私が大阪で通っていた道場と同じ名の誠武館だったことです。これも何かの

縁だと思い、剣道に対する志が更に強くなりました。しかし、私の三人の子供がまだ幼く、なかなか稽古に足を運べませんでした。

それから数年経ち、代表指導者を亀田秀雄先生が二年間され、平成二十一年四月から私が引き継ぐことになりました。段位は、大学時代に四段を取得していましたが、道場の子供達の為に昇段したいと思うようになり、同年の九月に五段を取得しました。

そして、この五段を取得してから私自身の剣道に対する気持ちがより一層強くなり、新たな資格取得のため社会体育指導員(初級)に参加しました。その時に同室であった京都蒼龍館の會田一博先生とは大変意気投合し、出稽古にも行かせて頂きました。會田先生の御紹介で富山の紙屋行夫先生や竹貴士先生、久保伸一郎先生他諸先生方も知り合い、今回の六段昇段に向けて御指導頂きました。また、この講習会の講師で小学生時代の恩師有馬先生と再会することが出来ました。こちらに帰って来てからは、お会いしていませんので約二十年ぶりで自

分自身が一番憧れていた先生の指導を仰ぐことができ感無量でした。

さて、審査は午前部の最後の方でした。が集中して臨むことができました。一人目の立ち会いの初太刀の出小手、二人目の初太刀、不十分ではありましたが自分では満足している面、最後の面返し胴。緊張はしましたが、リラククスして立会いする事が出来ました。これも、徳島まで稽古に来て下さり御指導頂き審査会当日も朝稽古と一緒にして下さった紙屋先生、竹先生、久保先生、日本剣道形を細かい所まで丁寧に指導して下さいた本村賢二先生、五段昇段の際にもお世話になった武田先生他、ご指導頂いた多くの先生方のお陰であります。

この様に私と剣道との繋がり、人との繋がりが有り今の私があると思います。感謝の気持ちを忘れず精進していく覚悟でございますので、なお一層のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

剣道六段に合格して

徳島支部 小倉 武雄



平成二十六年十一月の名古屋での審査会でお陰様で合格をいただきました。

中央武道館で稽古をつけていただく先生方、県庁剣道部の先生方、又、県内外の先生方にあらためて深く御礼申し上げます。徳島県には転勤で平成二十五年に参りお世話になっております。

お世辞にも稽古十分とはいえない私にもまがりなりにも受審資格ができ審査会場へ向かうことは、おこがましくもそれ自体が喜びでありました。しかし、結果は毎回惨憺たるもので、家内のイヤミと成績開示の葉書が軽く一ダースくらいはあるでしょうか。

あるとき、葉書に「B」がついて帰ってきました。おや、と思ひ当日の立合で良かつ

たと思えるところを探してその感触を保ち続けるようにしました。この時のB評価は一筋の光明を見た思いがし、周囲の方々の励ましとともに稽古に向かう力となりました。

しかし、光明はよかったです。平成二十四年には左アキレス腱を断裂し暫く中断となってしまいました。

稽古を再開してからは、今までの様に跳べない、体が前へ出ない、竹刀が届かない、という状態になっていました。脚が衰えたのか又は断裂の恐怖に心が知らずの内にプレーキをかけているのか、その両方なのか、いずれにしても今までの間合では通用しなくなりました。これを取り戻すために、稽古ではほぼ毎回できるだけ面打ちの稽古を行いました。

更に、私の大きな注意点は、「打てる」と思っても拙速に打って出ていけないことです。十分にタメて、もう少しツメて、と一層のご指導をいただいていたのですが、なかなかできずにおりました。

アキレス腱負傷の結果は間合をツメてい

くこととなり、無理な「飛び出し」を抑制できたのかもしれない。

今回の審査では、大きな注意事項―すぐに打っていかないこと・よくタメて思い切った打ちぬけること・打ちきること・自分から攻めること―の他、竹刀の持ち方や姿勢などへの注意がよく守れたのではないかと思います。

審査当日は朝からなにか捨て鉢な気分でああしよう、こうしようといったことも不思議と思うこともなく、落ちたら落ちたで又次回、「明日があるサ」と少々不謹慎な気分でもありました。

立合の内容はほとんどおぼえておりません。ただ、構えて相手に向き合いもう少しツメてツメて……といく中でこちらの辛抱ももう切れる、その少し前で相手が出てきてくれ、それに対応できたのでは、と思います。相手にも恵まれました。上位の先生に上手に引き立て稽古をしてもらったような印象で、終わってから気持ちがよかったなと思えた立合でした。

発表を見ると四名中三名が合格となり、

相手の方とも共に喜ぶことができました。

これからは六段の剣道をしないとイケないね、とか、明日から七段を目指せ、などと、合格の報告をすると祝福の次に必ずこの様な激励をいただきました。何をどうしたらよいか、模索と悪戦苦闘の日々が又はじまるのでしょうか。ただ、これを機会に基本に立ち返り一から見直してみたいと思います。一層のご指導ご教授をお願いできれば幸いです。

最後に、転勤族でも、稽古できないときも多くても、怪我をしても、何回も不合格でも、家内にイヤミを言われても、ついに合格の日は来ました。いちばんよかったことは、諦めなかったことだと思っています。その支えとなったご指導や励ましを胸に今後一層の精進をして参りたいと思います。



六段審査に合格して

徳島支部 大 貝 美 治



平成二十六年十一月十六日名古屋
市枇杷島スポーツ
センターにおいて、
六段審査に合格し

ました。五段に合格したのが、昭和六十一年三月十六日、二十九年ぶりに昇段審査に挑戦しました。運良く初挑戦で合格しました。

三十歳〜四十歳のとき、左足アキレス腱断裂、右足膝半月板損傷、時期は違いますが、両足共手術をしました。膝にあっては数年後痛みが出てきました。手術をした右足、手術をしていなかった左足の膝も痛みが出てきました。剣道をする気はありませんでした。そんな中、友人である松島先生から高齢剣友会に入会するよう誘われました。返事は保留していましたが、入会の申し込みをしたと連絡があり、また佐野先生

の勧めもあり、はじめるきっかけになりました。

足の痛みは消えず、整形外科で一週間に一本両膝に五週間注射治療したら良いと言われました。以前にも何回も治療を受けていたのですが、痛み止めの薬を飲みながら練習していました。しかし正座は今でも長く出来ませんが、練習していくうちに膝の痛みが少なくなってきました。

練習しているうちに面白くなってきました。最初段位はどうでもよかったのですが、先輩たちにすすめられました。家の仕事もあってやっと十一月十六日名古屋で受けることができるようになり、県外審査は初めてです。

昇段審査を受けることを知った何人かの先生方から審査に当って助言及び指導をしていただきました。

坂下先生から審査の先生方は最初のあいさつから見ている、打ったあと相手から目を離すな、一発で合格してこい。美馬先生から相手が面を打ってきたら返し胴を打つくらいの余裕を持って、中村先生は思いきつ

て面を前に打ち抜け、三木先生は力をためておいて相手が面を打ってきたら素早く面を打て、等の助言をいただきました。また臼木先生は練習のビデオを撮って、気合のいつている時といついていないときでは姿勢が違うと、これらのいただいた言葉を頭に忘れずに審査に挑みました。

自家用車で名古屋に行き、ホテルに着くと即ホテルから審査会場である枇杷島スポーツセンターまで行き、時間と距離を測りました。七十台くらいの駐車場であり、事務所には何時から駐車場が開いているのかを問い合わせたところ、七時頃には駐車場はいっぱいになるのではないかといわれ、審査日の朝六時過ぎにホテルを出ました。六時半頃には会場に着いていました。朝から審査の流れを見ていました。時間の流れは速く十二時の昼からの審査の時間が来ました。自分自身この審査にかけていましたし、一発合格を狙っていました。

昼からの審査で私は四人組のDであり、CとAとの対戦となりました。対戦相手を見たときCは女性であり、やりにくいと思

いました。初めの合図で思い切り声を出し、気合を入れて相手を注視し、しばらく向い合っていました。相手が打ってきたら面を打とうと思っていたのですが、打ってきません、時間のことを考え思いきって面を打ちにいきました。そのとき相手の竹刀が小手をかすりました。面は当たったと思いません。また相手とすれちがった後すぐ振り返ったところ、相手はまだ反対側を向いていました。後ろから面を打てば打つことが出来たのですが、相手が振り返るのを待ちました。その後小手がきれいに入りました。Cとの対戦ではあまり打てたように思いませんでした。二人目のAは男性であり、思い切って行こうと思えました。気合を入れて向かい合っていました。相手も打ってこないで、思い切って面を打ちにいきました。相手も待っていたのか面を打ってききました。その後、小手がきれいに入りました。終盤にも面が一本きれいに入りました。「止め」の言葉が耳に入らないくらい気合は入っていました。

終了後振り返って見ると、小手二本と面

一本の三本だけはきれいに当たった記憶が残っています。あまり打った記憶がありませんし、打たれたという記憶もありません。これは駄目かなと思いましたが、同じく審査に来ていた森本先生から、きれいに面も小手も当たっていたし足もよく動いていたと言っていたので、もしかしたらいけるのかと思いを直しました。結果が貼り出されたとき私の番号がありました。

二次試験は日本剣道形ですが、自信がありませんでした。このときもう少し練習をしておくべきだったと思いましたが、私は打太刀になり、間違えないように慎重に少し遅めに入っていました。結果、日本剣道形も合格することができました。

晴れて六段審査に合格です。指導していただいた先生方に良い報告が出来るとほっとしました。合格後たくさんの先生方からお祝いの言葉をいただきました。高島先生から次は七段、資格が出来たらすぐ受けるように、六年ぐらい直ぐ来ると言われました。どうなるか分かりませんが、目標の一つにしたいと思います。

審査に行くのにあたって、助言及び指導をいただいた先生方はもちろん、それ以外によく練習に誘っていただいた松村先生、稽古をつけていただいた高島先生、その他稽古をしていたいただいた多数の先生方に対して心から御礼を申し上げます。



剣道六段に合格して

小松島支部 武藏 純 郎



平成二十六年十一月に東京での審査会において剣道六段に合格させて頂きました。色々

ご指導して頂いた先生方、一緒に汗を流して頂いた至誠館の道場生の皆さん、そして応援してくれた家族にこの場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。

この数年は基本を見直すこと、悪癖を直すことに悪戦苦闘してきたように思います。具体的には、力を入れ過ぎて打ちに冴えが無く、力のわりに剣先が振れてないため、乗せるような打ちになって打突力が弱いこと。そして、持ち技が少ないために受けっぱなしになることが多いこと。また、溜めて打つ機会を意識し過ぎて打つ機会を見失ったりなどです。応じ技などは子供達

の方が何倍も上手で、やはり少年のときからの基礎また技の習得の大切さを今更ながら痛感しています。

初めての六段挑戦は四月の京都の審査会でした。立ち合いは、自分ではそんなに悪くはなかったと思っていましたが不合格。いま考えてみると一人目、二人目ともに面返し胴、面返し面など一本になった技はありましたが、相手が打ってくるのを待っての技が多く、先をかけての技が少なかったと思います。

さて、今回の東京は仕事の都合上夜行バスで行く事になり、審査日の朝に到着、またその日の夜に徳島に帰るという強行軍でした。さらに行きは三連休の最終日ということもあり満員でした。また、同行した小松島支部の「名物男」H君のいびきもすごく、私はほとんど一睡も出来ないというコンディションで審査に臨むことになってしまいました。

今回特に意識したことは、誰よりも大きな声を出し気力を充実させること。そして、前回の反省から、まず自分から先をかけて

攻めて技を出し打ち切ること、それと一分間気持ちを繋げることです。立ち合い一人目は、お互いがジリジリ攻め合う中相手の意図を感じ取り、先に小さく攻めての出頭面で初太刀を取り、また同じように攻めての出頭小手。そして焦る相手を引き出しての面返し胴を一本にすることが出来ました。二人目も同じような感じで自分でも納得できる内容でした。

今回のことを通じ、改めて自分は良き先生方、先輩方、剣友、そして家族と多くの皆様に支え育てられていることを実感しました。これからも今の感謝の気持ちを忘れることなく、次の目標に向かって精進していきたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。

居合道六段審査に合格して

西 本 忠 司

平成二十六年十一月十五日、東京審査会において居合道六段に合格しました。これも一重に恩師である原田勝範士、故平尾勝美範士、木頭大和錬心館の皆様、徳島県剣道連盟居合道部の皆様のおかげと感謝しております。

木頭は剣道の盛んな土地ですが、私は竹刀に触れることなく三十歳まで過ごし、友人に誘われ原田先生の元で居合を始め二十四年がたちます。途中、諸事情で道場から足が遠のくこともありましたが、その都度原田先生、兄弟子から声をかけていただき、引っ張り上げていただき今日まで続いております。

審査会の前日、東京に着いたその足で会場である江戸川区スポーツセンターに向かいましたが、審査会が行われる体育室は見ることが出来ませんでした。私と同じように会場の下見にきた方が数名いました。そ

の方達と少し言葉を交わし、その場を後にしました。

ホテルに着き、夕食のため外にでたのですが、土地勘のない私はホテルの近くをブラブラと歩いていました。偶然、富岡八幡宮の前にさしかかり、神頼みではありませんが、明日の審査会では少しでも平常心で抜くことが出来るように祈願しました。

居合の審査は四名一組で受審します。私は二十二組目でした。一組に六分かかるとして二時間以上待つこととなります。古流二本と全日本剣道連盟居合の指定技三本が審査されますが、幸いにも私の苦手とする二本目「後ろ」は出ませんでした。自分の番まで審査の様子を見ていたのですが、審査を受けている方のすばらしい演武に自分とは場違いのところに来てしまったような気持ちになりました。今回、幸運にも合格できましたが「気迫」「気剣体の一致」「風格」等まだまだ至らないところばかりであったと思います。

原田先生は「居合いをするために、家庭、仕事のことをやりくりするように」とおっ

しゃいます。私自身、練習時間を作る工夫が出来ていないように思います。家庭の事、仕事の事いろいろな面に知恵を絞れば、他の生活面においてもやりくりができるようになるのではないのでしょうか。練習の仕方においても工夫し取り組んでいきたいと思えます。

全日本剣道連盟居合（解説）の中の演武の心得にあるように「気剣体の一致」を心がけ、初心に帰り、基本を見直し、段位に恥じない居合いを身につけるよう学び精進いたしますので、今後とも尚一層のご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



教士に合格して

板野西支部 福 永 徳



遂にと言っかやっ

と到達しました。

十六歳から竹刀を

持ち、十三、十四

年間竹刀を置いた

年月もありましたが、剣道連盟の諸先生方、特に高齢剣の先生方には随分御指導して頂き有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。又、私と剣道を理解して下さった関係者の皆様にも厚く御礼申し上げます。

高校一年から剣道を始め、故堀江幸夫先生、故岡本憲三先輩、故柏原浩先輩に剣道の一からご指導を賜わり、放課後は学校で猛烈な稽古のお蔭で半年後にはどうにか試合が出来る様になりました。学校からの帰りは、矢野弘さん（元コココーラ高松営業本部長）、矢野款一さん（大谷焼窯元）、大西光さん（愛媛砥部焼窯元）と共に大代の尾形郷一先生の貫心道場へよく通ったもの

です。今では皆様は家業で成功し、その道で活躍されています。

剣道が続けているのは私一人になってしまいました。一番下手で弱かった私が七段教士までになり、皆からよく我慢して頑張ったなと褒めてもらいました。継続は力なりといいますが、今しみじみ感じている今日この頃です。

古希を過ぎ稽古をすると身体の節々が痛み始めました。持田先生のおっしゃる様には中々いきませんが、生涯剣道を目指して身体の続く限り竹刀を振ろうと思います。何分年なのでこれ以上の技倆の上達は無理かと思いますが、旺盛な気力の充実を持って常に自己の修養に努め仕事と剣道の両立を図りたいと思います。

事業をしている関係上お得意先の経営理念をお聞きすることがあります。ある県外の会社の理念は「お客様には満足を 仕入先には安心を 社員には幸せを 地域の発展に貢献を」とありました。私はこれを見て剣道の理念に通ずるものを感じました。この会社の社長は創業時三人でスタートし

て一代で社員百七十名年商三百億の事業に育て上げました。社長いわく、人間はいつも基本を忘れてはいけない。人生も基本、剣道も基本、これからのご指導のほどよろしくお願い致します。有難うございました。



平成10年 富雪会新年会（筆者二列目右端）

剣道称号・錬士

審査会に合格して

鳴門支部 岡本 茂



平成二十六年十月二十六日に剣道称号・錬士審査会（東京）において錬士号に合格しました。

所属する鳴門支部並びに徳島県剣道連盟の諸先生方には、六段受審時同様、熱心にご指導を頂き紙面を借り御礼申し上げます。

錬士号は、六段受有一年後に受審資格ができるため早々に挑戦を考えたが、大学（四国大学）卒業を優先したため、一年遅れての受審となった。今回、受審にあたり板野東支部武田修典先生から「お前の持つとる社会体育指導員（中級）の資格があれば全日本剣道連盟へ提出する小論文は免除されるぞ。申し込み時に事務局に確認して書類を揃えておけ」とのこと。言われた時、自分の保有する資格が有効活用できるなら

いいなと思ったが、資格の活用できるかはっきりしないため、審査で課される小論文をどのような内容で書こうかと頭の片隅に置きながら稽古に励み、予備審査に備えた。

平成二十六年九月十四日に徳島県剣道連盟の予備審査（実技・日本剣道形）を受審した。同時に錬士号、教士号を受審される先生方がいたので、お互いに立ち会いとなった。実技・日本剣道形が段位相当にできたかどうかは、今後の宿題となったが、予備審査合格を頂いた。

本来ならここで全日本剣道連盟へ小論文提出の運びだが、審査部長・佐藤佳宏先生から「岡本君、社会体育の中級の資格があれば小論文は免除になるから」とのこと。以上で全国審査を受審することなく錬士号に合格した。

ここまで、錬士号取得の道程を簡単に述べたが、私の考えとして、社会体育指導員の取得をお勧めします。錬士号取得時の小論文の免除（今回審査で全国で二十四名免除）や教士号取得時の筆記試験免除（今回審査で全国で十四名免除）、国民体育大会等の監督の要件となったり、今後、都道府

府県によっては何らかの指導者になるための必須の資格になると思われる。また第一線で活躍されている先生方に懇切丁寧に指導が受けられ、他県の先生方には普段なかなか聞けない貴重な話を聞くこともできるまたとない機会である。これまで社会体育指導員講習会に参加されていない先生方、初級中級を取得されている先生方も上位の級への参加をお勧めします。私も過去三回参加し、参考になることが多くためになる講習であった。

今回、錬士号に合格し、次は七段審査にむけて……と言いたところだが、改めて称号・段位審査規則及び称号・段位審査細則を読むと、錬士の付与基準は「錬士は剣理に錬達し、識見優良なる者」とある。しかし、まだその域には十分到達しているようには思えない。

そこで称号・段位に恥ずかしくない剣道をするため、仕事中心のスタンスは崩さず、機会をとらえ稽古に励み、自身の剣道の技量を高めたい。そして錬士の付与基準に少しでも近づき、七段審査のステップにした

平成二十六年年度

称号・段位合格者一覽

― 剣道 ―

【教士】

五月六日

藤井利一

藤本文義

中川正

三木毅

十一月二十六日

福永徳

【錬士】

五月六日

栗野佳明

十一月二十六日

佐藤浩

岡本茂

【七段】

四月三十日

平正明

五月十日

磯部健治

十一月十五日

松本日出夫

【六段】

四月二十九日

湯岑昭彦

五月十一日

日和田慈海

出口正春

玉田真理

八月三十一日

福永康浩

木下裕康

十一月十六日

六條勝仁

井川理之

小倉武雄

大貝美治

十一月二十五日

武蔵純郎

【五段】

五月二十五日

奈木裕美

紅露喜代美

九月十四日

伊勢忠浩

成松千穂

十一月二十三日

真嶋健司

山口あずさ

平野千尋

【四段】

五月二十五日

紅露智哉

青木万里子

九月十四日

堀椋一

藤本稜

園山由華

十一月二十三日

鈴木健太郎

小山董

河野美幸

【三段】

五月二十五日

新田隆一

大島稜平

荒木崇志

高橋遼

富樫晶紀

中野恭平

魁生誠

金澤恭助

小野勝

増金沙織

眞貝敬子

九月十四日

酒卷伶央

玉川貴文

檜田柗吾

東知勇

藤本滢

黒崎悟

上田慎

坪井貴裕 松本高史 熊橋和真 濱田修平 秋田修平 高瀬陽平 塚田圭吾 十一月二十三日 中井優里花 馬見範子 奥田紋子 鳴川ちひろ 小川桐花 清水真優 野村愛里 深見桃子 新宅美佳 鳥澤武志 大森孝浩 中山真治 佐藤聰 藤井貴之

福田峻斗 南谷飛鳥 佐々木遼太 庄野智也 立川裕也 住友海斗 田中皓己 福田睦 藤本周平 和田直也 板東亮佑 伊岐陽佑 向啓太朗 福田知洋 笠井栄一 前田貴紀 村上晋亮 野田雅史 村上哲之 玉田真子

五月二十五日 和田津皓也 西條賢太 久米都晏 池田圭吾 喜多佑輔 井地岡勇人 岡本和真 山本晃大 井川友暉 井川秀司 走川秀司 大津大輔 小谷怜史 近藤慎吾 三宅遥稀 田上雄大 服部比加留 上田瑛斗 木内捷人 高橋周平 仲須大晟

佐藤裕次郎 森俊太 平田智也 岩本太平 藤岡優樹 森野友貴 志賀翔馬 西名晴輝 朝田智輝 榎本良輔 野路貴紀 西岡祐紀 渡辺裕人 逢坂幸輝 中石昭那 西角春那 堤優香 竹崎真帆 富田瑠莉 山崎舞 武蔵晴香 中野真緒 林澄香

田中優美 佐藤真美 九月十四日 森本直希 森下魁 西田光俊 米山諒 乃一朋哉 檜森大知 竹内秀真 龜井大志 水野兼悟 宮川弘大 大原一輝 森涼太朗 海北勝弘 前田愛実 山下奈奈 鈴木沙季 齋藤智子

十一月二十三日 山室和士 鎌田樹季 小松叶弥 青木羽海 藤本隆 田上将大 矢代宗一郎 受川士 吉井佑太 後藤雄喜 古川光朗 山田健太 竹森阿航 高島大裕 天羽將文 天羽仁 坪井香歩 西岡彩芽 添木葵

四月二十九日 齊藤信吾 矢野郁 富永康生 福田溪人 原和正 今倉海人 太田健士郎 松浦公誠 岡本隼 前田拓真 富田孔明 坂野修造 甲谷知大 服部真佑 山下隼 岩本隆紀 小島拓也 河野綜生 大城尚己 本木輝

【二段】

【初段】

川田実央	山本裕規奈	小澤幸姫	井内菜々	細川拓矢	吉本悠人	豊田耕平	河野一星	中山健太	栗栖豊	武富洸哉	浅井悠希	山下朱理	関本大晟	金森祥太	大岩央和	三宅拓磨	小川雄大	葛籠徳人	柳田有作	中園瑛登	中山真	今本侑希
鳴滝悠希	楠雷斗	六月二十九日		麻植汐那	松永浩香	中原舞	元木春伽	新居里紗	猪子京香	原田悠理	金子祐香	高橋聖奈	長楽ももか	藤原和楽	藤川薫	大城明裕奈	鶴羽綾香	堀出詩織	大山詩織	正木伶実	橋本こころ	儀宝彩乃
近藤雄介	鳥海匠	八月三十一日		緒方真奈美	森雪乃	松尾咲紀	一宮琴音	森田花梨	新見晃子	金田真波	常陸菜々子	古川まこ	藤岡真奈	小園菜水	山内康勢	村田拓郎	友竹勇人	小島脩生	佐阪虎之輔	酒卷佑生	満壽利毅	吉本嵐丸
須原雅大	伊勢翔	後藤尚樹	林慶悟	武澤瞬太	吉田龍虹	冲川拓也	谷丸竜一	榎丸翔太	大西諒太郎	中道紀志	花川晃平	村田竜祐	植田涼矢	鳥澤克之	吉岡卓真	井本亘星	鳥井寛世	高橋和也	遠藤陽太	庄村凌	濱田健祐	阿部太遥
相原奈津美	中西未咲	蔭山真由	松下愛実	川崎萌恵	新開未玖	岡美里	山口直巳	正瑞結梨	大迫遼香	乃一愛美	田村眞尋	貴島美鈴	岡田みなみ	山下直人	地川将太	門脇寛宗	井上敦史	寺内一朗	上田翔月	柳生泰宏	工藤智也	田伏晃希
佐藤一磨	住友祥	瀧下航希	岩原憂汰	受川稜介	藤川稜介	三宅諄紀	十月十九日		檜山浩子	村田莉子	藤崎亜美	森本夢	猪口育秀	河野美結	井内未来	福良満帆	秋成怜美	西淵未光	吉岡未歩	村山あかり	吉井遥香	大久保紅葉
							永野友香	久米歩由子	井藤綺音	近藤鈴夏	木村結衣	相原楓香	広永夢菜	白井香奈	横井陽色	坂口直人	狩野真毅	吉田光龍	近藤凌太	若木登夢	伊藤健太	小林竜也

— 居合道 —

【二段】

九月二十一日

近藤 紗羽

【六段】

十一月八日

西本 忠司

十一月九日

内藤 泰典

【五段】

五月十八日

吉原 均

【初段】

五月十八日

村井 恒治

大石 真奈巳

【四段】

五月十八日

鎌田 貴

十一月九日

根ヶ山 和穂

松本 涼楓

十一月九日

多田 照夫



がんばろう徳島

専門部報告

事業部より

事業部長 熊澤 信行

事業部では、一般男子の大会を四回、女子の大会を四回、少年の大会を二回、剣道講習会を二回、及び稽古始めを開催いたしました。合わせて「土用稽古」、「寒稽古」を行いました。これらの大会運営並びに審判等につきましては、皆様のご協力により、大きな事故も無く、無事に実施しております。皆さんに周知しておきたい平成二十七年の新しい事業として『徳島県三者対抗（警察・教職員・実業団）剣道大会』が復活実施されます。以下にその概要を列記しておきます。ご協力の程、よろしくお願います。

実施要項提案

1. 名称 徳島県三者対抗剣道大会
2. 主催 徳島県剣道連盟
3. 主管 中央、南部、西部ブロック(持ち回りで開催)
競技運営を各ブロックが担当する。第1回は中央ブロック
4. 日時 平成27年11月28日(土) 午後1時 開会
5. 会場 徳島県中央武道館
6. 出場選手およびチーム編成
 - (1) 徳島県剣道連盟会員であり、各三者の現役、OBの15名編成で年齢の若い順とし、段位は問わない。
 - (2) 刑務官は実業団に属し大学生は除く。(院生は一般扱いとする。)
 - (3) 監督は、三者の八段が務め、出場選手を選出するものとする。
 - ・先鋒、次鋒は、女子(年齢は問わず。)
 - ・十三将から十将 : 35歳まで(4名の内2名は連続出場不可。)
 - ・九将から六将 : 36歳から55歳まで(4名の内2名は連続出場不可。)
 - ・五将から二将 : 56歳から69歳まで(4名の内2名は連続出場不可。)
 - ・大将 : 70歳以上(連続出場不可。)
7. 試合・審判および試合方法
 - ・全日本剣道連盟 剣道試合・審判規則とその細則とする。
 - ・審判長以外は、各三者より3名を選出する。
 - ・試合方法は、リーグ戦方式とし試合時間は4分3本勝負とする。
勝負の決まらない場合は、引き分けとする。
勝者数・総本数が同数の場合は、両者優勝とする。
8. 表彰 優勝チームは、優勝トロフィ(持ち回り)を授与する。
メダル・賞状は授与しない。
9. その他 試合終了後合同稽古会並びに親睦会を実施する。

主 旨

警察・教職員・実業団のコミュニケーションを図り、徳島県剣道連盟の活性化を目指して、三者対抗(警察・教職員・実業団)剣道大会を復活させる。

検討会議

- ・平成二十六年七月二十六日
徳島県立中央武道館研修室において実施
- ・平成二十六年十二月二十日
常任理事会(県警機動隊会議室)で検討
- ・平成二十七年一月四日
審議員・支部長会(ホテルグランドパレス)にて検討



第1回 徳島県三者(警察・教職員・実業団)対抗剣道大会 日程表

	種 目	摘 要	時 間	所要時間
1	選手集合		12:30	
2	選手整列		12:55	
3	開会式		13:00~13:10	10分
4	試合	15試合	13:20~14:20	1時間
5	試合	15試合	14:25~15:25	1時間
6	試合	15試合	15:30~16:30	1時間
7	閉会式	表 彰	16:35~16:40	5分
8	合同稽古会		16:45~17:30	45分
9	懇親会		18:45~	

審査部より

審査部長 佐藤 佳宏

審査部では、年間に初段以下審査会（五回）、二段以上審査会（四回）、四・五段講習会（二回）、日本剣道形講習会等の行事を九名の審査部役員で運営にあたっていきます。

審査会等を運営するにあたりましては、審査員の先生方をはじめ、剣道連盟の関係者の方々に多大なるご協力を頂きまして心よりお礼を申し上げます。おかげをもちまして、平成二十六年年度の行事の全てを無事終えることができました。

今年度の審査会の結果につきましては、居合道の部、受審者一七名、合格者一六名（合格率九四％）、剣道初段以下の部、受審者一五五四名、合格者一四七七名（合格率九五％）、剣道二～五段の部、受審者二二七名、合格者一九五名（合格率八六％）となりました。

また、六段以上の高段位合格者について

は、居合道六段一名、剣道六段一・二名、剣道七段三名、剣道錬士三名、剣道教士五名と非常に好成績でありました。合格の先生方は下記のとおりです。

〈居合道六段〉

西本忠司（阿南支部）

〈剣道六段〉

湯岑昭彦（三好支部）、日和田慈海（麻

植支部）、原田敏也（麻植支部）、玉田真

理（徳島支部）、出口正春（阿波支部）、

福永康浩（徳島支部）、木下裕康（警察

支部）、武蔵純郎（小松島支部）、六條勝

仁（警察支部）、井川理之（板野東支部）、

小倉武雄（徳島支部）、大貝美治（徳島

支部）

〈剣道七段〉

平正明（阿南支部）、磯部健治（阿南支

部）、松本日出夫（鳴門支部）

〈剣道錬士〉

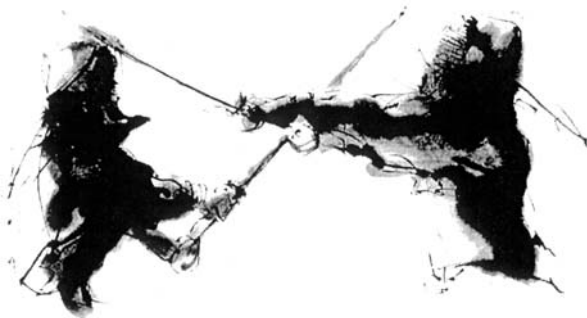
栗野佳明（徳島支部）、佐藤浩（阿波支

部）、岡本茂（鳴門支部）

〈剣道教士〉

藤井利一（阿波支部）、藤本文義（美馬支部）、中川正（美馬支部）、三木毅（麻植支部）、福永徳（板野西支部）

今後とも、審査部役員一同、徳島県剣道連盟発展のため頑張っていきたいと思っておりますので皆様方のご協力をよろしくお願い致します。



強化部より

強化部長 平野 誠司

一 平成二十六年年度実施結果

(一) 剣道連盟稽古会 (県警察学校)

毎水曜日 午後七時～午後八時三十分

毎土曜日 午前九時三十分～午後十二時

(二) 地区交流稽古会 (春秋二回実施)

○南部稽古会

三月 (阿南市武道館)

四月 (鷲敷B&G体育館)

十一月 (阿南スポーツセンター)

○西武交流稽古会

四月 (阿波中学校)

十月 (脇町小学校)

○中央交流稽古会

四月 (中央武道館)

十一月 (中央武道館)

(三) 長期育成強化訓練

○第十四回長期育成強化訓練

平成二十六年八月三十一日実施

於…那賀川スポーツセンター
参加…一十二名

○第十五回長期育成強化訓練

平成二十七年二月一日実施

於…那賀川スポーツセンター

参加…一二三名

講師…稲富政博先生(佐賀県)

(四) 強化遠征訓練

○都道府県選手強化

京都遠征 四月四日～五日

○国体女子選手強化

愛媛遠征 六月二十一日～二十二日

○国体選手男女強化

京都遠征 八月一日～二日

二 平成二十七年年度強化計画

(一) 各種大会目標

○全日本都道府県対抗 ベスト八

○国体四国ブロック大会

三部門優勝(本大会出場)

○国体本大会 ベスト八

○四国四県大会 優勝

(二) 剣道連盟強化稽古会

【新規】平成二十七年一月八日より

毎週木曜日 中央武道館

午後七時～午後八時三十分

【新規】平成二十七年四月一日より

毎週土曜日

場所・時間/随時指定

●強化稽古計画のとおり

(ホームページで公開)

(三) 地区交流稽古会

年間二回(春・秋)実施する。

中央交流は強化稽古会と重複するた

め中止する。

(四) 長期育成強化訓練

小・中・高を一貫した強化・育成プ

ロジェクト。合同錬成によって将来

に向けた基礎作りを目標とする。

三 強化事業の方向性

平成二十七年年度の強化事業は、強化稽古

会の見直しを図り、剣道技術のみならず質

的向上を目指し、試合・審査を目標としな

がら、総合的な剣道力の向上をめざす。



少年部より

少年部長 松村和宏

「身体を通して心の豊かさを知る」という剣の修練の営みによって、交剣知愛による人作りを大切にしていきたい。たくさん先生方の熱い思いを集結させ、伝えたい剣道の継承と創造に邁進していきたい。

○正しい剣道を共導、共習する。(剣道理念、文化性)

○武に向かう心を養う(生涯剣道、文化性)

少年部は、例年通り毎月一度、松茂第二体育館にて強化錬成を行っております。参加者は、各教室及び道場より選出された代表選手二〜五名、合わせて八〇〜九〇名の少年剣士が参加して行われています。

午前中は主に基本錬成、午後からは三つのグループに別れて練習試合を行っております。中でも優秀な剣士一〇名程、兵庫県に遠征に行っております。二十六年年度の兵庫県トップクラスの道場です。

遠征の目的は、他県の選手との交流と毎年九月に大阪で行われている、全国小中学生選抜剣道大会の選手選考のためです。本年も五名選出し、参加致しましたが、結果は残念ながらリーグの突破はできませんでした。これまで本大会に出場した少年達は中学、高校に進んでも活躍しております。

この全国大会も二十七年度で最後になりますが、今後も兵庫遠征並びに、県外の大

きな大会に参加し、少年部が続く限り少年剣士達に将来に繋がる、いい経験と自信を与えていけたらと思います。

本年度、強化錬成の皆勤賞は二二名です。これらの剣士達には剣道連盟より賞状と副賞として竹刀が一本ずつ与えられます。

今回、御指導下さった強化部長はじめ各道場の先生方、大変お世話になりました。ご多忙とは存じますが、来期もまた少年部に一層のご協力と御指導をよろしくお願いいたします。

平成二十六年年度少年強化皆勤者は以下の通りです。

〈徳島少年剣道教室〉

大空航己、長尾遼、山室愛子、塚田志緒、佐藤廉之助

〈加茂名少年剣道教室〉

貴島琴音

〈北井上剣道教室〉

富田鉄平、宮田滉太

〈養武館〉

武知樹生、湯浅和真、野崎陸生

〈渭東少年剣道教室〉

山本泰生

〈松茂少年剣道教室〉

鈴木夢乃

〈藍住剣道スポーツ少年団〉

松本喜起、松本尊灯、大前誠也

〈小松島少剣クラブ〉

岩原潤哉、松田匠輝

〈芝田剣道クラブ直心館〉

福良優孝

〈上浦剣道教室〉

三好優果利

〈鴨島少年剣道教室〉

三宅明伸

計二二名

女子部より

女子部長 竹内佳代子

女子大会の結果

県内行事

①徳島県女子剣道大会

(九月七日) 中央武道館

団体戦 参加 一二チーム

優勝 川島健友会A (隅田奈美、井

若絵美、前田奈々枝)

準優勝 富岡東OG会A (田中理称、

金野裕美、山田美枝)

第三位 鳴門教育大学、川島剣友会B

個人戦 区分一(一九歳未満)参加一七名

優勝 岡内拓未 (小松島支部)

準優勝 園山由華 (鳴門教育大)

第三位 田中理称 (板野東支部)

酒井奈々 (小松島支部)

個人戦 区分二(二〇歳以上) 参加七名

優勝 奈木裕美 (鳴門支部)

準優勝 前田奈々枝 (阿波支部)

県外行事

①全国都道府県剣道大会

(七月十九日) 日本武道館

一回戦 徳島 一 一 二 京都

②国民体育大会四国ブロック大会

(八月二十四日) 高知県立武道館

徳島 一 一 二 高知

徳島 三 一 〇 香川

徳島 一 一 二 愛媛

一勝二敗 勝者数により、二位

③全日本女子剣選手権大会

(九月七日) 兵庫県立武道館

一回戦

岡田春希 ム 一

山口千晶 (神奈川)

二回戦

岡田春希 コ 一

迫美樹 (愛知)

三回戦

岡田春希 一 ム

山本真理子 (大阪)

ベスト一六と健闘

④宮本武蔵顕彰 お通杯剣道大会

(十月五日) 武蔵武道館

個人(二十歳代の部)

第三位入賞 平野千尋

女子部稽古会について

毎月第一日曜日に実施

時間 午後六時三十分～午後七時三十分

場所 中央武道館

☆ご指導に来てくださった方 近藤先生、

藤本先生、平野先生、手塚先生

☆女子参加状況

四月(二名)、五月(中止)、六月(七名)、

七月(十四名)、八月(中止)、十月(十

一名)、十一月(五名)、十二月(中止)

※八月は、台風のため中止。

※九月は女子大会の後、実施。多数参加。

※十二月は、高知県で開催の女子剣道錬

成会に参加のため中止。ただ、雪によ

る高速道路通行止めのため錬成会参加

が中止。

※一月は剣道連盟の稽古はじめに参加。

※二月は、長期育成の稽古に参加。

来年度の活動と目標

○女子部の稽古会に日程変更

①毎月、第一日曜日に実施していた女子

稽古会を、土曜日に変更(月一回)。

何日の土曜日の何時に実施するかは、

毎月検討する↓連絡網の確認

※理事・委員を通して各支部の女子の

代表の方に連絡をする。ホームページ

にも掲載をお願いする。

②従来通り、第一日曜日、中央武道館で

実施するのは、七月、八月、十月、十

一月の四回とする。

○県下女子大会の活性化、各種大会、県外

の錬成会への積極的な参加のよびかけ。

○全国大会での活躍。目標は、国体出場、

全国大会での上位入賞。

○社会人大会の手伝い、二段以上の審査の

手伝い。

今後ともご指導よろしく願います。



居合道部より

居合道部長 岸 田 光 博

参加者 四名

七段の部 優秀演武賞 坂本憲一

五段の部三位 内海直弥

☆八月二日(土)

第四十三回香川居合道大会

於…高松市総合体育館

参加者 一般 一四名 少年 三名

五段の部三位 内海直弥

☆十月五日(日)

第五十二回高知居合道大会、第二十七

回女子大会

於…南国市立スポーツセンター

参加者 一六名

七段の部 優秀演武賞 坂本憲一

☆十月二十五日(土)

第四十九回全日本居合道大会

於…あづま総合運動公園(福島県)

監督 岸田光博

七段 坂本憲一

六段 一村昌和

五段 内海直弥

☆十二月七日(日)

第五十六回大阪居合道大会

於…舞洲アリーナ

参加者 一二名

七段の部 優秀演武賞 吉岡修一、坂

本憲一、福井 勝

二段の部 敢闘賞 内藤靖二

☆二月二十二日(日)

県下大会

於…松茂町第二体育館

参加者 三五名

級の部…少年若干名を表彰(優秀賞・

精励賞)

一般の部…初段～六段 選考方式によ

り各段で一名を表彰

☆三月二十一日(祝金)

第四十一回北九州居合道大会

於…北九州市立体育館

参加者 六名

審査会・講習会等

☆五月十八日(日)

春季講習会・審査会

於…松茂町第二体育館

講師 原田 勝

参加者 三〇名 受審者 八名

☆六月二十一日(土)

四国四県居合道合同稽古会

於…三好市池田総合体育館

参加者 八四名(県外六四名、県内二

〇名)

☆七月十二、十三日(土、日)

全剣連主催 地区講習会

於…岡山県

参加者 九名

☆九月七、八日(土、日)

全剣連主催 中央講習会

於…京都市武道センター

参加者 原田 勝、岸田光博

☆九月二十一日(日)

伝達講習会・審査会

於…松茂町第二体育館

講師 原田 勝、岸田光博

参加者 二六名 受審者 二名

☆十一月九日(日)

秋季講習会・審査会

於…松茂町第二体育館

講師 原田 勝

参加者 二六名 受審者 七名

☆二月二十三日(日)

審査会 受審者 名

於…松茂町第二体育館

☆三月十五日(日)

四国四県居合道合同稽古会(高知県)

於…高知県立武道館

参加者 名(未定)

全日本居合道大会選手強化練習

☆四月より毎週水曜日、国府町農業改善セ

ンターにおいて監督、選手および自主参

加者が大会直前まで稽古を重ねた。

中央審査

☆五月三日(土)

八段審査会 於…京都市

☆七月十一日(金)

六・七段審査会 於…岡山県

☆十一月二十一日(土)

六・七段審査会 於…東京都

六段合格者 西本忠司



中体連より

中体連部長 松 永 貴 史

○平成二十六年年度内各種大会成績表

性別	男 子				女 子			
	大会名	選手権	県総体	新人戦	強化錬成	選手権	県総体	新人戦
期日	26.6.7	26.7.12	26.11.8	27.1.18	26.6.7	26.7.12	26.11.8	27.1.18
会場	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館
参加校	41校	28校	36校	39校	28校	22校	26校	30校
優勝	阿南一	阿南一	石井	石井	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川
準優勝	石井	徳島	徳島	鳴門一	阿南一	鳴門一	小松島	小松島
3位	徳島	徳島文理	鳴門一	那賀川	鳴門一	小松島	鳴門一	北島
3位	木頭	石井	那賀川	徳島	小松島	阿南一	北島	鳴門一

○県総体個人戦

平成二十六年七月十四日(日)

ソイジョイ武道館

男子

優勝 西條 賢太(石井)

準優勝 熊橋 凌司(徳島)

第三位 山室 和士(石井)

前田 龍志(驚敷)

女子

優勝 山崎 舞(阿南一)

準優勝 大城明裕奈(那賀川)

第三位 西岡 彩芽(那賀川)

坪井 香歩(那賀川)

○四国総体

平成二十六年八月三日(日)

高知県民体育館(高知県)

〈団体戦 男子〉

阿南第一中学校 準優勝

(決勝 阿南一 二 一 三 高知)

徳島中学校 予選リーグ三位

(予選敗退)

〈団体戦 女子〉

那賀川中学校 第三位

(準決勝 那賀川 一 一 二 城辺)

鳴門市第一中学校 予選リーグ三位

(予選敗退)

〈個人戦 男子〉

西條 賢太(石井) 二回戦

熊橋 凌司(徳島) 一回戦

山室 和士(石井) 二回戦

前田 龍二(驚敷) 一回戦

中村 隼人(木頭) 二回戦

田上 雄大(阿南一) 一回戦

藤本 隆(徳島文理) 一回戦

西名 晴輝(阿南一) ベスト八

〈個人戦 女子〉

山崎 舞(阿南一) ベスト八

大城明裕奈(那賀川) ベスト八

西岡 彩芽(那賀川) 一回戦

坪井 香歩(那賀川) ベスト八

片岡 瑞季(徳島) 二回戦

富田 瑠莉(鳴門一) 第三位

朝田 萌香(那賀川) 二回戦

檜田 胡桃(那賀川) 一回戦

○全国中学校大会

平成二十六年八月十七日～十九日

高知県民体育館（高知県）

〈団体戦 男子〉

阿南第一中学校

予選リーグ敗退（一勝一敗）

〈団体戦 女子〉

那賀川中学校

予選リーグ敗退（一勝一分）

〈個人戦 男子〉

西條 賢太（石井）ベスト一六

熊橋 凌司（徳島）二回戦

〈個人戦 女子〉

山崎 舞（阿南二）ベスト八（敢闘賞）

大城明裕奈（那賀川）一回戦

○全国都道府県対抗少年剣道大会

監督 白木洋一（石井中学校）

コーチ 福多博史（阿南第一中学校）

先鋒 山崎 舞（阿南一中）

次鋒 大城明裕奈（那賀川中）

中堅 山室 和士（石井中）

副将 熊橋 凌司（徳島中）

大将 西條 賢太（石井中）

〈予選リーグ〉

徳島 一 一 三 福島

徳島 〇 一 〇 長野

予選リーグ敗退

○県内行事

・県下三地域（中部・西部・南部）で指導者講習会実施

・八月三十日 第十四回県中夏季錬成会

・八月三十日 第十四回県中夏季錬成会 県内中学校三四校、延べ人数三一四名

参加

参加

・徳島県中学校剣道一年生大会

十月四日（土）実施

男子

団体 優勝 徳島中学校A

個人 優勝 熊橋 知晃（徳島）

女子

団体 優勝 那賀川中学校A

個人 優勝 檜田 胡桃（那賀川）

・剣道連盟稽古始め参加

・第十回四国中学校新人剣道大会

平成二十七年三月一日（日）

阿波中体育館

男子三位 徳島中学校

女子三位 那賀川中学校

○優秀選手

男子二一名、女子一五名（新聞発表済み）

○平成二十六年中学校剣道部員数

（ ）は昨年度

	1年生	2年生	3年生	合計
男子	183人 (131人)	139人 (170人)	162人 (119人)	484人 (420人)
女子	89人 (83人)	82人 (77人)	67人 (84人)	238人 (244人)
合計	272人 (214人)	221人 (247人)	229人 (203人)	722人 (664人)

高体連専門部より

高体連剣道専門部

上 田 宏 司



一、平成二十六年

度大会記録(抜粹)

○全国高等学校剣

道選抜大会

平成二十六年三月

二十七日・二十八日

於 愛知県春日井市

男子団体 城北(予選リーグ二敗)

城北 ○―四 九州学院(熊本)

城北 ○―二 新潟第一(新潟)

女子団体 徳島文理(予選リーグ二分一敗)

徳島文理 一―二 大分(大分)

徳島文理 ○―○ 甲府商(山梨)

○徳島県剣道連盟会長杯争奪

高等学校剣道大会

平成二十六年四月二十日

於 ソイジョイ武道館

男子団体(一四チーム)

優勝 阿南工

準優勝 城北

三位 富岡西・徳島文理

女子団体(一二チーム)

優勝 富岡東

準優勝 徳島文理

三位 川島・徳島北

○徳島県高等学校総合体育大会

平成二十六年五月三十一日・六月一日

於 那賀川スポーツセンター

男子団体(二一チーム)

優勝 城北

準優勝 徳島文理

三位 富岡西・阿南工

女子団体(一四チーム)

優勝 富岡東

準優勝 徳島文理

三位 川島・富岡西

男子個人(二七一人)

優勝 朝田(阿南工)

準優勝 後藤田(徳島文理)

三位 板東(川島)

谷本(徳島文理)

女子個人(八五人)

優勝 馬見(富岡東)

準優勝 玉田(徳島文理)

三位 長谷川(富岡西)

小川(富岡東)

○四国高等学校剣道選手権大会

平成二十六年六月十四日・十五日

於 琴平高校

女子団体 三位 富岡東

男子個人 優勝 朝田(阿南工)

女子個人 三位 丸岡(富岡東)

馬見(富岡東)

○全国高等学校総合体育大会

平成二十六年八月二日・三日

於 神奈川県小田原市総合文化会館

男子団体 城北(予選リーグ一勝一敗)

城北 ○―一 盛岡第一(岩手)

城北 一(二)―一(二)

草津東(滋賀)

女子団体 富岡東(予選リーグ二勝)

富岡東 五―〇 矢板中央(栃木)

富岡東 二―一 鈴鹿(三重)

決勝トーナメント一回戦

富岡東 ○一 和歌山東 (和歌山)

富岡東ベスト一六

男子個人

一回戦

朝田 (阿南工) ー コメ

野村 (草津東・滋賀)

二回戦

後藤田 (徳島文理) ー メメ

田畑 (久御山・京都)

女子個人

一回戦

玉田 (徳島文理) ー コ

飯野 (高崎健康福祉大高崎・群馬)

二回戦

馬見 (富岡東) メー

船見 (皇学館・三重)

三回戦

馬見 (富岡東) コ コーメ

児玉 (東海大四・北海道)

四回戦

馬見 (富岡東) メーメメ

井上 (須磨学園・兵庫)

馬見ベスト一六

○国体四国ブロック大会

平成二十六年八月二十四日

於 高知県立武道館

少年女子 (本大会出場ならず)

選手 川原・玉田 (徳島文理) 馬見・

丸岡 (富岡東) 上田 (川島)

補員 小川 (富岡東) 長谷川 (富岡西)

少年男子 (本大会出場ならず)

選手 大城・朝田・田中 (阿南工) 後

藤田・谷本 (徳島文理)

補員 板東 (川島) 松本 (富岡西)

○徳島県高等学校剣道選手権大会

平成二十六年十一月九日

於 ソイジョイ武道館

男子個人 (一一三人)

優勝 松本 (富岡西)

準優勝 田中 (阿南工)

三位 古川 (阿南工) ・南谷 (城北)

女子個人 (五六人)

優勝 野村 (富岡東)

準優勝 長谷川 (富岡西)

三位 玉田真 (徳島文理)

猪野 (富岡東)

○徳島県高校剣道新人大会兼

全国選抜大会県予選会

平成二十七年一月十日

於 ソイジョイ武道館

男子団体 (一五チーム)

優勝 富岡西

準優勝 阿南工

三位 城北・徳島北

女子団体 (一〇チーム)

優勝 富岡東

準優勝 川島

三位 城北・富岡西

○四国高等学校剣道新人大会

平成二十七年二月七・八日

於 高知県立武道館

女子団体 準優勝 富岡東

男子個人

ベスト八 田中 (阿南工)

女子個人

優勝 丸岡 (富岡東)

三位 玉田 (徳島文理)

ベスト八 野村・猪野 (富岡東)

長谷川 (富岡西)

二、 高体連強化錬成会

○ 徳島県高等学校剣道強化錬成会

(約三〇〇人)

平成二十六年十二月二十八日・二十九日
於 徳島北高校

招待高等学校 長崎県島原高等学校等

○ 徳島県高等学校春季強化錬成会

(約三〇〇人)

平成二十七年三月二十一日・二十二日
於 阿南スポーツセンター

招待高等学校 筑紫台高等学校

桜ヶ丘高等学校

興讓館高等学校

龍谷高等学校等

三、 県下高校剣道部員数の動向について

年 度	性別	1年生	2年生	3年生	合 計	男女合計
平成16年度	男	122	83	91	296	444
	女	64	54	30	148	
平成17年度	男	89	105	74	268	399
	女	34	55	42	131	
平成18年度	男	95	76	88	259	368
	女	31	34	44	109	
平成19年度	男	83	95	68	246	344
	女	40	28	30	98	
平成20年度	男	71	65	85	221	322
	女	32	39	30	101	
平成21年度	男	88	65	50	203	299
	女	32	30	34	96	
平成22年度	男	86	70	54	210	294
	女	28	27	29	84	
平成23年度	男	59	69	68	196	273
	女	28	22	27	77	
平成24年度	男	70	58	68	196	255
	女	25	20	14	59	
平成25年度	男	64	64	52	180	265
	女	31	30	24	85	
平成26年度	男	60	61	59	180	273
	女	31	33	29	93	

四、総評

今年度の総体の男子は、城北と徳島文理の対戦となった。先鋒、次鋒と連取した城北が勢いに乗り、二年ぶり三回目の優勝を決めた。女子は富岡東と徳島文理で昨年度と同じ顔合わせとなった。積極的な試合運びで先鋒からの四連勝で富岡東が雪辱し、二年ぶり二十九回目の優勝を決めた。総体個人戦は、男子は阿南工の朝田選手、女子は富岡東の馬見選手が優勝した。

四国大会では女子団体で富岡東が、優勝した帝京第五とも善戦し三位になった。男子個人戦は阿南工の朝田選手が素晴らしい堂々とした内容で価値ある優勝を飾った。女子個人でも富岡東の馬見選手と丸岡選手が第三位、徳島文理の玉田選手がベスト八に入った。

全国総体は女子団体富岡東が予選リーグを突破し、ベスト十六入りした。女子個人戦は富岡東の馬見選手がベスト十六入りした。

選手権大会は、男子は富岡西の松本選手、女子は富岡東の野村選手が優勝した。松本

選手は四月の都道府県大会の高校生枠の県代表として出場することが決まった。

高校剣道新人大会兼全国選抜大会県予選会は、男子は富岡西が六年ぶり二十一回目、女子は富岡東が三年ぶり二十六回目の優勝を飾った。両校は、三月に愛知県で行われる全国高等学校剣道選抜大会の出場権を得た。

四国新人大会では女子団体で富岡東が準優勝した。個人戦では女子の活躍が目立ち、優勝に富岡東の丸岡選手、三位に徳島文理の玉田選手が入った。

平成二十七年度も混戦が予想されます。互いに切磋琢磨し、徳島県全体の競技力の向上につながることを期待しています。

また、年々部員数の減少が深刻ですので、関係各機関と連携して選手の育成を図り、継続して専門部の協力体制の強化と個人の競技力の向上に努めていきたいと思います。



大学連より

大学連代表 木 原 資 裕

以下に平成二十六年年度活動概要を列記します。

一、第六十一回中四国学生剣道選手権大会

(平成二十六年五月十八日) への出場

(松山)

○一回戦敗退

- ・是枝佑徳(鳴教大) ・岸野賢太(徳大)
- 大) ・益田駿志(徳大)

○二回戦敗退

- ・藤田翔(徳大)

○五回戦敗退(ベスト一六)

- ・藤本 稜(徳大医)(富岡西高出身)

*全日本学生選手権大会出場(一回戦敗退)

二、第四十六回中四国女子学生剣道選手権大会

(平成二十六年五月十八日) への出場

場(松山)

○一回戦敗退

- ・青木万里子(文理大) ・小山董(文

- 理大) ・藤井理央(文理大) ・鶴川実華(徳大) ・上村菜月(徳大)

○二回戦敗退

- ・小西矩子(鳴教大)

三、第六十一回中四国学生剣道優勝大会

(平成二十六年八月三十一日) への出場

(岡山)

○予選リーグ

- ・徳島大 ○勝二敗

四、第四十一回中四国女子学生剣道優勝大会

(平成二十六年八月三十一日) への出場

場(岡山)

○予選リーグ

- ・徳島文理大 ○勝二敗

五、第三十三回眉山杯剣道大会(徳島県学生剣道選手権大会)ならびに第八回徳島県学生剣道東西対抗試合の実施

日時：平成二十六年十一月二十二日(土)

場所：徳島文理大学体育館

参加者数：五〇名(選手三四名・役員審判一六名)

○選手権大会成績

男子 優勝 藤本 稜(徳大蔵本)

女子 優勝 山口あずさ(鳴教院)

3位 益井翔平(鳴教院)

伊岐陽佑(蔵本)

- 2位 真嶋健司(鳴教院)
- 3位 益井翔平(鳴教院)
- 伊岐陽佑(蔵本)

女子 優勝 山口あずさ(鳴教院)

2位 青木真理子(文理)

3位 小西矩子(鳴教)

阿部美月(文理)

○東西対抗優秀選手

男子 前田康輔(徳大蔵本) 五人抜き

伊岐陽佑(徳大蔵本) 四人抜き

三井克馬(鳴教院) 三人抜き

藤本 稜(徳大蔵本) 大将・一人抜き

人抜き

女子 栗野安香音(鳴教大) 五人抜き

青木真理子(文理) 一人抜き

園山 由華(鳴教院) 大将・一人抜き

人抜き

六、稲富政博先生(佐賀県警)を迎えての長期育成強化訓練への参加

日時：平成二十七年二月一日(日)

場所：那賀川スポーツセンター

大学連として、六名が参加した。

部活だより

富西剣道部

顧問 大石 正志



本校は富岡中学校・富岡西高等学校と長い歴史を刻む伝統校であり、平成二十七年に創立一一八周年を迎えた。剣道部は昭和三十三年に旧制富岡中学校卒業、武道専門学校を卒業された故松本一城先生が赴任され部活動が本格的に行われるようになった。三年後には県下大会で五位入賞を果たし、翌年にもインターハイに出場している。昭和五十一年三月退職まで長きに渡り多くの大会ですばらしい成績を残されたことは言うまでもないが、多くの指導者を育てられ、先生に指導いただいた教え子が現在、県内外の小・中・高等学校で剣道部顧問として活躍している。

活躍している。

平成二十六年度の剣道部員は男子三年三名、女子一名、二年男子六名、一年男子三名、女子五名、計十八名が活動している。本校は月曜日から木曜日まで週四日間、七時間授業が展開されており、終業は午後四時三十分になる。部活動開始時刻は五時前になり七時終了まで約二時間弱の短時間の活動となり、練習時間に恵まれているとはいえない。時間的に制約されるので常に部員一人一人が意識を高く持つよう心がけている。

練習の特徴は、①約九〇〇グラムの木刀を使用し二〇〇本〜三〇〇本、竹刀での跳躍素振り一〇〇本行うなど素振りを重視している。大刀素振り（正面・左右・前後左右・前後五本・スクワットなど）②切り返りしや追い込み・打ち込みを欠かさないうようにしている。追い込み（面三本・連続面・小手面・引き技・切り返しなど）。

毎週、木曜日には午後七時から約一時間の稽古会（定期考査と長期休業中を除く）を実施しており、地元有段者の先生方に参

加していただいている。この稽古会は八年前から始まり、最近小学生・中学生・一般の方も稽古会に参加するようになってきている。部員は先生方の熱心な指導により、多くのことを学ぶ機会に恵まれて確実に力を付けてきた。

平成二十六年度は徳島県高等学校剣道選手権大会で男子個人優勝（松本高史）・女子個人準優勝（長谷川瑞実）、清原杯争奪県下剣道大会・新人大大会兼全国選抜大会予選会で男子団体優勝を飾ることができた。

富岡西高等学校教育方針は、「社会に貢献できる人材を育成する文武両道の進学校」であり、剣道部は学業と部活動の両立を最大の目標としている。

富岡西高等学校剣道部は意識を高く持ち互いに高めあう集団づくり、剣道を通じて人間力を高める事を目標として日々精進していききたい。

毎週、木曜日には午後七時から約一時間の稽古会（定期考査と長期休業中を除く）を実施しており、地元有段者の先生方に参

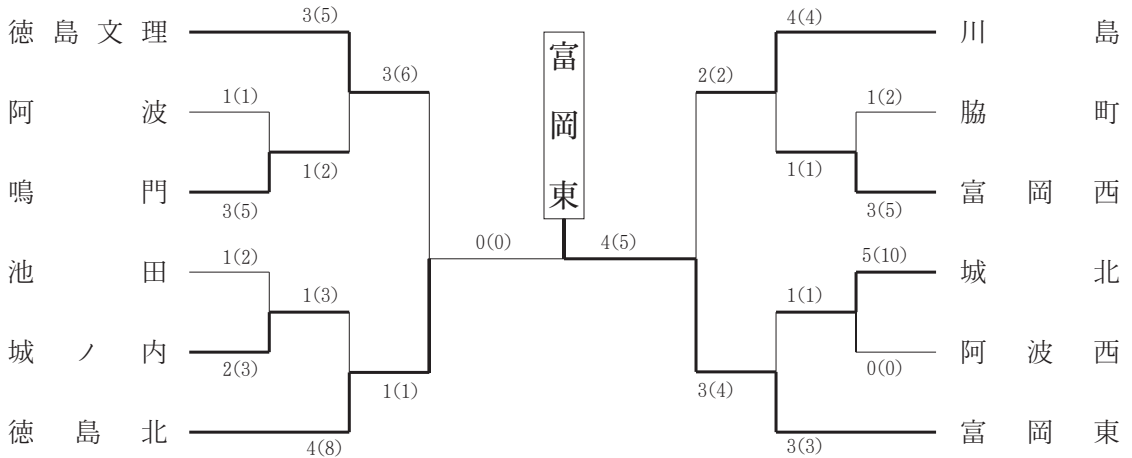


平成26年度 大会 記録

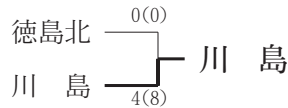
第39回徳島県剣道連盟会長杯争奪高等学校剣道大会

日時 平成26年4月20日(日)
会場 鳴門ソイジョイ武道館

〈女子の部〉



順位決定戦



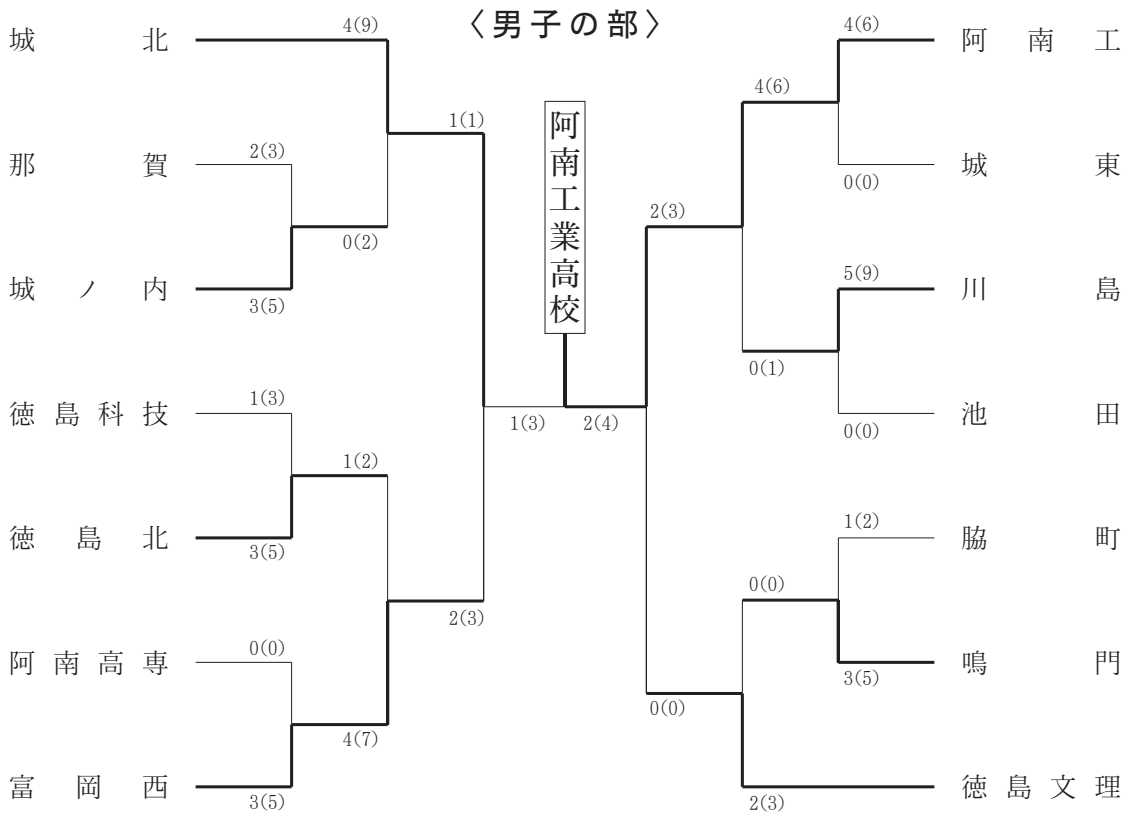
〈女子の部〉

決勝

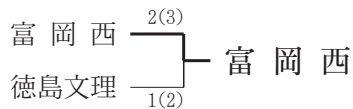
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	大嶺	近藤	桑村	玉田	川原	0	0	
			延長					
富岡東	一本勝 [Ⓟ]	Ⓟ 奥田	Ⓟ 清水	一本勝 [Ⓣ]	馬見	4	5	

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島北	阿部	井原	石村	米木	山本	0	0	
川島	Ⓣ 尾関	Ⓣ 民	Ⓣ 竹原	Ⓣ 森永	Ⓣ 上田	4	8	



順位決定戦



〈男子の部〉

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城 北	井 形	熊 橋	中 川	西 條	大 南 谷	1	3	
	田 邊	古 川	朝 田	田 中	大 城			2

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富 岡 西	住 友	田 中	濱 田	松 本	大 藤 坂	2	3	
	上 田	喜 多	後 藤 田	楠	谷 本			1

〈女子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	奥田	鳴川	小川	中井	大馬見	2	5	
	延長	⊗ ⊗	⊗ ⊗	⊕	⊗ ⊗			
富岡西	長谷川	湯浅	油津	石田	江川	0	1	
	延長			⊖	⊗ ⊗			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
川島	尾関	竹原	民	森永	大上田	0	0	上田
	延長	延長	延長	延長	延長			
徳島文理	大嶺	近藤	桑村	玉田	川原	0	0	川原
	延長	延長	延長	延長	延長			

3 位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	長谷川	湯浅	谷	石田	江川	1	1	
	延長	⊗		⊗				
川島	尾関	竹原	民	森永	大上田	3	3	
	⊖	⊗		⊖				

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	奥田	鳴川	小川	中井	大馬見	4	6	
	⊗	⊗	⊖ ⊗	⊗ ⊗	▲			
徳島文理	大嶺	近藤	桑村	玉田	川原	0	0	
	延長	延長			⊗ ⊗			

〈男子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南工	田邊	古川	朝田	田中	大城	1	1	
		⊗	延長	延長	延長			
徳島文理	上田	喜多	後藤田	楠	谷本	2	2	
	⊗		⊖	▲				

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	住友	庄野	濱田	松本	大藤坂	1	1	
	▲	▲	延長	▲	⊖			
城北	井形	熊橋	西條	中川	南谷	3	3	
	⊗	⊗	延長	▲				

3 位決定戦

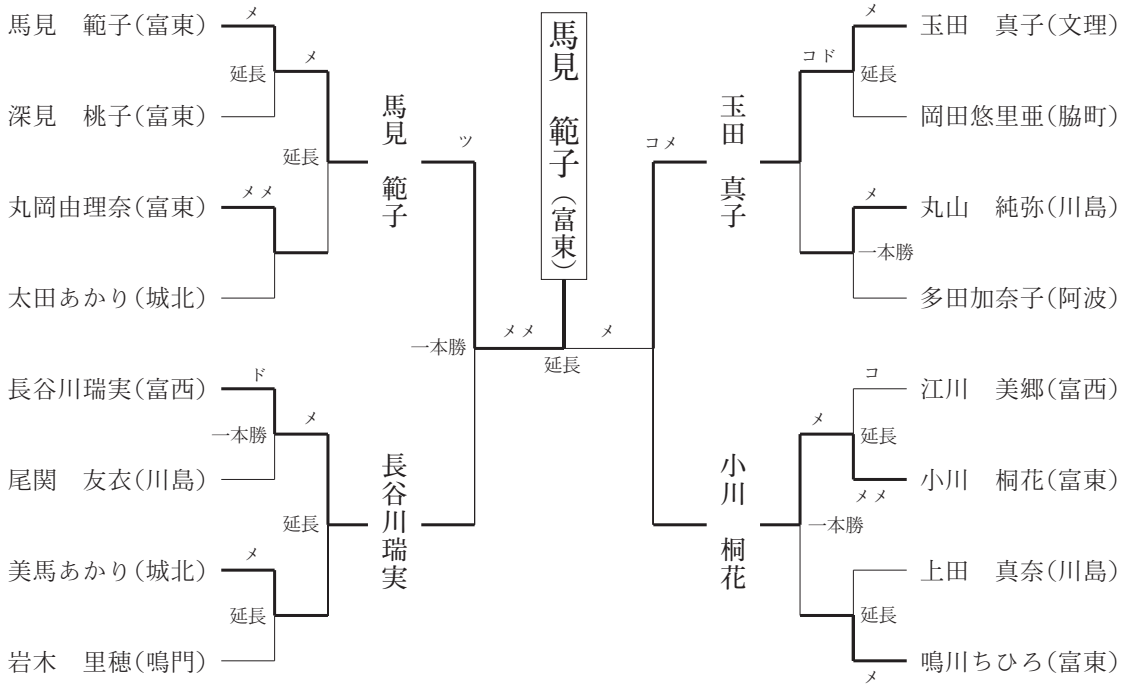
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南工業	杉本	古川	朝田	田中	大城	1	2	
		延長	⊗ ⊗					
富岡西	住友	庄野	濱田	松本	大藤坂	3	3	
	⊖			⊗	⊕			

決 勝

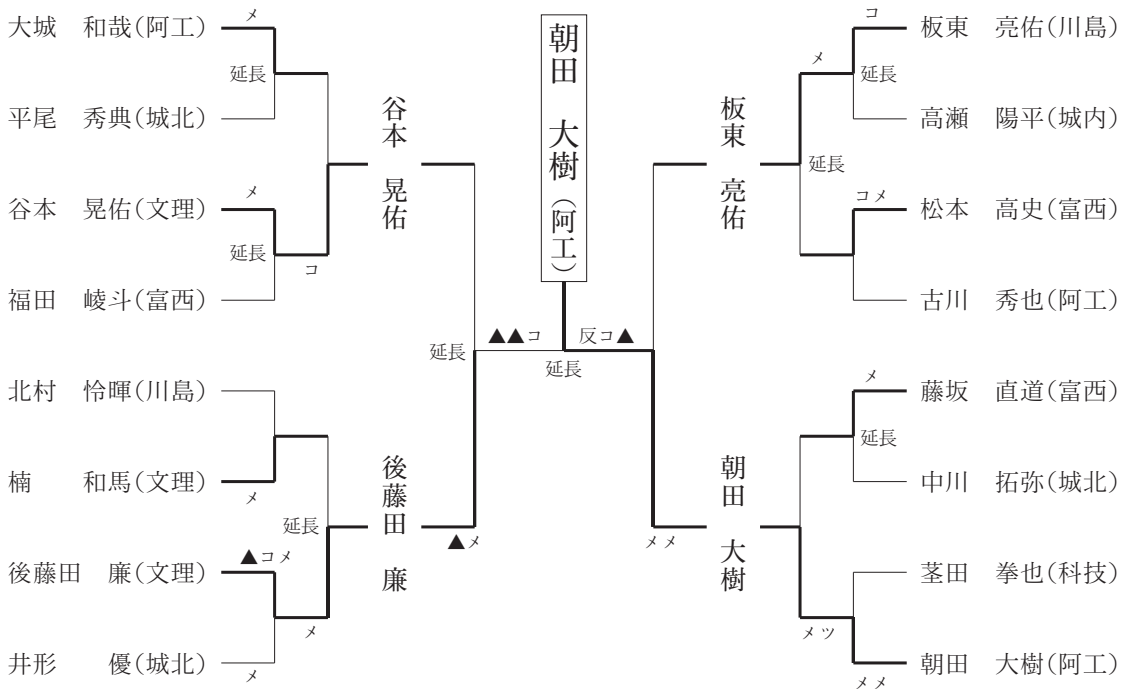
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	上田	喜多	後藤田	楠	谷本	0	1	
		▲	▲		⊗			
城北	井形	熊橋	西條	中川	南谷	3	6	
	⊕	⊗ ⊗	延長	⊗ ⊗	⊗			

ベスト 16

〈女子個人戦〉



〈男子個人戦〉



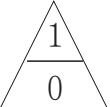

第43回 徳島県中学校剣道選手権大会

日 時 平成26年 6 月 7 日(土) 午前 9 時20分開会
場 所 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館


[団 体 戦]

順 位	男 子	女 子
優 勝	阿 南 第 一 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
準 優 勝	石 井 中 学 校	阿 南 第 一 中 学 校
第 3 位	徳 島 中 学 校	鳴 門 第 一 中 学 校
第 3 位	木 頭 中 学 校	小 松 島 中 学 校

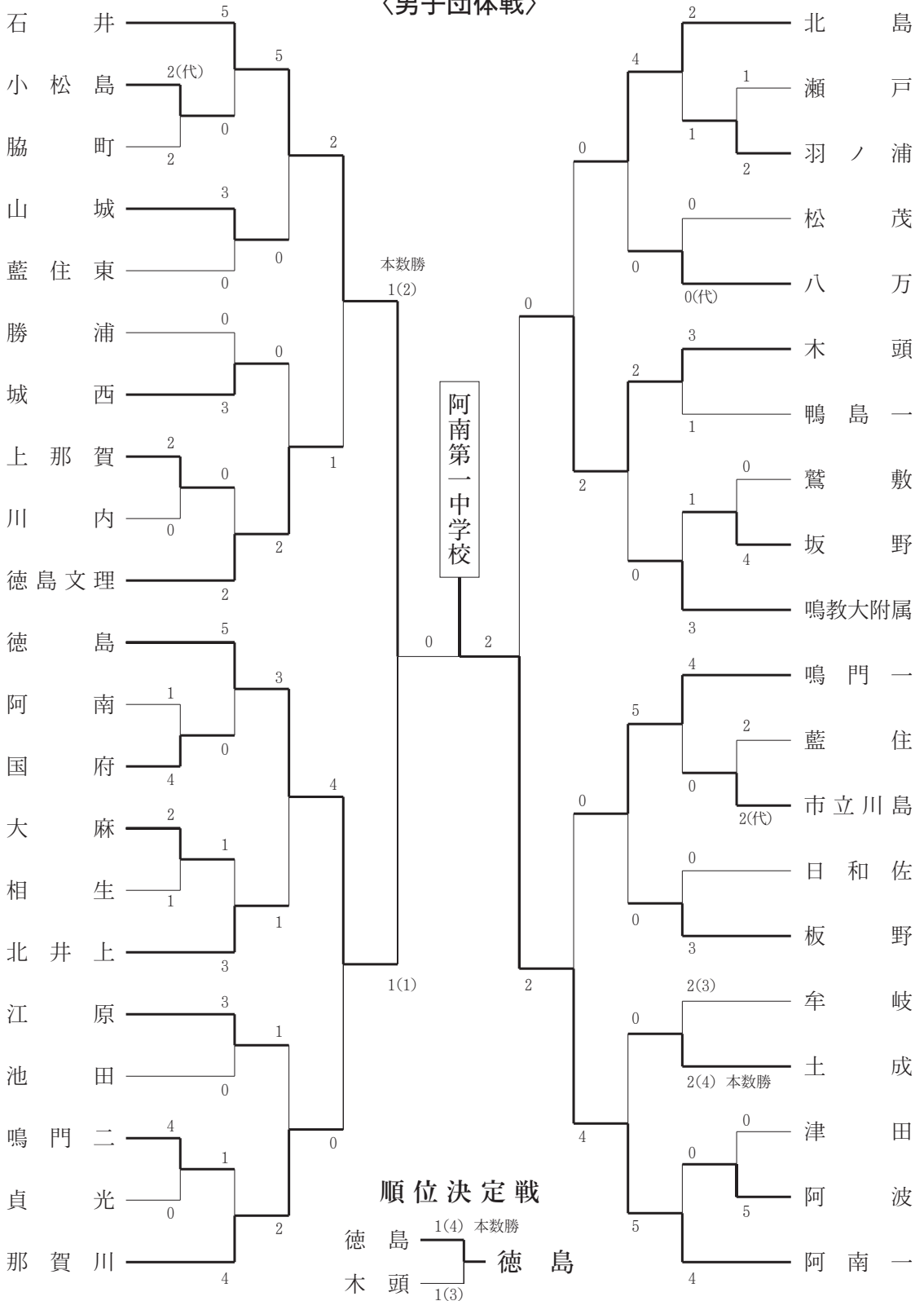
[男子決勝]

学 校 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代 表 戦	勝 敗
石 井	高 橋	上 田	山 室	池 田	西 條		
			☉	▲			
阿南第一			⊗ ⊗	☉ ⊕			
	服 部	平 田	田 上	西 名	朝 田		

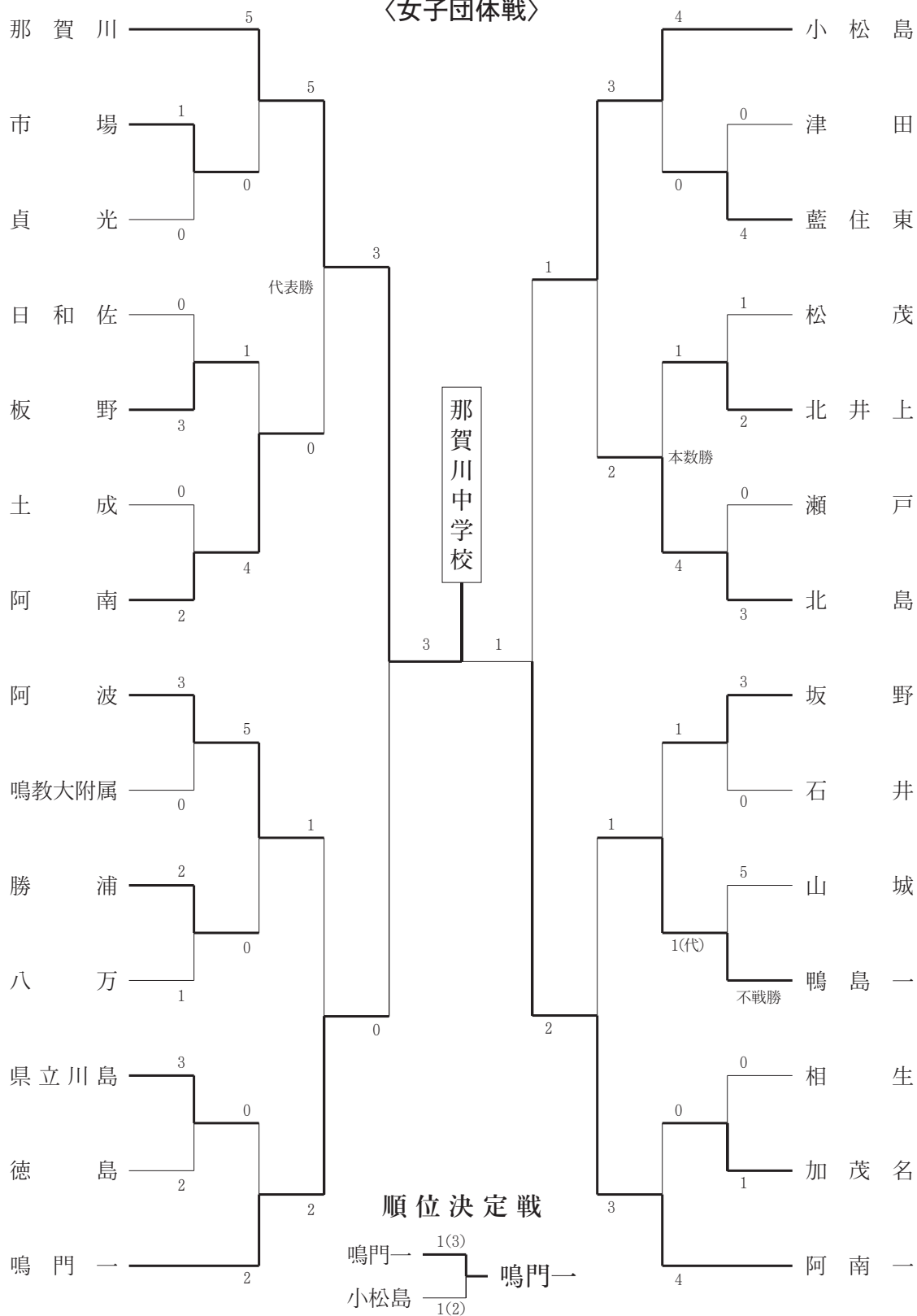
[女子決勝]

学 校 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代 表 戦	勝 敗
那 賀 川	西 岡	朝 田	檜 田	大 城	坪 井		
		⊗ 一本勝	☉ ⊗	⊗ ⊗			
阿南第一			⊕		一本勝 ⊗		
	武 藏	大 山	中 野	清 原	山 崎		

〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉



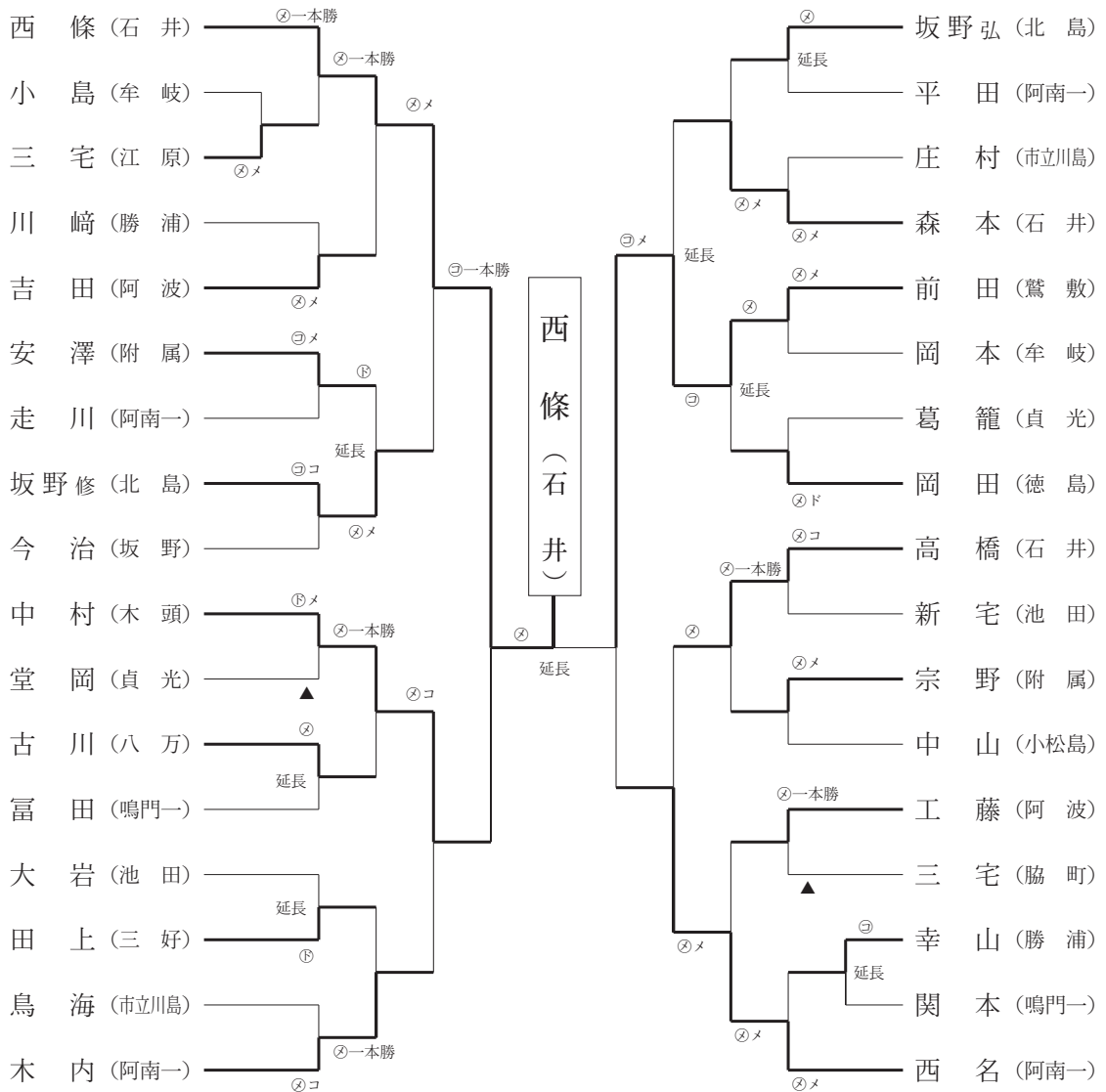
第68回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

日 時 平成26年 7月13日(日) 午前 9 時20分開会
場 所 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館

[個人戦]

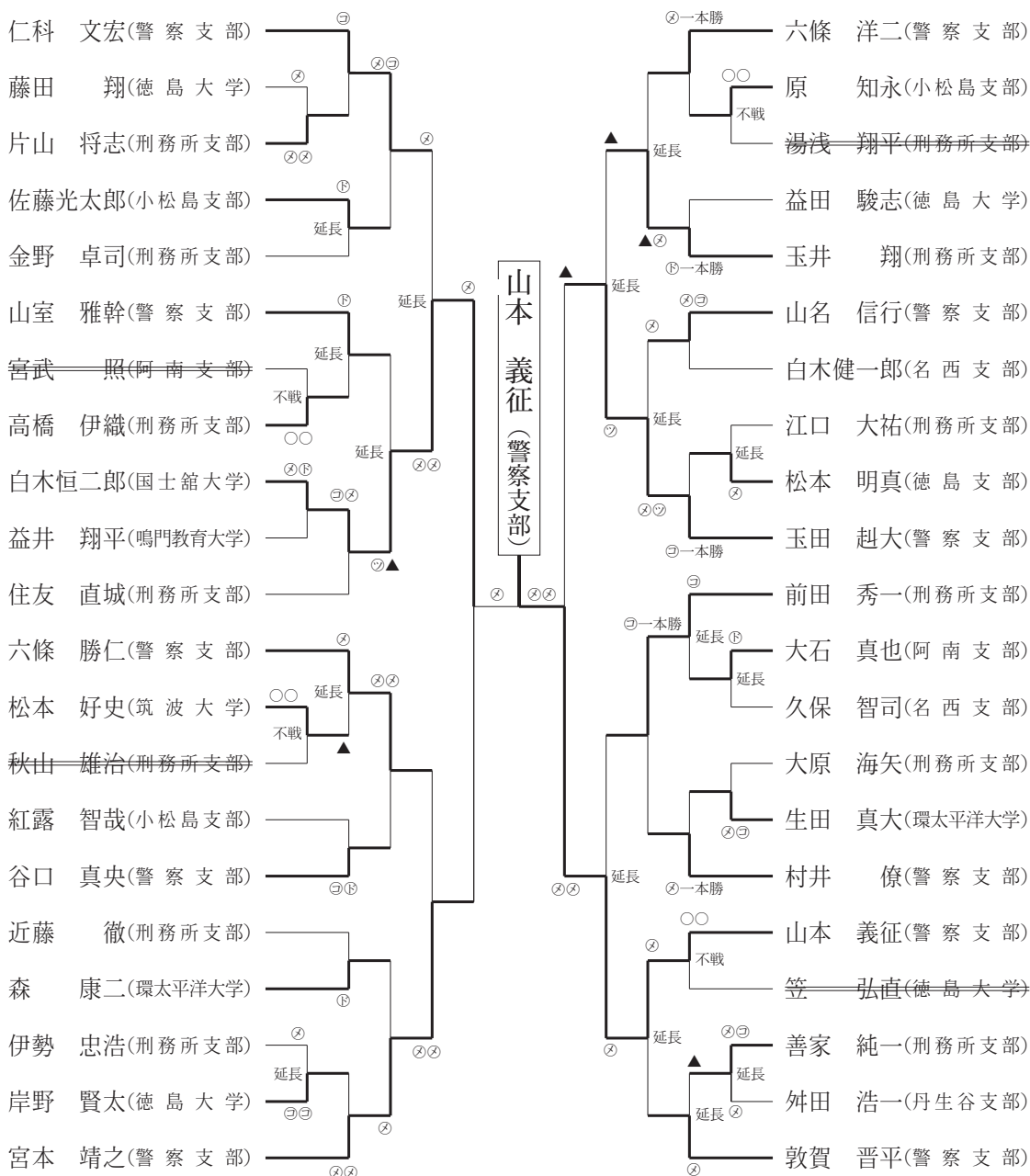
順位	男子	学校名	順位	女子	学校名
優勝	西 條 賢 太	石 井	優勝	山 崎 舞	阿南第一
準優勝	熊 橋 凌 司	徳 島	準優勝	大 城 明裕奈	那 賀 川
第3位	山 室 和 士	石 井	第3位	西 岡 彩 芽	那 賀 川
第3位	前 田 龍 志	鷲 敷	第4位	坪 井 香 歩	那 賀 川

〈男子個人戦1〉



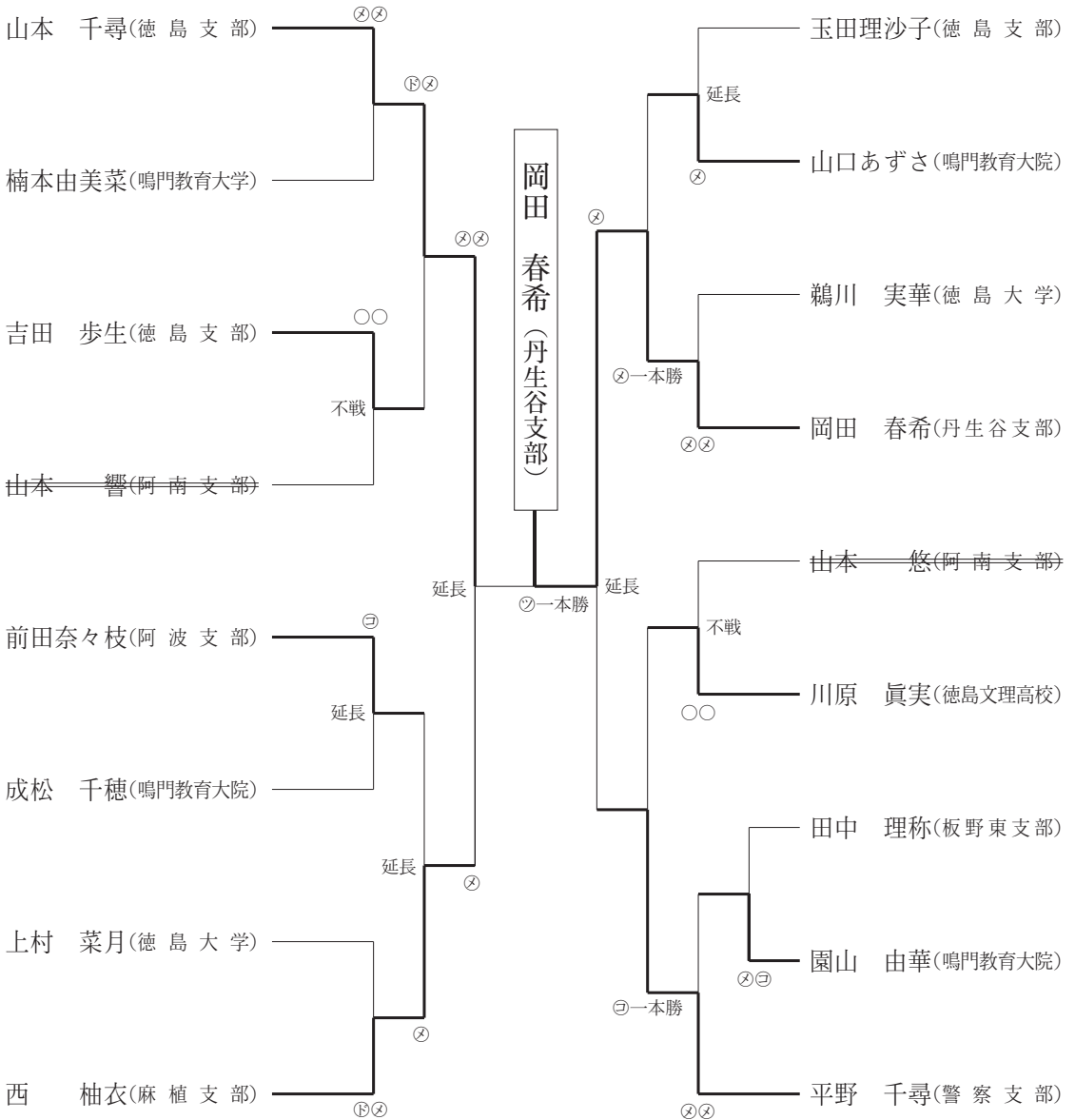
第26回 徳島県剣道選手権大会並びに 第62回 全日本剣道選手権大会県予選会

優勝 山本 義征 (警察支部) 日時 平成26年7月21日(月) 午前10時開会
 準優勝 白木 恒二郎 (国土館大学) 場所 鳴門ソイジョイ武道館
 第三位 玉田 赳大 (警察支部)
 第三位 宮本 靖之 (警察支部)



第17回 徳島県女子剣道選手権大会並びに 第53回 全日本女子選手権大会県予選会

優勝 岡田 春希 (丹生谷支部) 日時 平成26年7月21日(月) 午前10時開会
準優勝 山本 千尋 (徳島支部) 場所 鳴門ソイジョイ武道館
第三位 平野 千尋 (警察支部)
第三位 西 柚衣 (麻植支部)



第35回 国民体育大会四国ブロック大会

日 時 平成 26 年 8 月 24 日 (日)

場 所 高 知 県 立 武 道 館

〈少年女子〉

〈少年男子〉

第 1 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
愛媛	山本	松田	信田	赤堀	前田	4	4
	Ⓛ	Ⓧ	▲	Ⓛ一本勝	Ⓧ一本勝		
徳島	延長	延長	延長			1	1
	上田	玉田	丸岡	馬見	川原		

第 1 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
高知	山本	小西	野廣	出張	村上	3	3
	Ⓧ			Ⓧ	Ⓧ一本勝		
徳島	延長	一本勝Ⓧ	延長	延長		2	2
	後藤田	大城	Ⓧ谷本	田中	朝田		

第 2 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	上田	玉田	丸岡	馬見	川原	1	1
	延長	延長	延長				
香川	▲Ⓧ	Ⓧ		一本勝Ⓛ	一本勝Ⓧ	4	4
	谷口	高木	西	山下	喜田		

第 2 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
愛媛	丹下	杉野	菅	板谷	橋本	4	4
	Ⓧ一本勝	▲Ⓧ	▲Ⓧ		Ⓧ一本勝		
徳島		延長	延長	延長		1	1
	後藤田	大城	▲谷本	▲Ⓧ田中	朝田		

第 3 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	上田	小川	丸岡	馬見	川原	4	5
	▲Ⓧ		Ⓧ一本勝	▲Ⓧ	Ⓛ		
高知	延長	延長			延長	1	1
	五百蔵	▲Ⓧ波内	楮佐古	▲兵等	市川		

第 3 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
香川	遠藤	須藤	米	内堀	西村	2	2
				Ⓧ	Ⓧ		
徳島	延長	延長	延長	延長		3	3
	Ⓧ板東	Ⓧ大城	Ⓧ谷本	▲田中	朝田		

〈少年男子〉

	愛媛	香川	徳島	高知	勝数	勝者数	勝本数	順位
愛媛		$\frac{4}{3}$	$\frac{4}{4}$	$\frac{3}{2}$	2	9	11	1
香川	$\frac{3}{2}$		$\frac{2}{2}$	$\frac{5}{4}$	1	8	10	3
徳島	$\frac{1}{1}$	$\frac{3}{3}$		$\frac{2}{2}$	1	6	6	4
高知	$\frac{4}{3}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{3}{3}$		2	7	8	2

〈成年女子〉

第1試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
徳島	平野	前田	北村	3	4
	⊗	⊗ ⊖	⊗		
香川	延長		延長	0	1
	三宅	⊗ 谷本	谷本		

〈少年女子〉

	愛媛	香川	徳島	高知	勝数	勝者数	勝本数	順位
愛媛		$\frac{6}{4}$	$\frac{4}{4}$	$\frac{4}{4}$	3	12	14	1
香川	$\frac{3}{1}$		$\frac{4}{4}$	$\frac{1}{1}$	1	6	8	2
徳島	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{1}$		$\frac{5}{4}$	1	6	7	3
高知	$\frac{1}{1}$	$\frac{4}{4}$	$\frac{1}{1}$		1	6	6	4

第2試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
高知	甲田	平	大崎	2	3
	▲	⊖ 一本勝	⊗ ⊗		
徳島	一本勝 ⊖			1	1
	平野	前田	北村		

〈成年女子〉

	愛媛	香川	徳島	高知	勝数	勝者数	勝本数	順位
愛媛		$\frac{2}{1}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{0}{0}$	1	3	5	3
香川	$\frac{2}{2}$		$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{1}$	1	3	4	4
徳島	$\frac{3}{1}$	$\frac{4}{3}$		$\frac{1}{1}$	1	5	8	2
高知	$\frac{3}{3}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{3}{2}$		3	7	9	1

第3試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
愛媛	黒河	阿部	松木	2	3
	⊗		⊗ ⊗		
徳島		⊗ ⊗	⊗	1	3
	平野	前田	北村		

第35回 徳島県女子剣道大会

日時 平成26年 9月 7日(日) 午前10時
場所 中 央 武 道 館

団 体 戦

優勝 川 高 剣 友 会 A

準優勝 富 東 O G 会 A

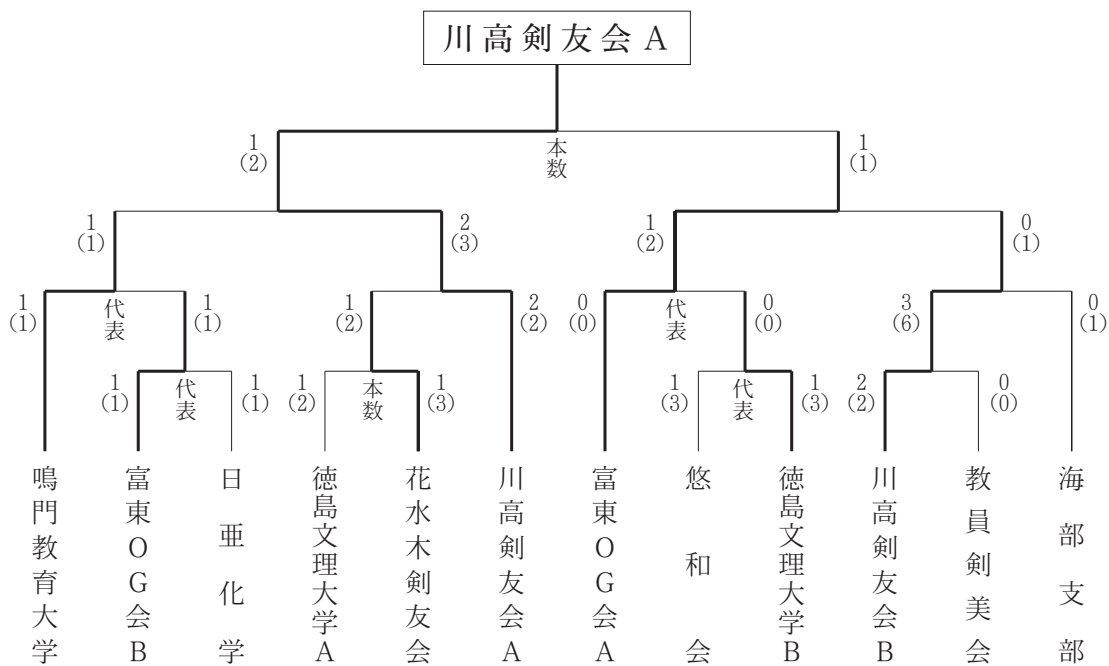
第3位 鳴 門 教 育 大 学

第3位 川 高 剣 友 会 B

決 勝

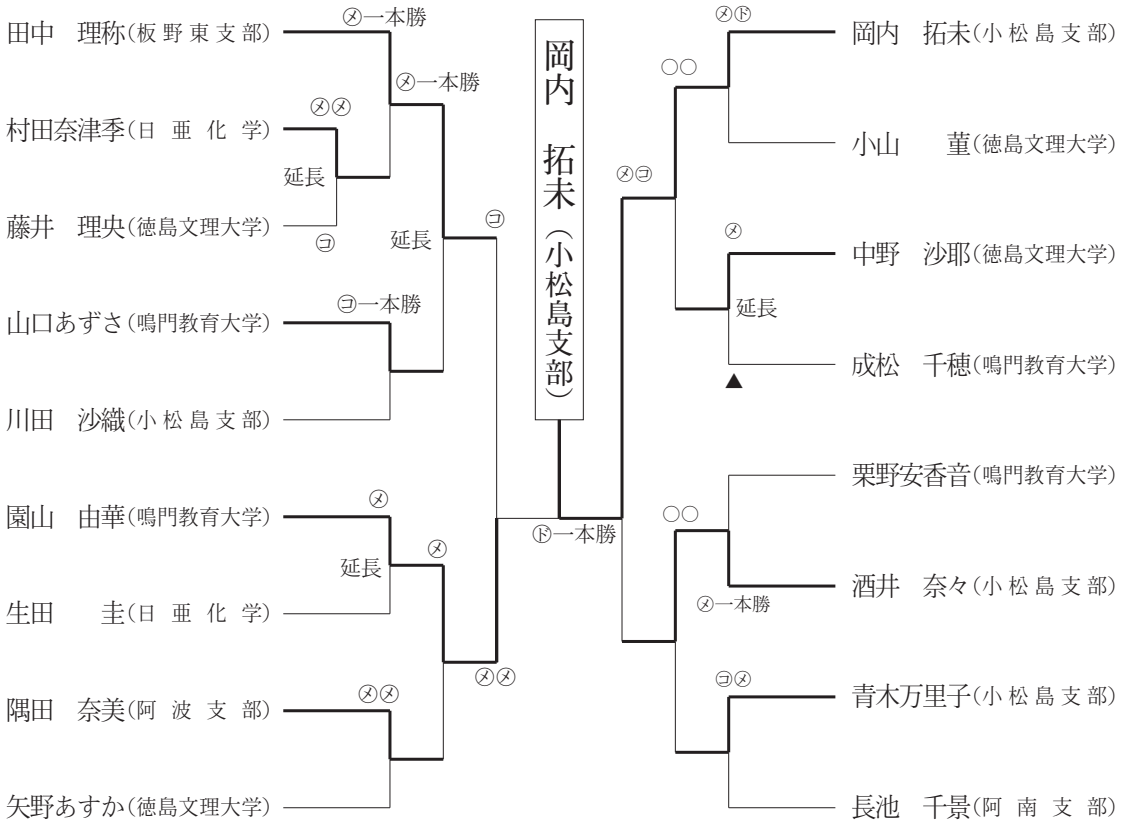
	先鋒	中堅	大将	代表戦	勝数	本数
川高剣友会 A	隅田	井若	前田		1	2
			⊗メ			
富東OG会 A	一本勝 ⊗				1	1
	田中	金野	山田			

決勝トーナメント



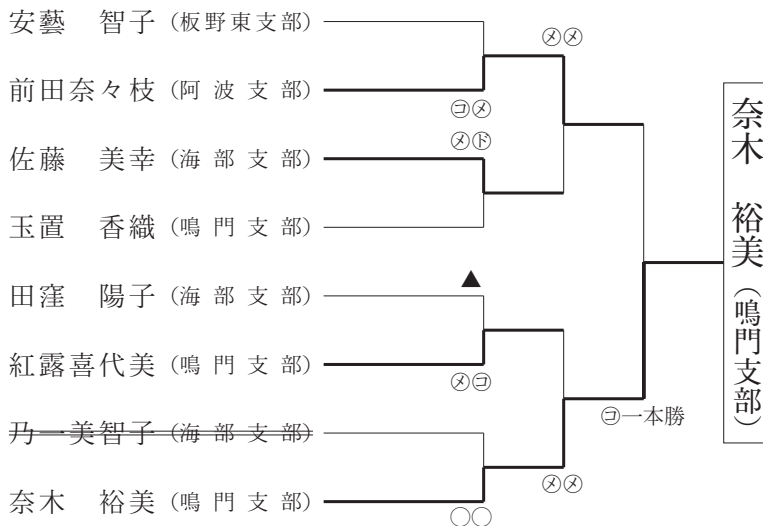
個人戦 <区分1>

優勝 岡内 拓未 (小松島支部)
 準優勝 園山 由華 (鳴門教育大学)
 第三位 酒井 奈々 (小松島門支部)
 第三位 田中 理称 (板野東支部)



個人戦 <区分2>

優勝 奈木 裕美 (鳴門支部)



第43回 徳島県社会人剣道大会

予選リーグ

日 時 平成26年 9月28日(日) 午前10時
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

A	小松島支部 A	大塚製薬	美馬支部 C	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
小松島支部 A		(6/2)	(8/4)	2	6	14	2	1
大塚製薬	(1/1)		(8/5)	1	6	12	1	2
美馬支部 C	(0/0)	(2/0)		0	0	2	0	3

B	月曜会 A	板野西支部 A	麻植支部 B	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
月曜会 A		(5/3)	(8/4)	2	7	13	2	1
板野西支部 A	(2/2)		(1/1)	0	3	4	3	3
麻植支部 B	(1/0)	(4/2)		1	2	5	1	2

C	蔵本剣道クラブ	海部支部 B	阿波支部 A	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
蔵本剣道クラブ		(7/3)	(1/1)	1	4	8	1	2
海部支部 B	(1/0)		(0/0)	0	0	1	0	3
阿波支部 A	(2/2)	(5/3)		2	5	7	2	1

D	三好支部 A	小松島支部 C	月曜会 C	名西 B	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
三好支部 A		(6/3)	(5/2)	(1/0)	2	5	11	2	3
小松島支部 C	(0/0)		(1/1)	(0/0)	0	1	3	0	4
月曜会 C	(3/1)	(5/3)		(3/3)	2	7	11	2	1
名西 B	(2/2)	(6/3)	(1/1)		2	6	9	2	2

E	徳島支部 B	美馬支部 B	阿波支部 D	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
徳島支部 B		(4/2)	(5/4)	2	6	9	2	1
美馬支部 B	(1/1)		(7/4)	1	5	8	1	2
阿波支部 C	(0/0)	(1/0)		0	0	1	0	3

F	阿南支部 B	高田亮藍住剣道 S	徳島県庁剣道部	勝者数	勝者数	得点数	得点数	順位
阿南支部 B		(2/2)	(4/2)	0	4	6	0.5	2
高田亮藍住剣道 S	(5/3)		(7/3)	2	6	12	2	1
徳島県庁剣道部	(4/2)	(1/0)		0	2	5	0.5	3

予選リーグ

G	麻植支部 A	阿南支部 A	月曜会 B	勝者数	勝本数	得点数	順位
	麻植支部 A	△ 0	△ 1	0	1	1	0
阿南支部 A	(7) 4	(5) 3	2	7	12	2	1
月曜会 B	(5) 3	△ 1	1	4	7	1	2

H	海部支部 A	名西 A	阿波支部 B	板野西支部 B	勝者数	勝本数	得点数	順位
	海部支部 A	△ 0	△ 1	△ 1	0	2	4	0
名西 A	(8) 5	(7) 5	(4) 2	3	12	19	3	1
阿波支部 B	(3) 2	△ 0	△ 2	1	4	7	1	3
板野西支部 B	(3) 2	△ 0	(4) 3	2	5	7	2	2

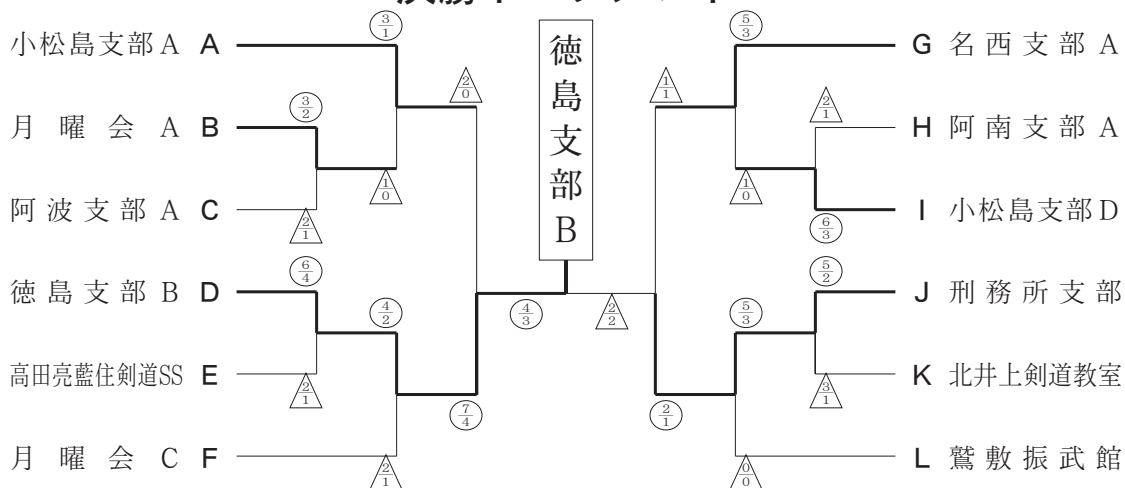
I	上八万絆剣道倶楽部	小松島支部 D	三好支部 B	勝者数	勝本数	得点数	順位
	上八万絆剣道倶楽部	△ 1	△ 0	0	1	4	0
小松島支部 D	(7) 3	(9) 4	2	7	16	2	1
三好支部 B	(6) 3	△ 1	1	4	8	1	2

J	刑務所支部	阿南支部那賀川	阿波支部 C	勝者数	勝本数	得点数	順位
	刑務所支部	(7) 5	(7) 4	2	9	14	2
阿南支部那賀川	△ 0	(5) 3	1	3	6	1	2
阿波支部 C	△ 0	△ 1	0	1	4	0	3

K	北井上剣道教室	板野東支部	小松島支部 B	勝者数	勝本数	得点数	順位
	北井上剣道教室	(7) 4	(6) 3	2	7	13	2
板野東支部	△ 1	△ 1	0	2	4	0	3
小松島支部 B	△ 1	(3) 1	1	2	6	1	2

L	鷺敷振武館	鳴門支部	徳島支部 A	美馬支部 B	勝者数	勝本数	得点数	順位
	鷺敷振武館	(5) 2	(6) 3	(7) 4	3	9	18	3
鳴門支部	△ 1	(3) 1	(6) 4	1	6	12	1.5	2
徳島支部 A	△ 0	(3) 1	(6) 3	1	4	9	1.5	3
美馬支部 B	△ 0	△ 1	△ 1	0	2	4	0	4

決勝トーナメント



準決勝戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
小松島支部 A	原	園田	佐藤	青木	立川		2/0
	⊗	⊗	⊗				
徳島支部 B	⊙ ⊗	⊗ ⊗	⊗	⊗ ⊙	一本勝 熊澤		7/4
	高橋	佐藤	岩原	福多			

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
名西支部 A	林	白木	近藤	白木	久保		1/1
		⊗	⊙ 一本勝	⊗	⊗		
刑務所支部	⊙ ⊙	⊗	⊗	⊗	森		2/1
	玉井	近藤	片山	片山			

決勝戦

優勝 徳島支部 B
準優勝 刑務所支部
第3位 小松島支部 A
第3位 名西支部 A

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
徳島支部 B	高橋	佐藤	岩原	福多	熊澤		4/3
	▲	⊙ 一本勝		⊙ ⊗	⊙ 一本勝		
刑務所支部	一本勝 ⊗		一本勝 ⊗				2/2
	玉井	近藤	片山	片山	森		

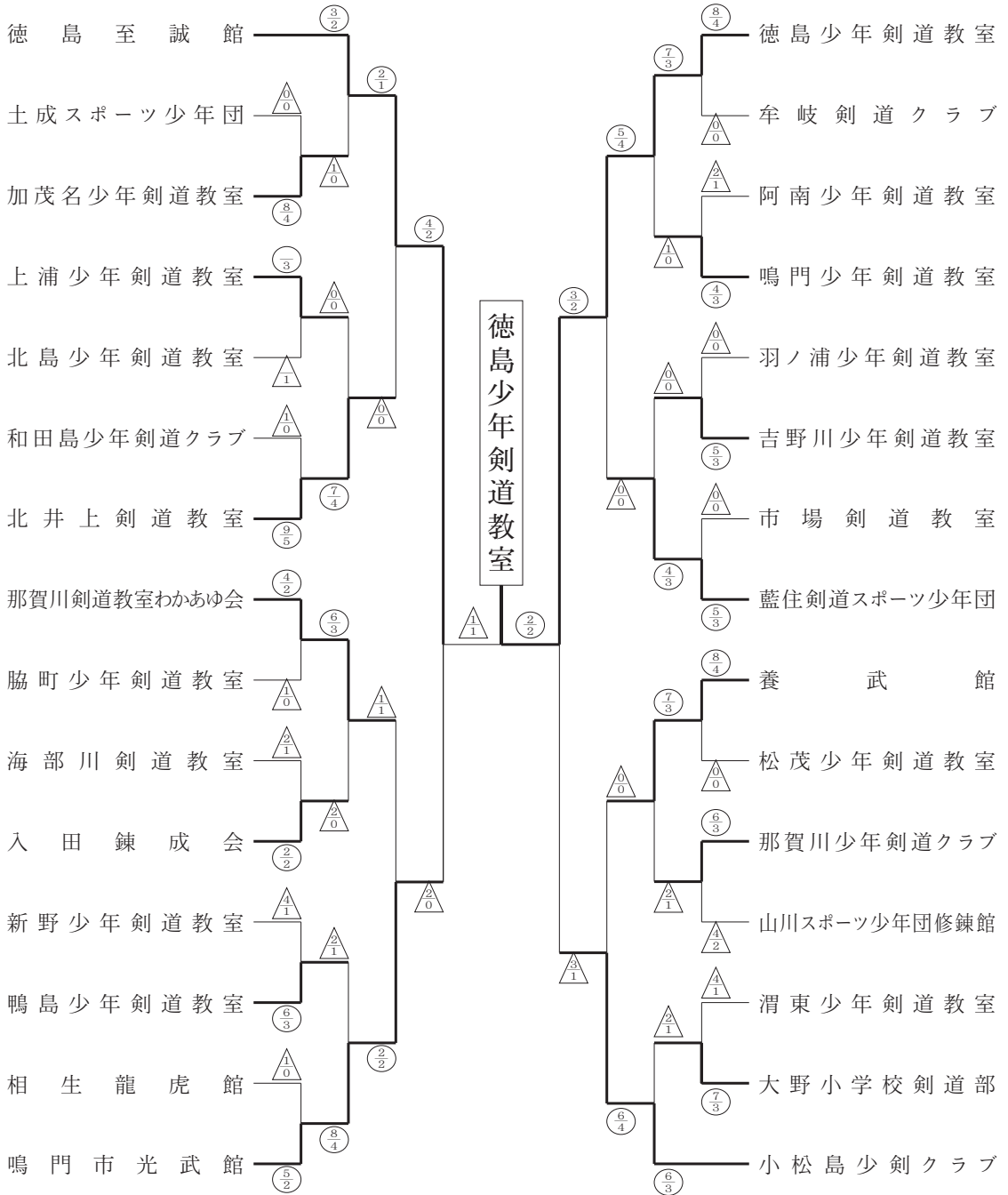
第45回 徳島県少年剣道錬成大会

団 体 戦

日 時 平成26年11月16日(日) 午前10時

場 所 鳴門ソイジョイ武道館

- 優勝 徳島少年剣道教室
- 準優勝 徳島至誠館
- 第3位 小松島少剣クラブ
- 第3位 鳴門市光武館



1月27日

徳島新聞に見る戦いの跡

河野3位 小学部 4年の部



東広島市少年学年別選手権の小学生4年の部で3位入賞した河野



剣道

第28回東広島市少年学年別選手権・熊本広島県選抜少年大会(1月24日)

小松島市制す 小学生 団体

第31回徳島県スナッポ少年団交流大会兼第36回全国スナッポ少年団交流大会(12月1日)...



剣道

第20回東みよし町近県大会(12月8日・東みよし町ふれアアリーナ)

- 【団体】小学生①阿波少年教室A②東みよし淳志館A③中学生男子④大久保(兵庫)⑤阿波⑥女子⑦大久保(兵庫)⑧阿波
【個人】小学1・2年①藤村愛斗②吉田真志③岡山誠④3年①大岩岩斗②小原輝③兼松優那④4年①喜多寛②近藤汰希③尾形直紀④5年①住友千紘②中石瑞己③寺野由莉④6年①木村隼②吉田晴哉③三宅諒紀
▽中学1年男子①竹内光希②榎



丸翔太③清重文弥▽同女子①半田夏音②佐々木菜摘③川人祐奈▽2年男子①秋山佳宏②宮永昇平③三也④高直哉▽女子①佐藤みなみ②林澄香③美馬百花

東みよし町近県大会の団体小学生の部を制した阿波少年教室A

宅蓮稀▽同女子①佐々間美緒②神内あゆみ③森本夢▽高校男子①蓮幸輝②峰本勝也③高直哉▽女子①佐藤みなみ②林澄香③美馬百花
◆第60回丹生谷大会(12月7日・木頭体育館)

- 【団体】小学生①木頭錬心館A②木頭錬心館B③相生龍虎館A▽中学生①木頭A②相生A③木頭B
【個人】小学3年以下①元浦綺雷(相生龍虎館)②宮本真夏花(木頭錬心館)③米田安里(相生龍虎館)敢闘賞 山本心(同)▽4・5年①殿谷誠(同)②中村元(木頭錬心館)③米田賢司(相生龍虎館)敢闘賞 前山帆香(同)▽6年①中田洗輝(木頭錬心館)②商部晴奈(同)③儀宝理天(相生龍虎館)敢闘賞 岩佐祐誠(木頭錬心館)
▽中学1年①前田龍志(驚敷)

②儀宝彩乃(相生)③大城尚己(木頭)敢闘賞 堀出瞳(驚敷)▽2年①中村隼人(木頭)②商部遼太郎(同)③樫森大和(相生)敢闘賞 泉仁平(上那賀)

2月10日

城北男子 3位 徳島文理女子

剣道

四国高校新人大会

剣道の第14回四国高校新人大会は9日、鳴門ソイヨイ武道館に4県から男女各4校が参加して行われ、徳島県勢は男子の城北と女子の徳島文理がともに3位に入った。他の県勢は予選リーグで敗れた。男女とも帝京第五(愛媛)が優勝した。(南志郎)

徳島関係決勝

【男子】予選リーグA組の城北2勝1分け、B組の富西3敗、C組の阿南1勝2敗、D組の徳島文理1勝2敗
 【女子】予選リーグA組の川島3敗、B組の高岡東勝1分け、C組の徳島文理3勝、D組の徳島北3敗

帝京第五は3年連続6度目の優勝。
 【男子】予選リーグA組の城北2勝1分け、B組の富西3敗、C組の阿南1勝2敗、D組の徳島文理1勝2敗
 【女子】予選リーグA組の川島3敗、B組の高岡東勝1分け、C組の徳島文理3勝、D組の徳島北3敗

帝京第五は3年連続6度目の優勝。
 【男子】予選リーグA組の城北2勝1分け、B組の富西3敗、C組の阿南1勝2敗、D組の徳島文理1勝2敗
 【女子】予選リーグA組の川島3敗、B組の高岡東勝1分け、C組の徳島文理3勝、D組の徳島北3敗



女子決勝トーナメント1回戦・徳島文理対済美 果敢に攻める徳島文理の副将・玉田(右)
 鳴門ソイヨイ武道館(家段良匡撮影)

に引き分け。玉田は「相手のペースにのまれた」と肩を落とし、川原も先手を取れず得意のメンを決められなかったと悔やんだ。チームを引っ張る2人は「もっと稽古を積んで打ち勝つ力を付けたい」と成長を約束した。粘り一歩及ばず

○：2勝1分けで決勝トーナメント進出を決めた城北男子は松山北に初戦で敗れ3位。0-1で大將戦を引き分けた西條主将(写)は「決勝で力試しをしたかった」と無念さをこぼした。予選リーグ2勝1分けで先鋒(せんほう)の井形(い)が果敢に相手の懐に飛び込んだが、メンを奪われ1本負け。その後3人が粘って大將戦に望みをつないだものの代表戦に持ち込めなかった。16強入りが目標の全国選抜大会に向け、井形と西條は「残り1カ月で心技を磨く」と決意を新たに



主将(写)は「決勝で力試しをしたかった」と無念さをこぼした。予選リーグ2勝1分けで先鋒(せんほう)の井形(い)が果敢に相手の懐に飛び込んだが、メンを奪われ1本負け。その後3人が粘って大將戦に望みをつないだものの代表戦に持ち込めなかった。16強入りが目標の全国選抜大会に向け、井形と西條は「残り1カ月で心技を磨く」と決意を新たに

2月10日

那賀川7年ぶりV女子

剣道

四国中学新人大会
剣道の第9回四国中学校新人大会は2日、阿波中学校体育館で各県の新人大会男女ベスト4の計32校が参加して団体戦を行った。徳島県勢は女子の那賀川が7年ぶり2度

目の栄冠に輝いた。

徳島県勢は優勝
【男子】予選リーグA組③井1勝1分け1敗▽B組④北島みけ3敗▽C組徳島1勝0敗▽D組④阿南2勝1敗
▽4位トナメント④徳島北
③丸亀(香川)▽決勝
北島2-1鹿雲(香川)
▽3位トナメント④徳島石

井10松山北(愛媛)、徳島3
1(代表勝ち)1徳島
▽2位トナメント④徳島
万徳③30阿南1
▽1位トナメント決勝 高知
2-1滝瀬(香川)
【女子】予選リーグB組那賀
川3勝1敗④阿南1勝0敗▽
G組④阿波3敗▽H組小松島1

分ける敗
▽4位トナメント④徳島阿
波1(代表勝ち)1小松島1決勝
阿波2-1土佐(高知)
▽3位トナメント④徳島
居浜南(愛媛)3-1阿南1
▽1位トナメント④徳島
那賀川2-1丸亀集
▽決勝
那賀川2-1高知
○西岡 下 佐竹
橋本 1トメ 水野
大城 1トメ 寺村
川田 1 氏原
坪井 1 酒井



那賀川教室わかあゆ会創立20周年記念大会の小学校低学年、高学年を制した小松島少剣クラブA



団体の部 小学低学年・高学年 小松島少剣クA優勝

那賀川教室わかあゆ会創立20周年記念大会(1月12日・阿南市スポーツ総合センターサンアリーナ体育館)は団体戦に86チーム、個人戦には230人が参加して行われた。団体の部の小学校は

低学年、高学年ともに小松島少剣クラブAが制した。
【団体】小学校低学年④小松島少剣クラブA(徳島少年教習部)③徳島少年教習部②徳島少年教習部①徳島少年教習部
【個人】幼・1年①大塚侑斗 ②和泉敬彦(那賀川少年少剣)③田上方(那賀川少年少剣)④和泉敬彦(那賀川少年少剣)⑤和泉敬彦(那賀川少年少剣)⑥和泉敬彦(那賀川少年少剣)⑦和泉敬彦(那賀川少年少剣)⑧和泉敬彦(那賀川少年少剣)⑨和泉敬彦(那賀川少年少剣)⑩和泉敬彦(那賀川少年少剣)

那賀川教室わかあゆ会▽5年④松本喜起(鹿住スポーツ少年団)②飯田奈々(徳島全誠館)③大城穂高(同)③武蔵千咲(同)▽6年①河野寛之(那賀川教室わかあゆ会)②井原拓巳(徳島全誠館)③齋和集(同)④田村真尋(和同)⑤松田大(同)⑥松田大(同)⑦松田大(同)⑧松田大(同)⑨松田大(同)⑩松田大(同)

全国選抜団体強化第44回大会(1月3日・松田)
愛媛県武道館)が行われ、164人が参加した個人戦小学生低学年の部で徳島県の松田大(小松島少剣クラブ)が準優勝した。



松田が準優勝
小学生低学年
全国選抜団体強化第44回大会(1月3日・松田)
愛媛県武道館)が行われ、164人が参加した個人戦小学生低学年の部で徳島県の松田大(小松島少剣クラブ)が準優勝した。

3月3日

剣道

暇見つけては素振り



竹刀を構える東内さん。徳島市北矢町の道場

が人形浄瑠璃だ。芸事にも興味があった東内さんは28歳のとき、淡路島の義太夫語り・故豊澤町太郎さんに入門する。地元の意味人たちに招聘された町太郎さんは、月の半分は徳島に腰を据えていた。町太郎さんの滞在中、毎日通った東内さんは「昼間、仕事を抜けて出て習いに行くこともあった」と振り返

自宅の北西約1.5km、徳島市北矢三町にある剣道場へ通う。近所の子どもたちと指南する。「竹刀を握って相手と向かい合えば邪心が消え、誠実になれる」。東内さんは静かに語る。

剣道7段。2000年、63歳のときに大病を患ってから道場の運営は後進に譲ったが、剣への情熱は衰えない。自宅では傍らに竹刀を置き、暇を見つけては素振り。全就職。営業に明け暮れていた24歳のころに剣道の師範と知り合い、教えを請う。

文武両道の流

▶▶1

東内勉さん(78)

徳島市南矢三町

「文武両道」。学芸と武芸とどちらも修めることを指し、転じて勉学と運動、文化活動とスポーツの双方に秀でていることを表す。徳島県内で「文武両道」を実践し、豊かな人生を過ごしている人々を随時紹介する。

石井町生まれ。若いころから武道に興味があったが戦後はGHQ(連合国軍総司令部)によって柔道は1950年、剣道は52年まで禁止されていた。55年に名西高校を卒業、屋根瓦の販売会社に入社。営業に明け暮れていたが、自分から教えること、自分を修養すること、一生続けるもの、相手と対話すること。相手が教えること。修行は一生続けるもの、夢中にさせ続けているの

「一生懸命に竹刀を振り、汗だくになって稽古すれば、心のもやもやが消えた」

人形浄瑠璃

観客の感動が喜びに



自作の木偶に、かぶをつける東内さん。徳島市北矢三町の道場

上達するにつれて、義太夫語りだけの「素義太夫会」や、人形浄瑠璃大会に出演した。「当時は、人形座が義太夫を付けるのではなく、語りたい義太夫たちが集まり、そこに人形座を付ける形だった」。趣味が高じ、40歳で「人形恒」こと故田村恒夫さんに弟子入りし、木偶を自作するようになった。大病を患い入院、手術を経て退院した2000年10月、自前の人形浄瑠璃座「駒三座」を創設する。現在は12人の座員を率いて通う回、剣道場で

(滝本昇)

5月11日

青空の下「メーン」

小中学生が剣道野試合

阿波市の八幡神社

読んで学ぼう

県内唯一の野試合に、小中学生剣士が熱
よる剣道の奉納演武大戦を繰り広げた。
会が10日、阿波市市場 阿波、吉野川、美馬
町八幡の八幡神社であ の3市から129人が



境内で熱戦を繰り広げる子どもたち 阿波市市場町の八幡神社

出場し、学年別など5
部門でトーナメント戦
をした。胴着に運動靴
姿の子どもたちは、威
勢の良い掛け声を響か
せながら大人顔負けの
剣さばきを披露。相手
のすきを突いて見事に
技が決まると、保護者
らからは大きな歓声があ
上がった。

中学女子の部で優勝
した藤岡和菜さん(14)
「鴨島第一中3年」は
「屋外での試合は開放
感があつて気持ちよか
つた」と話した。
大会は地元住民らで
つくる八幡神社剣道同
志会が2003年から
毎年開き、今回で12回
目。(富士佳輝)

5月9日



10年ぶりの優勝を目指し練習に励む剣道の富岡西男子一同校武道館

剣道

（那賀川スポーツセンタ―）男子団体は21校が参加。四国新人大会3位の城北、県連盟会長杯王者の阿南工に、地方のある徳島文理と10年ぶりの優勝を目指す富岡西が絡み

混戦となりそうだ。個人は4月の全日本都道府県対抗優勝大会で徳島の16強入りに貢献した大城（阿南工）が有力。県選手権上位の朝田（阿南工）古屋（徳島北）板東（川島）のほか、城北、徳島文理、富岡西の主力選手も優勝の射程圏

つかめ栄冠

14県高校総体の展望

□ 9 □

阿南工など上位混戦 剣道男子

14校が出場する女子団体は四国新人大会3位の徳島文理、県連盟会長杯を制した富岡東が中心。川島、徳島北、城北も力を付けている。個人は県選手権女王の馬見を筆頭に鳴川、中井、清水の富岡東勢による争いが濃厚。玉田、川原（以上徳島文理）岩木（鳴門）江川（富岡西）らがどこまで迫れるか。【日程】31日㊥男女団体▽6月1日㊥男女個人



富岡東 2年ぶり制覇

男子は城北が3度目

【剣道】男子個人戦(7月2日)
 富岡東 城北 1対0
 富岡東 徳島南 1対0
 富岡東 徳島北 1対0
 富岡東 徳島東 1対0
 富岡東 徳島西 1対0
 富岡東 徳島中 1対0
 富岡東 徳島南 1対0
 富岡東 徳島北 1対0
 富岡東 徳島東 1対0
 富岡東 徳島西 1対0
 富岡東 徳島中 1対0

徳島県高校総体は、2日(閉幕した)第54回県高校総体体育大会の全引競技(協賛)の競技と7日実施の1次予選(1人を除く)の優秀選手55人を発表した。受賞者は(別表)の通り。

宿敵に雪辱 王座奪還

富岡東

絶望に打ちひしがれた富岡東の中堅。あの日から365日。あの敗戦で連覇が21止まった。もう一度、止まった。選手たちは涙を流し、勝利を喜ぶ。この勝利は、1月の全県選抜大会で、富岡東が徳島南に敗れた。その報復を期して、選手たちは、この試合に打ちひしがれた。富岡東の中堅は、先鋒(せんぼ)きた連勝を自分たちで止めた。次鋒(つぎ)は、勝つて、勝利を喜ぶ。この勝利は、1月の全県選抜大会で、富岡東が徳島南に敗れた。その報復を期して、選手たちは、この試合に打ちひしがれた。



女子決勝・富岡東対徳島文理 果敢に打ち込む富岡東の中堅・小川智那賀川

スポーツセンター(森戸博也撮影)

6月2日

県高校総体 全31競技55人 優秀選手発表

各競技の男女別優秀選手

競技	男子	女子
陸上	川口 安藤 文成(徳島市立)	西川 力(徳島市立)
水泳	上野 浩樹(徳島市立)	矢部 明(徳島市立)
柔道	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
剣道	富岡東 1(富岡東)	富岡東 1(富岡東)
空手	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
相撲	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
柔術	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
射撃	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
弓道	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
テニス	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
バドミントン	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
卓球	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
バスケットボール	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
ハンドボール	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
ラグビー	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
サッカー	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
野球	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
バレーボール	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
バドミントン	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
卓球	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
バスケットボール	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
ハンドボール	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
ラグビー	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
サッカー	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
野球	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)
バレーボール	徳島南 1(徳島南)	徳島南 1(徳島南)

【剣道】
 男子個人戦(7月2日)
 富岡東 城北 1対0
 富岡東 徳島南 1対0
 富岡東 徳島北 1対0
 富岡東 徳島東 1対0
 富岡東 徳島西 1対0
 富岡東 徳島中 1対0

四国高校選手権

前期

6月16日

剣道

【男子】団体予選リーグA組
 松山北3-1富岡西、高知3-1
 富岡西、富岡西2-1高松南▽B
 組 徳島文理2-1新田、徳島文
 理1-0高知商、琴平1-0徳島

文理▽C組 今治精華4-1城
 北、高松商3-1城北、城北3-1
 2明德義塾▽D組 帝京五3-1
 阿南工、英明1-0阿南工、高知
 小津2-1阿南工
 ▽順位A組①富岡西1勝2敗
 B組の徳島文理2勝1敗▽C組③
 城北1勝2敗▽D組④阿南工3敗
 ▽決勝トーナメント決勝 帝京
 五3-1〇琴平
 帝京五は2年ぶり7度目の優
 勝。

【女子】団体予選リーグA組
 富岡東2(本教勝ち)2小田、富
 岡東2-1〇高知小津、富岡東2-1
 1高松商▽B組 帝京五4-〇富
 岡西、明德義塾4-〇富岡西、高
 松校并3-1富岡西▽C組 松山
 北3-1〇徳島文理、高松南3-1
 徳島文理、高知3-1〇徳島文理▽
 D組 済美3-1川島、川島1-
 1琴平、高知商3-12川島
 ▽順位A組①富岡東3勝▽B組
 ④富岡西3敗▽C組④徳島文理3
 敗▽D組④川島1分け2敗
 ▽決勝トーナメント1回戦 帝
 京五3-12富岡東▽決勝 帝京五
 2-1〇済美
 帝京五は2年ぶり6度目の優
 勝。

剣道

朝田(阿南工)▽男子

【男子】個人準々決勝 朝田
 (阿南工)メメー 板谷(帝京
 五)▽準決勝 朝田 メー 橋本
 (帝京五)
 ▽決勝

朝田メー 野山口
 【女子】個人準々決勝 丸岡
 (富岡東)メー 玉田(徳島文
 理)、馬見(富岡東)メー 兵等
 (高知)▽準決勝 前田(帝京五)メ
 ー 丸岡、喜田(高松商)コー
 馬見▽決勝 前田 コー 喜田



比婆連峰旗争奪選抜大会で優勝した阿南一中

阿南一中が頂点



第19回比婆連峰旗争奪
 選抜大会(5月5日・広
 島県庄原市総合体育館)
 は中・四国・近畿の56チ
 ムが参加して熱戦を繰り
 広げた。徳島県からは2
 校が出場し、阿南一中が
 決勝で吉備中(岡山)を2
 -1〇で下して優勝した。
 ◇徳島県関係の上位
 ▽準々決勝 阿南一中2-1出
 雲三中(島根)▽準決勝 阿南一
 中5-〇善防中(兵庫)▽決勝
 阿南一中2(服部)メコーメ岡
 本平田メメー 犬養、甲上
 コー 河口、西名メコー具
 光、朝田ー嶋村)〇吉備中
 (岡山)

5月7日



徳島至誠館 2連覇

第12回東かがわ市武道

大会(5月5日・香川県東かがわ市白鳥神社境内)は徳島、香川両県の小学生から一般までのチームが参加して行われた。44チームで争った小学生高学年で、徳島至誠



東かがわ市武道大会小学生高学年の部で優勝した徳島至誠館

館が優勝し2連覇を達成した。
 ◇徳島関係上位
 【小学生】高学年々決勝 徳島至誠館2-O那賀川整わかあゆ 準決勝 徳島至誠館2-O光龍館(香川)▽決勝 徳島至誠館 先鋒1大城健高、次鋒1武蔵千咲、中堅1佐太洋、副将1坂田泰々、大将1徳田徳那1(一本)

【小学生】
 教勝(一本町スポーツ少年団(香川))
 ◆第52回那賀防犯少年大会(5月10日・藍敷B&G海洋センター体育館)
 【団体】小学生①相龍虎館(先鋒1殿谷誠、中堅1米田賢司、大将1徳吉真弥)②木頭練心館(先鋒1中村元、中堅1要太陽、大将1宮本天翔)
 ▽中学生①木頭B(先鋒1岡部晴奏、中堅1佐々木大樹、大将1中田流輝)②藍敷(先鋒1堀出曠、中堅1高岡有朔、大将1前田龍志)
 【個人】小学・4年①元浦綺雷(相龍虎館)②草本夏花(木頭練心館)③吉岡健心(藍敷)④徳吉真弥(同)⑤藤山愛(藍敷)⑥徳吉真弥(同)⑦藤山愛(藍敷)⑧藤山愛(同)⑨中野・2年①前田龍志(藍敷)②城岡(木頭)③岡部晴奈(同)④3年①中村隼人(同)②岡部遼太郎(同)③樫森大知(相生)

大前(藍住S団)小学生王者に



板野防犯少年大会の入賞者たち

中学生の部は森本

第21回板野防犯少年大会(6月22日・板野町体育センター)は板野署管内の小学5年生から中学2年生の教室、剣道部に所属する52人が参加して行われた。藍住スポーツ少年団の大前誠也が小学



生の部、森本直希が中学生の部を制した。小学生の上位4人と中学生の上位3人が県防犯少年大会(7月31日・鳴門)に出場する。
 【小学生】大前誠也(藍住)②松本起(藍住)③松本輝大(藍住)④政闘(松本輝大)⑤松本直希(藍住)⑥松本直希(藍住)⑦松本直希(藍住)⑧松本直希(藍住)⑨松本直希(藍住)⑩松本直希(藍住)

富田・小島に栄冠
 徳島西警察署防犯大会(6月28日・徳島西警察署道場)が行われ、北井上教室の富田哲平が小学生の部、小島拓也は中学生の部を制した。小学生の上位4人と中学生の上位3人は県防犯少年大会に徳島西警察署チームとして出場する。
 【小学生】富田尊(北井上教室)②筒井雄也(同)③原田和佳(加茂名少年教室)④天満駿(藍少年クラブ)



徳島西警察署防犯大会の入賞者たち

【中学生】小島拓也(北井上教室)②筒井雄也(北井上)③阿部大進(佐野)④阿部大進(佐野)
 中学生団体優勝
 男子・三好
 女子・池田
 第53回三好支部少年大会兼県防犯大会予選(6日・東祖谷小体育館)が行われ、中学生団体の男子は三好、女子は池田が制した。小学生の佐友千紘、平尾文博、寺野田莉、中石瑞己、中学生の大和泰生、大岩央和、萩田将史は県防犯少年大会に三好警察署チームとして出場する。
 【団体】中学男子①三好(池田)②油田(山城)
 【個人】小学5年①庄嶋晴(吉備人)②寺野光貴(4年)③嶋澤守時(寺野)④西村晋(5年)⑤平尾文博(石丸)⑥寺野光貴(6年)⑦寺野光貴(6年)⑧寺野光貴(6年)⑨寺野光貴(6年)⑩寺野光貴(6年)

5月21日

野村裕樹③ 津東	徳島・草メコ 徳島・阿	朝田大樹③ 南上	【男子】個人1回戦	小田原市総合文化体育館
田畑行樹③ 御山	京都・久メ 島文理③	後藤由華③ 徳島・徳	【女子】個人1回戦	小田原市総合文化体育館
富岡東 50	徳島 50	矢板中央 柄本	【男子】団体選り分け1回戦	小田原市総合文化体育館
鳴川 21	徳島 21	奥三 岩重	【女子】団体選り分け1回戦	小田原市総合文化体育館
中井 21	徳島 21	北芳村③ 川川③	【男子】個人1回戦	小田原市総合文化体育館
馬見 21	徳島 21	井上③	【女子】個人1回戦	小田原市総合文化体育館
○馬見 21	徳島 21	井上③	【男子】個人1回戦	小田原市総合文化体育館
△順位(位は決勝トナメント)	徳島 21	井上③	【女子】個人1回戦	小田原市総合文化体育館
ト(○)富岡東之勝	徳島 21	井上③	【男子】個人1回戦	小田原市総合文化体育館

全国高校総体
煌めく青春 南関東

8月5日

盛岡 10	徳島 10	北	【男子】団体選り分け1回戦	小田原市総合文化体育館
石木 3	熊橋 2	西條 3	【女子】個人1回戦	小田原市総合文化体育館
菊地 3	西條 3	西條 3	【男子】個人1回戦	小田原市総合文化体育館

南谷 2	中川 3	西川 3	平尾 3	井形 3	城 北	藤谷 3	熊谷 3
下池 2	河辺 2	高西 2	喜多 2	喜多 2	喜多 2	喜多 2	喜多 2
下池 2	河辺 2	高西 2	喜多 2	喜多 2	喜多 2	喜多 2	喜多 2

馬見 21	徳島 21	井上 3	馬見 21	徳島 21	井上 3	馬見 21	徳島 21
馬見 21	徳島 21	井上 3	馬見 21	徳島 21	井上 3	馬見 21	徳島 21
馬見 21	徳島 21	井上 3	馬見 21	徳島 21	井上 3	馬見 21	徳島 21

剣道

決勝T1回戦
富岡東敗退

小田原市総合文化体育館

和歌山 20	徳島 20	富岡東	1回戦	和歌山 20	徳島 20	富岡東
和歌山 20	徳島 20	富岡東	1回戦	和歌山 20	徳島 20	富岡東
和歌山 20	徳島 20	富岡東	1回戦	和歌山 20	徳島 20	富岡東



女子団体1回戦・富岡東対和歌山 相手を攻める富岡東の馬見(右)小田原アリーナ

1回戦で敗れた富岡東女子。3分け1敗で大将戦に臨んだ馬見は「勝たなければと焦り、自分の剣道ができなかった。攻めていいたら逆に取られた」と悔しそうに振り返った。

全員が3年生のメンバー15人にとつて初の全国大会。予選リーグ2勝で決勝トーナメント進出を果たしたことに小川主将は「自分たちがやってきたことが全国でも通用することは示せたと思う」と最後は笑顔だった。

8月16日

決勝Tで1勝
目指す阿南一

男子団体

剣道

(17)19日・高知県立
県民体育館

団体は県総体を制した
男子の阿南一、女子の那
賀川が出場する。男女共
に3校ずつに分かれて予



剣道男子・阿南一



剣道女子・那賀川

選リーグを戦い、各組1
位となった16校が決勝ト
ーナメントに進む。
四国総体で準優勝した
阿南一は中国覇者の旭東
(岡山)石田(沖繩)と
同じグループに入った。
大將朝田を中心に粘り強
く戦い、決勝トーナメン
トに進出して1勝を目指
す。

那賀川は生保内(秋
田)堀野(三重)と同
組。予選リーグを突破す
れば、決勝トーナメント
1回戦で関東の強豪・東
京学館浦安(千葉)か九
州王者の玄洋(福岡)と
の対戦が予想される激戦
ゾーン。先鋒(せんほ
ろ)西岡、大將坪井の3
年生に期待が掛かる。
個人に出場する4人は
予選リーグを突破し、全
国ベスト8に照準を合わ
せる。

【男子団体・阿南一】県総体1
位 監督 塚本博史▽選手 朝田
城頭裕奈(那賀川)
【女子団体・那賀川】県総体1
位 監督 齋浩市▽選手 坪井香
歩、西岡彩芽、大城頭裕奈、橋本
こころ、川田実央、檜田胡桃、朝
田萌香
【個人】監督 齋浩市(那賀
川)▽選手 山崎舞(阿南)大
智輝、西脇暉、田上雄大、田
智也、木内捷人、服部比加留、山
本寛矢
【個人】監督 白木洋一(石
井)▽選手 西條賢太(石井)熊
橋俊司(徳島)

全国中学校 体育大会 2014

8月21日

山崎(阿南)4強逃す

剣道

(高知県民体育館)

【男子】団体決勝

潮田 1-1
神奈川 代表勝
高知

潮田は初優勝。

▽個人決勝

岩切 ム
千葉 杉
勝浦 (熊本・高森)

【女子】団体決勝

玄洋 2-0
福岡 愛媛
城辺

玄洋は初優勝。

▽個人準々決勝

小城 舞
茨城 阿南
神栖 ム

小城は初優勝。

▽決勝

小川 山崎
新潟 ム
大淀

実力発揮し満足

○：女子個人の山崎(阿南、写真)が全国4強を前に涙をのんだ。準々決勝の相手は茨城の選手。両者譲らず3



分間で決着がつかなかった熱戦は延長2分、コテを打ちにいったところを返されてメンを決められた。県女王として臨んだ四国総体は準々決勝で破れたが、精鋭96人で争った全国の舞台では実力を遺憾なく発揮して3勝を挙げた。山崎は「団体で出られなかったみんなの分まで頑張った。全国ベスト8の結果には満足している」と晴れやかな表情を浮かべた。

8月25日

国体予選 四国 ブロンク大会

剣道

(高知県武道館)

【成年女子】①高知3勝②徳島1勝2敗③愛媛1勝2敗④香川1勝2敗⑤2、3位は勝者数、4位は取得本数による。

高知が国体に出場。

【少年男子】①愛媛2勝1敗②高知2勝1敗③香川1勝2敗④徳島1勝2敗⑤1、2位は勝者数、4位は勝者数による。

愛媛が国体に出場。

【少年女子】①愛媛3勝②香川1勝2敗③徳島1勝2敗④高知1勝2敗⑤2、3位は取得本数による。

愛媛が国体に出場。

四国中学校 総合体育大会

8月4日

剣道

(高知県民体育館)

【男子】団体予選リーグA組①高知2勝1分け②阿南1(徳島)2勝1分け③久万(愛媛)1勝2敗④龍雲(香川)3敗▽B組①三間(愛媛)2勝1分け②明徳義塾(高知)2勝1敗③徳島1勝1分け④清瀬(香川)3敗▽1、2位は取得本数による。各組1、2位が決勝トーナメントへ。

▽決勝トーナメント1回戦 高知1-0明徳義塾 阿南1-2三間
▽決勝

高知 3-2 阿南
○田村 ムー 服部
木下 ーゴ 平田○

永野 ーメ 田上○
○川元 ムー 西名
○東野 ムー 朝田
高知は2年ぶり10度目の優勝。
▽個人準々決勝 山崎(愛媛・三間)コ-西名(阿南)▽決勝 山崎ムー今井(愛媛・東)

【女子】団体予選リーグA組①城辺(愛媛)3勝②高知2勝1敗③鳴門1(徳島)1勝2敗④山田(香川)3敗▽B組①丸亀東(香川)3勝②那賀川(徳島)1勝1分け1敗③明徳義塾(高知)1勝1分け1敗④松山北(愛媛)3敗⑤2、3位は勝者数による。各組1、2位が決勝トーナメントへ。

▽決勝トーナメント1回戦 城辺2-1那賀川、高知4-0丸亀東▽決勝 城辺2-0高知
城辺は2年連続3度目の優勝。
▽個人準々決勝 岩中(愛媛・小田)ムー山崎(阿南)、富田(鳴門)ムー坪井(那賀川)、本多(愛媛・城辺)ムー大城(那賀川)▽準決勝 本多ムー富田決勝 二神(愛媛・城辺)ムー本多

川高剣友会A 初制覇 団体

田山が日本一

全日本女子剣道

剣道

県女子大会

剣道の第35回徳島県女子大会は7日、県立中央武道館で団体戦に12チーム、個人戦は24人が参加して行われた。団体は川高剣友会A(隅田、井若、前田)が初優勝。個人は29歳未満が岡内拓未(小松島支部)、30歳以上は奈木裕美(鳴門支部)が制した。(宮本真)

会B3-1 海部支部▽準決勝 川高剣友会A2-1 鳴教大、富東OG会A1-0 川高剣友会B

▽決勝 川高剣友会A 本教勝 富東OG会A

隅田 一メ 田中 井若 一 金野 前田 メー 山田

○：川高剣友会Aは大將の前田が開始から約40秒までにメンを立て続けに決め、逆転で頂点に立った。昨年の国体5位に貢献した実力者は「待つ気持ちでいたら打たれると思ったので攻めていった。自信はあった」と汗を拭いた。

大將 速攻決める

剣道の全日本女子選手権は7日、兵庫県姫路市の兵庫県立武道館で行われ、決勝で田山秋恵(大阪府警)が全日本女子学生選手権覇者で法大4年の松本弥月から、得意技の面を2度決めて初の日本一に輝いた。

3連覇を狙った山本真理子(大阪府警)は準決勝で松本に屈した。

▽準決勝 田山 ドコ 梅村(大阪府) 警視庁 松本 コメメ 山本(大阪府) 法大 警 山本

▽決勝 田山 メー 松本



団体決勝・川高剣友会A对富東OG会A 大將戦でメンを奪った川高剣友会Aの前田(左)県立中央武道館(河野聡一撮影)

9月8日

【団体】1向戦 富東OG会B 1代表勝ち) 1白亜化学、花木剣友会1(本教勝ち) 1徳島文理大学A、徳島文理大学B1(代表勝ち) 1修和会、川高剣友会B 2-0 教員剣美会▽準決勝 鳴教大1代表勝ち) 1富東OG会B、川高剣友会A2-1花水木剣友会、富東OG会A0(代表勝ち) 0徳島文理大学B、川高剣友

岡内ド 園山

▽30歳以上準決勝 前田(阿波支部) メー 佐藤(海部支部)

川高剣道部の卒業生でつくるチーム。先鋒の隅田がメン1本を奪われたものの、中堅の井若は「大將に回せば勝てる」と信じて引き分けに持ち込んだ。年齢が離れている3人だが、剣友会の月1回の稽古で培ったチームワークを存分に発揮した。

9月1日

県勢3チーム入賞



第46回植田平太郎範士杯争奪少年大会(6月22日・高松市総合体育館)は香川県を中心に四国4県、大阪府などから小学



植田平太郎範士杯争奪少年大会小学生低学年準優勝(下段)と高学年ベスト8(上段)の小松島少剣クラブA

生低学年65チーム、同高学年85チーム、中学生45チームが参加。徳島県勢は小学生低学年の部で小松島少剣クラブAが準優勝、高学年の部では小松島少剣クラブAと徳島至誠館が敢闘賞(ベスト8)となった。

松島少剣クラブA(和歌山砂山少年剣友会)準決勝、小松島少剣クラブA(京都弘道館)決勝、昇龍館(福場)3-0小松島少剣クラブA(先鋒)岩原千佳、次鋒小山田奈央、中堅桂大二郎、副将原拓海、大将松山若樹



小学生高学年の部ベスト8に入った徳島至誠館

(代表勝ち) 1徳島至誠館
◆2014年度阿南中央1タリ1クラブ杯争奪夏祭り少年大会(7月27日・羽ノ瀬総合体育館)

【団体】①徳島至誠館(武蔵純郎、大城穂高、飯田奈々、福田優那) ②大野小③新野少年教室
【個人】小学3年生以下①武蔵小春(徳島至誠館) ②栗田星舞(那賀川教室わかあゆ会) ③倉橋秀汰(同) ③羽坂眞真(同) ④4年生①尾畑翔(同) ②高瀬遥菜(新野少年教室) ③小島瑠奈(那賀川教室わかあゆ会) ③引田良太(同) ⑤5・6年生男子①大城穂高(徳島至誠館) ②後藤浩也(同) ③本木歩(新野少年教室) ③住友大洋(徳島至誠館) ④同女子①河野菜々子(那賀川教室わかあゆ会) ②飯田奈々(徳島至誠館) ③武蔵千咲(同) ④山田莉子(同) ⑤新生①蔵本大成(大野小) ②本庄創思(同) ③田村陸人(同) ③青木優衣(新野少年教室)

女子 那賀川Aが頂点



第23回小豆島土庄町杯西日本中学生選抜大会(8月23日・香川県土庄町総合会館フレトピアホール)は約600人が参加し、団体戦が行われた。徳島県勢は女子の那賀川Aが優勝、北島が3位になった。

◇徳島県関係の上位

【男子】決勝トーナメント1回戦 那賀川3-0協和(香川)▽準々決勝 龍雲(香川)5-0那賀川

【女子】決勝トーナメント1回戦 那賀川A4-0丸亀東(香川)、北島3-0吉田(愛媛)▽準決勝 那賀川A4-0久万愛媛、城辺(愛媛)2(代表勝ち)2北島▽決勝 那賀川A先鋒川田、次鋒川橋本、中堅川田、副将川朝田、大将川大城3-2城辺

◆第42回阿土少年練成大会(8月17日・木頭体育館)

【団体】小学生準決勝 徳島至誠館2-0養武館、小松島少剣クラブ3-0高知至誠館▽決勝 小松島少剣クラブ1(代表勝ち)1徳島至誠館

▼中学生準決勝 那賀川B&G1-0相中、那賀川中3-10那賀川少年教養会決勝 那賀川B&G1(代表勝ち)1那賀川中

【個人】小学生1、2年準決勝 井上琉生(高知至誠館)メー、橋本和馬(小松島少剣クラブ)、岩

本響輝(徳島至誠館)ドー、桑原康輔(那賀川教養わかあゆ会)▽決勝 岩本ドー、井上

▽3・4年準決勝 松山若樹(小松島少剣クラブ)メー、栗田星舞(那賀川教養わかあゆ会)、岩原千佳(小松島少剣クラブ)ドー、吉岡聖(高知至誠館)▽決勝 岩原 コー、松山

▽5・6年準決勝 富永涼介(吉野川教養)ココー、岩本楓華(徳島至誠館)、柿本弥咲(高知至誠館)ココー、小山田亮太(小松島少剣クラブ)▽決勝 柿本 コー、富永

▼中学生1年準決勝 岡部晴奈(木頭中)メー、武岡大連(同)、岩佐祐誠(同)メー、原健太郎(阿南少年教養)▽決勝 岡部 メー、岩佐

▽2年準決勝 富永康生(石井中)反コー、堀出暉(鷺敷中)、前田龍志(鷺敷中)メー、太田健士郎(坂野中)▽決勝 前田 コー、富永

徳島至誠館が連覇 小学生 高学年



少年練成大会で優勝した徳島至誠館

第33回少年練成大会(8月31日・香川県善通寺市民体育館)は香川県内外から小、中学生105チームが参加して行われた。徳島県勢は44チームで争った小学生高学年

の部で徳島至誠館が優勝し、2連覇を達成した。

◇徳島県関係

▽決勝リーグ 徳島至誠館(先鋒)大城徳高、次鋒川武蔵千咲、中堅川住友太洋、副将川飯田奈々、大将川福田優那、1-0野崎ク(和歌山)、徳島至誠館0-0坂出市連盟(香川)

11月17日

11月11日

男子 **松本** (高西) **優勝** **野村** (高東) 女子

剣道

県高校選手権

剣道の第48回徳島県高校選手権は9日、鳴門ソイヨイ武道館に男子113人、女子56人が参加して個人戦が行われた。男子は松本高史(富岡西)、女子は野村愛里(富岡東)が優勝した。(写真・写真も)

【男子】準決勝 松本(高西) 1-0 野村(高東)
 【女子】準決勝 松本(高西) 1-0 野村(高東)



村(高岡東)メーメ行(城)で決着がつかず、延長戦に突入した女子決勝。富岡東の野村が鮮やかにメーメを打ち込み、21分間の激闘は幕を閉じた。「集中力を切らさないよう必死だった。どうして一本が決まったのか自分でもよく分からない」と滴る汗を拭いた。

強豪・富岡東で方の一角を占める年生、持ち前の粘り強さと積極的な攻めでノーストドから勝ち上がった。決勝の相手は那賀川中時代の1年先輩。苦手としていた難敵を下しての栄冠に「先輩の意地を示すことができた」と満面の笑みを浮かべた。

○：4分間の試合時間



女子決勝 延長戦を制して優勝した富岡東の野村(右)鳴門ソイヨイ武道館

独高校生 武道を体感

教育交流で城北高訪問

徳島県が友好提携を結んでいるドイツ・ニーダーザクセン州の高校生ら18日、城北高校(徳島市北田宮4)で剣道や弓道の部活動を体験した。教育交流の一環で13日に来県し、同校の生徒と交部活動を体験したの

は、リセ・マイトナー 武道を体感した。

・ギムナジウム高校の マテリン・メアスさん(17)は「弓道は難しかったけど、ほかま委演技を見た後、立ち居や動きがとても美しく、振る舞いや弓の持ち方など基本動作を教わった。剣道部でも道着に替え、竹刀を手に、授業や部活動に参加し、大きな声を出しながら、授業や部活動に参面や朋を打ち、日本の加する。(笠井秀彰)

11月19日



剣道を体験するドイツ・ニーダーザクセン州の高校生—徳島市北田宮4の城北高校

21歳竹ノ内が 史上最年少V



竹ノ内佑也

剣道

全日本選手権

剣道日本一を決める第21歳9カ月。学生の日本一は71年の川添哲夫(国士館大)以来43年ぶりの快挙となった。

64人によるトーナメントで争われ、初出場の竹ノ内佑也4段(筑波大)が21歳5カ月の史上最年少優勝を果たした。全日本剣道連盟によると、これ

までの記録は1960年の桑原哲明(旭化成)の21歳9カ月。学生の日本一は71年の川添哲夫(国士館大)以来43年ぶりの快挙となった。

(2面に「一人」)

竹ノ内は決勝で初出場の国友鍾太郎4段(福岡県警)から面を2本奪い、90年の宮崎正裕(神奈川県警)からの初出場奪った。2連覇を狙った内村良一6段(警視庁)は3回戦で敗れた。

△準決勝
竹ノ内④メー 西 村⑥
(筑波大) (兵庫県)

△準決勝
竹ノ内④メー 西 村⑥
竹ノ内佑也 最高にうれい。また実感が湧かない。(初場なので)胸を借りるつもりだった。得意の面を試合組み立てれば上位にけるかなとは思っていた。



全日本剣道選手権で史上最年少優勝を果たした

たけの うち ゆうや 竹ノ内 佑也さん

自分でも驚き「実感湧かない」



自分でも驚きの快挙だったようだ。強豪剣士を次々と倒し、史上最年少となる21歳5カ月での日本一。筑波大3年生はチームメートの祝福に笑みを見せながら「実感が湧かない。どうしていいかわからない」と初々しい表情だった。

宮崎県出身。剣道7段の父、保さんに5歳の時に連れられて自宅から徒歩5分の道場に行ってから剣道一筋だ。練習が厳しくても「やめたいとか弱音は一度も聞いたことがない」(保さん)と中学卒業までは毎日通った。福岡大で高学年に進学し、2、3年生の時には大将として玉竜旗高校大会の2連覇に貢献した。

昨春から全日本連盟の強化選手が集まる合宿に参加する。3度日本一に輝いた内村良一6段(警視庁)ら先輩と稽古を繰り返して腕を磨き「やられたらやり返さないと気が済まない」と自他共に認める負けず嫌いの気持ちの強さに技術が加わった。筑波大男子剣道部の鍋山隆弘監督は「相手に対して過度に反応しなくなつた。心技とも自分のペースを持っている」と全幅の信頼を置き、来季は主将を任せるつもりでいる。

4強入りした選手がわずか20代なのは38年ぶりだった。鍋山監督は「新たな全日本の幕開けになる。その中で竹ノ内は一つ、つかんだんじゃないかと表現した。新時代を引っ張る可能性はある逸材は厳しい闘いを終え、観客席で見守った両親らと喜びを分かち合った。涙ぐんだ祖母に肩を寄せ「おはあちゃんが喜んでくれたのがうれいすね」とはにかんだ。

男女10部門代表決まる

剣道

都道府県対抗県予選

剣道の全日本都道府県対抗優勝大会徳島県予選は21日、鳴門ソイジョイ武道館で58人が参加して個人戦が行われ、男子6部門、女子4部門の県代表が決まった。

表が決まった。

男子は次鋒(じほう)

が久保公緒(同大)、5

将・片山将志(刑務所支

部)、中堅・大石真也

(阿南支部)、3将・仁

科文宏(警察支部)、副

将・原知永(小松島支

部)、大将・白木崇(阿

南支部)となった。先鋒

は11月の県高校選手権で

頂点に立った松本高史

(富岡西)が務める。

女子は次鋒・西柚衣

(明大)、中堅・平野千

尋(警察支部)、副将・

近藤夏子(名西支部)、

大将・平野悦子(鳴門支

部)。先鋒は来夏の県高

校総体個人戦の優勝者が

出場する。

全日本都道府県対抗優

勝大会は男子が来年4月

29日に大阪府、女子は同

7月18日に東京・日本武

道館で行われる。

(川辺健太・写真も)

狙い通りの一本

〇：延長戦にもつれ込んだ男子大将の部決勝を制した白木。試合開始から12分余り、上段に構えた相手から鮮やかに引きメン一本を奪い「狙い通り」と汗を拭いた。試合巧者ぶりが光った。勝因に挙げたのは飛び込んでくる相手にひたりと合わせた技術ではな



男子大将の部決勝で果敢に攻める白木(鳴門ソイジョイ武道館)

【男子】次鋒(大学生準決勝久保(同大)メー 岸野(徳島大)、平野(天体大)コー 森悠(徳島大)

久 保ツメー 平野

▽5将(18、34歳)準決勝片

山(刑務所支部)メーメ 玉井

花房(徳島支

部)コー 渋谷(徳島支部)

山 山コー 花房

▽中堅(教職員)準決勝 大石

(阿南支部)メー 兼松(阿波支

部)

▽決勝

大 石コーメー 美鷹(警

察支部)準決勝 山

室(警察支部)ドー 六條(警

察支部)、仁科(警察支部)下ツ

玉田(警察支部)

▽決勝

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

久 保ツメー 平野

仁 科メー 山 室

▽副将(35歳以上)準決勝 佐

藤(小松島支部)メーコー 前田

(刑務所支部)、原(小松島支

部)メー 倉野(刑務所支部)

.....

男子3将・仁科(終了

間際に飛び込みメ

ンを決めて初優勝

し)「練習で教えてもらっている

先輩が相手だったので無

心で飛び込んだ。先に仕

掛けたのが良かった」

女子次鋒・西(初戦と

決勝の2

戦連続で

延長戦を

制し)「強

気な立ち

合いを意識した。勝敗よ

りも内容にこだわり、納

得できる剣道で1年を縮

めくることができた」

女子中堅・平野(4連

覇を果た

し母親の

悦子さん

と共に代

表入り)

「前回に続いて母と一緒に

に全国で戦えるのが楽し

み。挑戦する心を忘れ

ず、チームに貢献したい」



12月22日

▽決勝 原 メドーメ 佐 藤

▽大将(50歳以上、教士7段以

上)準決勝 白木(阿南支部)コ

メー 富浦(海部支部)、福多

(徳島支部)コー 白木(名西支

部)

▽決勝

白 木メー 福 多

【女子】次鋒(大学生)準決

勝 西(明大)コー 玉田(自

体

▽決勝

平 野コー 園 山

▽副将(35、44歳)決勝

近 藤 コー 金 野

(名西支部) 徳島支部

▽大将(45歳以上) 平野(鳴

門支部) 出場1人

西 コー 山 本

▽中堅(18歳以上)準決勝 平

野(警察支部)メー 山口(鳴

教大院)、園山鳴教大院メー

前田(阿波支部)

▽決勝

平 野コー 園 山

▽副将(35、44歳)決勝

近 藤 コー 金 野

外部指導者 導入進む

徳島県の中学校運動部活動で外部指導者の導入が進んでいる。2008年度には延べ105校171人だったが、生徒の競技力向上や教員の負担軽減などを目的に14年度は1・2倍の延べ136校211人に増加。競技経験のない顧問のサポート役として期待される一方で、教員との意思疎通がうまくいれないケースも見られ、さらなる活用には課題も浮かぶ。

(運動部・南志郎)

中学校運動部活動

外部指導者は、部活動 県中体連の佐藤一朗理を受け持つ教員が競技未経験者で実技指導ができない場合などに経験のある保護者や卒業生、地域住民らが学校の依頼を受つて指導を行う。

日本体育協会が発表し

県中体連によると、外 県中体連の佐藤一朗理を受け持つ教員が競技未経験者で実技指導ができない場合などに経験のある保護者や卒業生、地域住民らが学校の依頼を受つて指導を行う。

日本体育協会が発表し



競技力向上に一役

県内でも競技歴のない 1、2回、同校の武道場 教員が顧問に就くケースを訪れ、部員11人に技術は少なくない。県中学校 総体で優勝経験もある阿南市の羽ノ浦中剣道部では、臼木崇さん(50)が外部指導者を10年 市羽ノ浦町岩脇、団体職 島市の立江中から赴任。以上務めている。競技歴 42年の教士七段で、来春 勝大会に県代表として出 勝大会に県代表として出

県内でも競技歴のない 1、2回、同校の武道場 教員が顧問に就くケースを訪れ、部員11人に技術は少なくない。県中学校 総体で優勝経験もある阿南市の羽ノ浦中剣道部では、臼木崇さん(50)が外部指導者を10年 市羽ノ浦町岩脇、団体職 島市の立江中から赴任。以上務めている。競技歴 42年の教士七段で、来春 勝大会に県代表として出 勝大会に県代表として出



羽ノ浦中剣道部で指導する外部指導者の臼木さん(中)と平井顧問(左)阿南市の同校武道場

教員との意思疎通課題

「謝金は指導に必要な消 情報発信に努め、外部指導者と学校側とのマッチングを効果的に推進していくことが求められる。」

「謝金は指導に必要な消 情報発信に努め、外部指導者と学校側とのマッチングを効果的に推進していくことが求められる。」

12月29日

読んで学ぼう

火の用心呼び掛け



拍子木を打って「火の用心」を呼び掛ける剣道教室の子どもたち＝鳴門市撫養町南浜

の児童24人が25日、年末恒例の防火パレードを行った。

子どもたちは「火の用心」などと書いた法被と鉢巻を着用し、午後6時すぎに同市撫養町南浜の市消防本部を出発。拍子木を打ち鳴らしながら「子どもの火遊び、火事の元」「戸締まり用心、火の用心」などと掛け声を上げ、大道商店街や鳴門駅前など約2キロを練り歩いた。

「光武館」の少年・少女剣士 鳴門大通り練り歩く

鳴門市撫養町大桑島の剣道教室「光武館」に通う小学校や幼稚園

里浦小6年の北林翔君(12)は「空気が乾く季節なので、火の扱いには気を付けてほしい」と話していた。

(尾形つぐみ)

12月27日

◆剣道 第25回徳島中学校校強化 練成大会 (18日・鳴門ソレイユ武道館)	
【男子】団体1回戦 川内3ー1土成、城路3ー2藍住東、阿南1ー鴨島東2、0鳴門2、上八万・海陽2ー1牟岐、国府3ー2瀬戸、阿波1ー0貞光、相生3ー0阿南、新野・富岡東2回戦 石井4ー0川内、鷲敷1上那賀2ー1日和佐、市川島(不戦勝)入田・北井上、八万3ー1小松島、北島4ー1城西、脇町4ー0松茂、鴨島1ー2板野、那賀川4ー1阿南1・鴨島東、鳴門1ー4上八万・海陽、坂野1(本教勝)1卓立川島・山川、藍住2ー1鳴教大付、徳島文理4ー0国府、城東2ー1阿波、木頭2ー1羽ノ浦、大原3ー0江原、徳島4ー0相生3回戦 石井3ー0鷲敷・上那賀、八万2ー1市立川島、北島4ー0脇町、那賀川3ー0鴨島1、鳴門1ー4阿波野、徳島文理2ー0藍住、城東3ー1木頭、徳島3ー0大原、準々決勝 石井3ー1八万、那賀川2ー0北島、鳴門1ー0徳島文理、徳島5ー0城東準決勝 石井3ー1	那賀川、鳴門2ー1徳島 ▽決勝 石井2ー1鳴門1 富永ドロー 披田1ーx佐藤0 森本1ー矢野0 中山1ー富田0 山室ドロー 柳田0 【女子】1回戦 徳島文理4ー0日和佐、大原2ー0加茂名、城東2(本教勝)2坂野、石井4ー1阿波、県立川島2ー1瀬戸、牟岐・海陽2ー1鳴門2、北島2(本教勝)2鷲敷・木頭、鳴門1ー3阿波内、松茂、勝浦(不戦勝)国府・北井上、藍住東3ー1相生、阿南1ー3鴨島1、藍住4ー0土成、江原2ー1鳴教大付、富岡東・新野(不戦勝)坂野▽2回戦 那賀川3ー0徳島文理、城東2ー0大原、石井4ー0県立川島、北島5ー0牟岐・海陽、鳴門2ー0勝浦、阿南2ー1藍住東、藍住3ー0江原、小松島3ー0富岡東・新野準々決勝 那賀川5ー0城東、北島4ー0石井、鳴門1ー3阿南1、小松島4ー1藍住準決勝 那賀川
	5ー0北島、小松島2(代表勝ち)2鳴門1 ▽決勝 那賀川4ー1小松島 朝田コー井内 橋本不戦勝 檜田コー鳥井 大城1ーx堀0 濱本ドロー古川

1月20日

男子 富岡西 V 富岡東 女子



男子決勝・富岡西対阿南工 副将戦を制し、6年ぶりの優勝に貢献した富岡西の庄野(左)＝鳴門ソイジョイ武道館 (家段良匡撮影)

剣道

全国高校選抜大会県予選 剣道の全国高校選抜大会徳島県予選を兼ねた第59回男子、第49回女子県高校新人大会は10日、鳴門ソイジョイ武道館に男子15校、女子10校が参加して団体戦を行い、男子は富岡西が6年ぶり21度目、女子は富岡東が3年ぶり26度目の優勝を果たした。男女の優勝校は全国大会(6月27、28日・愛知県春日井市総合体育館)に出場し、各上位4校が四国新人大会(2月7、8日・高知県立武道館)に進む。

- 【男子】団体1回戦 阿南高専2(本教勝)2-0徳城 城之内3
 ○城東 阿南工4-0川島 富岡西5-0藤野 徳島技4-0
 徳島北4-1飛騨 鳴門3-2徳島文理 準々決勝 城北5-0阿南東 阿南工2-0城ノ内 富岡西3-0徳島技 徳島北3-3の福門 準決勝 阿南工0-2(代表勝)○城北 富岡西2-0徳島北3-3位決定戦 城北3-1富岡西2-0阿南工
- 【女子】団体1回戦 徳島北2-1城之内 富岡東3-0阿南 阿南工1-0阿南西 1-0徳島西 1-0徳島北 徳島東2-0阿南西 2-0川島 徳島西2-0阿南工 徳島北1-0阿南工

チーム一丸の勝利 富岡西

富岡西が阿南工とのライバル対決を制し、混戦だった男子の頂点に立った。松本主将は「昨年の3位決定戦で完敗した悔しさを晴らせた。個々の力というよりチームワークの勝利」と胸を張った。2人が引き分けた後の中堅戦で奮起したのが踏ん張りどころ」

が落田。「チームの力必ず1本を先に取る」と強い気持ちで臨んだ。上段の構えが続く相手との勝負の瞬間を見極め、ドウを続け打ち込むと、本音が見事に決まり、狙い通りの1本先取。直後にメンを取られたが「ここが踏ん張りどころ」

大石監督は「上位の力は互角だった。集中力を切らさずよく頑張った」とチームの成長に目を細める。6年ぶりの選抜大会出場を勝ち取った教え子たちは「8強入りへ悔いが残らないよう練習する」。3月で定年退職する恩師に全国過去最高位を贈るつもりだ。(佐々木基善)

先勝で勢いづく

○3年ぶりに女王の座に返り咲いた富岡東。攻め勝つ剣道が持ち味ながら緊張で硬さが抜けず、打ち込みポイントをつくれないまま臨んだ決勝で、先鋒(せん

深見 丸岡 上田 民

ほう)の野村(孝真)と次鋒の清水(将)同僚がチームを勢いづけた。

重任に押しつぶされうになる中「後に続く間を信じて思い切った竹刀を振った」と野村。気持ちを振って切り、序盤から足を動かしてコマとドウの2本勝ち。清水も得意のドウを決めた。

強豪校の意地を見せてつつかんだ全国初符、殊戦の2人は「まずはベスト8入り」と目標を掲げ、精進を誓った。

1月11日

平成二十七年 度

剣道・居合道昇段審査 学科試験問題・解答例

※平成二十七年 度は、以下の問題より各段二問
出題されます。

この試験問題と解答例は、あくまで自分の
剣道修行の参考のために記述したものである。
名称等、正確に記憶しておかねばならない事
柄もあるが、試験問題の多くは、今の自分の
レベルで考え、自分の言葉で表現することを
求めている。決して、試験のためだけに丸暗
記して、こと足りえたと思わないでもらいた
い。

学科問題においても、正々堂々、真剣勝負
の気迫で取り組み、今の自分のありのままを
表現すべきである。また、そのことが採点者
の高い評価を受けることにつながることも付
記しておく。

【剣 道】

※ 初段の部

① 中段の構えの姿勢で注意することを書きなさい。

- (1) 肩を落として背筋を伸ばす。
- (2) 首筋を立てて顎を引く。
- (3) 腰を入れて下腹部にやや力を入れる。
- (4) 両膝を軽く伸ばして、重心を両足の中間にかけて立つ。
- (5) 目は全体を見つめる。

② 三つの間合を説明しなさい。

間合とは自分と相手の距離をいう。間合には、一足一刀の間合、遠い間合、近い間合の三つがある。

(1) 一足一刀の間合⇨剣道の基本となる間合で、一歩踏み込めば相手を打突することが出来る距離であり、一歩さがれば相手の打突をかわすことが出来る距離である。

(2) 遠い間合(遠間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より遠い間合で、相手が打ち込んできてもとどかないが、同時に自分の打突もとどかない距離である。

(3) 近い間合(近間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より近い間合で、自分の打ちが容易にとどくかわりに、相手の打突もとどく距離である。

③ 基本打突や技の稽古で気をつけることを書きなさい。

- (1) 正しい姿勢で、気を充実させ、互いの攻め合いから打突する。
- (2) 適切な間合をとって、確実に気剣体一致の有効打突となるようにする。
- (3) はじめは「ゆっくり、大きく、正確に」を主眼とし、習熟するにしたがって「速く、強く、より正確に」打突できるようにする。

④ 日本剣道形で使われている「五つの構え」について書きなさい。

- (1) 中段の構え⇨すべての構えの基礎となる構えで、攻防に最も適した構えである。
- (2) 上段の構え⇨太刀を頭上に振りかぶり、相手の気を圧して、捨て身で攻撃する性格をもつ構えで、諸手左上段・諸手右上段がある。
- (3) 下段の構え⇨剣先をさげて自分の身を守りながら、相手の変化に応じて攻撃に転ずる構えである。
- (4) 八相の構え⇨太刀を大きく右肩にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方によって攻撃にでる構えである。
- (5) 脇構え⇨半身になりながら太刀を右脇にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方に応じて臨機応変に攻撃に転ずる構えである。

⑤ 「切り返しの目的」を述べなさい。

切り返しは、正面打ちと連続左右打ちを組み合せ、基本動作を総合的に練習するためのものである。姿勢や構え、打ちの刃筋や手の内の作用、足さばき、間合いの取り方、呼吸法、さらに強靱な体力や旺盛な気力を養い、気剣体一致の打突の習得を目的とする。

※ 二段の部

① 「剣道で礼儀を大切に理由」について述べなさい。

剣道を修練する上で、互いに心を練り、身体を鍛え、技を磨くためのよき協力者として、内には相手の人格を尊重して常に感謝の念を持ち、外には端正な姿勢で礼儀正しくすることが、剣道にとって極めて大切なことである。稽古や試合の前後の礼法を立派に行うことはもちろんのこと、終始、正しい心、慎みの心といった礼の本体を離れることなく、素晴らしい剣道を創造していくうえで、礼儀は大切な要素である。

② 「打突の好機」について説明しなさい。

打突の好機はたくさんあるが基本的には次のとおりである。

- (1) 相手の動作の起り頭(出ばな)
- (2) 技の尽きたところ(動作や技が終わったと

ころ)

- (3) 居ついたところ(身体の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき)
- (4) 引き端(退がるところ)
- (5) 受け止めたところ(受け止めた時に隙が生じる)
- (6) 息を深く吸うところ(息を吸うときは、相手の動作が止まる)

③ 「稽古で心掛けなければならないこと」とは、どのようなことか述べなさい。

- (1) 竹刀の点検、準備運動、整理運動をはじめとした安全面に留意する。
- (2) 大きな目標や研究心をもって取り組む。
- (3) 礼儀作法を重んじる。
- (4) 立会いの「初太刀」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な気力で、精魂を込めて稽古をする。
- (5) 基本に忠実に稽古をする。
- (6) しかけていく技を積極的に使って稽古をする。
- (7) 稽古後は反省し、工夫・研究を怠らない。

④ 剣道形を実施するときの「足さばき」で気をつけることを書きなさい。

足さばきとは、相手を打突したり、相手の攻撃をかわしたりするための足の運び方である。日本剣道形では、歩み足、送り足、開き足が使われるが、注意点は次のとおりである。

- (1) 足さばきは、すべて「すり足」で行い、踏み込み足は使わない。重心を上下動させず、滑らかに行うことが大切である。
 - (2) 足の運びは、原則として前進するときは前足から、後退するときは後ろ足から動作を起す。
 - (3) 足さばきは、原則として一方の足に他方の足が伴う。特に打突時の後ろ足は残さずに、前足に伴って引き付ける。
- ⑤ 「正しい鍔せり合いと注意点」を説明しなさい。

鍔せり合いとは、相手を攻撃したり相手が攻撃してきたときに間合いが接近して鍔と鍔がせり合った状態をいう。自分の竹刀を少し右斜めにして手元をさげ、下腹に力を入れて自分の体の中心を確実に保つようにする。お互いの鍔と鍔がせり合う中で手元の変化や体勢の崩れから打突の機会をつくる。

- 注意点
- (1) 手元をさげ、下腹に力を入れて腰を十分伸ばす。
 - (2) 首を真っ直ぐに保って相手と丈くらべをする気持ちで相対し、身体が前傾しないようにする。
 - (3) お互いの鍔と鍔がせり合うようにする。
 - (4) 相手の肩に竹刀をかけたり、刃部を身体にかけたりしない。
 - (5) 必要以上に力んだり、気を抜いて休んだりしない。
 - (6) 積極的に技を出すか、分かれるようにする。

※ 三段の部

① 「平常心」について説明しなさい。

物事(事象)の変化に対し動揺することなく、日頃の気持ちで冷静に対応できる磨かれた心の状態をいう。事に臨んで心を動かすことなく、ふだんと変わらない平常心の心で対処することは非常に難しいことである。剣道では、この平常と変わらない心を持たなければならないことを強く求めている。

② 「三殺法」について説明しなさい。

相手を制するための手だてとして、相手の剣、技、気の三つを封ずる。

- (1) 剣を殺す⇨相手の剣を押さえ、払うなどして剣の働きを制する。
- (2) 技を殺す⇨先手先手と攻め、相手に技をしかける余裕を与えない。
- (3) 気を殺す⇨気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

③ 互格稽古で注意することを書きなさい。

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行く。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行う。

- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突する。

- (4) 間合のとおり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。
- (5) 相手をより好みしないで、多くの人と稽古をする。

④ 剣道形の必要な理由と効果について述べなさい。

剣道形は剣道の技術の中でもっとも基礎となるものを選んで定められたもので、剣道形を繰り返し修練することによって、剣道の基本的な礼儀作法や技術、剣の理合を修得することができ、さらに内面的な気の働きの気位といった剣道の原理原則をも心得できる。修練の効果としては次のようなことがあげられる。

- (1) 礼儀が正しく、落ち着いた態度が得られる。
- (2) 姿勢が正しくなり、冷静な判断力が得られる。
- (3) 間合を知り、機敏な動作が修得できる。
- (4) 技について自分の悪い癖がとれる。
- (5) 気合が練られ、充実した気合が得られる。
- (6) 剣道の気位が高まり、風格が備わる。

⑤ 「手の内」について説明しなさい。

剣道でいう、手の内とは、竹刀の柄を持った両手の持ち方を言い、竹刀の握り方、打突したり応じたりするときの両手の力の入れ方、緩め方、釣り合いなどを総合した掌中の作用である。(竹刀の持ち方は、左手は柄頭から小指が出な

いように一ぱいに持ち、右手は鏝にふれない程度に持つ、左右両手とも親指と小指と薬指とで握ります。肘は伸びすぎず、両腕の肘関節を柔らかくして軽く柄を握り、ぬれ手拭をしぼる気持ちで両手首をしめ入れるようにし、左右の親指と人差し指の割れ目が竹刀と弦と一直線になるようにします。)竹刀を強く握りしめないで、正しく保持し、手首をリラックスさせることにより、肩、肘、手首、掌へと運動が伝道し、効率のよい鋭い打突が可能となる。(打突に際しては緊張と解緊をたくみに行き、手の内のさえを生み出すよう努力しなければなりません。)

※ 四段の部

① 有効打突について説明しなさい。

有効打突は、剣道試合・審判規則第十二条に、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものと規定されている。このような諸条件を満たした一本が有効打突となる。言いかえれば、気剣体一致の打突である。有効な打突は理合と残心からなっており、理合を要素と要件に分けると、要素には、間合・機合・体さばき・手の内の作用・強さと冴えが含まれる。要件には、姿勢・氣勢(発声)・打突部位・竹刀の打突部・刃筋が含まれる。残心は、打突後の身構え・気構えである。

② 剣道の四戒について説明しなさい。

四戒とは、驚、懼、疑、惑の四つをいい、剣道修業中に、この中の一つでも、心中に起こしてはならないという戒めである。驚は「おどろく」であり、懼は「気づかい」「恐れる」、疑は「あやぶむ」「あやしむ」、惑は「心が乱れる」「思いあやまる」です。

驚⇨予期しない事態に驚いて、心身の活動が乱れ、正常な判断と適切な処置がとれず、為す術のない状態になる。

懼(恐)⇨恐怖のことで、相手を恐れて、精神の活動が停滞し、四肢が震えて自由な動きを失う。

疑⇨相手の気持ちや行動をあれこれと疑い、平静な判断を下せず、決断がつかない状態である。

惑⇨心の迷いである。心が迷うときは精神昏迷、敏速な判断や軽快な動作をなすことができない。

③ 残心の重要性について述べなさい。

打突した後でも相手に心を留めて、もし相手が再び反撃しようとしたら、直ちにこれを制し得る油断のない身構えと気構えになっていなければならぬ。もし、打突した後に油断していなければ、逆に相手に反撃されてしまう。また、打突した後には心を残そうとすれば、かえって残

そうとするとところに心が止まってしまおうとされている。心を残さず、思い切って捨て身で打突することによってこそ、自然と相手に対する油断のない心が生まれ、これが相手の反撃に備える身構えと気構えになる。

④ 剣道形を行うときの「木刀の正しい操作」について説明しなさい。

木刀の操作と身体の移動を合理的に行うとともに、充実した氣勢で気剣体を一致させて行うことが要諦である。特に打突をより有効にするためには、次のように刀を正しく操作することが大切である。

(1) 握り方が正しく「切り手」になっている。
 (2) 握りを変えないで、正中線に沿って振り上げて振り下ろす。特に「萎やす」「すり上げる」「支える」「押さえる」ときは、左こぶしを正中線から外さないように注意する。

(3) 振りかぶりと振り下ろしは、一連の動作(一拍子)で行い、刃筋正しく行う。

(4) 打突する瞬間は、小指、薬指、拇指球で軽く握り締め、物打ちで打突部位を正確に打突する。

(5) 振りかぶりや抜き技は、左小指の握りを緩めず、剣先が両こぶしよりさがらないように注意する。

(6) すり上げは、鎧の効用を使って、半円を描く心持ちで行う。

⑤ 熱中症の症状と処置について述べなさい。

高温環境下で発生する障害の総称で、熱疲労、熱痙攣、熱射病の3型に分類される。

熱痙攣は大量の発汗により、汗とともに塩分が失われ塩分不足のために、筋肉の痙攣を起こす。

処置としては、涼しい場所に寝かせ、水分の補給(食塩水、スポーツドリンク等)を行う。

熱疲労は大量に汗をかきすぎることからくる、脱水症状で、全身の脱力感、めまい、血圧低下、ひどい場合は失神する。処置としては、涼しい場所に運び、頭を低くして寝かせる。水や薄い食塩水を飲ませる。

熱射病は熱中症の中でも最も重症で、体温が異常に上昇して、意識障害をおこす。ひどい場合は死亡することもある。処置としては体温をすみやかに低下させることである。冷却法として、涼しい場所に移動、水で身体を濡らし、うちわなどで送風する。また、水で体表を冷却する、などを行い、意識がはっきりしない場合は救急隊へ連絡する。

※ 五段の部

① 審判員の心得について述べなさい。

剣道試合の審判とは、公正に両者の勝敗を裁決することである。剣道の試合は、剣道発展のための方法であり手段である。従ってその審判は、剣道の正しい発展に沿ったものであり、その発展に役立つように実施されなければならない。

一般的要件

- (1) 公正無私であること。
- (2) 剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。
- (3) 剣道に精通していること。
- (4) 審判技術に熟達していること。
- (5) 健康体で、かつ活動的であること。

留意事項

- (1) 服装を端正にすること。
- (2) 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
- (3) 言語が明晰であること。
- (4) 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
- (5) よい審判を見て学ぶこと。

② 「気位」について述べなさい。

気位とは、自信から生ずる気品、威厳である。技術が円熟し、精神が鍛錬された結果、自然に

備わるものである。竹刀を構え合わせた時、驚懼疑惑の念を生じて恐れちごこまり、戦わないうちに負けた気持ちになるのは、相手の気位に押されて、位負けした結果である。このような気位を故意に真似しようとしても技術、精神が円熟していない限り、かえって隙を生じて、打ち込まれることになり、見苦しい結果になる。技術の進歩、精神の鍛錬の度合いは、自然と気位に現れるので、一朝一夕に備わるものではない。なお自信と慢心とは大いに違うもので、慢心は剣道で最も戒むべきものである。

③ 互格稽古について説明し、指導上の留意点を述べなさい。

技能や気力が同等の者、あるいは同等に近い者が、互いに気をはかり、相手の変化に対して互格の態度や対等の気持ちで有効打突を競い合うなかで、総合的な能力を養う稽古法である。指導上の留意点

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行わせる。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行わせる。
- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突させる。
- (4) 間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくりかた、技の出し方などを工夫させる。
- (5) 相手をより好みしないで、多くの人と稽古をさせる。

④ 剣道形を実施するときの留意点について述べなさい。

剣道形は、一定の形式と順序に従って行う一連の約束動作であるが、形を形骸化させない生きたものにするために、お互いが寸分の緩みのない気の働きをもって行わなければならない。

- (1) 立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。
- (2) 五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。
- (3) 目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した氣勢、気迫をもって合気で行う。
- (4) 打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。
- (5) 「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。
- (6) 打太刀は一足一刀の間合から打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。
- (7) 振りかぶりは、剣先が両こぶしよりさがないようにし、一拍子で打つ。
- (8) 足さばきはすり足で行い、打突するときには後ろ足を前足に引き付ける。
- (9) 残心は十分な気位をもって行う。

⑤ 剣道における熱中症の予防と対処について述べなさい。

熱中症とは、高温環境に高湿度が加わると、うっ熱（体熱の放散が妨げられた状態）によっ

て、体温上昇が助長されて体温調節機能が障害された状態を総称したもので、熱失神・熱疲労・熱痙攣・熱射病などに大別される。剣道では夏場に発生しやすい。最も致命率の高い熱射病では、体温上昇、意識障害、痙攣、血圧低下、発汗停止などの症状をきたす。

予防するには体感温度に注目して剣道場の換気に配慮し、休息を数多くとり、水分、塩分の補給を考慮する。頭痛、めまいなどを訴える者が続発するときは、練習のペースダウンや中止など早めの対応が必要である。

対処方法は、全身の冷却、水分補給、電解質の補給を行うことであるが、応急処置としては、

(1) 全身の冷却

涼しい場所に移動し、衣服を脱がせる。水で身体をぬらし、送風する。

水で体表を冷却したり、頸部、わきの下、脚のつけね、膝のうしろを冷却することも有効である。

(2) 水分の補給

水分や薄い食塩水、またはスポーツドリンクを補給する。

意識障害のあるときは危険なので、体温を下げる応急処置を行いながら救急車を呼んで病院にて治療を行う。

【居合道】

※ 初段の部

① 居合道を習おうとした動機を記せ。

(例は示さない、自分の考えで述べよ。)

② 居合道と礼儀について記せ。

礼儀は人間として、また平和な社会生活をすすめる上で大切であり、ことに武道では昔から「礼に始まり礼に終わる」といわれ、きわめて大切なものとされてきた。技が上達しても、品位や人格が欠けているようでは、ほんとうの居合を習ったとはいえない。居合は日本刀を使っている運動である関係上、万が一にもその使用方法をあやまるようなことがあってはならず、道場だけでなく、日常生活の中でも常に礼儀正しく立派な人格と精神を養う心が必要である。

③ 刀を安全に取り扱うための「目釘」について記せ。

目釘は、刀身と柄を固定する重要な働きをするものである。目釘の素材は、竹・角・生鉄などがあるが、通常は堅い三年を経過した古竹(真竹)材が使用される。目釘は、目釘穴と同

じ太さに削り、頭部分をやや大きくする。目釘の竹の表面側(表)を柄頭方向とし、ガタつきがないよう強く挿入する。練習前には、必ず目釘が抜け落ちたりゆるみがないかを点検して安全を確認しなければならない。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』作法における、

「(一) 携刀姿勢」・「(二) 出場」・「(三) 神座への礼」より穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

※ 二段の部

① 居合道修行の目的について記せ。

居合は初め一種の刀法として始まったが、その目的は精神の鍛錬が第一で、第二に身体の内磨、第三に術技の訓練という順になる。心身の錬磨は剣道と同じだが、その技術は剣道の根本となるものである。つまり刀の運用や礼儀など、すべてが剣居一体のものであり、この修行をするには、自分自身の心身の錬磨、人格の向上につながるものである。

② 柄の握り方について記せ。

柄の握りは、右手は人差し指が柄巻きの一文字にかかるようにし、左手は柄頭を余し親指に

人差し指を付けて握る。両手の握りの間は指二本位(約三〜四セ)で、握る力は小指、薬指、中指の順で強く握り、人指し指と親指には力を入れず切る瞬間、前にぐっと握りしめる。いわゆる茶巾絞りの要領である。

③ 居合道の目付について記せ。

座ったときの着眼は四から五釐先の床とし、立ったときの着眼は、自分の目の高さの前方、一点を見つめるのでなく、遠くの山全体を眺める気持ちで八方に心眼を開き、目は半眼、動作中の着眼は仮想敵の面、又は顔の中心部とする。切り下ろしたときは切先のとを追うようにして倒れた仮想敵を見越した所とする。目はいつも平静でまばたきしたり、目を凝らしたりしてはいけない。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から三本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

※ 三段の部

① 居合道の流派を自己の流派を含め五派以上記せ。

無双直伝英信流、夢想神伝流、伯耆流、無外流、水鷗流、関口流、貫心流、心形刀流、新蔭流、長谷川英信流、大森流、田宮流

② 残心について記せ。

常に油断しない心のことで、敵を斬突したあとも敵に心を残して、次の攻撃に備えて直ちに対応・制圧できるような姿勢・態度・構えをくずさないことをいう。納刀にさいしても、「納刀すなわち抜刀の心」という言葉があるように一動作ごとに気も心も充実させ隙を見せないことが大事である。

③ 自信と慢心について記せ。

修練を重ねた結果、正しく立派な居合が出来るようになること、おのずから自信が湧いてくる。自信をもつことにより平常心を保つことが出来、如何なる場合に於いても心の落ちつきと確かな技前を發揮することが出来、そこには気位も備わってくるものである。しかし心の修業が不十分な者が軽々しく自信をもつことは、これが自負心となり、いわゆる慢心となる。慢心は修業の過程でもっとも戒めるべきものである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から五本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

※ 四段の部

① 居合道の呼吸について記せ。

静かに腹式呼吸する。通常は、一つの技を終えて次の技に移るときは、ゆっくりと二回呼吸して息を整え、三回目の息を吸いおわる頃に刀を抜き始める。そして吸い込んだ息を一気に吐き出し抜刀する。納刀してから軽く吐く。長い技のときは、息継ぎの必要がでてくるが、息を継いだかわからないようにする。呼吸法には個人差があることからそれぞれに工夫が必要である。

② 序破急について記せ。

一般的には「序」はものごとの始まりで、静かなことを現し、「破」とはやぶれること、「急」は激しくなることである。これを居合の術技では刀の運速を表現する用語として用いたもので、刀の運行を三段階に分析し、わかり易く表現したことはよい。抜刀について説明すると、鯉口を切って静かに刀を抜き始めることが序で、しだいに抜刀速度を速めることは破、抜き付けの瞬間を急という。序破急は抜刀ばかり

でなく。すべての術技に序破急の動きを生かさなければならぬ。

③ 気剣体の一致について記せ。

「気」とは、意志とか心の精神作用をいうのであって、心の判断によって動作を起こそうとする決心を指す。「剣」とは、刀の働く作用を指す。「体」とは、体勢で、身体の力、手足の動きを指す。気剣体の三つが一致して腰が不動のものとなり、初めて有効適切に正確な技を出すことができるのである。居合は腰で抜き、腰で切るとまで言われるように腰の安定がもっとも重要であり、常に気剣体を一致させ腰の安定を心がけ修業することが肝心である。心気力の一致、心形刀の一致、心眼足の一致と言われる言葉は皆、同意語で大切な教えの一つである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から七本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(五カ所)による問題を二問出題する。

※ 五段の部

① 真剣の取り扱いについて留意する点を記せ。

居合道において、所有もしくは使用する真剣は、まず登録証が交付されている「登録刀」でなくてはならず、練習時や各種大会の参加時には、必ず登録証(コピーは不可)を携行し、登録刀を譲り受け、もしくは相続、購入した場合は登録証発行の都道府県教育委員会に「二十日」以内に所有者変更届けを提出しなければならぬ。また、体格に合わせて、刀身を短くしたり、樋の無い刀に樋を彫る場合は、都道府県の教育委員会に許可申請等の手続きを終了したのち改造を行い、新たな登録証の交付を受けなければならない。真剣を扱う居合人は少なくとも過失による事故を起こさぬよう、人前での刀の運行は勿論のこと平素から目釘や鯉口の点検、使用後の手入れや保管場所に注意して、常に安全を確保しなければならない。

② 守破離について記せ。

居合道における修業の段階を示したもので、「守」とは修業がある程度に上達するまでは、師の教えを忠実に守り、稽古に励み、理合や技術を修行し、決して他に迷わないこと。「破」とは、修業を積み、学んだ流派の教えを自分のものにし、更に進んで他の流派を学び、長所を採り入れ守の段階では得られなかった新しい分野を開拓すること。「離」とは苦心研究し破の段階を越えて、遂に独自の境地を見出し、自己

の流派をみ出し剣の奥義を極めることであり、守破離の教えは人生の生き方にも同じことがいえる。

③ 居合道と剣道の関係について述べよ。

居合道は日本刀を用いてその刀法、手の内を修練するものであり、仮想する前後、左右ないし斜方の敵に対して鞘放れの一瞬に抜き打ち、又受け流した後、切り下ろして勝ちを納めるもので、いわゆる、そこに居て敵に合わすものである。しかるに居合道と剣道は古来より一流派の中に双方があって表裏一体、車の両輪の如くその理合、目的とするところは一つであって、両道を併せ修行する事によって相乗的にその効果が高められるのである。

④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』における一本目から十二本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(各五カ所)による問題を二問出題する。

平成27年度 徳島県剣道連盟行事予定(案)

県内行事					
月	日	曜日	行事	場所	主催
4	5	日	国体一次予選会	10:00～ ソシヨイ武道館	県剣連
	12	日	少年剣道教室指導者講習会	9:30～ ソシヨイ武道館	〃
	17	金	西部交流稽古会	19:00～ 阿波中学校体育館	〃
	19	日	第40回会長杯争奪高等学校剣道大会	9:30～ ソシヨイ武道館	〃
	25	土	南部交流稽古会	16:00～ 驚敷B&G体育館	〃
	29	火祝	第1回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ ソシヨイ武道館他	〃
5	10	日	剣道中央講習伝達講習会	9:30～ ソシヨイ武道館	〃
	17	日	居合道春季講習会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館	〃
	30	土	第44回中学校選手権大会	10:00～ ソシヨイ武道館	中体連
	31	日	第1回剣道 審査会(二段以上)	10:00～ ソシヨイ武道館	〃
未	未	国体第二次予選会(女子)	9:30～ 警察学校体育館	〃	
6	6～7	土～日	第55回徳島県高等学校総合体育大会	9:00～ 那賀川スポーツセンター	高体連
	20～21	土～日	第61回四国高等学校剣道大会	9:30～ ソシヨイ武道館	高体連
	28	日	第2回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ ソシヨイ武道館他	県剣連
	未	未	国体第二次予選会(男子)、国体第三次予選会(女子)	9:30～ 警察学校体育館	〃
7	5	日	第63回全日本剣道選手権大会県予選会 第54回全日本女子剣道選手権大会県予選会	10:00～ ソシヨイ武道館	県剣連
	11～12	土～日	第69回徳島県中学校総合体育大会	9:30～ ソシヨイ武道館	中体連
	24～26	金～日	剣道土用稽古	19:00～ 中央武道館他	〃
	30	木	第27回徳島県防犯少年柔道・剣道大会	9:30～ ソシヨイ武道館	警察本部
8	1～2	土～日	日本剣道形講習会	9:30～ ソシヨイ武道館	県剣連
	30	日	第3回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ ソシヨイ武道館他	県剣連
			剣道 四、五段受審者 講習会	9:30～ 中央武道館	〃
			長期育成強化稽古会	9:00～ 那賀川スポーツセンター	〃
未	未	国体第三次予選会(男子)	9:30～ 警察学校体育館	〃	
9	6	日	第35回女子剣道大会	10:00～ 中央武道館	〃
	13	日	第2回剣道審査会(二段以上・称号)	10:00～ ソシヨイ武道館	〃
	22	火祝	眉山ライオンズ剣道大会	9:00～ 徳島市立体育館	眉山ライオンズ
	26	土	第21回徳島県健康福祉祭剣道交流大会	9:00～ 松茂町第二体育館	高齢剣友会
	27	日	第43回徳島県社会人剣道大会	10:00～ ソシヨイ武道館	〃
10	3	土	第12回徳島県中学校剣道1年生大会	9:30～ ソシヨイ武道館	中体連
	18	日	第4回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ ソシヨイ武道館他	県剣連
	25	日	秋季講習会(全剣連後援)	9:30～ ソシヨイ武道館	〃
	30	金	西部交流稽古会	19:00～ 脇町小学校体育館	〃
11	6	金	南部交流稽古会	19:00～ 阿南スポーツセンター	〃
	7	土	第39回中学校剣道新人大会	9:30～ ソシヨイ武道館	中体連
	8	日	第49回高等学校剣道選手権大会	9:30～ ソシヨイ武道館	高体連
			居合道秋季講習会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館	県剣連
	15	日	第46回県下少年剣道錬成大会	10:00～ ソシヨイ武道館	〃
	21	土	眉山杯大学剣道大会	9:00～ 徳島文理大学	大学連
	22	日	第3回剣道審査会(二段以上)	10:00～ ソシヨイ武道館	県剣連
12	6	日	第37回全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選会	10:00～ ソシヨイ武道館	県体協
	19	土	常任理事会	14:00～ 未	県剣連
	20	日	第64回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会	10:00～ ソシヨイ武道館	〃
			第8回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会	10:00～ ソシヨイ武道館	〃
1	4	日	新年役員会、互礼会	13:00～ 未	〃
	10	日	平成28年 稽古始め	9:30～ 北島町フラワードーム	県剣連
	17	土	第60回県高等学校新人大会兼全国選抜大会県予選会	9:30～ ソシヨイ武道館	高体連
	24	日	第26回県下中学校剣道強化錬成大会	9:30～ ソシヨイ武道館	中泰康
	31	日	第5回審査会(剣道 初段以下)	10:00～ ソシヨイ武道館	県剣連
	28～30	木～土	剣道寒稽古	19:00～ 中央武道館	〃
2	7	日	剣道 四、五段受審者講習会	9:30～ 中央武道館	〃
			長期育成強化稽古会	9:30～ 那賀川スポーツセンター	〃
	11	木祝	第38回県下高等学校剣道大会	9:00～ 田園パーク (財)落穂園	〃
	21	日	第4回剣道審査会(二段以上、称号)	10:00～ ソシヨイ武道館	県剣連
	27	土	居合道県下大会、審査会	9:00～ 松茂町第二体育館	〃
3	5～6	土～日	第10回四国中学校剣道新人大会	9:00～ 阿波中学校	四国学剣連
	13	日	平成27年度 総会	13:00～ 未	県剣連
	20	日	高段位受審者研修会	9:30～ 中央武道館	〃
	25	金	南部交流稽古会	19:00～ 阿南武道館	〃
	27	日	平成28年度審査員講習会	9:30～ ソシヨイ武道館	〃

月	日	曜日	《全剣連 居合道審査会》	場所	主催
4	11	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	全剣連
5	3	日	八段審査会	京都市	〃
			称号(範士・教士・錬士)		
6	26	金	六・七段審査会	愛知県	〃
7	10	金	六・七段審査会	鳥取県	〃
11	7	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	〃
			六・七段審査会	東京都	〃
	25	水	称号(教士・錬士)	〃	〃

月	日	曜日	《全剣連 剣道審査会》	場所	主催
4	11	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	〃
	29	祝水	六段審査会	京都市	〃
	30	木	七段審査会	〃	〃
5	1～2	金～土	八段審査会	〃	〃
	6	祝水	称号(範士・教士・錬士)	〃	〃
	16	土	七段審査会	名古屋市	〃
	17	日	六段審査会	〃	〃
6	1	月	外国人 初段～六段	東京都	〃
8	22	土	七段審査会	宮城県	〃
	23	日	六段審査会	〃	〃
	23	日	六段審査会	沖縄県	〃
	29	土	七段審査会	福岡市	〃
	30	日	六段審査会	〃	〃
11	7	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	〃
	14	土	七段審査会	名古屋市	〃
	15	日	六段審査会	〃	〃
	24	火	六段審査会	東京都	〃
	25	水	七段審査会	〃	〃
	26～27	木～金	八段審査会	〃	〃
2	27～28	土～日	八段審査会	宮城県	〃

月	日	曜日	《県外行事》	場所	主催
4	4～5	土～日	第50回西日本中央講習会	兵庫県	全剣連
	11	土	中、四国地区剣道合同稽古会	広島市	後援 全剣連
	19	日	第13回全日本選抜剣道八段優勝大会	名古屋市	全剣連
	29	水祝	第63回全日本都道府県対抗剣道優勝大会	大阪市	全剣連
5	2～5	土～火	第111回全日本剣道演武大会	京都市	全剣連
	9～10	土～日	第20回女子審判講習会	兵庫県	全剣連
	17	日	第87回四国四県剣道大会	高知県	四国連盟
	29～31	金～日	第16回世界剣道選手権大会	東京都	主管 全剣連
6	8	月	第37回全日本高齢者武道大会	東京都	後援 全剣連
	14	日	第54回西日本勤労者剣道大会	高知市	後援 全剣連
	17～21	水～土	第53回中堅剣士講習会	奈良市	全剣連
	27	土	中、四国地区剣道合同稽古会	松山市	後援 全剣連
	27～28	土～日	第63回全日本学生剣道選手権大会 第49回全日本女子学生剣道選手権大会	大阪市	学剣連 後援 全剣連
7	11～12	土～日	居合道地区講習会	鳥取県	全剣連
	18	土	第7回全日本都道府県女子剣道優勝大会	東京都	全剣連
	18	土	中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
	25～26	土～日	平成27年度 全日本少年少女武道錬成大会	東京都	共催 全剣連
28～30	火～木	第50回全日本少年剣道錬成大会(道場)	東京都	後援 全剣連	
8	3～6	月～木	第62回全国高等学校総合体育大会	和歌山市	共催 全剣連
	1～2	土～日	第52回四国中学校総合体育大会	愛媛県	中体連
	9	日	第57回全国教職員剣道大会	京都市	共催 全剣連
	22～24	土～月	第45回全国中学校剣道大会	秋田市	共催 全剣連
	16	日	国体四国ブロック大会	愛媛県	四国連合会
9	6	日	第61回全日本東西対抗剣道大会	熊本県	全剣連
	5	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高松市	後援 全剣連
	5～6	土～日	第42回居合道中央講習会	京都府	全剣連
	13	日	第54回全日本女子剣道選手権大会	姫路市	全剣連
20	日	第10回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会	大阪市	後援 全剣連	
10	3～5	土～月	第70回国民体育大会剣道大会	和歌山県	主管 全剣連
	17～19	土～月	第28回全国健康福祉祭剣道交流大会	防府市	後援 全剣連
	17	土	第50回全日本居合道大会	福岡県	全剣連
11	3	火祝	第63回全日本剣道選手権大会	東京都	全剣連
	7	土	中、四国地区剣道合同稽古会	広島市	後援 全剣連
12	12	土	中、四国地区剣道合同稽古会	徳島県	後援 全剣連
2	6～7	土～日	第15回四国高等学校剣道新人大会	愛媛県	四国学剣連
	13	土	中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
3	12	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高知県	後援 全剣連
	27～28	日～月	第25回全国高等学校剣道選抜大会	春日井市	全高体連
	25～27	金～日	第106回剣道社会体育指導員養成講習会(初級)	滋賀県	全剣連
			第38回全国スポーツ少年団剣道交流大会		共催 全剣連

☆徳島県剣道連盟 稽古会《中央武道館》

木曜日 19:00～19:30 小・中学生 指導稽古

☆女子部 稽古会《中央武道館》

第1日曜日 18:30～19:30

*稽古会休みのお問合せは、事務局ホームページでご確認下さい。

徳島県剣道連盟(執務時間 平日午前10時～午後4時)

〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106号 TEL 088-652-2337・FAX 088-652-2360

平成27年度級位・段位審査会実施計画表

《剣道》 初段以下一覧表

審査日	申込み 締切日	中 部	西 部	南 部
4/29 (水祝)	4/15迄 (水)	ソノゾイ 武道館	穴吹ヌボ-ツ センター	阿南武道館
6/28 (日)	6/14迄 (日)	ソノゾイ 武道館	穴吹ヌボ-ツ センター	美波町日和佐 総合体育館
8/30 (日)	8/16迄 (日)	ソノゾイ 武道館	穴吹ヌボ-ツ センター	小松島 市立武道館
10/18 (日)	10/4迄 (日)	ソノゾイ 武道館	穴吹ヌボ-ツ センター	相生体育館
1/31 (日)	1/17迄 (日)	ソノゾイ武道館 ★注意 審査申込書は中部の連盟事務局宛		
		中 部 〒770-0861	西 部 〒777-0002	南 部 〒775-0203
		徳島県徳島市 東ノ住吉 道連盟丁目 内109 佐6・ 藤号6 佳彦 宛	大美 石馬 0推市 8生穴 吹 3宛三 3宛三 5内1 3(3) 8(8) 5(5) 4(4)	加丸海 岡部 0偉郡 8人海 陽 4宛町 7大里 3(3) 1(1) 7(7) 5(5) 4(4)
日程予定		9:00～10:00 受付 9:00～9:45 剣道連盟稽古会 9:45～10:10 受審者稽古 10:20 開会式 *初段学科、木刀基本技(3～1級)同時開始 上記終了後、5級より実技開始		

剣道の
変化

《剣道》 二段以上・称号一覧表

剣 道				居 合 道			
審査日	申込み 締切日	審査 段位	審 査 会 場	四、五段 講習会 日時、会場	審査日	申込み 締切日	審 査 会 場
5/31 (日)	5/17迄 (日)	二段～ 五段	ソノゾイ 武道館	/	5/17 (日)	5/3迄 (日)	松茂町 第二体育館
9/13 (日)	8/30迄 (日)	二段～ 五段 (称号)	ソノゾイ 武道館	8/30(日) 中央武道館	9/20 (日)	9/6 (日)	松茂町 第二体育館
11/22 (日)	11/8迄 (日)	二段～ 五段	ソノゾイ 武道館	/	11/8 (日)	10/25 (日)	松茂町 第二体育館
2/21 (日)	2/7迄 (日)	二段～ 五段 (称号)	ソノゾイ 武道館	2/7(日) 中央武道館	2/21 (日)	2/7迄 (日)	松茂町 第二体育館

《居合道》 級・段位・称号一覧表

1.	称号審査については、行事予定表の伝達講習会(6月)または、秋季講習会(10月)を受講の上上記審査会において受審する事。						
2.	四、五段受審予定者は、上記の講習会又は、伝達講習会、秋季講習会を受講することとする。 1. 2. 共、有効期間として受講から1年以内を受審することとする。						
	《剣道審査申込先》	〒770-0861	徳島市住吉丁目9-6 栗本ソノゾイ106号 徳島県剣道連盟 事務局内 藤本 雅史 宛		《居合道 審査申込先》	〒776-0004	吉野川市鴨島町中島381-3 居合道部事務局 徳山 豊 宛
	先	TEL 088-652-2337 FAX 088-652-2360				TEL 0883-324-2457	
日程予定		9:00～10:00 受付 9:00～9:45 剣道連盟稽古会 9:45～10:10 受審者稽古 10:20 開会式 * 学科試験、実技・形の順で実施			13:00～ 開会式		

- 審査受験申込書記入上の注意
- 審査受験申込書に全ての項目、特に現在有する級位、段位を受領した年月日は確認して氏名のフリガナ、下等を正確に記入し、審査料を添えて申込む事。
(この申込書は、合格後全剣連への登録の基となりますので全て明記すること。)
 - 現在の級位、段位の合格後に姓名が変わった者は、氏名の下に旧姓名を書くこと。
 - 現段位を果外で登録受領した者は、その県名を記入すること。
 - 審査受験申込書の締切日は、一覧表の申込締切日とする。
書留等で郵送する場合は、早めに郵送し締切日までに届くようにすること。
※ 土、日、祝日は、事務所は休務です。(期 日 厳 守)
 - 審査受験申込書の取扱責任者については、一般の受審者は、支部に所属し県剣道連盟会員である事とし、取扱責任者は所属支部長が署名、捺印する事。また大学生については県内大学剣道部に所属する者は、剣道部責任者、県外の大学に所属する者は、出身地区の支部長の署名、捺印とする。
小・中・高の受審者は、各所属の教室(道場)または、学校の責任者が署名、捺印する事。
 - 剣道四、五段の受審者は、一覧表の指定講習会を必ず受講すること。

以上の項目が守れない場合は受審できませんのでご注意ください。

徳島県剣道連盟 審査資格

平成27年4月1日現在

級・段位	資 格
6～8級	小学1年～3年生は、認定により技倆相当の級位を与える。
5 級	小学4年生以上は、5級より受審できる。
4 級	中学生以上は、4級より受審できる。
3 級	高校生（相当年齢）以上は、3級より受審できる。
2 級	大学生、一般（大学生相当年齢以上）は、2級より受審できる。
1 級	小学6年生以上を受審資格とする。
初 段	13歳以上を受審資格とする。（年齢基準 審査日） 居合道受審者一般（高校生相当年齢以下を除く）については、2級及び1級を認定とし初段から受審できる。
二 段	初段を1年以上経過した者。
三 段	二段を2年以上経過した者。
四 段	三段を3年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
五 段	四段を4年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
六 段	五段を5年以上経過した者。
七 段	六段を6年以上経過した者。
八 段	満46歳以上で七段を10年以上経過した者。
錬 士	六段取得日より1年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
教 士	七段取得日より2年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。

*級位は、経過日数を必要とせず毎回受審可能。

審査料・登録料（消費税含）一覧表

〈単位＝円〉

	入 会 金 (徳島県で初めて受審する者)	審 査 料	再 審 査 料	登 録 料 (消費税8%含)
3級以下	1,000	1,000	——	2,000
2 級	”	1,500	——	3,000
1 級	”	2,000	——	3,000
初 段	”	3,000	3,000	5,400
二 段	”	4,000	4,000	7,560
三 段	”	5,000	5,000	10,800
四 段	”	6,000	6,000	16,200
五 段	”	8,000	8,000	21,600
六 段	”	10,800	——	43,200
七 段	”	15,120	——	54,000
八 段	”	19,440	——	75,600
錬 士	”	18,360	——	43,200
教 士	”	27,000	——	75,600
範 士	”	——	——	162,000

剣連事務局だより

剣連事務局 土 川 資 雄

昨年末に「徳島の剣道三十一号」の原稿依頼が舞い込み、何を書くべきか悩んだあげく、たまたま剣連事務局の会計担当をしていることから、剣道に携わっている皆さんに少なからずお世話になっておりながら、あまり知られていないと思われる剣連事務局の業務について紹介してみたいと思います。

事務局は住吉三丁目に事務所を構えており、十六年間の永きに亘り剣連関連業務に従事された長谷川陽子さんに代わり、平成二十六年四月から岸野訓子（くにこ）さんが専従職員として県内県外問わず剣連関連業務に携わっています。初めてのことであり慣れないことの連続の日々を慌しく立ち回っております。行事が重なるなどの時には、事務局長が自ら覚束ない指先の動きでパソコンのキーボードをたたいたりして、事務処理に遅れを取らないよう迅速に対応することに努めております。

主な業務内容は

- 全国大会申込等
- 審査会手続き（県内・県外）
- 剣連主催大会準備・運営

○ 講習会関係

○ 体育協会等への申請書類作成

○ 剣連発行書類等作成

等々広範囲に亘っております。

剣連主催大会において

○ 大会要項・出場申込書発行

○ 申込締切後、試合組合せ抽選を事業部に依頼

○ 審判員の依頼

○ プログラム作成

○ 審議員、役員の出欠確認

○ 掲示用オーダー表等の作成

○ 大会メダル等の発注

○ 賞状作成

○ 大会経費の請求書作成等

準備すべきことが多くあります。

高段位・称号審査について

○ 審査要項発送

○ 全剣連へ取りまとめ申込

○ 合格者登録書類等作成

県内審査について

○審査申込書の受理

○審査申込書の確認

○受審者名簿の作成

○学科問題の作成

○合格証書の作成

といったように煩雑な業務を多々抱えております。

昇級・昇段審査において審査申込書に親の名前を書くなどの記載間違い、前級・段位の取得年月日間違い、審査料の金額間違い等が見受けられますが、多岐に亘る業務をご理解頂き提出書類等の記載内容には誤りのないよう再度の確認をお願いいたします。

なお、剣連の経理状況については、効率的活用かつ適正な経理に努めておりますが、更に経費節減の方策にも種々取り組んでいるにも関わらず、なお財源は不足がちであるため、今後、増収策の検討を図る必要があると思われます。徳島県・体協からの補助・助成金は減少の傾向にあり、また、剣道人口増加に伴う会費増収の見込みも期待が薄く、その中で安定的かつ健全な剣連の財務運営を実施して行くためには、会費の増額等も含め財政健全化への行程を検討していただきたい次第であります。

そのためにも会員皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

支部会員の皆さんからの

情報提供のお願い

会員の表彰や訃報・ニュース等々、事務局が把握できていないと思われる事柄について、電話連絡でもかまいませんが、次ページの用紙をコピーし、内容を記載してファックスでお送りいただけると事務処理が迅速に対応できます。御協力をお願いします。

徳島県剣道連盟 事務局 TEL 088-652-2337 FAX 088-682-2360 (24時間OK)

会 長	副会長	理事長	事務局長		
賞揚、報告 (支部行事予定、行事結果、会員の表彰、訃報、怪我等、ニュース 支部役員変更報告等、その他)					
件 名					
年 月 日	平成	年	月	日	
支 部 名	支部				
支 部 長 名					
役員名・会員名					
添 付 資 料	有 ・ 無				
内 容					

徳島県剣道稽古場所一覧（平成27年度版）

支部名	教室および道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時 (少年・一般の区別明記のこと)
徳島支部	徳島少年剣道教室	生田浩章 088-664-1971	徳島県立中央武道館	少年（水・木・土）17:00-19:00
	蔵本少年剣道クラブ	福永 徳 088-631-0207	加茂名中学校武道場	少年（火・金）19:00-21:00 少年（日）18:00-21:00
	加茂名少年剣道教室	藤本俊夫 088-632-8748	加茂名小（木） 加茂名中（土） 加茂名南小（日）	少年（木・土）18:00-19:45 少年（日）17:20-19:30
	東内道場	東内 勉 088-631-3971	研修道場 東内会館	少年（木・土）18:00-20:00
	上八万剣道倶楽部	吉本昌弘 088-668-0356	上八万小学校体育館	少年（水・土）17:00-19:00 一般（水・土）19:00-21:00
	宅宮（えのみや） 剣道倶楽部	河野通宣 088-668-0167	えのみや睦会武道場	少年（土）19:00-21:00
	入田錬成会	佐藤佳宏 088-644-3124	入田中学校体育館	少年（火・土）19:30-21:30 一般（火・土）21:30-22:30
	北井上剣道教室	美馬勝行 088-642-3898	北井上中学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00
	徳島清風館道場	久保隆司 088-633-0727	国府小学校体育館	少年（土・日）17:00-19:00
	養武館	米倉 滋 088-668-6650	八万中剣道場（火） 養武館道場（木・土）	少年（火）19:00-21:00 少年（木・土）19:30-21:00
	徳島親道館剣道場	矢武秀生 088-644-5171	親道館道場	少年（火・金）19:00-20:30
	佐古剣道クラブ	谷本浩志 088-637-2204	佐古小学校体育館	少年（火・木）17:00-19:00 少年（日）9:00-12:00
	渭東少年剣道教室	吉田昌彦 088-664-2153	城東中学校黎明館	少年（火・木・金）19:00-21:00
	徳島錬心館	大澤孝彰 088-654-6325	錬心館道場	一般（火・木・土）19:00-20:00
鳴門支部	鳴門市光武館	寺西明弘 088-685-0703	光武館剣道場	少年（火・木）18:30-20:30 少年（土）17:30-19:30
	鳴門市少年剣道教室	元木 武 088-685-3705	鳴門ソイジョイ武道館	少年（月・水）18:00-20:00 少年（土）9:00-11:00 一般（月）20:00-21:00
	大麻錬成館	近藤敏晴 088-689-0857	大麻中学校剣道場	少年（火・土）18:30-20:00
板野東支部	北島少年剣道教室	伊賀雅人 088-698-4528	北島小学校体育館	少年（月・木）19:00-20:30 一般（月）20:45-22:00
	誠武館道場	井川理之 090-4976-4477	北島町立武道館	少年（木・土）19:00-20:30 一般（木・土）20:30-21:00
	松茂少年剣道教室	米田利彦 088-699-6176	松茂町第二体育館 （武道館）	少年・一般（火・金） 19:00-22:00

徳島の剣道

板野西支部	板野西稽古場	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	一般（火・木・土）21:00-22:00
	藍住剣道スポーツ少年団	原 多三夫 088-692-5780	藍住町武道館	少年（火・木・土）19:00-20:30
	剣道板野道場	米崎信弥 090-4972-4177	板野町体育センター	少年（火・水）19:30-21:00 少年（日）9:00-11:00
	上板少年剣道教室	藤本辰夫 088-694-5031	神宅小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
阿波支部	阿波少年剣道教室	桑原啓治 090-2789-1801	林小学校体育館（火） 阿波中学校体育館（木）	少年（火・木）19:00-21:00
	土成町 剣道スポーツ少年団	出口正春 088-695-3606	土成農業者 トレーニングセンター	少年（火・金）19:30-21:00
	市場剣道教室	井内勝則 0883-36-2686	市場武道館	少年（火・木・土）19:30-21:00
	阿波支部稽古会	塩田善治 0883-35-2894	市場武道館	少年・一般（月）20:00-21:00
美馬支部	脇町少年剣道教室	柴田宗忠 0883-53-2629	脇町小学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00 一般は8:30-22:00
	徳島春風館道場	青木茂生 0883-53-7118	徳島春風館道場	少年・一般（月・木・土） 19:30-21:00
	半田剣道教室	大川功 0883-64-2181	半田スポーツセンター	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
	美馬市体協剣道部	中川 正 0883-53-0116	脇町中学校武道館	一般（月・水・土）19:00-22:00
三好支部	東みよし淳志館	増田和広 0883-79-3704	三好中学校体育館	少年・一般（月・木） 19:30-22:00
	佐馬地少年剣道クラブ	笠井熹次郎 0883-74-0036	馬路小学校体育館	少年（水・金）19:30-20:30
	川崎少年剣道クラブ	山下敏雄 0883-74-1325	川崎小学校体育館	少年（水・土）19:00-21:00
	三野少年剣道クラブ	久保和雄 0883-77-3899	三野中学校体育館	少年（土）18:00-20:00
	山城町剣道修錬クラブ	島尾真且 0883-86-1398	山城中学校武道館	少年（火・金）19:30-21:30
	奥祖谷剣道クラブ	中石 昭 0883-88-5802	旧 栃之瀬小学校 体育館	少年（火・金）19:30-21:00
	井川武道会	中川勝弘 0883-78-2115	三好市柔剣道場	少年（水）20:00-21:00
麻植支部	麻植支部稽古会	出葉成一 0883-24-7433	川島中学校体育館	少年・一般（20:00-21:30）
	上浦剣道教室	出葉成一 0883-24-7433	上浦小学校体育館	少年（水・土）18:30-20:00
	鴨島少年剣道教室	三木 毅 0883-24-1934	鴨島第一中学校武道館	少年（火・木・土）19:15-21:00
	川島剣道スポーツ少年団	猪野和男 0883-25-6004	農村環境改善センター 市立川島中学校体育館	少年（火・木・土）19:00-21:00
	山川スポーツ少年団 修錬館	柳谷照男 0883-42-6936	山川中学校武道館	少年（水・土）19:00-21:00
	吉野川少年剣道教室	片山尊史 0883-25-6014	牛島小学校体育館 西麻植小学校体育館	少年（火・水・金・土） 20:00-22:00

阿南支部	阿南少年剣道教室	須藤恭宏 0884-22-6402	阿南市武道館（火・金） 阿南第一中武道館（木）	少年（火・木・金）19:00-21:00 一般（火・金）21:00-22:00
	新野少年剣道教室	馬見和秀 0884-36-2428	新野小学校体育館	少年（火・木・土）18:30-20:30
	大野小学校剣道部	西岡直彦 0884-22-6535	大野小学校体育館	少年（月・水・木）18:30-20:30 一般（水）21:00-22:00
	徳島至誠館	中山繁輝 090-1002-8976	徳島至誠館道場	少年（火・木・土）19:00-21:00
	那賀川少年剣道クラブ	二反田和則 0884-21-2207	今津小学校体育館（火） 那賀川B&G体育館（水・金）	少年（火・水・金）19:00-21:00
	那賀川剣道教室 わかあゆ会	山田耕司 0884-42-3381	平島小学校体育館	少年（月・水・金）19:00-21:00
	羽ノ浦少年剣道教室	森 眞一 0884-44-5415	羽ノ浦中学校武道館	少年（火・金）19:00-21:00 一般（水）19:30-21:00
丹生谷支部	振 武 館	奥田博志 0884-62-1134	那賀町B&G 海洋センター武道場	少年（水・金）19:00-21:00 一般（水・金）21:00-22:00
	相生龍虎館	野村幸大 0884-62-0800	相生小体育館	少年（火・木・土）16:00-18:00
	木頭錬心館	小川大造 0884-68-2242	木頭中柔剣道場	少年・一般（月・水・金） 18:00-20:30
	北川小学校剣道クラブ	谷 次郎 0884-69-2430	那賀町北川体育館	少年（月・水）18:00-19:30 （金）18:00-20:00
小松島支部	小松島支部稽古会	梅山寧史 0885-33-1251	小松島中学校武道場	一般（木）19:30-21:00
	小松島小剣クラブ	青木博志 0885-33-1251（梅山）	北小松島小学校体育館（月金） 小松島小学校体育館（水）	少年（月・水・金）19:00-21:30
	和田島少年剣道クラブ	篠原誠一 0885-37-2030	和田島小学校体育館	少年（月・水）19:00-21:00
	坂野少年剣道クラブ	櫻木鉄也 0885-38-2302	坂野小学校体育館	少年（月・木）19:00-21:00
	立江剣道教室	原 知永 0885-38-2121	立江小学校体育館	少年（火・土・日）18:30-20:00
	芝田剣道クラブ直心館	岩田善則 0885-32-3319	芝田小学校体育館	少年（月・金）19:00-21:00
海部支部	海部川剣道教室	丸岡偉人 0884-73-3175	海部小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-20:45
	牟岐剣道クラブ	谷口順二 0884-72-0490	牟岐町民センター	少年・一般（月・水）19:00-21:00 少年・一般（土）18:30-20:00
	一心館道場	影山美雄 0884-79-3125	一心館剣道場	少年（月・木）16:30-18:00 一般（水・第2金・第4金） 18:00-20:00
県剣道連盟	徳島県剣道連盟稽古会		中央武道館	一般 木 19:00-20:30
			警察学校体育館	一般 土 9:30-12:00
	女子部稽古会	中央武道館	一般 第1日曜 18:00-19:00	

居合道 道場案内

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。

道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日 時
大和錬心館	六段・西本 忠司 自宅 0884-69-2120 携帯 090-7143-0160	木頭中学校柔剣道場 那賀町木頭和無田	火曜日 19:00～21:00 木曜日 19:00～21:00
徹心道場	代表者 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 (少年) 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30
大和養心館	範士八段・原田 勝 自宅 0885-33-0222 携帯 090-7141-8996	大和養心館 小松島市金磯町11番78号	月曜日 18:00～21:00 水曜日 18:00～21:00 金曜日 18:00～21:00
阿波洗心館	代表 教士七段・高橋 憲司 連絡先 三段・村井 恒治 090-3789-7846	松茂町第二体育館	火曜日 20:00～22:00 (月曜祝日の週は休み)
		セント歯科体育館	土曜日 19:00～21:00
居合道錬成会	教士七段・前田 健志 自宅 088-622-8559	徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士七段・坂本 憲一 自宅 0883-36-3008 携帯 090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日 19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日 19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
大湊道場 (全日本剣道連盟)	錬士七段・福井 勝 携帯 090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日 10:00～12:00 (行事日を除く)
鳴門洗心館	五段・満壽 良史 自宅 088-686-7115	鳴門ソイジョイ武道館 サブ道場	水曜日 18:00～20:00
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅 0883-53-7118 携帯 090-8693-4935	徳島春風館道場 (穴吹町三島)	水曜日 19:30～21:00
居合北島道場	五段・伊賀 雅人 自宅 088-698-4528	居合北島道場 (北島町北村)	水曜日 19:00～20:30 土曜日 19:00～20:30
剣道・板野道場	五段・岡田 良人 自宅・FAX 088-672-2436 携帯 090-4787-1998	南公民館	水曜日 19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日 11:00～12:00

編集後記

柔道の創始者である嘉納治五郎はかつて高等師範学校（現在の筑波大学）の校長をしていた時代、高等師範の学生たちにも、ことあるごとに指導していたのは「なにくそ！」との負けじ魂を持つてのことだったという。嘉納自身も小柄でひ弱なインテリ青年であったが、強くなりたいたいの想いから、学生になってから、柔術を習い始めたという。小柄でひ弱な学生・嘉納が「なにくそ！」と齒をくいしばりながら、必死に修行したことは想像できよう。その修行の中に、柔術には人間を高める力があることを悟り、講道館柔道を創始している。

我々の剣道においても、「なにくそ！」との負けじ魂を持って、自分自身の剣道修行に立ち向かわなければ、本当の剣道のよさを体得することはできないのではないだろうか。今回も「徳島の剣道」の発刊が大幅に遅れてしまった。私自身も「徳島の剣道」の編集作業を「なにくそ！」の負けじ魂を持って、次号の早期発刊に取り組みたい。

『徳島の剣道』第三十一号

編集委員会

柴	河	久	美	別	笠	中	手	藤	三	木
田	野	保	馬	宮	井	村	塚	本	木	原
宗	寿	隆	和	憲		稔	十三子	雅		資
忠	仁	司	義	治	勝	裕		史	毅	裕

『徳島の剣道』第31号

平成27年 9月1日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 三 木 毅

☎770-0861 徳島市住吉三丁目9-6
栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360

表紙題字 堀江幸夫
さし絵 村嶋恒徳